八尾市文化財調査研究会報告40

八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 Ⅱ

Ⅰ　田井中遺跡（志紀遺跡）
Ⅱ　八尾南遺跡（第10次調査）
Ⅲ　東弓削遺跡（第３次調査）

1994年

財団法人　八尾市文化財調査研究会

八尾市埋蔵文化財発掘調査報告

Ⅰ　田井中遺跡（志紀遺跡）
Ⅱ　八尾南遺跡（第10次調査）
Ⅲ　東弓削遺跡（第３次調査）

１９９４年

財団法人　八尾市文化財調査研究会

はしがき

八尾市は、東に生駒山地、南に羽曳野丘陵を臨み、南東から北西へと広がる大阪平野の基部に位置しています。平野部は主に旧大和川の堆積作用によって作られたもので、古来よりこの旧大和川は、水上交通の手段として、また肥沃な土地をもたらせてくれるものとして、人びとの生活とは切り離せないものでした。その反面、ひとたび氾濫すると、一瞬にしてすべてが土砂の下にうずもれてしまう恐ろしいものでもあったようです。

今回報告する田井中遺跡・八尾南遺跡・東弓削遺跡では、複数の時期の「洪水に埋もれた水田」が検出され、古く弥生時代後期にまで遡り得る、人々の水との戦い、水田や稲作への執着などの一端を窺い知ることができました。

本報告に収録したものは、昭和60年度から63年度にかけて現地調査を実施したもので、このたび整理業務がようやく完了し、ここに報告書を刊行するはこびとなりました。現地調査が終了してから５年もの月日が流れているために、その間には、新たな知見が続々と得られています。また、田井中遺跡については、平成５年10月１日付けで遺跡名が「志紀遺跡」に変更されていますが、本文中では、あえて調査中の名称である「田井中遺跡」を用いていることをお断りしておきます。

最後になりましたが、現地調査・内業整理・報告書作成などの業務を遂行するにあたって御協力を賜りました方々に深く感謝いたします。

平成６年３月

財団法人八尾市文化財調査研究会
理事長　福島　孝

序

1　本書は、財団法人八尾市文化財調査研究会が、八尾市教育委員会の指示書に基づいて、近畿財務局より委託を受けて実施した、国家公務員合同宿舎建設に伴う発掘調査の報告を集録したものである。

1　本書に集録した調査報告は、下記の目次の通りである

1　現地調査は、昭和60年度～63年度にかけて３遺跡・９調査区で実施した。内業整理は現地調査に並行して随時行い、平成元年３月31日に終了した。各調査の日程については、それぞれの例言に明記した。

1　本書掲載の地図は、八尾市役所発行の2500分の１（昭和61年発行）及び八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布図』（平成５年10月１日発行）を元に作成した。

1　本書で用いた方位は磁北である。

1　本書の執筆・編集は成海佳子が行った。また、報告書作成にかかわる業務には、以下の調査補助員があたった。

麻田　優、澤井　幹、西田　寿、正木洋二、宮崎寛子、村井俊子

1　調査にあたり、次の各氏からご助言・ご指導を賜りました。記して感謝致します。

中村清美氏・福田英人氏・藤田道子氏・宮野淳一氏・仙田隆一氏（大阪府教育委員会）、大野　薫氏・西川寿勝氏（財団法人大阪府埋蔵文化財協会）、田中清美氏・趙　哲済氏・松尾信裕氏（財団法人大阪市文化財協会）、中川義朗氏（阪南市教育委員会）、森下友子氏（香川県教育委員会）、大地慶子氏、宮永早智子氏

目　　次

はしがき

埋蔵文化財分布図

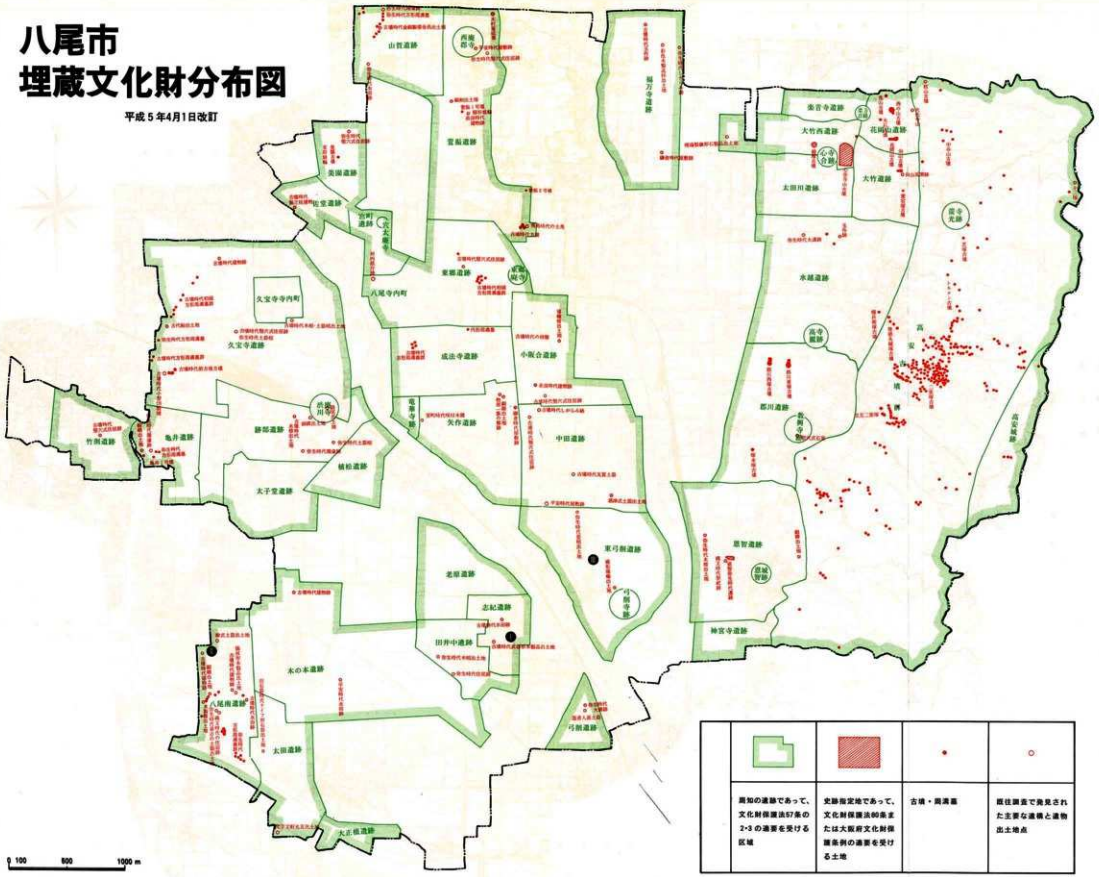
Ⅰ　田井中遺跡（志紀遺跡）…… 1

Ⅱ　八尾南遺跡　第10次調査（ＹＳ87－10）……83

Ⅲ　東弓削遺跡　第３次調査（ＨＹ87－３）…… 109

八尾市
埋蔵文化財分布図

平成５年4月1日改訂



Ⅰ　田井中遺跡(志紀遺跡)

第３次調査(ＴＮ85－３)
第４次調査(ＴＮ86－４)
第６次調査(ＴＮ87－６)
第８次調査(ＴＮ88－８)

例　　言

1　本書は、大阪府八尾市志紀町西３丁目において実施した、国家公務員合同宿舎立て替えに伴う田井中遺跡の発掘調査報告書である。

1　本書で報告する田井中遺跡の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が近畿財務局から委託を受けて実施したものである。

1　現地調査は、昭和60年12月２日から平成元年２月20日にかけて、成海佳子を担当者として４期（調査Ⅰ～調査Ⅳ）に分けて実施した。

1　内業整理は、現地調査に並行して随時行い、平成元年３月31日に終了した。

1　各調査の詳細は、以下の通りである。

調査Ⅰ　田井中遺跡第３次調査（ＴＮ85－３）

指示書番号：八教社文第44号　昭和60年 8月22日付

調 査 期 間：昭和60年12月 2日～昭和61年 3月11日　　調 査 面 積：約920㎡

調査参加者：麻田　優、太田修司、笹井伸彦、角　　肇、大黒静子、徳谷貴正、益本　浩、松岡利行、松村　一、横山妙子、和田　孝

調査Ⅱ　田井中遺跡第４次調査（ＴＮ86－４）

指示書番号：八教社文第27号　昭和61年６月12日付

調 査 期 間：昭和61年12月10日～昭和62年 3月25日　　調 査 面 積：約 1,283㎡

調査参加者：麻田　優、柏本幸寿、角　　肇、長野琢磨、西町達也、松岡利行、山内千恵子、和田　孝

調査Ⅲ　田井中遺跡第６次調査（ＴＮ87－６）

指示書番号：八教社文第21号　昭和62年 4月13日付

調 査 期 間：昭和62年11月24日～62年12月26日　　調 査 面 積：約 348㎡

調査参加者：麻田　優、柏本幸寿、角　肇、森　茂治、山内千恵子、和田　孝

調査Ⅳ　田井中遺跡第８次調査（ＴＮ88－８）

指示書番号：八教社文第26号　昭和63年５月25日付

調 査 期 間：昭和63年10月 1日～平成元年 2月20日　　調 査 面 積：996㎡

調査参加者：麻田　優、岡田聖一、小西博樹、小林博司、田中明美、棚橋佐知子、中切孝彦、並河聡也、正木洋二、松田安代、山内千恵子

1　本報告の調査地は、平成５年10月１日付で「志紀遺跡」に改定されているが、ここでは、調査中の遺跡名である「田井中遺跡」で報告する。

目　　次

第1章　はじめに……1

第2章　調査経過
- 第1節　調査Ⅰ……4
- 第2節　調査Ⅱ……4
- 第3節　調査Ⅲ……5
- 第4節　調査Ⅳ……5

第3章　調査概要
- 第1節　掘削方法……6
- 第2節　地区割……6
- 第3節　基本層序……8

第4章　調査Ⅰ
- 第1節　概要……11
- 第2節　第1調査区の調査結果……11
- 第3節　第2調査区の調査結果……14
- 第4節　第3調査区の調査結果……17
- 第5節　小結……19

第5章　調査Ⅱ
- 第1節　概要……20
- 第2節　第4調査区の調査結果……20
- 第3節　第5調査区の調査結果……27
- 第4節　小結……33

第6章　調査Ⅲ
- 第1節　概要……34
- 第2節　第6調査区の調査結果……34
- 第3節　小結……38

第7章　調査Ⅳ
- 第1節　概要……41
- 第2節　第7調査区の調査結果……41
- 第3節　小結……55

第8章　まとめ……56

第9章　付表
- 第1節　遺構一覧表……63
- 第2節　遺物一覧表……70

挿 図 目 次

第１図　調査地周辺図…… 3
第２図　地区割図…… 7
第３図　第１調査区平断面図……12
第４図　第１調査区出土遺物実測図……13
第５図　第２調査区出土遺物実測図……14
第６図　第２調査区平断面図（折込）…15－16
第７図　第３調査区壁面図……18
第８図　第３調査区出土遺物実測図……19
第９図　第４調査区平断面図（折込）…21－22
第10図　第４調査区出土遺物実測図－１……25
第11図　第４調査区出土遺物実測図－２……26
第12図　第４調査区出土遺物実測図－３……27
第13図　第５調査区出土遺物実測図－１……28
第14図　第５調査区平断面図（折込）…29－30
第15図　第５調査区出土遺物実測図－２……31
第16図　第５調査区出土遺物実測図－３……32
第17図　第５調査区ＳＤ5201出土遺物実測図…
……33
第18図　第６調査区出土遺物実測図－１……36
第19図　第６調査区出土遺物実測図－２……37
第20図　第６調査区平断面図…（折込）39－40
第21図　第７調査区壁面図・第１面平断面図
（折込）……43－44
第22図　第７調査区出土遺物実測図－１……45
第23図　大畦7203遺物出土状況平断面図……47
第24図　第７調査区出土遺物実測図－２……49
第25図　第７調査区出土遺物実測図－３……51
第26図　第７調査区出土遺物実測図－４……52
第27図　第７調査区第２面～第５面平面図……
（折込）……53－54
第28図　第１面全体図（折込）……59－60
第29図　第２面全体図（折込）……61－62

図 版 目 次

第１調査区
図版一　全景（東から）
第２調査区
図版二　全景（東から）
図版三　第１面畦畔2101
図版四　第１面畦畔2102
図版五　Ｃトレンチ畦畔2201
第３調査区
図版六　全景（東から）
第４調査区
図版七　第１面全景（東から）
第２面全景（東から）
図版八　第１面畦畔4101・4102
図版九　第２面水田4201～4207
図版一〇　第２面水田4206～4214
図版一一　第２面畦畔4201～4207壁面
図版一二　第２面畦畔4209～4214壁面

第5調査区

図版一三　第1面全景（東から）
第2面全景（東から）
図版一四　第1面畦畔5101～5106
調査区東部
図版一五　第1面畦畔5102～5107壁面
畦畔5103水口
図版一六　第2面水田5201～5206
図版一七　第2面水田5204～5209
図版一八　第2面水田5207～5211
図版一九　第2面水田5210～5211
ＳＤ5201
図版二〇　第2面水田5211～5217
図版二一　第2面畦畔5205～5213、
畦畔5209・ＳＤ5201壁面
図版二二　Ｆトレンチ全景・壁面
図版二三　Ｇトレンチ全景・壁面
図版二四　Ｈトレンチ全景・壁面

第6調査区

図版二五　第1面全景（西から）
第2面全景（西から）
図版二六　第1面畦畔6101
図版二七　第2面水田6201～6206
図版二八　第2面畦畔6201～6204断面
図版二九　Ｉトレンチ南壁

第7調査区

図版三〇　第1面全景（西から）
同　（東から）
図版三一　第1面畦畔7101
図版三二　第1面畦畔7102
図版三三　第2面全景（西から）
同　（東から）
図版三四　第2面水田7201～7205、
大畦7201～7202
図版三五　第2面水田7206～7209、大畦7205
図版三六　第2面水田7209～7212、大畦7206
図版三七　第2面畦畔7201～7209・
大畦7206壁面
図版三八　第2面大畦7203供献土器出土状況、
図版三九　第3面全景（東から）
同　（西から）
図版四〇　第3面水田7301～7304
図版四一　第3面水田7304～7306・大畦7301
図版四二　第3面大畦7302・水田7309～7310・
ＳＤ7301
図版四三　第3面水田7310～7312・大畦7303
図版四四　第3面畦畔7302～7306・7308・7309
壁面
図版四五　第3面大畦7301～大畦7303
図版四六　第4面全景（西から）
同　東部（北から）
図版四七　第4面ＳＰ7401～7407・ＳＤ7401
図版四八　第5面全景（東から）
図版四九　第5面水田7501～7504
図版五〇　第5面水田7503～7507
図版五一　第5面畦畔7501～7506壁面

出土遺物

図版五二　第2調査区・第4調査区出土遺物
図版五三　第4調査区・第5調査区出土遺物
図版五四　第5調査区・第6調査区出土遺物
図版五五　第6調査区出土遺物
図版五六　第7調査区出土遺物－1
図版五七　第7調査区出土遺物－2

第1章　はじめに

田井中遺跡は、八尾市南東部の田井中・志紀町西一帯に広がる弥生時代前期以降の遺跡である。この付近の地形は、南から伸びる2本の羽曳野丘陵の先端に東西をはさまれた谷状の低地となっている。東側の丘陵上には、船橋遺跡（柏原市・藤井寺市）・本郷遺跡（柏原市）・弓削遺跡などがあり、西側の丘陵先端部には、八尾南遺跡・長原遺跡（大阪市）が位置している。一方、当遺跡が位置している谷状の低地には、当遺跡の南に大井遺跡（藤井寺市）・北に老原遺跡・西に木の本遺跡などがある。また、長瀬川をはさんだ当遺跡の北側には、東弓削遺跡・中田遺跡などがある。

当遺跡発見の契機は、遺跡南部の田井中4丁目にある陸上自衛隊八尾駐屯地内での工事の際、弥生時代と古墳時代～奈良時代の土器が出土したことによるが、詳細は不明であった。その後、昭和57（1982）年度から、同駐屯地内では当調査研究会が小規模ながらも数件の調査を実施しており、多くの成果が得られている。これらの調査結果から、遺跡南部では弥生時代前期～古墳時代中期の集落がとぎれることなく連綿と営まれていることが明らかになっている（調査研究会第1次・第2次・第5次・第7次調査）。

一方、今回報告する遺跡北部の志紀町西一帯は、昭和30（1955）年前後に建てられた木造平家建ての府営住宅や公務員宿舎からなる住宅街となっているが、建設後30年を経て老朽化が著しく、建て替えの時期にあたっている。それに伴って、昭和57（1982）年度に、大阪府教育委員会による試掘調査が実施された。

その結果、これまで未知であった志紀町西一帯に、古墳時代の水田遺構が遺存していることが明らかになり、新たな知見を加えることとなった。大阪府教育委員会では、この付近一帯を「志紀遺跡」と呼び、それ以後、府営住宅の建て替えに伴って、発掘調査を随時実施している（大阪府教委第1次～第3次調査）。

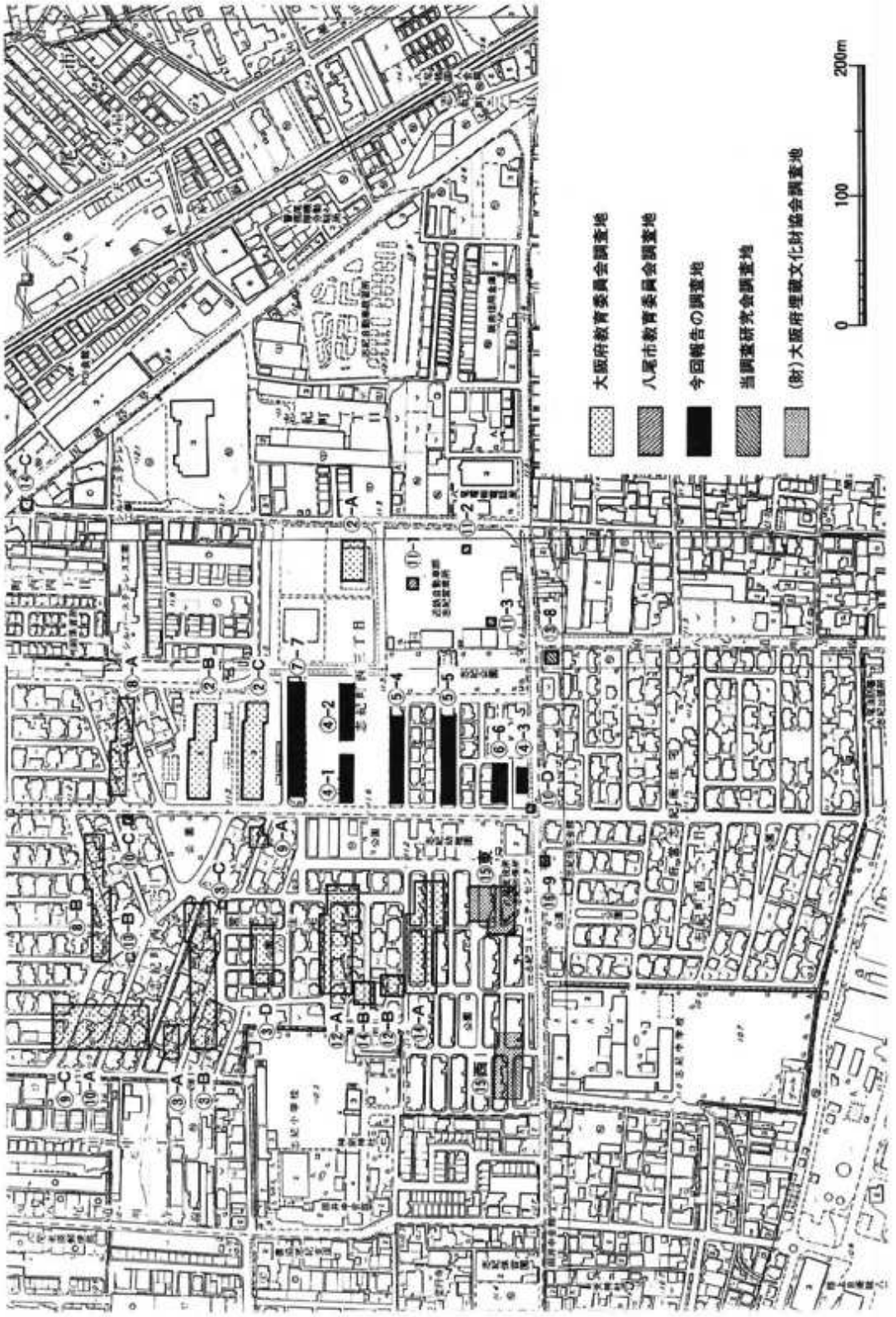
今回報告する調査は国家公務員合同宿舎建て替えに伴って行ったもので、昭和60年度（1985）～昭和63（1988）年度にかけて、4期に分けて実施した。調査地は、大阪府教育委員第1次調査Cトレンチの南に隣接する（研究会第3次・第4次・第6次・第8次調査）。

なお、大阪府教育委員会では、平成元（1989）年度以降も府営住宅建て替えに等に伴う発掘調査（大阪府教委第4次～第7次調査）が順次行われている。また、当調査研究会でも平成4年度には、遺跡北部で公共下水道工事に伴う発掘調査（研究会第9次調査）を、遺跡南部の陸上自衛隊八尾駐屯地内での建設工事に伴う発掘調査（研究会第10次～第12次調査）を実施しており、多大な成果が得られている。

表1　周辺の発掘調査一覧

調査主体	遺跡名	番号	調査区名	調査原因	調査期間	面積㎡	所在地	調査概要	文献
大阪府教育委員会	志紀遺跡試掘調査			府営住宅	1982. 7				
大阪府教育委員会	志紀遺跡第1次調査	②-A ②-B ②-C	Aトレンチ Bトレンチ Cトレンチ	避水槽 府営住宅	1983.		志紀町西3	古墳時代水田、遺出土	
大阪府教育委員会	志紀遺跡第2次調査	③-A -B -C -D	Aトレンチ Bトレンチ Cトレンチ Dトレンチ	防火水槽 府営住宅 水道施設 府営住宅	1985. 11/12～ 1986. 3/31		志紀町西1	古墳時代後期・飛鳥時代～奈良時代水田	1
八尾市調査研究会	田井中遺跡第3次調査	④-1 -2 -3	第1調査区 第2調査区 第3調査区	国家公務員宿舎 合併処理槽	1985. 12/ 9～ 1986. 3/11	920	志紀町西3	古墳時代・平安時代～鎌倉時代水田	本書第4章
八尾市調査研究会	田井中遺跡第4次調査	③-4 -5	第4調査区 第5調査区	国家公務員宿舎	1986. 12/10～ 1987. 3/25	1,283	志紀町西3	古墳時代中期・後期・平安時代～鎌倉時代水田	本書第5章
八尾市調査研究会	田井中遺跡第6次調査	⑥-6	第6調査区	国家公務員宿舎	1987. 11/24～ 1987. 12/26	348	志紀町西3	弥生時代中期・後期・古墳時代前期遺構面、古墳時代中期～後期・平安時代～鎌倉時代水田	本書第6章
八尾市調査研究会	田井中遺跡第8次調査	⑦-7	第7調査区	国家公務員宿舎	1988. 10/ 1～ 1989. 2/20	996	志紀町西3	弥生時代後期・古墳時代中期・後期・平安時代～鎌倉時代水田、古墳時代前期遺構面	本書第7章
大阪府教育委員会	志紀遺跡第3次調査	⑧-A -B	Aトレンチ Bトレンチ	府営住宅	1988. 10/20～ 1989. 8/31	2,357	志紀町西1・3		2
大阪府教育委員会	志紀遺跡第4次調査	⑨-A -B -C	Aトレンチ Bトレンチ Cトレンチ	集会所 調整池上部	1989. 8/15～ 1990. 3/23	2,856	志紀町西1		
大阪府教育委員会	志紀遺跡第5次調査	⑩-A -B -C -D	A地区 B地区 C地区 D地区	調整池上部 公共下水道	1991. 2/ 1～ 1992. 3/25	A地区 2,500	志紀町西1・3	弥生時代前期～江戸時代の間で13面以上の遺構面、弥生時代中期小区画水田、幅杭	
八尾市教育委員会	志紀遺跡(91-319)	①-1 -2 -3	第1調査区 第2調査区 第3調査区	管理棟他	1991. 10/ 7～ 1991. 10/ 8	75	志紀町西3	古墳時代後期以前の水田(2層以上)、古墳時代～中世の水田	3
大阪府教育委員会	志紀遺跡第6次調査	⑪-A -B	91-A調査区 91-B調査区	府営住宅 受水槽	1991. 11/ 1～ 1992. 3/25	2,454	志紀町西1	弥生時代自然流路・水路、弥生時代前期～平安時代水田	4
八尾市調査研究会	田井中遺跡第9次調査	⑫-8	第8調査区	公共下水道	1992. 4/ 8～ 1992. 5/10	100	志紀町西2-1、4-2	弥生時代中期～平安時代水田の耕土の可能性のある土壌9枚	5
大阪府教育委員会	志紀遺跡第7次調査	⑬-A -B -C	92-A調査区 92-B調査区 92-C調査区	府営住宅 防火水槽 公共下水道	1992. 6/23～ 1993. 3/25	2,261	志紀町西1	縄文晩期相当面、弥生中期～古墳時代畦状遺構古墳中期～飛鳥時代水田、平安末条里制遺構	6
大阪府埋蔵文化財協会	志紀遺跡	⑭西 東	西区 東区	府営住宅	1993. 8 ～ 1994. 3	2,000	志紀町西1	弥生時代中期の大溝群、弥生時代中期～鎌倉時代の水田（5面）	
八尾市調査研究会	志紀遺跡第1次調査	⑮-9	第9調査区	公共下水道	1993. 11/20～ 1993. 12/27	52	志紀町西2	縄文後期以前の埋没河川、弥生時代中期以前の沼沢地、弥生時代中期遺構の耕土8枚	7

文献
1　「志紀遺跡発掘調査概要」　大阪府教育委員会　1986.3
2　「八尾市志紀遺跡の水田遺構」「大阪府下埋蔵文化財研究会（第21回）資料」　1990
3　「志紀遺跡(91-319)の調査」「八尾市内遺跡平成3年度発掘調査報告書」八尾市文化財調査報告25　八尾市教育委員会　1992
4　「志紀遺跡発掘調査概要III」　大阪府教育委員会　1992.3
5　「田井中遺跡（第9次調査）」「八尾市所蔵文化財発掘調査報告30」（財）八尾市文化財調査研究会　1993
6　「志紀遺跡発掘調査概要III」　大阪府教育委員会　1993.3
7　「志紀遺跡（第1次調査）」「平成5年度（財）八尾市文化財調査研究会事業報告」（財）八尾市文化財調査研究会　1993


大阪府教育委員会調査地
八尾市教育委員会調査地
今回報告の調査地
当調査研究会調査地
(財)大阪府埋蔵文化財協会調査地
0
100
200m

第1図　調査地周辺図

第２章　調査経過

調査対象地は、南北190ｍ・東西90ｍの範囲、約17000㎡である。工事の計画は、この敷地内にある既存の木造平屋建ての宿舎を取り壊し、鉄筋５階建の宿舎７棟・合併処理槽１基を昭和61年度（1986）から順次建設するというものである。調査は、その建設工事に先立って、昭和60年（1985）12月２日から、４期（調査Ⅰ～調査Ⅳと呼ぶ）に分けて行ったもので、現地調査がすべて終了したのは、平成元年（1989）１月31日である。

第１節　調査Ⅰ

昭和60（1985）年度には、第１調査区～第３調査区の３か所で調査を行った。調査期間は昭和60年12月２日から昭和61（1986）年３月11日まで、調査面積は約920㎡である。調査対象地の北部西側に第１調査区、東側に第２調査区があり、そこから約130ｍ南、調査対象地の南端に第３調査区がある。

試掘調査の結果から、現地表下2.5ｍ前後に古墳時代の埋没水田があり、そこを調査対象とする旨が指示されていた。ところが、現地表下2.0～2.7ｍ（T.P.+10.0ｍ前後）で、平安時代末期～鎌倉時代前半の水田遺構が検出されたことから、この面での調査を行うことにした。

次いでこの面での調査終了後、下層の状況を確認する目的で小トレンチを掘削したところ、前記の水田面から約0.6ｍ下層（T.P.+9.4～9.5ｍ）でも、砂に覆われた水田遺構および水田耕作土の可能性のある土層が検出された。調査Ⅰの調査区は、調査対象地の南北に離れていることから、この二時期の水田遺構が当該地のほぼ全域にわたって広がっていることが確実なものとなった。

この調査結果から、掘削深度や調査対象面の検討や変更などを行い、次年度の調査に引き継ぐこととした。

第２節　調査Ⅱ

昭和61（1986）年度には、第４調査区・第５調査区の２か所で調査を実施した。調査期間は昭和61年12月10日から昭和62（1987）年３月25日まで、調査面積は約1282㎡である。前年度の調査Ⅰの第１調査区・第２調査区の南約40ｍに第４調査区、さらに南35ｍ地点に第５調査区が位置する。ここでは、調査Ⅰで検出した上下２枚の水田遺構を平面的な調査対象とした。

その結果、下層水田が古墳時代中期から同後期に属するものであることが明らかになった。また、この水田上面に堆積する砂層からは、弥生時代中期～古墳時代後期に至る土器類が多量

に出土しており、近隣に水田以外の複数時期の集落遺構のあることを示唆している。

この調査でも下層確認のための小トレンチを掘削したところ、下層水田のさらに0.3m下層（T.P.+9.0m前後）でも、砂に覆われた水田遺構が検出された。このことから、翌年度には三時期の水田遺構を平面的な調査対象とすることとした。

第3節　調査Ⅲ

昭和62（1987）年度には、第6調査区の1か所のみで調査を行った。調査期間は昭和62年11月24日から12月26日まで、調査面積は約416㎡である。第6調査区は、調査Ⅱの第5調査区の南約40m、調査Ⅰの第3調査区の北20m地点に位置する。

この調査では、上層水田以下には、水田耕土の可能性のある粘土～シルトが1m以上の厚さで堆積しており、複数枚あると思われた下層の古墳時代の水田遺構は、1面しか検出できなかった　それ以下については例年通りの小規模なトレンチ調査となったが、ここでは古墳時代の水田耕土より　0.4～1.0m下層（T.P.+8.0～8.5m前後）で、弥生時代中期～同後期の遺構面および弥生時代中期・同後期、古墳時代前期の良好な遺物の出土があった。この調査での最終掘削深度は約4mに及ぶ。

これらの調査結果を踏まえ、翌年度には弥生時代中期までを調査対象とすることとなった。

第4節　調査Ⅳ

昭和63（1988）年度の調査は、当地での最終の調査となったため、可能な限りの掘削・調査を行うこととした。調査期間は昭和63年10月3日から平成元（1989）年2月20日まで、調査面積は996㎡である。調査区は第7調査区の一か所で、調査対象地の北端にあたり、調査Ⅰの第1調査区・第2調査区の北35mに位置する。

調査の結果、これまでに検出されていた3枚の水田遺構のうち、下層の2枚の水田が古墳時代中期・同後期に構築されていること、この2時期の水田の大畦畔には土器が供献されていることなどが明らかになった。また、それ以下0.4～0.5m（T.P.+8.2～8.8m）で古墳時代前期の集落遺構、さらに0.3m下層（T.P.+8.2～8.5m）では弥生時代後期の水田遺構を検出するなど、多大な成果が得られた。

なお、前後して行われていた大阪府教育委員会の調査（大阪府教委第3次調査）では、この弥生時代後期水田のさらに下層で、弥生時代中期の水田遺構が検出されている。

その後、平成4（1992）年度までの大阪府教育委員会の調査（大阪府教委第4次～第7次調査）でも、さらに下層部分の調査が続行されており、その結果、弥生時代前期までの水田面が明らかにされている。

第３章　調査概要

この調査では、全面調査終了後の下層確認を繰り返すことにより、毎年調査対象面が増え、掘削深度が下がっていくことになった。そのため、調査方法や掘削方法が複雑になった点も多々あったが、下層確認を繰り返すことによって、これまで予想されていなかった田井中遺跡北部（志紀地区）の深層部が明らかになったものである。

第１節　掘削方法

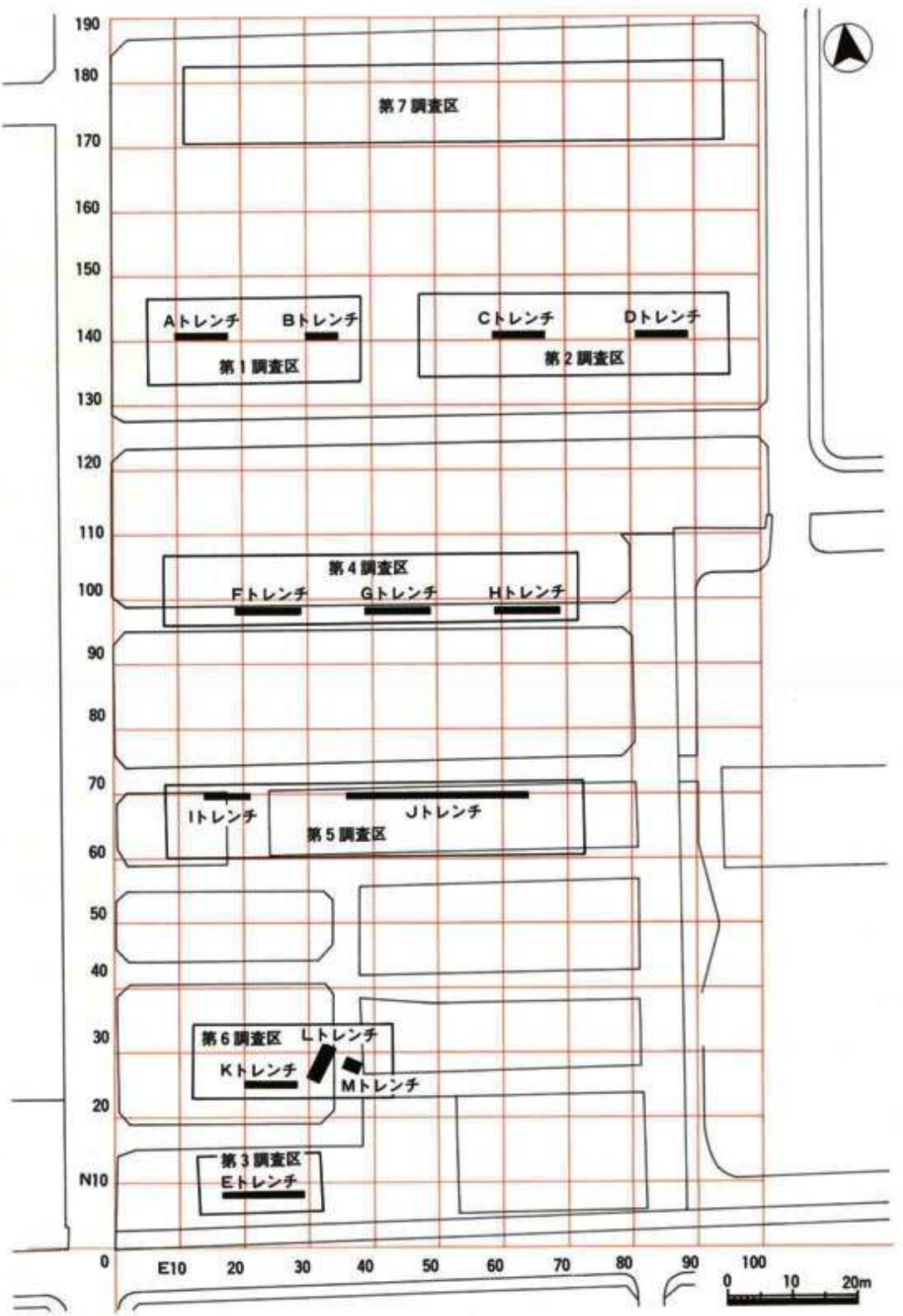
掘削方法は、いわゆる素堀り（オープンカットT.法）で、鋼矢板打設等の土留めは行っていない。掘削にあたっては、試掘調査の結果を参考にし、平安時代末期～鎌倉時代前半の水田上面に堆積する砂層上面（現地表下1.5～2.0m・T.P.+9.5～10.3m）までを機械掘削とし、以下の0.5～3m以上の土層を人力によって１層ずつはぎ取っていくものである。

調査Ⅰ～Ⅲまでの各調査区（第１調査区～第６調査区）では、全体を平面的な調査対象とした後、任意の位置に小トレンチを設定して下層確認を繰り返すことによって、平安時代末期～鎌倉時代前半・古墳時代後期・古墳時代中期・弥生時代中期～後期に対応する５～６枚の遺構面を確認した。

当該地は盛土も厚く軟弱で、しかも湧水の多いことが試掘調査の段階で明らかにされていたため、安全を考慮し、調査区壁面の勾配を充分にとって調査を行った。そのために深く掘り進むにつれ下幅は減少していき、当該地での最後の調査である調査Ⅳ（第６調査区）では、最終面（第５面）の南北幅が１m程度になってしまった部分もあり、第５面（弥生時代後期の水田遺構）までを平面的な調査対象として捉えたが、これ以下の土層については確認していない。

第２節　地区割

地区割については、当該地では数年にわたる調査を行うことが当初からわかっていたことから、住宅地全域を網羅できるような方法を考えた。基準点は南西角の交差点に置き、ここから南北道路・東西道路に沿って10mおきの点をおとし、区画の線とした。南北線は西からアルファベット（Ａ～Ｋ）で、東西線は南からアラビア数字（０～19）で表した。10m四方の地区の表示は、各地区の北東隅の南北線・東西線の交点を用い、「Ａ１区」・「Ａ２区」‥‥「K19」と呼んだ。地点の表示には、起点からの方向・距離を用い、たとえば「起点から東へ23m・北へ48m」の地点は「E23・N48」と表した。


190
180
170
160
150
140
130
120
110
100
90
80
70
60
50
40
30
20
N10
0
E10
20
30
40
50
60
70
80
90
100
0
10
20m
第7調査区
Aトレンチ
Bトレンチ
第1調査区
Cトレンチ
Dトレンチ
第2調査区
第4調査区
Fトレンチ
Gトレンチ
Hトレンチ
Iトレンチ
Jトレンチ
第5調査区
第6調査区
Lトレンチ
Kトレンチ
Mトレンチ
第3調査区
Eトレンチ

第2図　地区割図

第3節　基本層序

調査地全域は、過去の軍事施設や宿舎建設の際の造成などのため、周囲の道路より高くなっており、現地表面の標高はT.P.+12.0～12.7m程度である。また、盛土も1m以上と厚く、第1調査区・第2調査区では、第1面である鎌倉時代の遺構面にまで達する近代～現代の攪乱があり、深さは2m以上に達するところもあった。

全調査区を通じての基本的な土層は、第1層～第20層までの20枚を数えるが、すべての土層が全調査区で見られたわけではない。また、調査Ⅰでは第9層（第1面）まで、調査Ⅱでは第12層（第2面）まで、調査Ⅲでは第15層（第3面）までしか調査区全体を平面的に捉えていないため、それ以下の土層が全域にわたって広がっているかは、不確かである。本報告では、各調査区ごとの土層は3桁のアラビア数字をもちいて表すが、3桁目の数字は調査区名、以下の2桁が調査区ごとの通し番号である。

各調査区のうち、旧状を比較的良好にとどめていたのは、中央部以南の第3調査区－第6調査区で、第1層旧耕土上面の標高はT.P.+11.0m前後である。以下第2層床土、第3層～第6層は砂混じり粘土・シルト・粘土・シルト質粘土などで、この間に中世末期～近世・近代の耕土があり、島畑などが作られていたものと思われる。

第7層・第8層は、ともに湧水の多い土層であるが、第7層が粗砂からなるのに対して、第8層は薄いシルト～粘土が数枚重なっており、ここにも中世後半の耕土が含まれている可能性がある。第7層・第8層からは、鎌倉時代中期を下限とする遺物が出土している。

第9層青灰色粘土が平安時代末期～鎌倉時代前半の水田耕土で、この層上面を第1面とした。上面の標高はT.P.＋　9.4～10.3mとかなりの高低差があり、中央部の第3調査区・第4調査区で低くなっている。この低い部分に、先の第8層のうちの耕土の可能性のある土層が堆積している。この面で検出した畦畔は、すべて耕土である第9層を盛り上げて作られている。

第10層も水を含む土層で、第5調査区～第7調査区では上部のシルト～微砂と下部の粘土～シルト質粘土とに明確にわかれる。下部層もまた、水田耕土の可能性があるが、畦畔などの水田施設は検出できなかった。上部層からは、平安時代末期を下限とする遺物が出土している。

第11層も湧水の多い土層で、第7層・第8層のように上部は中砂～粗砂、下部は粘土～シルトの互層からなる。層厚は0.2～0.5mあり、ここからは奈良時代を下限とする遺物が出土している。なお、この層最下には、植物遺体とシルトの互層があり、直下の第12層水田耕土上面に貼り付いていた部分もあった。

第12層灰褐色～暗褐色粘土が古墳時代後期の水田耕土で、上面を第2面とした。上面の標高はT.P.＋　8.7－9.3mで、第5調査区東部が落ち込んでいる。

第13層は先の水田の床となる土層で、この層を削り出して畦畔が作られている。

基本層序対照表

基本層		調査区名	(北) 調査IV 第7調査区	調査I 第1調査区	調査I 第2調査区	調査II 第4調査区	調査II 第5調査区	調査III 第6調査区	(南) 調査I 第3調査区
第1層	旧耕土					401 黒灰砂混粘	501 黒灰砂混粘	601 黒灰砂混粘	301 黒灰砂混粘
第2層	床　土					402 緑灰砂混粘	502 緑灰砂混粘	602 緑灰砂混粘	302 緑灰砂混粘
第3層	近代～中世後半の耕土？					403 黄褐砂混粘	503 黄灰砂混粘	603 黄灰砂混粘	303 黄褐砂混粘
第4層						404 黄褐シルト	504 黄灰シルト		
第5層						405 灰～赤褐粘	505 灰黄粘土	604 黄褐粘土	
第6層	湧水層Ⅰ上層		701 茶灰シ～砂混粘 702 茶灰砂礫～粘	101 茶灰砂混粘	201 黄褐砂混粘	406 緑灰～茶灰シ質粘土 407 灰砂混粘土	506 灰色シ質粘 507 灰色粘土 508 灰砂混粘土	605 黄灰シルト	304 青灰砂混粘
第7層	湧水層Ⅰ中層		703 灰中砂		202 黄褐中砂	408 灰礫砂 409 暗灰中砂	509 灰中砂	608 灰礫砂～粗砂 609 灰粘土	305 灰中砂
	（粘土？）			102 灰粘土				610 灰シルト	306 灰シルト
第8層	湧水層Ⅰ下層		704 灰シ～礫砂 灰礫砂混粘	103 灰シ～砂混粘	303 灰シ～砂混粘	410 暗灰砂混粘	510 青灰シ質粘	611 灰青シ質粘	
第9層	粘土Ⅰ	（第1面）	705 青灰粘	104 青灰粘	204 青灰粘	411 青灰粘	511 青灰粘	612 青灰粘	307 青灰粘
第10層	湧水層Ⅱ上層		706 緑灰シ	105 青灰礫砂	205 暗灰礫混粘	412 青灰シ	512 青灰シ 513 灰砂混粘	613 緑灰礫砂	308 青灰砂混粘
	（粘土？）		707 緑灰色粘				514 暗灰シ質粘	614 灰シ質粘	
第11層	湧水層Ⅱ下層		708 灰礫砂～粗砂 灰シルト	106 青灰シルト	206 灰シルト	413 灰色中砂	515 灰シ～礫砂混粘 516 灰シ質粘	615 灰中砂～礫砂 616 灰礫砂～細砂	309 灰礫砂
第12層	粘土Ⅱ	（第2面）	709 灰褐粘	107 暗灰粘	207 暗褐粘	414 暗灰褐粘	517 暗褐粘		310 暗灰褐粘
第13層	泥土Ⅱ		710 黄茶砂混粘		208 暗灰砂混粘	415 暗青砂混粘	518 灰褐粘	617 青灰砂混粘	
第14層	湧水層Ⅲ		711 灰褐礫～粗砂 灰粘～シ… 712 暗褐シ！植物遺体	108 灰中～細砂	209 灰礫砂	416 青灰中砂 417 青灰シ	519 灰礫砂	618 青灰シ 619 青灰シ・植物遺体 620 灰褐シ質粘	311 暗灰シ
第15層	粘土Ⅲ	（第3面）	713 紫褐粘			418 暗褐灰粘		621 褐灰粘	
第16層			714 赤灰緑粘 715 青灰緑粘 716 灰緑礫混粘			419 暗灰砂混粘 420 緑灰粘 421 灰緑砂混粘		622 灰青粘土 623 緑灰砂混粘	
第17層			718 黒灰礫混粘土 719 黒褐粘混礫			422 黒褐粘		624 黒灰粘 625 黒灰礫混粘	
第18層	湧水層Ⅳ上層	（第4面）	721 茶褐粗砂					626 灰黒細砂	
第19層	湧水層Ⅳ下層		722 緑灰シ						
第20層	粘土Ⅳ	（第5面）	723 淡緑灰粘土						

第14層は湧水層で、第９層と同様の堆積状況を示しており、ここからは古墳時代後期を下限とする遺物が出土している。なお、第７調査区で検出した大畦畔は、第13層・第14層を主として盛り上げたもので、砂と粘土を交互にたたきしめて盛っている様子が窺える。

第15層紫褐色～褐灰色粘土が古墳時代中期の水田耕土で、上面を第３面とした。上面の標高はT.P.＋　9.0m前後である。第６調査区で検出した下層水田はおそらくこの層に対応するものと思われるが、第６調査区では第11層～第14層までには、粗砂・細砂・礫混じり粘土・シルト・シルト質粘土などが堆積しており、第２面である古墳時代後期の水田は認められなかった。

また、第５調査区第２面東部の水田も、第３面に対応する可能性が高い。

第16層粘土～砂～礫混じり粘土は、先の水田の床となる土層で、ここでもこの層を削り出して畦畔が形成されている。

第17層の粘土～礫混じり粘土は、古墳時代中期前半までの遺物を含んでいる。第７調査区で検出した第３面の大畦畔は第16層・第17層を盛りあげて構築されている。

第18層茶褐色～灰黒色粗砂は、古墳時代前期の集落遺構のベースとなる土層で、上面を第４面とした。上面の標高はT.P.＋　8.2～8.8mで、東が高く西へ下がり、第７調査区西側では層厚を減じて、欠落している部分もある。第６調査区Ｉトレンチでは、この層上面を構築面とする柱穴状の遺構があり、内部から弥生時代中期～後期の遺物が出土したことから、調査Ⅲでは弥生時代の遺構面と考えた。ところが、調査Ⅳではこの層中から弥生時代～古墳時代初頭の遺物が出土したことから、時代は下ることとなった。

第19層シルトも水を含む土層で、最下の水田上面を薄く覆っている。この層も、第７調査区の西側約３分の１には堆積していない。

第20層の粘土がこの調査で確認した最下の層で、弥生時代後期の水田耕土にあたるものと思われ、上面を第５面と呼んだ。上面の標高はT.P.+8.0～8.5m程度で、西へ下がっている。層厚は0.3m以上ある。この面の畦畔は、この層を盛りあげて構築されている。

第4章　調査Ⅰ　昭和60年（1985）年度の調査

第1節　概要

調査対象地の北部に第1調査区・第2調査区、南部に第3調査区を設定した。調査対象となったのは、地表下2.0～2.8m（T.P.+9.5～10.1m）に存在する青灰色粘土を耕土とする、平安時代末期～鎌倉時代前半の水田遺構である。青灰色粘土は、基本層序では［第9層：耕土Ⅰ］にあたり、第1調査区では104層、第2調査区では204層、第3調査区では307層と呼んでいる。

この層上面での調査終了後、各調査区で下層確認トレンチを設定し、調査を続行した。その結果、［第9層］の青灰色粘土層より0.5～0.6m下層に存在する暗褐色～暗灰色粘土が古墳時代の水田耕土にあたることが判明した。この下層の粘土は、基本層序の［第12層：耕土Ⅱ］にあたり、第1調査区では107層、第2調査区では208層、第3調査区では310層と呼んだ。

第2節　第1調査区の調査結果

第1調査区は、調査対象地の北部西側、14A～14D区・15A～15D区に位置する。規模は、上幅で東西33m・南北13m、下幅で東西27m・南北7mを測る。調査期間は、昭和60（1985）年12月2日から昭和61（1986）年2月6日までである。

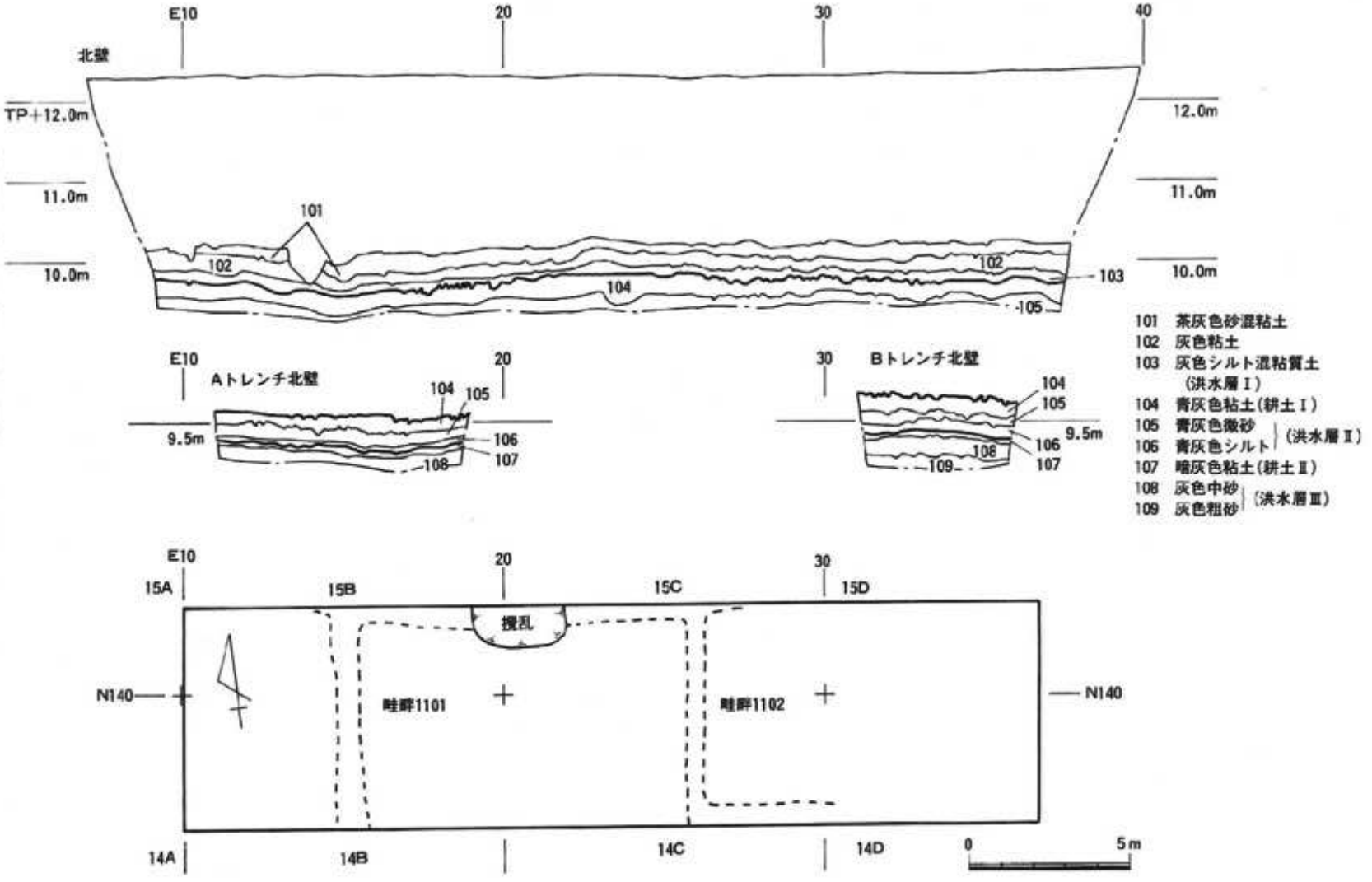
1）層序

現地表面のレベル高はT.P.+12.3～12.5mを指し、周辺の道路よりかなり高い。また、過去の軍需施設やその後の国家公務員宿舎建設の際の造成・基礎工事・解体などで盛土は2m近くにまで及んでおり、旧耕土である基本層序の［第1層］以下、中近世の耕土にあたる基本層序の［第5層］までが損傷を受け、遺構面にまで及ぶ攪乱もあった。

第1調査区で確認できた土層は、以下に記す101層～108層の8枚で、ほぼ水平な堆積状況が認められた。これらの土層は、基本層序の［第6層～第14層］に対応する。このうち、101層から105層までは全体的に捉えた土層であるが、106層以下は、下層調査で部分的に確認した土層である。

2）上層調査

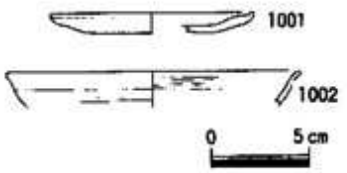
現地表下2.6m（T.P.+9.6～9.8m）の104層青灰色粘土上面で、足跡状遺構が無数に認められる水田遺構を検出した。平面的に畦畔を検出するには至らなかったが、第3図に破線で示したように、足跡状遺構の少ない範囲が、東西方向に2か所・南北方向に2か所、帯状に伸びて



第3図　第1調査区平断面図(水平S＝1／200・垂直1／80)

いるのを確認した。

東西方向に伸びるのは、調査区北端の15B区中央から15C区中央にかけてと、調査区南端の14C区中央から14D区東部にかけてである。南北方向に伸びるのは、調査区西側の14B～15B区中央と、そこから約10m東側の14C～15C区中央である。



第4図　第1調査区出土遺物実測図

調査中、この部分は畦畔と断定できなかったが、昭和61（1986）年度の調査Ⅱで、南北方向の畦畔の延長（畦畔4101＝畦畔5101・畦畔4102）を検出したことから現在は南北方向の2本に限り、畦畔と考えている。畦畔は、西側を畦畔1101、東側を畦畔1102と呼ぶ。畦畔によって区画された3筆の水田は、西から水田1101～水田1103と呼ぶ。

畦畔は幅0.5～1.0mほどに復元できる。水田上面のレベルはT.P.+9.4～9.8mで、西が低く東が高い。西端の水田1101の上面は、北西側で波状痕跡がへり、平坦になる。

水田面上部に堆積する103層からは、平安時代末期～鎌倉時代前期の土器類（第4図1101・1102）が出土しているが、すべて小破片で、著しく摩耗を受けている。

3）下層調査

Aトレンチ　地区　14B区

規模　東西8m・南北1m

Bトレンチ　地区　14D区

規模　東西5m×南北1m

上層の調査終了後、任意の位置に2か所のトレンチを設定し、下層調査を行ったところ、下層にも水田耕作土の可能性のある土層［耕土Ⅱ］を確認した。

上層の水田耕作土である104層青灰色粘土の厚みは0.3m前後あり、その下には、［洪水層Ⅱ］に対応する2枚の土層（105層青灰色微砂・106層青灰色シルト）が堆積している。その下に堆積する107層暗灰色粘土が第2面目の水田耕作土にあたるもので、この層上面で足跡状遺構を検出した。107層上面のレベル高はT.P.+9.2～9.1m、地表下3.4～3.5mに達する。

107層の厚さは0.1～0.2m程度あり、以下には［洪水層Ⅲ］にあたる108層灰色中砂～粗砂（0.2m前後）、109層青灰色～灰色シルト（0.15m以上）が堆積する。

第３節　第２調査区の調査結果

第２調査区は、調査対象地の北部東側、第１調査区の東隣に位置し、地区名は14Ｅ～14Ｊ区・15Ｅ～15Ｊ区にあたる。規模は、上幅で東西47ｍ・南北13ｍ、下幅で東西42ｍ・南北７ｍを測る。調査期間は、昭和61（1986）年１月８日から３月４日までである。

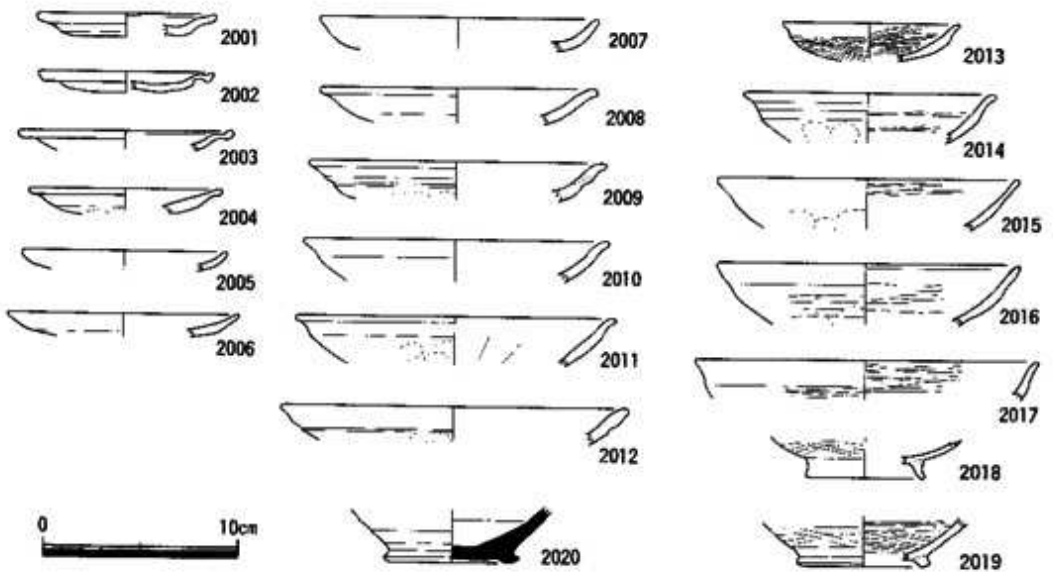
１）層序

現地表面はT.P.+12.4～12.5ｍで、上層部の土層堆積は第１調査区と同様で、遺構面にまでおよぶ近代・現代の撹乱は、第１調査区よりも多く見られた。[洪水層Ⅰ]にあたる202層黄褐色中砂、203層灰色シルト～砂混じり粘土は第１調査区よりも厚く堆積しており、砂粒は粗く水量も多い。この調査区で確認できた土層は201層～209層の９枚で、基本層序では［第６層～第14層］にあたる。

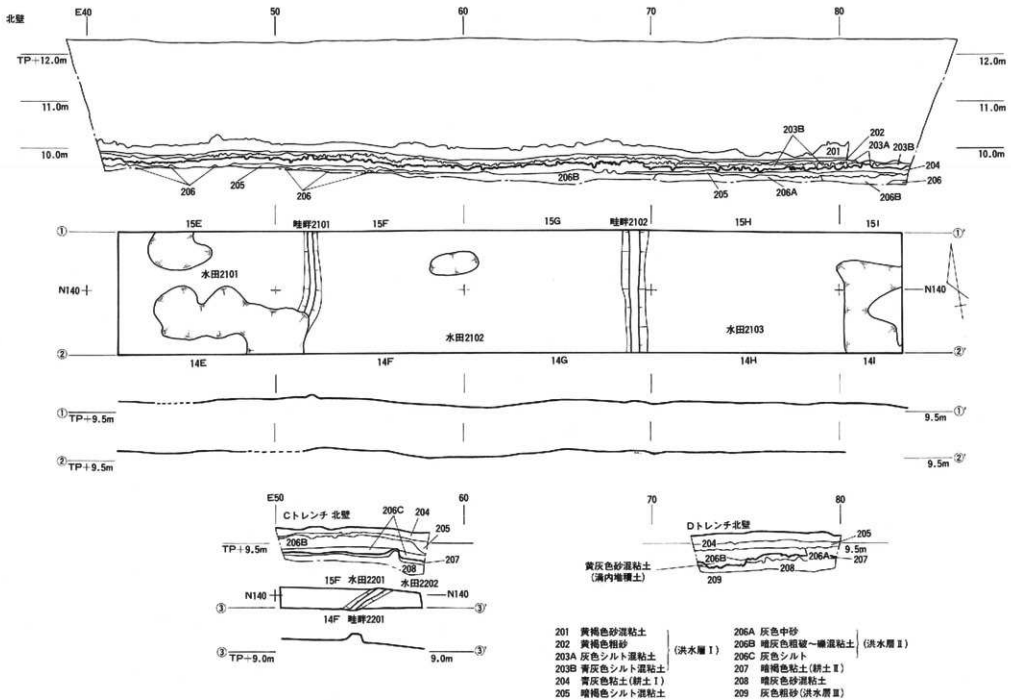
このうち、全体的にとらえた上層は201層～204層で、205層以下が部分的にとらえた土層である。上層の水田耕作土は204層の青灰色粘土、下層の水田耕作土は207層の暗褐色粘土である。

２）上層調査

現地表下2.4～2.7ｍ（T.P.+9.5～9.7ｍ）の204層青灰色粘土上面で、２条の畦畔（畦畔2101・畦畔2102）で区画された水田３筆（水田2101～水田2103）を検出した。



第５図　第２調査区出土遺物実測図



第6図　第2調査区平断面図(水平S＝1／200・垂直＝1／80)

畦畔は耕土である204層を盛り上げて構築されており、基底幅0.65～1.4m・上面幅0.3～0.6m・高さ0.05～0.1mの規模を測る。畦畔の間隔（＝水田の東西幅）は17～18mである。水田上面のレベルはT.P.+9.5～9.7mで平坦であるが、畦畔2102を境として東へ0.1～0.2mの段を持って下がり、この低い部分にのみ、203B層青灰色シルト質粘土が堆積している。

水田上面に堆積する203層から、平安時代末期～鎌倉時代の遺物（第5図2001～2020）が出土しているが、二次堆積の流出遺物で、良好な遺存状態を保っていたものはない。このうち、時期を特定できる遺物は、白磁碗（2020）のみで、12世紀後半～13世紀前半のものである。

3）下層調査

Cトレンチ　地区　14G区

規模　東西8m・南北1m

Dトレンチ　地区　14I区

規模　東西8m×南北1m

ここでも第1調査区同様、上層の調査終了後、2か所のトレンチを設けて下層確認トレンチとした。その結果、第1調査区同様、[洪水層Ⅱ]にあたる206層灰色シルトに覆われた[耕土Ⅱ]にあたる207層暗褐色粘土を検出した。この層上面で、Cトレンチでは畦畔2201および水田2201・水田2202、Dトレンチでは溝（SD2201）を検出した。

Cトレンチの畦畔2201は、北東－南西に伸びるもので、基底幅0.3～0.35m・上面幅0.1～0.15m・高さ0.1～0.15mを測る。畦畔の構築は、上層の水田とは異なり、床土である208層を削り出しており、耕土である207層は、その上面に薄く貼りついている。

水田の上面レベル高は、T.P.+9.3～9.1mで、畦畔をはさんで南東が低く、比高差は0.2m程度ある。

Dトレンチで検出した溝SD2201も、畦畔2201同様北東－南西に伸びている。幅0.2～0.3m・深さ0.15～0.2m、内部堆積土は黄灰色砂混じり粘土である。

207層・208層以下には[洪水層Ⅲ]にあたる209層灰色粗砂が0.3m以上堆積しているのを確認している。

第4節　第3調査区の調査結果

第3調査区は、調査対象地の南西端、第1調査区から南約130m地点に位置し、地区名は1B－1D区・2B～2D区にあたる。規模は上幅で東西18m・南北10m、下幅で東西15m・南北5mを測る。調査期間は、昭和61（1986）年2月12日から3月8日までである。

1）層序

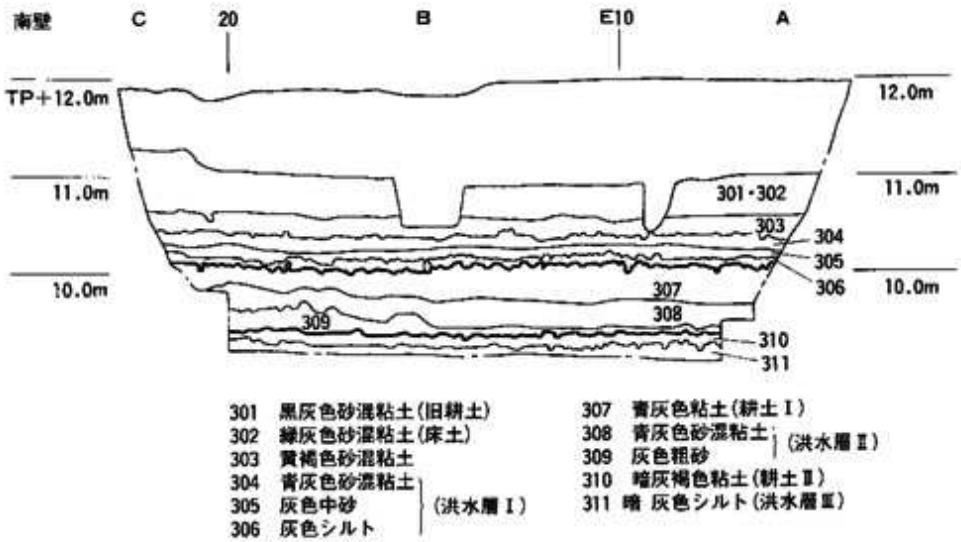
現地表面のレベルは、T.P.+12.0m前後で、第1調査区・第2調査区より低く、盛土・撹乱が少ない。また、基本層序の［第1層：旧耕土］に対応する301層や、［第2層：床土］にあたる302層も比較的良好に遺存していたが、上層の水田耕作土である307層青灰色粘土が、現地表下1.8～2.0mと第1調査区・第2調査区よりもかなり浅かったため、調査対象面以下までを機械掘削してしまった部分がある。

ここでは、301層から311層までの11枚の土層が確認できた。これらは基本層序の［第1層～第13層］にあたる。このうち、上層で確認した土層は301層～307層まで、下層で確認した土層は308層～311層である。

上層の水田耕作土にあたる土層は307層青灰色粘土で、下層の水田耕作土にあたる土層は、310層暗灰褐色粘土である。

2）上層調査

調査対象地南西端の調査区で、前述したように、地表面は北部の第1調査区・第2調査区よりも0.5m低く、調査対象とした土層（307層）は0.4mほど高かったために、調査区の西側は機械掘削の時点で掘りすぎてしまった。

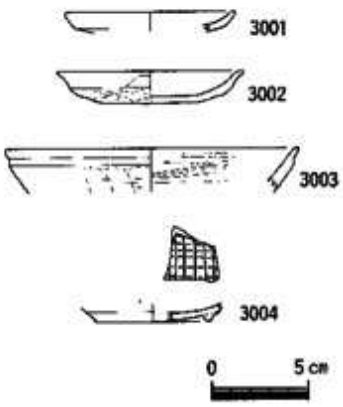


第7図　第3調査区断面図（S＝水平1／200・垂直1／80）

断面の観察の結果からは、畦畔は認められなかったが、第１調査区・第２調査区同様、307層上面には足跡状遺構の窪みが多数遺存しており、水田耕作土の可能性が考えられる。足跡状遺構内部は305層灰色中砂・306層灰色シルトで充填されている。

307層上面のレベル高はT.P.＋10.0～10.1ｍを測り、西が高く東が低い。層厚は西が0.4ｍと厚く、東側では0.2～0.3ｍと薄くなっている。

上層に堆積する306層灰色シルトからは、鎌倉時代中期の瓦器椀や土師器小皿を含む土器類（第８図　3001～3004）が出土している。



第８図　第３調査区出土遺物実測図

３）下層調査

Ｅトレンチ　　地区１Ｂ～１Ｃ区

規模　東西12ｍ×南北１ｍ

ここでは、上層の調査終了後、新たなトレンチは設けず、調査区南の側溝の幅を広げて下層Ｅトレンチと呼んだ。

ここでも、他の調査区同様、上層水田より約0.7ｍ下層で、上面に足跡状遺構を伴う310層暗灰褐色粘土が確認できた。上面のレベルは9.4～9.5ｍで、第１調査区・第２調査区よりも0.2ｍ程度高く、地表下2.6ｍ前後にあたる。上層・足跡状遺構内部には、[洪水層Ⅱ]にあたる309層灰色粗砂が堆積しており、須恵器片などがわずかに出土している。

第５節　小結

調査１では、洪水に埋まった二時期の水田遺構が、広範囲にわたって遺存していることが明らかになった。水田の埋没時期は、上面に堆積する土層の出土遺物から、上層の水田遺構は鎌倉時代前期以降、下層の水田遺構は古墳時代以降と考えられる。

上層水田では、南北方向の畦畔が約10ｍ・20ｍの間隔で伸びているのを確認していることから、条里に規制された水田が、整然と並んでいたものと思われる。ここでは、耕土である[第９層：青灰色粘土]を盛り上げて、畦畔が構築されている。

下層水田では、畦畔の方向はおおむね北東－南西で、畦畔は、水田の床土を削り出して構築されており、上層と下層とではその構築法や方向などに断絶が認められる。

第５章　調査Ⅱ　昭和61（1986）年度の調査

第１節　概要

昭和61年度の調査Ⅱでは、第４調査区・第５調査区の２か所で調査を行った。調査区は、調査対象地の中央から南部にかけて位置するもので、第１調査区・第２調査区の南約40ｍに第１調査区が、さらに南40ｍに第５調査区がある。調査Ⅱでは、昭和60年度の調査Ⅰの結果を踏まえ、第２面目の水田遺構も平面的にとらえ、さらに下層の状況を観察することにした。

第１面・第２面の調査終了後、第４調査区に小トレンチ（Ｆトレンチ～Ｈトレンチ）を設けて下層を確認した結果、第２面目の水田のさらに下層約0.3ｍ前後でも、砂に覆われた水田耕作上の可能性のある粘土層の存在することがわかった。なお、第５調査区では、上層１面目の調査中から壁面が崩れ、危険な状態となったため、下層部分の調査はしていない。

両調査区とも地表面の標高はT.P.+11.8～12.2ｍで、北側の第１調査区・第２調査区よりかなり低く、南の第３調査区と同じくらいである。盛土は１ｍ前後で、旧耕土以下が比較的良好に遺存していた。

第１面の水田耕作上は、地表下2.4～2.8ｍ（T.P.+9.2～9.7ｍ）にある［第９層］青灰色粘土で、第４調査区では411層、第５調査区では511層と呼んだ。第２面目の水田耕作土は地表下2.8～3.0ｍ（T.P.+9.2～9.7ｍ）にある［第12層］暗灰褐色～暗褐色粘土で、第４調査区では414層、第５調査区では517層にあたる。第４調査区でのみで確認した第３面目の水田耕作土は418層暗褐灰色粘土で、基本層序の［第15層：耕土Ⅲ］にあたる。

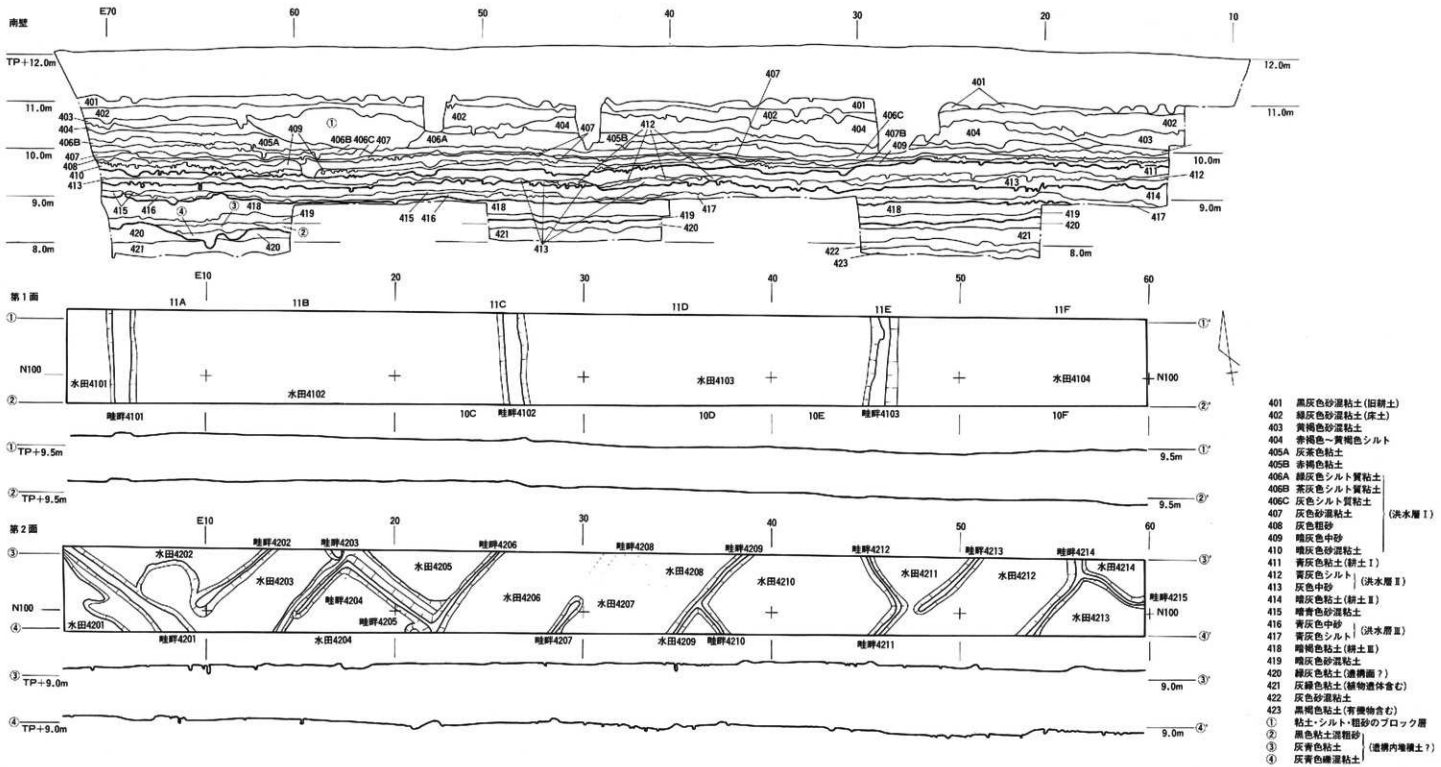
第２節　第４調査区の調査結果

第４調査区は調査対象地の中央部北側に位置し、10Ａ～10Ｈ区・11Ａ～11Ｈ区にあたる。上幅の規模は東西64ｍ・南北12ｍ、下幅の規模は東西57ｍ・南北４ｍを測る。調査期間は昭和61（1986）年12月10日から昭和62（1987）年３月11日までである。

１）層序

現地表面のレベル高はT.P.+12.0～12.2ｍで、北側の第１調査区・第２調査区よりは0.3ｍほど低く、南部の第３調査区と同じくらいである。調査区内では、西が高く東が低い。

ここでは、上層の攪乱は少なく、基本層序の［第１層］から［第17層］に対応する401層以下423層までの23枚の土層を確認した。このうち、水田耕作土は、第１面目が411層青灰色粘土・第２面目が414層灰褐色粘土・第３面目が418層暗褐灰色粘土の３枚である。



第9図　第4調査区平断面図(S＝水平1／200・垂直1／80)

2）上層調査－第１面

現地表下2.4～2.7m（T.P.+9.5～9.7m）に堆積する411層青灰色粘土上面で、畦畔３条（畦畔4101～4103）や足跡状遺構を伴う水田４筆（水田4101～4104）を検出した。この面を第１面と呼んだ。

畦畔はすべて南北方向に伸びるもので、各畦畔の間隔（＝水田の東西幅）は20m前後で、調査Ⅰと同様の間隔である。西端の畦畔4101は畦畔1101の南の延長、東端の畦畔4103は畦畔2101の南の延長と考えられる。畦畔は、耕作土である411層を盛り上げて構築されており、基底幅0.8～1.5m・上面幅0.5～1.0m・高さ0.05～0.1m程度の規模を持つ。畦畔4102・4103は西側がなだらかに下がり、東側に段をもつ。

各水田上面のレベルは、T.P.+9.4～9.7mでほぼ水平であるが、各畦畔を境として東へ約0.1mずつ低くなる。南北の高低差は調査区内では不明であるが、北の第１調査区・第２調査区の水田面よりも0.1～0.2m程度低い。

水田上層に堆積する408層灰色粗砂・409層灰色中砂からは、古墳時代中期～平安時代末期・鎌倉時代の土器類（第10図・第11図－4001～4094）が比較的多量に出土している。

3）上層調査－第２面

現地表下2.8～3.0m（T.P.+9.2～9.3m）に堆積する414層暗灰褐色粘土上面では、畦畔15条（畦畔4201～4215）で区画された水田14筆（水田4201～4214）を検出した。

この面では、調査Ⅰですでに確認されていたように、畦畔の方向は北東－南西方向に伸びており、上層の畦畔とは軸を異にしていること、さらにそれらが調査区全域に広がっていることが明らかになった。

畦畔の規模は、畦畔4201が基底幅0.9～1.8m、上面幅0.3～1.0m、高さ0.2mとやや大型で、大畦の可能性を窺わせるものである。他の畦畔は、基底幅0.4～1.3m・上面幅0.15～0.6m・高さ0.05～0.1m程度の小型のものである。畦畔の接続にはＬ字形・Ｔ字形・Ｙ字形などがある。水口は５か所あり、それに対応するように畦畔に沿った窪みや落ち込みがみられ、一時期の流路や水たまりとなっていたことがわかる。同様に考えれば、畦畔4201の南東側や畦畔4205と畦畔4206の接続部付近にも溝状の窪みがあることから、この付近にも水口を想定することができる。

水田上面のレベルは、T.P.+9.2～9.3mで中央部が高く、南東部がもっとも低い。この面でも畦畔を越えるごとに水田上面には段差が設けられている。水田１筆全体を検出できたものはないため、全容は不明であるが、水田4203は３m×８mの長方形、水田4210は一辺７～８mの正方形に復元できる。

水田上面に堆積する412層青灰色シルト・413層灰色中砂からは、庄内甕（第12図－4095）をはじめとして、古墳時代前期～奈良時代の土器類（第12図－4096～4104）が、比較的多量に出土している。

4）下層調査

Fトレンチ　地区　10C区

　　規模　東西10m・南北1m

Gトレンチ　地区　10E区

　　規模　東西10m・南北1m

Hトレンチ　地区　10G区

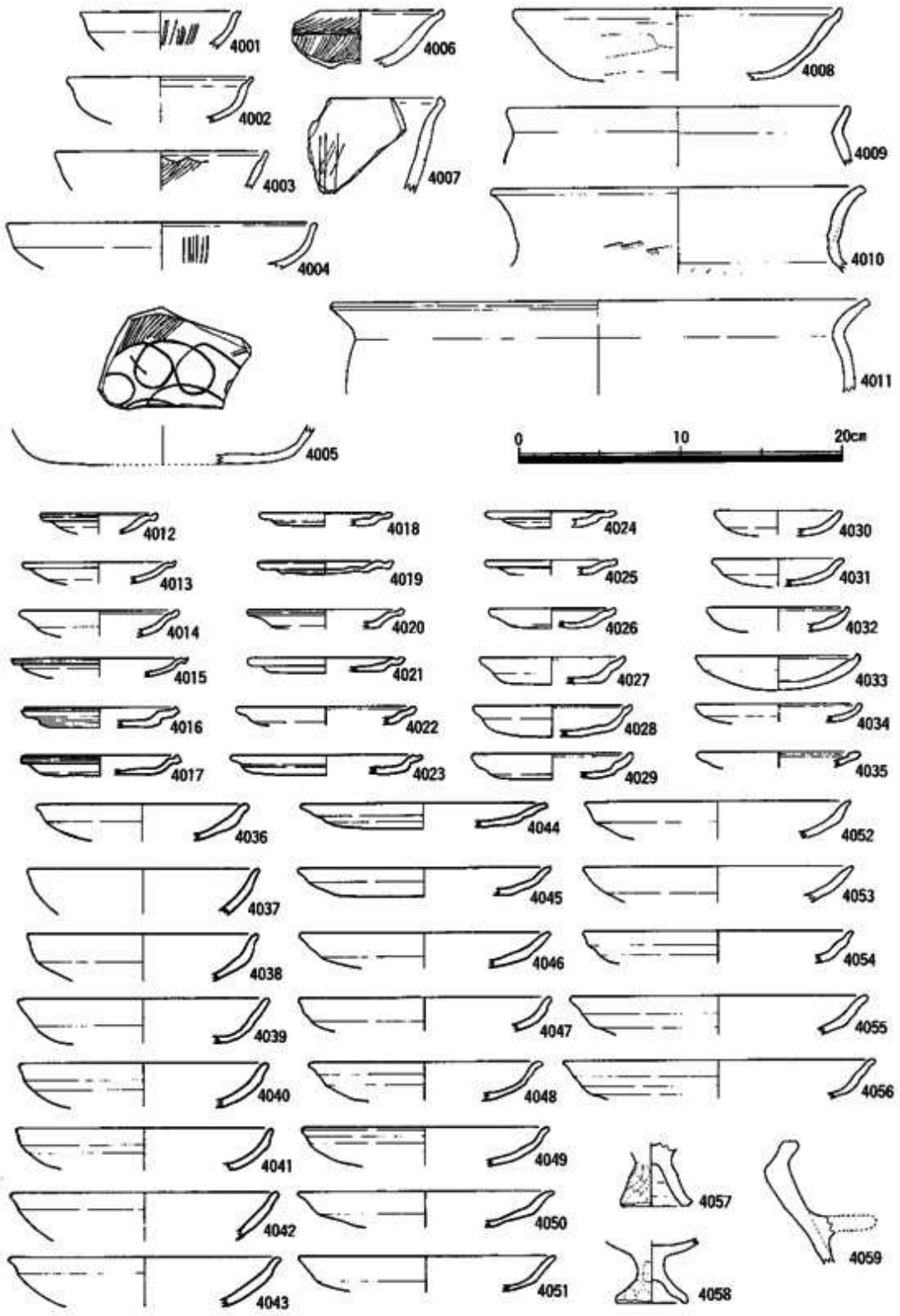
　　規模　東西10m・南北1m

ここでも、上層の平面的な調査終了後に3か所のトレンチを設定し、下層確認を行った。トレンチの設定は、調査Iの第3調査区と同様南側の側溝の幅を広げ、第2面目の水田以下1m前後を掘り下げることとした。その結果、第2面目の水田のさらに下層にも、水田遺構の広がっていることがとが断面の観察によって明らかになった。

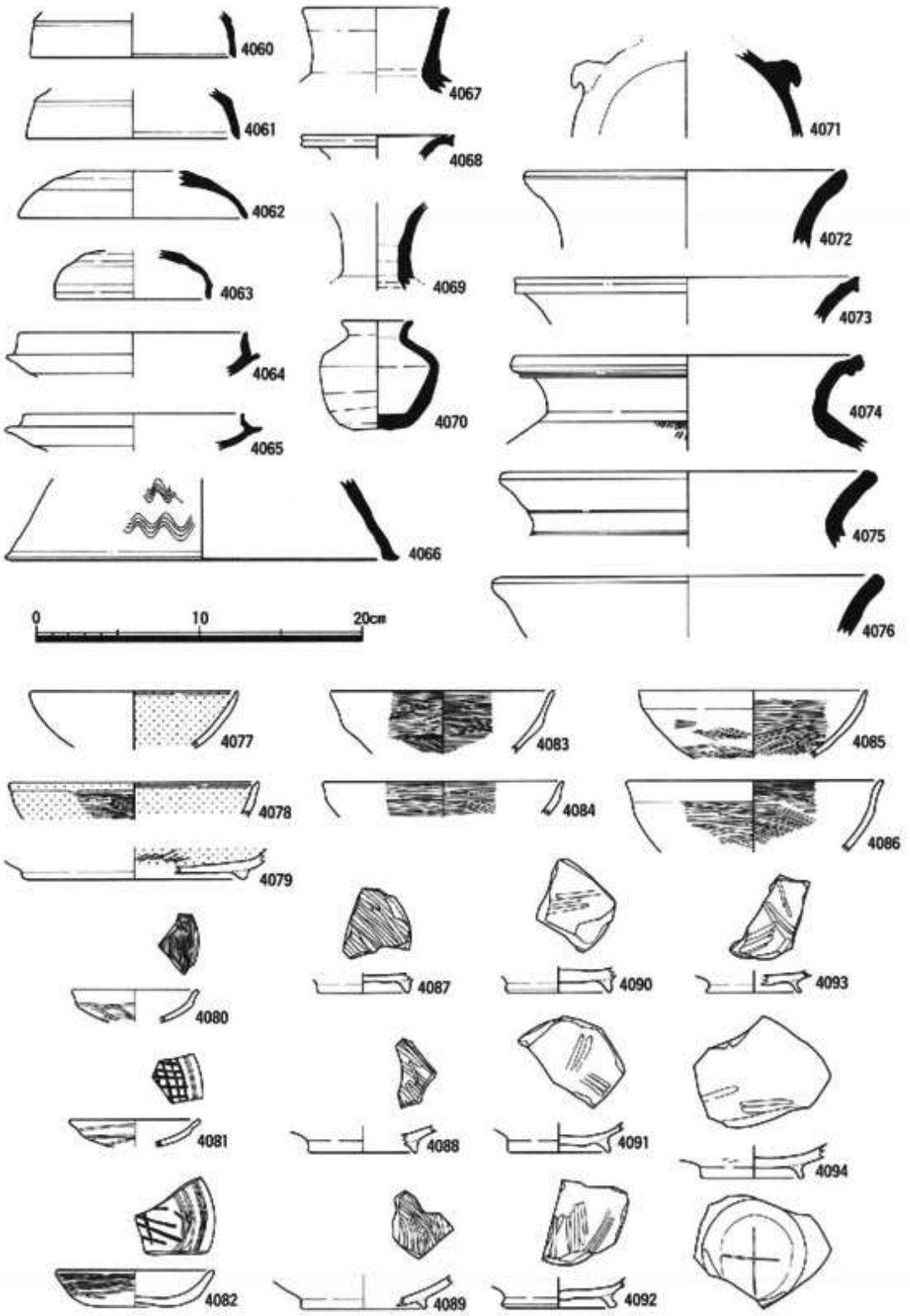
第2面の水田耕土である414層暗灰褐色粘土直下には、耕土の床となる415層暗青色砂混粘土があり、以下には湧水層である416層青灰色中砂・417層青灰色シルトがあり、さらにその下層で3枚目の水田耕土418層暗褐灰色粘土が堆積している。水田上面は第2面目の水田上面より0.3～0.5m下層で、T.P.+8.8～9.0mである。

Hトレンチでは、この層上面で畦畔を検出した。2面目の畦畔とほぼ同規模で、同方向に伸びるものと考えられる。水田上面には波状痕跡があり、内部は417層青灰色シルトで充填されている。層中からは、布留式甕（第12図4106・4107）などが出土している。この水田耕土（418層）以下には、［基本層第16層～第17層］に対応する419層～423層粘土～砂混粘土がほぼ水平に堆積している。

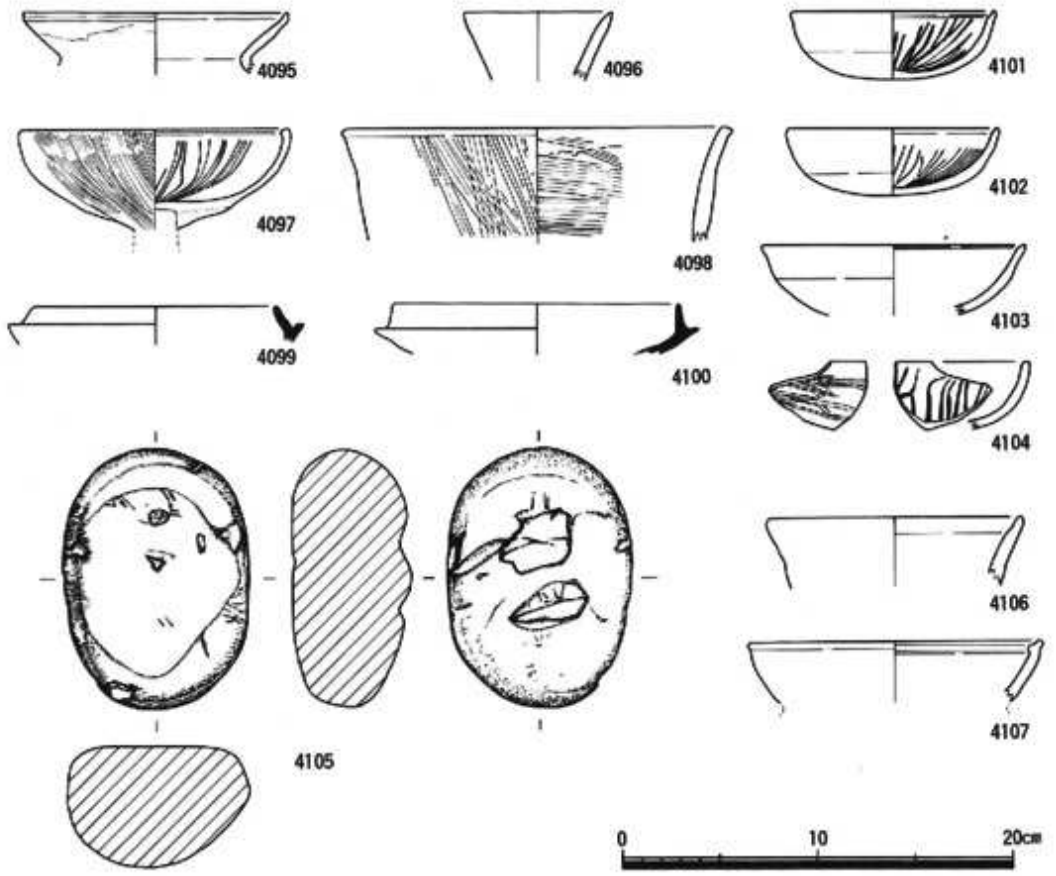
さらにGトレンチでは、420層緑灰色粘土上面から切り込む遺構状の落ち込みを確認した。落ち込みは、Gトレンチ中央から西部にかけて認められたもので、幅7m程度の範囲がゆるやかに落ち込んだ後、さらに中心部付近でピット状に深むもので、上段の深さ0.3m・下段の深さは0.2m程度を測る。内部には、上層から①黒色砂混じり粘土、②灰緑色粘土、③緑灰色砂混じり粘土が堆積している。遺物の出土はなく、有機物も含まれていない。



第10図　第４調査区出土遺物実測図－１



第11図　第４調査区出土遺物実測図－２



第12図　第４調査区出土遺物実測図－３

第３節　第５調査区の調査結果

第５調査区は、調査対象地の中央部南側、第４調査区の南約40ｍ地点に位置し、地区名は６Ａ～６Ｈ区・７Ａ～７Ｈ区にあたる。上幅の規模は第４調査区と同じく東西64ｍ・南北12ｍ、下幅の規模は東西57ｍ・南北５ｍを測る。調査期間は、昭和62（1987）年１月28日から３月25日までである。

１）層序

現地表面のレベル高は、T.P.+11.8～12.1ｍで、北側の第４調査区よりやや低いが、調査区内では、第４調査区と同様に、東が低く西が高い。盛土は東側で0.6ｍ、西側で1.0ｍの厚さがあり、旧耕土以下が比較的良好に遺存している。第５調査区で確認できた土層は、501層～519層の19枚で、基本層序の［第１層～第14層］に対応する。

このうち、上層の水田耕作土は511層青灰色粘土、下層の水田耕作土は517層暗褐色粘土である。

2）上層調査－第１面

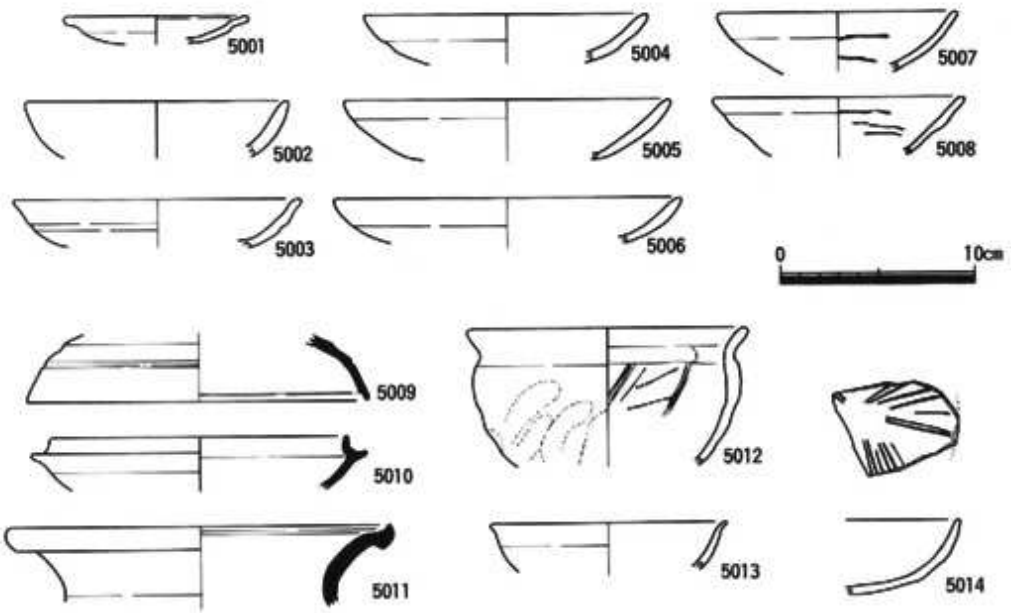
現地表下2.0～2.8ｍ（T.P.+9.2～9.7ｍ）の511層青灰色粘土上面で、南北方向の畦畔７条（畦畔5101～畦畔5107）、で区画された水田８筆（水田5102～水田5108）を検出した。

畦畔の規模は第４調査区のものとほぼ同様で、基底幅0.4～1.7ｍ・上面幅0.3～1.3ｍ・高さ0.03～0.11ｍを測る。畦畔5108の南側は、東西７ｍ・南北４ｍにわたって0.2ｍ程度の高まりとなっており、大畦・道などの可能性がある。畦畔5103は南端でわずかに検出したもので北へは伸びず、水口が設けられており、北側が溝状にえぐれている。

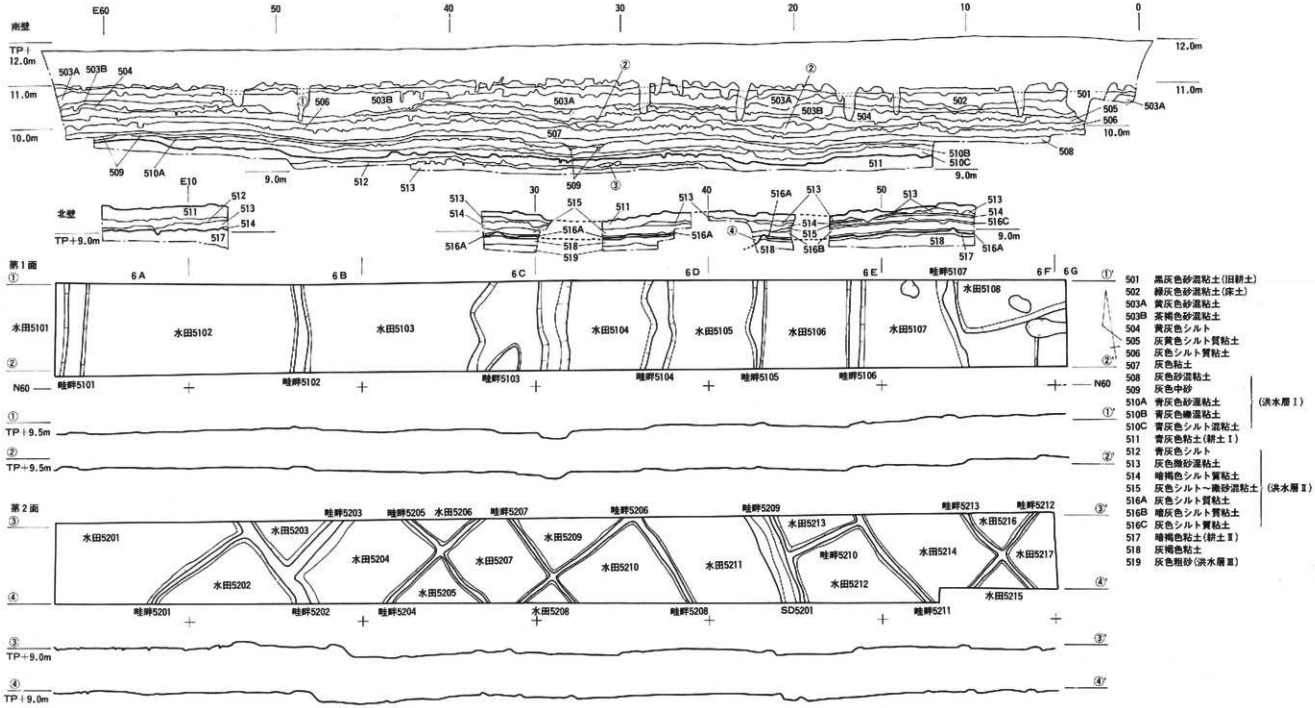
畦畔5101は畦畔1101・畦畔4101と、畦畔5102は畦畔1102と、畦畔5103は畦畔4102とほぼ同一の線上にある。畦畔の間隔（＝水田の東西幅）は、西側の畦畔5101～畦畔5103の間（水田5102水田5103）が10ｍ前後、東側の畦畔5103～畦畔5107の間（水田5104～水田5107）が５ｍ前後と大きく異なる。

水田上面は平坦であるが、各水田には高低差があり、中央部の水田5103・水田5104がT.P.+9.3ｍ以下と最も低く、そこから東西へ、畦畔を越えるごとに順に0.05～0.1ｍずつ高くなり西側の水田5101・水田5102ではT.P.+9.3ｍ前後を指し、東端の水田5108ではT.P.+9.5ｍ前後となる。南北の高低差は、調査区内および第４調査区との比較でも、北が高く南が低い。

水田上層に堆積する509層灰色中砂からは、古墳時代中期・同後期～奈良時代、平安時代末期～鎌倉時代の土器類（第13図－5001～5014）が出土している。いずれも摩耗をうけた小破片である。



第13図　第５調査区出土遺物実測図－１

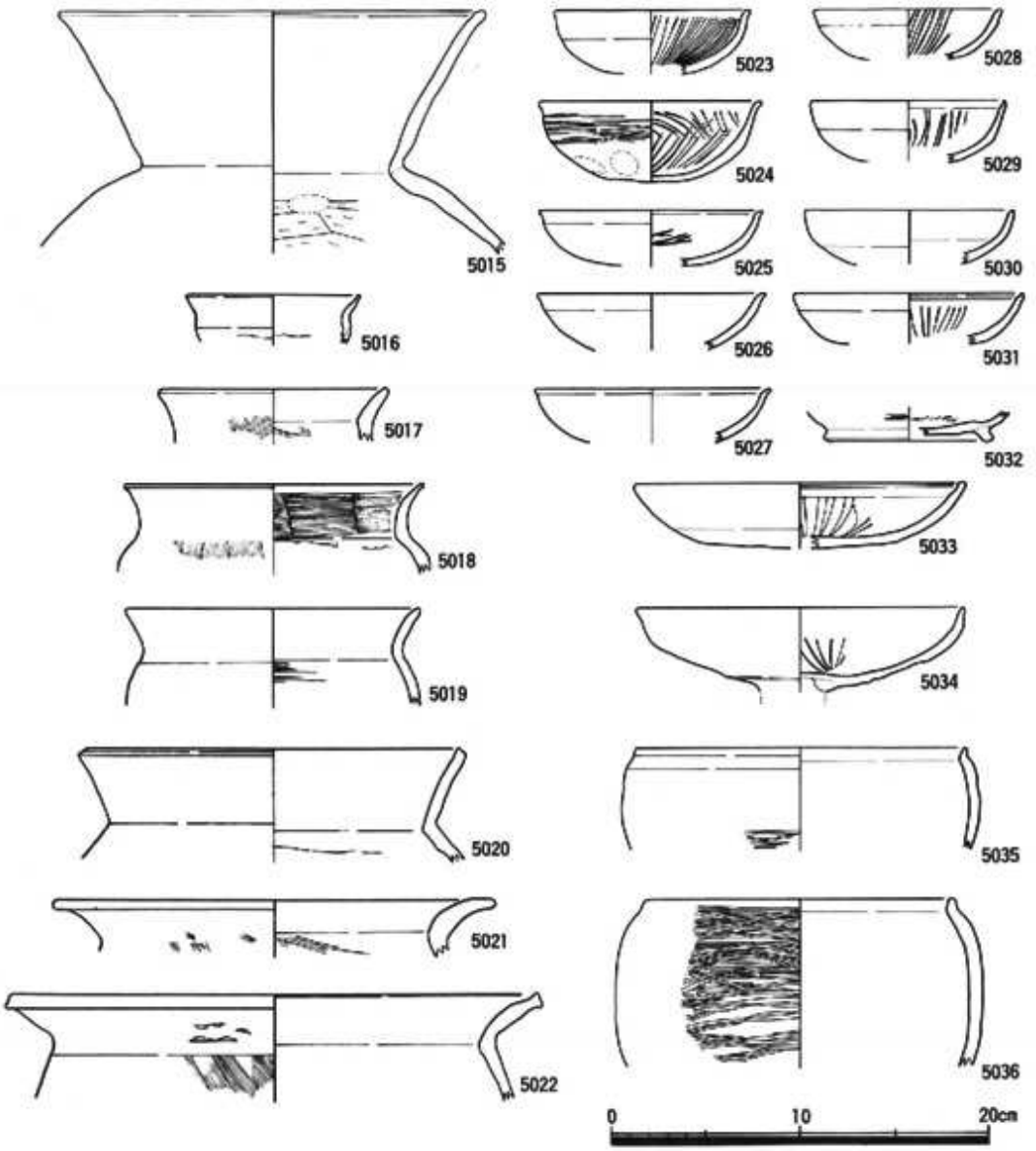


第14図　第5調査区平断面図(S＝水平1／200・垂直1／80)

3）上層調査－第２面

現地表下2.8～3.0m（T.P.+8.7～9.1m）の517層暗褐色粘土上面で、畦畔13条（畦畔5201～畦畔5213）で区画された水田17筆（水田5201～水田5217）のほか、溝１条（ＳＤ5201）を検出した。

畦畔の方向は、北東－南西である。畦畔の接続には、「Ｔ字形」・「Ｘ字形」がある。水口は認められなかった。畦畔5202・畦畔5203は、基底幅1.1～1.6m・上面幅0.5～0.8m・高さ

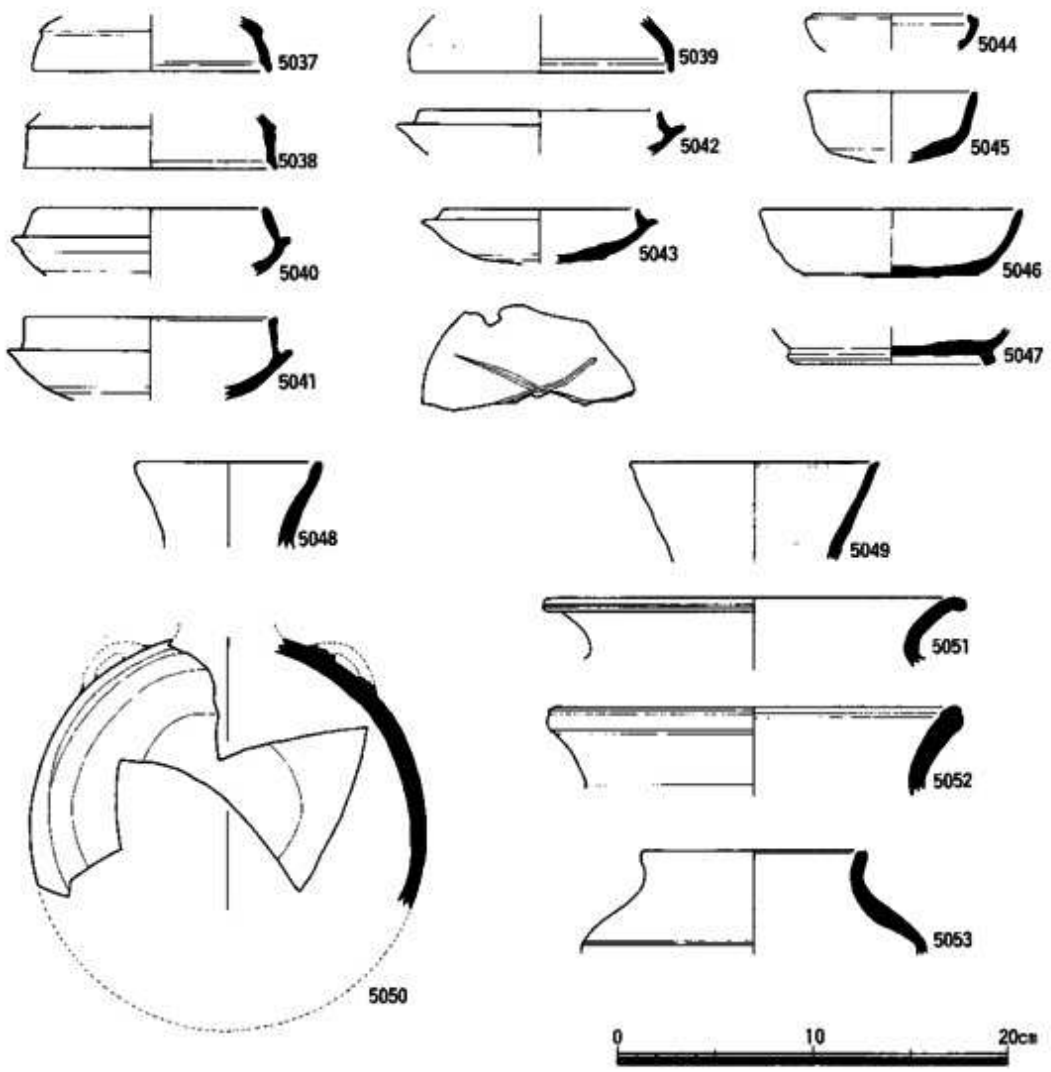


第15図　第５調査区出土遺物実測図－２

0.1～0.2m程度の大形のもので、調査Ⅳ（昭和63年度）で検出した大畦に近いものと考えられる。他の畦畔は、第4調査区のものと同規模で、基底幅0.3～0.75m・上面幅0.2～0.45m・高さ0.05～0.1m程度である。

各水田の上面は、畦畔5202・5203、溝SD5201・畦畔5209を境として、西部・中央部・東部とで0.1～0.2mの段をもって東へ下がっている。

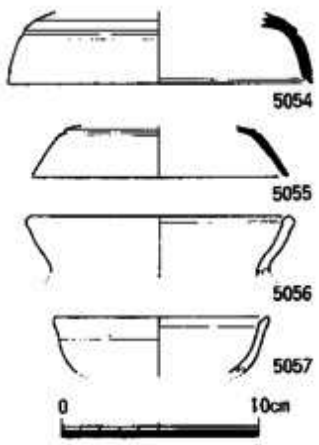
西部の水田5201～水田5203の上面レベル高はT.P.＋9.0m前後で、上層には512層青灰色シルト・513層灰色砂混粘土などが0.3m程度の厚さで堆積している。



第16図　第5調査区出土遺物実測図－3

中央部の水田5204～5211の上面レベル高はT.P.+8.8～8.9m前後で、上層には514層暗青灰色シルト質粘土・515層灰色シルト～微砂混粘土・516層灰色シルト質粘土などが0.4～0.5mの厚さで堆積している。

東部の水田5212・水田5213では、上面のレベル高は、T.P.+8.6～8.7m程度に下がり、上層には514層～516層に対応する粘土・シルト・微砂などの薄い互層からなる水量の多い軟弱な土層が厚さ1mにわたって堆積している。この層中の粘土には植物遺体が多量に混入しており、植物遺体が水田上面に貼りついている部分もあり、この間にも数枚の耕土が含まれている可能性が高い。



第17図　第5調査区SD5201
出土遺物実測図

また、第4調査区の下層トレンチや、昭和63（1988）年度の調査Ⅳではさらに下層の水田が検出されていることから、この東端の水田がもう一時期古くなる可能性もある。

水田1筆あたりの面積のわかるものはないが、水田5204が4×7m、水田5207が4×5mの長方形に復元できる。

水田上層に堆積する洪水層のうち、おもに516層灰色シルト質粘土から、古墳時代前期～飛鳥・奈良時代の遺物（第15図・第16図－5015～5053）が出土している。

出土地点は、中央部の水田5209・5210上部（6E～7E区）東部の水田5214～5217上部（6G～7G区）に集中しており、高まりである西部の水田5201・水田5202上部（6B～7B区・6C～7C区）からのものはない。

溝SD5201は、畦畔5209の西側に沿って伸びるもので、幅0.6～0.7m・深さ0.18mを測る。内部には灰色シルトが堆積しており、須恵器杯蓋（第17図5054・5055）、布留式甕（5056）、土師器杯（5057）のほか、製塩土器の小破片なども出土している。

第4節　小結

調査Ⅱでは、昨年度の調査Ⅰの調査結果を踏まえ、上下二面の水田遺構を平面的に調査することができた。調査の結果、二時期の水田遺構が、ともに広範囲にわたって構築されていることが明確になり、多大な成果が得られたといえる。

第1面の水田の規模は、東西幅5m前後のもの4筆（水田5104～水田5107）・12～13mのもの3筆（水田1102・水田5102・水田5103）・17～18mのもの3筆（水田2102・4102・4103）の三種が見られる。これは、地形や土質に規制されたためか、同規模のものが小グループを作ってまとまっているようである。また、今回の調査では、大畦の可能性のある高まり（畦畔5108

の南部)、水口（畦畔5103の北側)、それに伴った流路状の窪みなどが検出され、新たな資料を加えたといえる。

水田上層の洪水層からは、当該時期の土器類の他、奈良時代に遡る土器類もかなり出土しており、近隣にこの時期の集落の存在が指摘できる。

第２面の水田は、調査Ⅰで明らかにされていたように、上層第１面の水田とは明らかに断絶しており、畦畔の方向・規模・構築方法などが異なっている。とくに第５調査区では、西部の大型の畦（畦畔5201・畦畔5202)、東部の溝ＳＤ5201を境として、水田上面は東下がりの段を有していることから、これらの大畦・溝が水田区画の核ともいえるものであろうと考えられる。

水田上層の洪水層や溝ＳＤ5201からは、７世紀代までのものが出土しており、第２面水田の埋没時期が限定できる。

下層調査では、418層上面で、畦畔・足跡状遺構を確認したことから、ここにも埋没水田の存在することが明らかになった。この水田の時期は、418層直下の419層中に布留式甕片が含まれていることから、古墳時代前期にまで遡ることはない。

第６章　調査Ⅲ　昭和62（1987）年度の調査

第１節　概要

昭和62（1987）年度の調査Ⅲでは、第６調査区１か所のみで調査を行った。第６調査区は、第５調査区の南約40ｍ、第３調査区の北約15ｍの地点に位置している。

この調査では、調査Ⅱの結果から、上層調査で３時期の水田遺構を平面的に捉えることにしたが、調査の結果は、これまで２枚以上確認していた古墳時代中期以前の下層水田は、ここでは１枚しか検出することができなかった。ところが、それ以下の下層調査では、現地表下3.5～4.0ｍで、弥生時代中期～後期の遺構内堆積土の可能性のある土層を検出したほか、弥生時代中期にまで遡る遺存状態の良好な土器類も検出することができた。

第２節　第６調査区の調査結果

第６調査区は、調査対象地の南部西側に位置しており、地区名は３Ｂ～３Ｅ区・４Ｂ～４Ｅ区にあたる。規模は上幅で東西32ｍ・南北13ｍ（面積416㎡)、下幅で26ｍ・８ｍ（面積208㎡）を測る。調査期間は昭和62（1987）年11月24日から12月26日までである。

1）層序

地表面の標高はT.P.＋11.8m前後で、第3調査区・第5調査区よりはやや低い。盛土は0.8～1.0m程度あり、部分的に造成や整地に伴う攪乱が現地表下1.3～1.4mの深さまで見られるが、それ以下では比較的良好な土層堆積が確認できた。

ここでは、旧耕土以下、626層までの26枚の土層を確認した。これらの土層は、基本層では［第1層～第18層］に対応するものと考えられ、601層から612層までの土層堆積は、第3調査区・第5調査区の状況とよく似ている。

上層第1面の水田耕作土である612層青灰色粘土の直下には、623層緑灰色微砂、614層シルト質粘土が明瞭に分かれている部分があり、614層も水田耕作土の可能性がある。さらに下層には、洪水層Ⅱにあたる615層灰色中砂～粗砂、616層灰色微砂、617層青灰色砂混じり粘土、618層青灰色シルト、619層青灰色粘質シルト、620層灰褐色シルト質粘土が約1m程度にわたって堆積しており、その下に第2面目の水田耕作土である721層がある。617層～620層の堆積状況は、第5調査区東部の土層堆積ににており、この間にも水田耕作土の含まれている可能性は高い。

2）上層調査－第1面

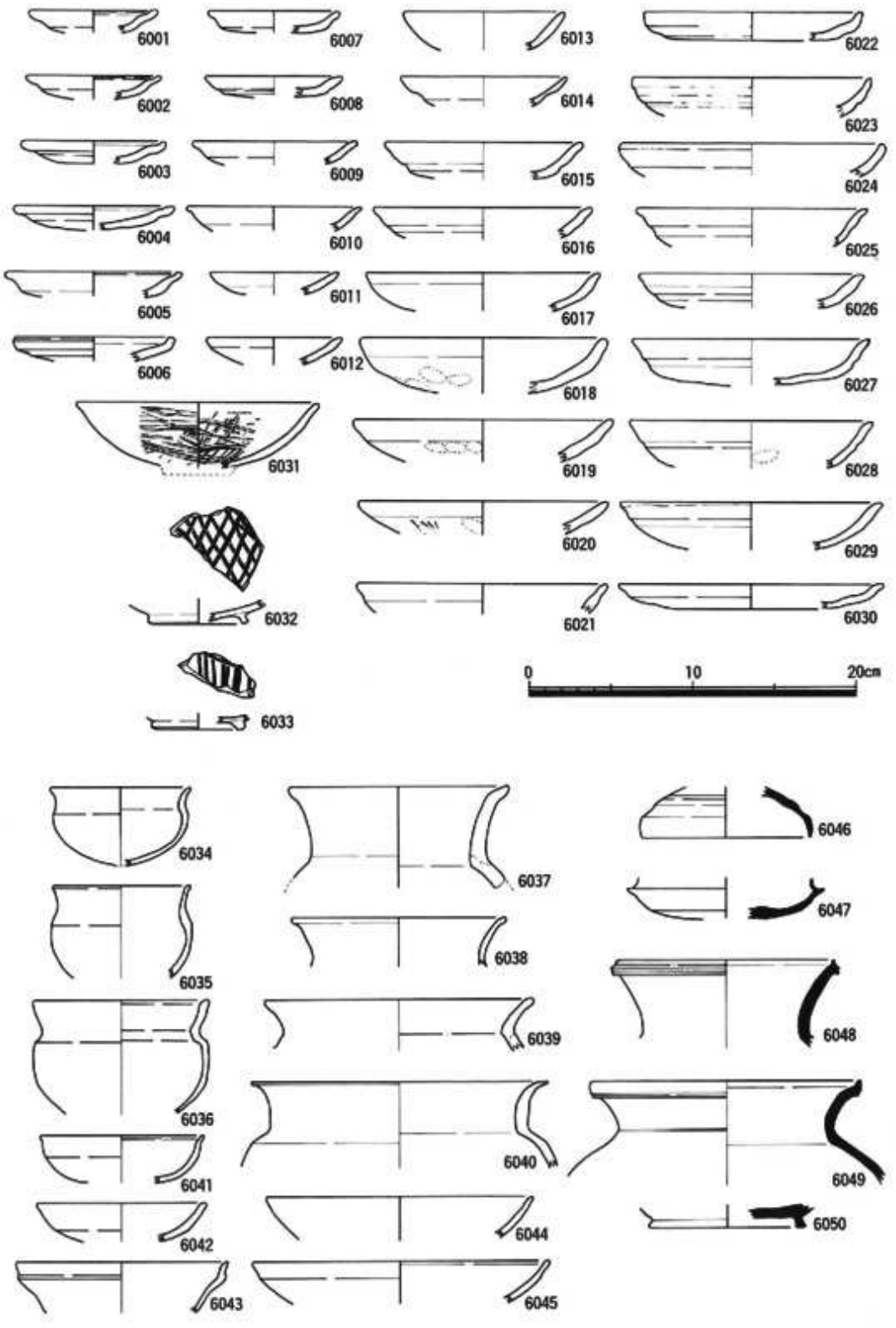
現地表下1.8～2.0m（T.P.+9.8～10.0m）に堆積する612層青灰色粘土上面で、南北に伸びる畦畔1条（畦畔6101）、東西に伸びる畦畔1条（畦畔6102）、水田2筆（水田6101・水田6102）を検出した。南北方向の畦畔6101は、畦畔5102の南の延長であろう。基底幅1.1～1.7m・上面幅0.7～1.3m・高さ0.1m前後の規模をもつ。東西方向の畦畔6102は、平面的にはごく一部を検出しただけであるが、調査区南壁で東西約13mにわたって0.1～0.15mの高まりが認められた。水田上面は東が高く、西が低い。とくに水田6101の西半分は、南西へさがる緩い斜面となっている。水田上面のレベルはT.P.+9.8～10.0mを指し、第5調査区よりも0.4～0.5m高いが、第3調査区よりも0.1～0.2m程度低い。

水田上面に堆積する洪水層610層灰色シルト・611層灰青色シルト質粘土からは、平安時代末期～鎌倉時代前期の土師器や瓦器（第18図6001～6033）などが出土している。

3）上層調査－第2面

現地表下2.8～3.0m（T.P.+9.0m前後）に堆積する621層褐灰色粘土上面で、畦畔5条（畦畔6201～畦畔6205）、水田6筆（水田6201～水田6206）を検出した。

畦畔の接続部は「T字形」で、畦畔6203と畦畔6204・6205との接続部は「食い違い」になっている。畦畔の規模は、基底幅0.4～0.75m・上面幅0.1～0.3m・高さ0.06～0.18mを測る。



第18図　第６調査区出土遺物実測図－１

水田の規模は、水田6203・6204にみられるように、これまでのものと同様、短辺４ｍ前後である。各水田上面はほぼ平坦で極端な高低差はないが、北東が高く（T.P.+9.2ｍ以下）、南西が低い（T.P.+8.9ｍ）。とくに水田6201では、第１面の水田6101と同様、南西部が0.1ｍ程度急に落ち込んでいる。水田6202～6204の東端では、各畦畔の南西側で、畦畔に平行する溝状の窪みが走っている。

この水田直上の上層からの出土遺物はなかったが、洪水層Ⅱに対応する615層・616層から、古墳時代中期～奈良時代に至る土器類（第18図6034～6050）が出土している。

４）下層調査

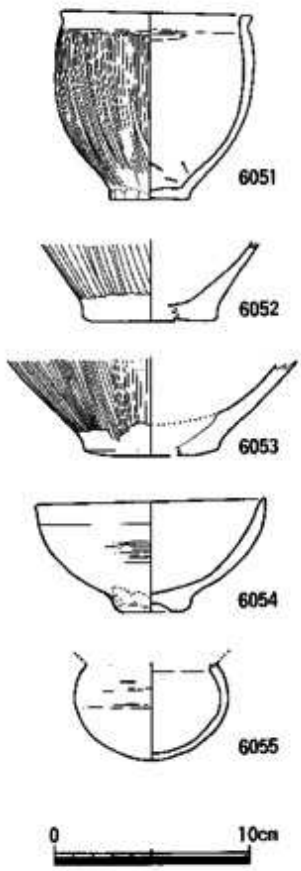
Ｉトレンチ　地区　３Ｃ区
　　規模　東西８ｍ・南北１ｍ
Ｊトレンチ　地区　２Ｄ～３Ｄ区
　　規模　６ｍ・２ｍ
Ｋトレンチ　地区　２Ｄ～３Ｄ区
　　規模　2.5ｍ・２ｍ

第２面の調査終了後、南の側溝の幅を広げてＩトレンチ、畦畔接続部の断ち割りを兼ねてＪトレンチ・Ｋトレンチを設定し、さらに１ｍ程度を掘り下げた。その結果Ｉトレンチ南壁際（３Ｃ区中央部）で遺構内堆積土の可能性のある土層を検出した。

遺構ベースとなる土層は、第２面目の水田面より約１ｍ下層の現地表下3.7ｍ（T.P.+8.0～8.2ｍ）に堆積する626層灰黒色粗砂である。この層上面は凹凸が激しく、東へ下がっている。

平面的には、直径0.3ｍ程度の柱穴状の窪みの３分の１程度を検出しただけではなはだ不明瞭であるが、この窪み内部、および626層上面には0.1～0.2ｍの厚さで625層黒灰色礫混粘土が堆積しており、窪み内部から、ほぼ完存する弥生時代中期後半の小型甕（第19図6051）が出土している。

625層の直上に堆積する624層黒灰色粘土からは、弥生時代中期の壺および甕の底部（6052・6053）、同後期の



第19図　第６調査区
出土遺物実測図－２

小型鉢（6054）が出土しており、さらに上層の623層緑灰色砂混粘土からは古墳時代前期の小型丸底壺（6055）が出土している。

624層・625層は、有機物を多量に含むきわめて粘性の高い土層で、他の調査区ではみられなかったこともあり、遺構内堆積土の可能性の高い土層である。この2層は、一つの遺構内堆積土の可能性もあり、626層をベースとした弥生時代中期の遺構埋没後、625層上面をベースとしてあらたに弥生時代後期の遺構が構築された可能性もある。いずれにせよ、当調査対象地内に、弥生時代にまで遡り得る水田遺構以外の遺構の存在が明らかになった。

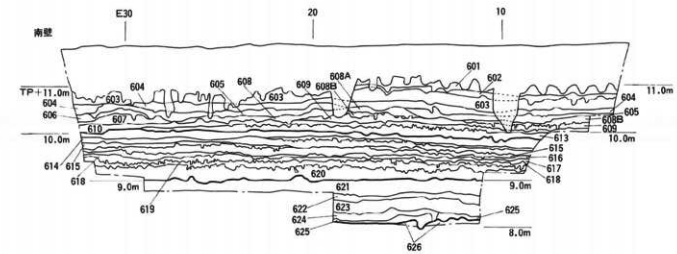
第3節　小結

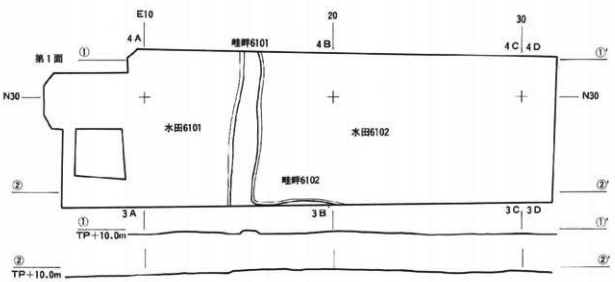
今回の調査でも、調査Ⅱの成果を参考に平面的な調査を終了した後、さらに下層部分の確認調査を行った。

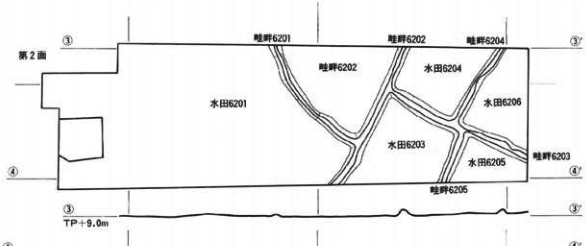
調査の結果、調査Ⅱで確認されていた古墳時代の2時期の水田遺構については、1時期の水田しか検出できなかった。しかし、上層第1面の水田と第3面の間は約1mあり、その間に水田耕土の可能性のある土層が数枚含まれているものと考えられる。

また、上層第1面の水田については、水田耕作土の上下に堆積する洪水層の出土遺物から、その構築時期と廃絶時期がある程度把握できたものと考えられる。

さらに、下層調査では、現地表下3.7m（T.P.+8.0～8.2m）で弥生時代中期に遡る遺構の存在が示唆されたこと、少量ではあるが、遺存状態の良い弥生時代後期・古墳時代前期の遺物も認められたことは、今回の調査の多大な成果であったといえる。このことは、前述したように、この地のさらに下層部分に弥生時代中期にまで至る、水田遺構以外の遺構の存在を示したものといえる。







601 黒灰色砂混粘土(旧耕土)
602 緑灰色砂混粘土(床土)
603 黄灰色砂混粘土
604 黄褐色粘土
605 黄灰色シルト
606 黄褐色シルト質粘土
607 灰色粘土
608A 灰色微砂
608B 灰色粗砂
609 褐灰色粘土 (洪水層Ⅰ)
610 灰色シルト
611 灰青色シルト質粘土
612 青灰色粘土(耕土1)
613 緑灰色微砂(洪水層Ⅱ上層)
614 緑灰色シルト質粘土(耕土?)
615 灰色中砂～粗砂
616 灰色細砂～細砂
617 青灰色細混シルト
618 青灰色シルト
619 青灰色シルト (洪水層Ⅱ～Ⅲ)
(植物遺体含む)
620 灰褐色シルト質粘土
621 褐灰色粘土(耕土Ⅱ～Ⅲ?)
622 青灰色粘質シルト
623 緑灰色細混粘土(遺構内埋土?)
(古墳時代前期の遺物含む)
624 黒灰色粘土(遺構内埋土?)
(弥生時代後期の遺物含む)
625 黒灰色細混粘土
(弥生時代中期の遺物含む)
626 灰黒色粗砂(洪水層Ⅳ?)

第20図 第6調査区平断面図(S=水平1/200・垂直1/80)

第７章　調査Ⅳ　昭和63（1988年度）の調査

第１節　概要

昭和63(1988)年度の調査は、第７調査区１か所のみで行った。第７調査区は、第１調査区・第２調査区の北約40ｍ、調査対象地の北端に位置する調査区である。

ここでは、調査Ⅲの結果から、弥生時代の遺構面となる可能性のある［基本層第18層］粗砂までを調査対象面とすることにした。その結果、これまでに検出していた第１面～第３面までの水田耕土の下層に、粗砂をベースとする古墳時代前期の集落遺構（第４面）を検出し、さらにその下層に弥生時代後期の水田遺構（第５面）のあることが判明した。ところが、調査Ⅲで検出した弥生時代中期の遺構面までには至っていないため、さらに下層部分の確認をすべきではあったが、不可能な状態となったため、第５面までで調査を終了した。

なお、ほぼ同時期に行われていた大阪府教育委員会の調査では、第５面以下にも弥生時代中期に比定される水田遺構が検出されている。

第２節　第７調査区の調査結果

前述のように、第７調査区は調査対象地の北端に位置しており、地区名は18Ｂ～18Ｊ区にあたる。規模は上幅で東西83ｍ・南北12ｍ、下幅で東西54ｍ・南北２ｍである。現地調査の期間は昭和63（1988）年10月３日から平成元（1989）年１月31日までである。

１）層序

この調査区では、過去の敷地境界線である溝が調査区中央を東西に伸びており、そこを境にして南が高く、南北の高低差は0.5～0.8ｍ程度ある。そのため、地表面のレベルは、南側は第１調査区・第２調査区同様T.P.+12.5～12.8ｍと高く、北側はT.P.+12ｍ前後でその他の調査区と同様であった。なお、地表面からの深さは、断面図を掲載した北側からのものである。

盛土は、北側で１ｍ、南側で２ｍ前後あり、旧耕土・床土などにあたる土層は部分的に残っていた程度である。また、［洪水層Ⅰ］に対応する701層～704層は、第４調査区～第６調査区でみられたように複雑ではなく、比較的単純な堆積状況を示していた。

第１面の水田耕作土（705層青灰色粘土）の直下に堆積する層は、この調査区では706層緑灰色シルトと707層緑灰色粘土の２層に明確にわかれており、707層上面では水田耕土に特有の波状痕跡や畦畔状の高まりなどが認められたが、畦畔などの水田施設を平面的に検出するには至らなかった。

以下には、[洪水層Ⅱ]にあたる708層灰色粗砂～粘質シルト、第2面目の水田耕土709層灰褐色粘土、床や大畦畔を構成する710層黄茶色細砂～シルト混じり粘土があり、再び[洪水層Ⅲ]にあたる711層灰褐色粗砂～粘質シルト・712層暗褐色シルト～粘土と植物遺体の互層、第3面目の水田耕作土713層紫褐色粘土に至る。以下には粘土や礫混じりの粘土層が数枚（714層～720層）あり、第3面の床や大畦畔を構成している。ついで、[洪水層Ⅳ]721層茶褐色粗砂に至るが、この層上面は古墳時代前期の遺構面となっている。この層直下に堆積する層が第5面の水田耕作土（723層淡緑灰色粘土）である。

ここでは、701層から723層までの23枚の土層を確認した。これらの土層は、基本層序の第6層～第20層にあたる。

2）第1面

現地表下1.8～2.0m（T.P.+9.9～10.4m）に存在する705層青灰色粘土上面で、平安時代末期～鎌倉時代の水田遺構を検出した。

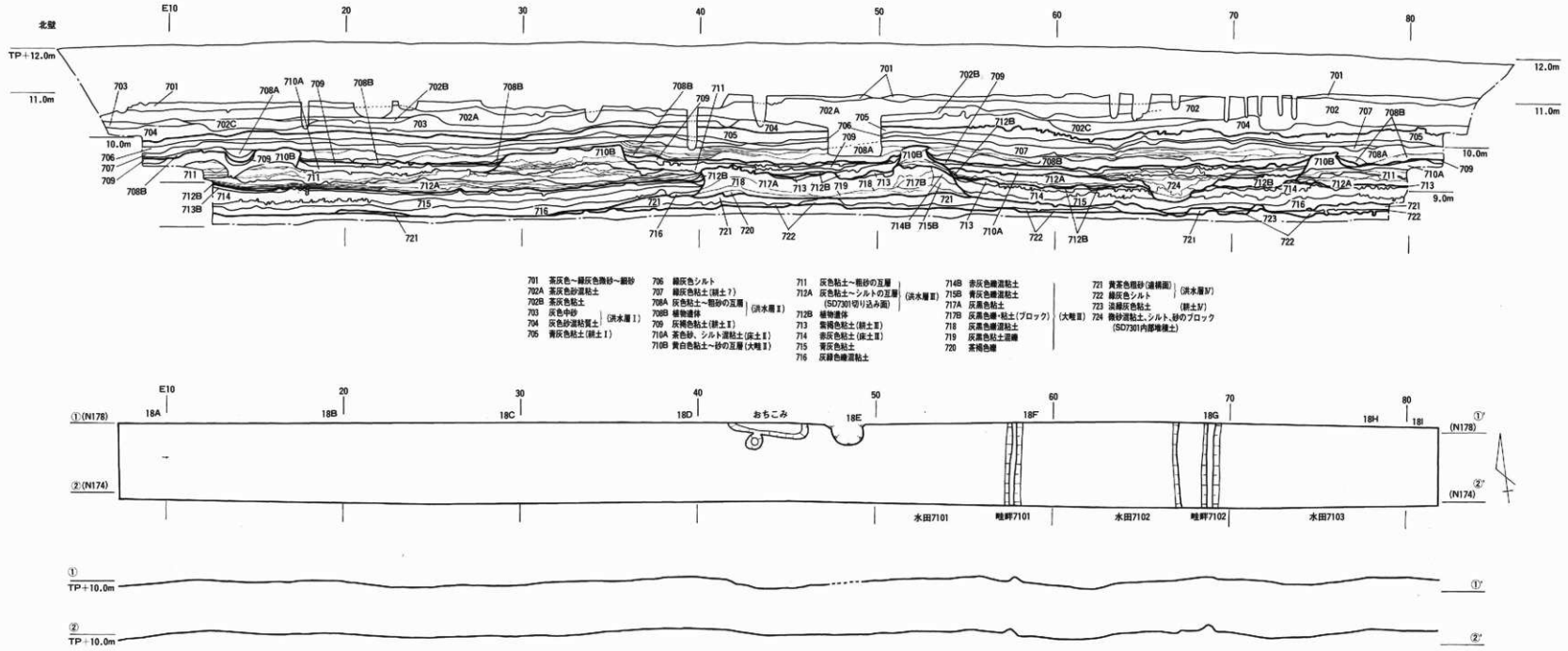
水田遺構が認められたのは、おもに調査区の中央以東の18F～18J区で、南北方向の畦畔2条（畦畔7101～畦畔7102）で区画された水田3筆（水田7101～水田7103）を検出した。

畦畔は、基底幅0.8～0.9m・上面幅0.3～0.4m・高さ0.04～0.15mの規模で、間隔は11～12m程度あり、水田7102の東西幅はおおむね10m前後である。畦畔7102は第2調査区の畦畔2101の北の延長と考えられる。

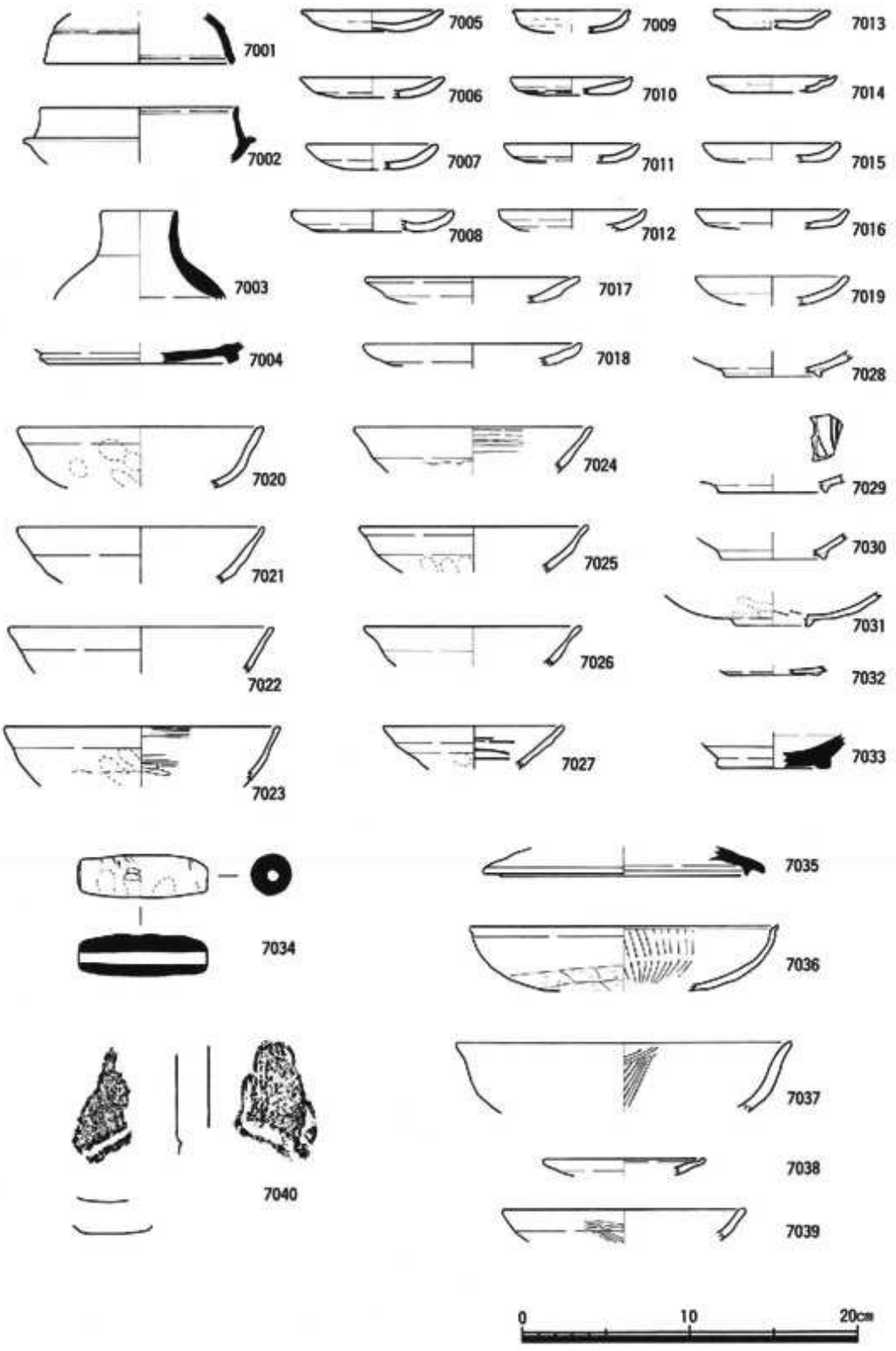
そのほか、調査区東端（J区）北壁と、畦畔7101の北側にあたる18E～18F区の北壁でも、畦畔状の高まりを確認している。前者は、畦畔7102から12m程度東に位置していることや、東端の水田上面がわずかに高まっていることから、南北方向の畦畔と考えられるが、平面では明確に検出できていないことから、この付近でとぎれるものかと考えられる。一方後者は、東西10m程度にわたって伸びており、ここに東西方向の畦畔が構築されていたことが考えられる。

水田7101より西側には畦畔がないため、水田7101の東西幅は不明であるが、畦畔7101から西約10m前後の18F区中央付近を境として、水田上面の波状痕跡や足跡状遺構が少なくなることから、この付近が西端と考えられる。各水田の上面は、東から西へ向かって緩やかに下がっており、全体の比高差は0.5m程度あり、水田7102では中央部が深く窪み、南が低い。

水田上面を覆う[洪水層Ⅰ]の下部層である704層灰色シルト～微砂からは、古墳時代中期以降鎌倉時代後半までの土器類（第22図7001～7034）が、水田耕土直下の706層からは、古墳時代後期～平安時代末期の土器類（第22図7035～7040）が出土していることから、第1面の水田は平安時代末期以降に構築されたことが明らかになった。



第21図　第７調査区壁面図・第１面平断面図(水平１／200・垂直１／80)



第22図　第７調査区出土遺物実測図－１

3）第２面

現地表下2.0～2.5m（T.P.+9.3～9.8m）の709層灰褐色粘土上面で、大畦畔６条（大畦7201～大畦7206）、畦畔８条（畦畔7201～7208）で区画された水田12筆（水田7201～7212）からなる水田遺構を検出した。畦畔の方向はおおむね北東－南西、北西－南東である。

大畦畔は、水田耕作度である709層灰褐色粘土、床土である710層黄茶色砂混じり粘土、［洪水層Ⅲ］にあたる711層灰褐色微砂～粗砂などを数回にわたって交互に盛り上げて構築されている。規模はさまざまで、最小の大畦7202が基底幅1.4～1.75m・上面幅0.8～1.1m・高さ0.1～0.22m、最大の大畦7203は基底幅5.4m以上・上面幅4.5m以上・高さ0.2～0.3mを測る。

一方、小畦畔は、床土である710層を削り出して作られており、大畦畔ほど固定されていなかったためか、不明瞭で、高さも低い。規模は、基底幅0.35～0.7m・上面幅0.2～0.45m・高さ0.1m未満と低い。

畦畔の接続には、畦畔7201と畦畔7202、大畦7203と畦畔7203のように「Ｔ字形」が認められるが、大畦7204と畦畔7204・畦畔7205の接続部のように「Ｙ字形」のものもある。

畦畔7201の北西端、畦畔7203の北西端、畦畔7206の北東端では、畦畔がとぎれているため、この３か所が水口と考えられる。

各水田の上面はほぼ平坦であるが、大畦畔を挟んで段差があり、大まかにみれば、西が高く東が低く、南北では南が低いようである。上面が最も高いのは西端の水田7201で、T.P.+9.4m前後を指し、最も低いのは東側の水田7210の南部で、T.P.+9.2～9.3m前後である。

この水田耕土上面には、708B層の植物遺体を多量に含む灰色シルトが薄く堆積しており、とくに大畦畔の斜面には、植物遺体のみが厚く堆積していた。その上層に堆積する708A層灰色微砂～粗砂からは、須恵器小型壺（第25図7041）などが出土している。

ここで検出した大畦畔は、きわめて特異なもので、中でも大畦7203は幅５m前後もある大規模なものである。

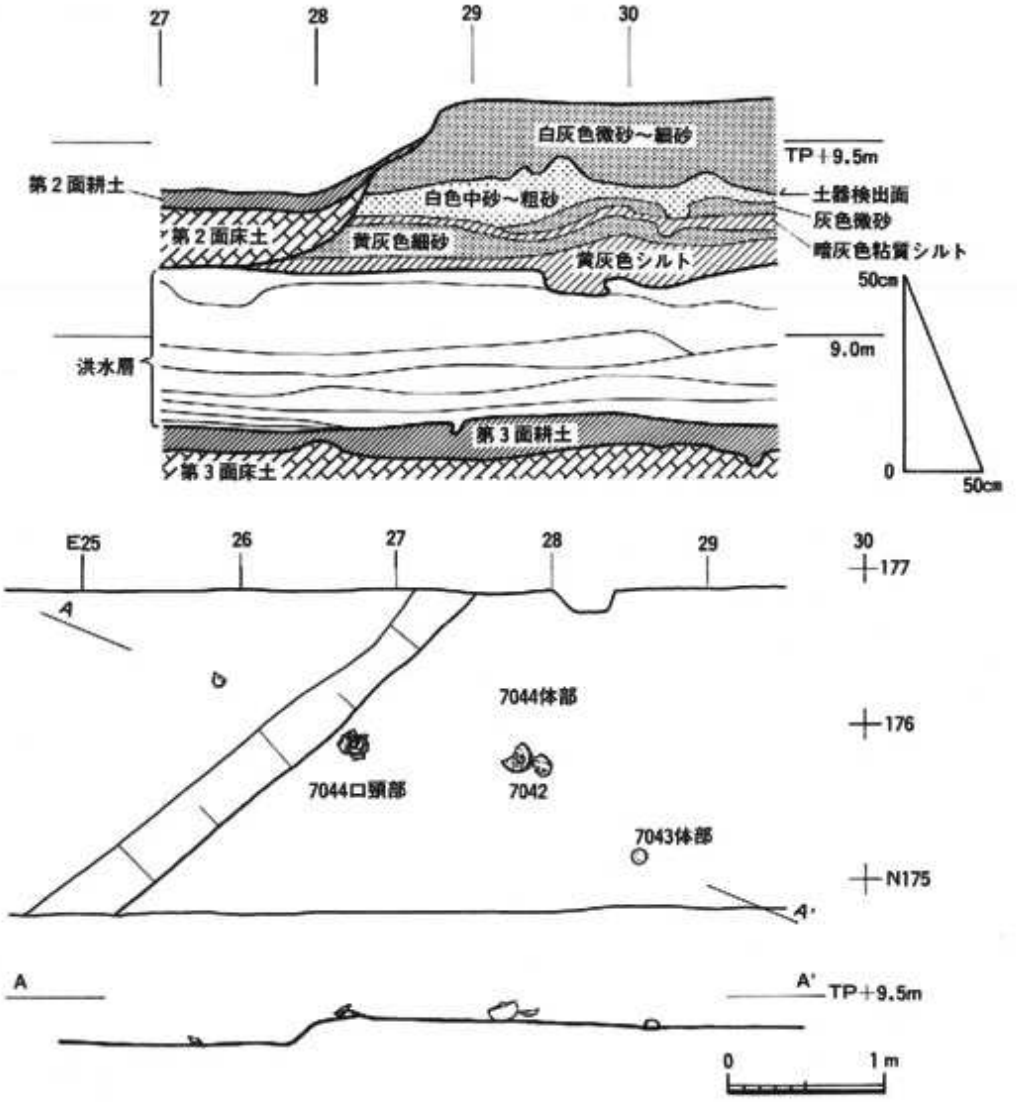
この大畦畔を構成する710G層粘質シルト上面で、破砕され、大畦畔に埋め込まれたような状態で、須恵器甕（第25図7042・7043）、同壺（7044）が出土している。出土位置は大畦畔の中央から西側にかたよっており、東西約３mの範囲にわたって散在していた（第24図）。

壺（7044）は、口頸部が大畦7203西側斜面近く、畦畔7203との接続部付近に倒立しており、そこから約１m東側には体部が正立していた。また、体部のうち１片は、大畦畔に接続する畦畔7203の床土上面から出土している。甕口縁部（7042）は先述の壺（7044）の体部内に納まっており、甕体部（7043）のうち体底部は口縁部から約１m南西の地点に倒立し、頸部はそこから約２m北の側溝内から出土している。

壺（7044）は完形ちかくに復元できたが、口縁端部は内から外へ打ちかかれているようであ

る。また、口頸部の出土位置が畦畔7203との接続部付近、体部の一部が畦畔7203の床土上にあたっていることから、各部位ごとに人為的に打ち割り、その位置にセットした後、大畦畔・小畦畔を構築したものと考えられ、計画性がうかがえる。

聽口縁部（7042）と頸部以下の体底部（7043）は同一個体の可能性が高いものの、直接接合できなかったため、ここでは別番号を与えた。仮に同一個体であれば、壺（7044）と同様に、口縁部・頸部・体底部と3分割し、畦畔との接続部付近に埋置したものと考えられる。



第23図　大畦7203遺物出土状況平断面図

壺（7044）は、橙色～鮮紅色を呈するいわゆる「赤焼き」の須恵器で、球形の体部に外反して伸びる口頸部がつく。外面全体は、幅狭で細かい平行タタキの後、体部中位・肩部を回転ナデで仕上げている。頸部上位には2条の凹線がめぐる。体部内面の調整は、同心円タタキの後、上半をナデ仕上げしている。

甕口縁部（7042）は薄手で、外に稜い良を有して外反する。端部は器肉を増して上方に丸みのある面をもち、側面の上下端の凹線間にはヘラ先による波状文が施されている。

甕体底部（7043）は、やや扁平な体部に外傾する頸部がつくもので、体部の器肉は1㎝前後あり、厚い。頸の基部はやや太めで、胴部の最大径は2分の1よりやや上位にある。体部下半をヘラケズリした後、全体に丁寧なナデ仕上げをしている。頸部には2本一組の凹線文間に櫛描列点文を、体部中位には2本の凹線文間に櫛描列点文が施されている。孔の直径は約1.6㎝で、体部中位よりやや上方にうがたれている。

これらの須恵器の年代は、古墳時代後期（6世紀末）に位置づけられる。また、第2面の耕土直上に堆積する洪水層Ⅱ708層灰色微砂～粗砂からは、7世紀以降の須恵器短頸壺（7041）が出土しており、これらの資料から、水田の構築時期・廃絶時期が限定できる。

4）第3面

現地表下2.5～3.7m（T.P.+8.8～9.3m）の713層紫褐色粘土上面で、第3面の水田遺構を検出した。

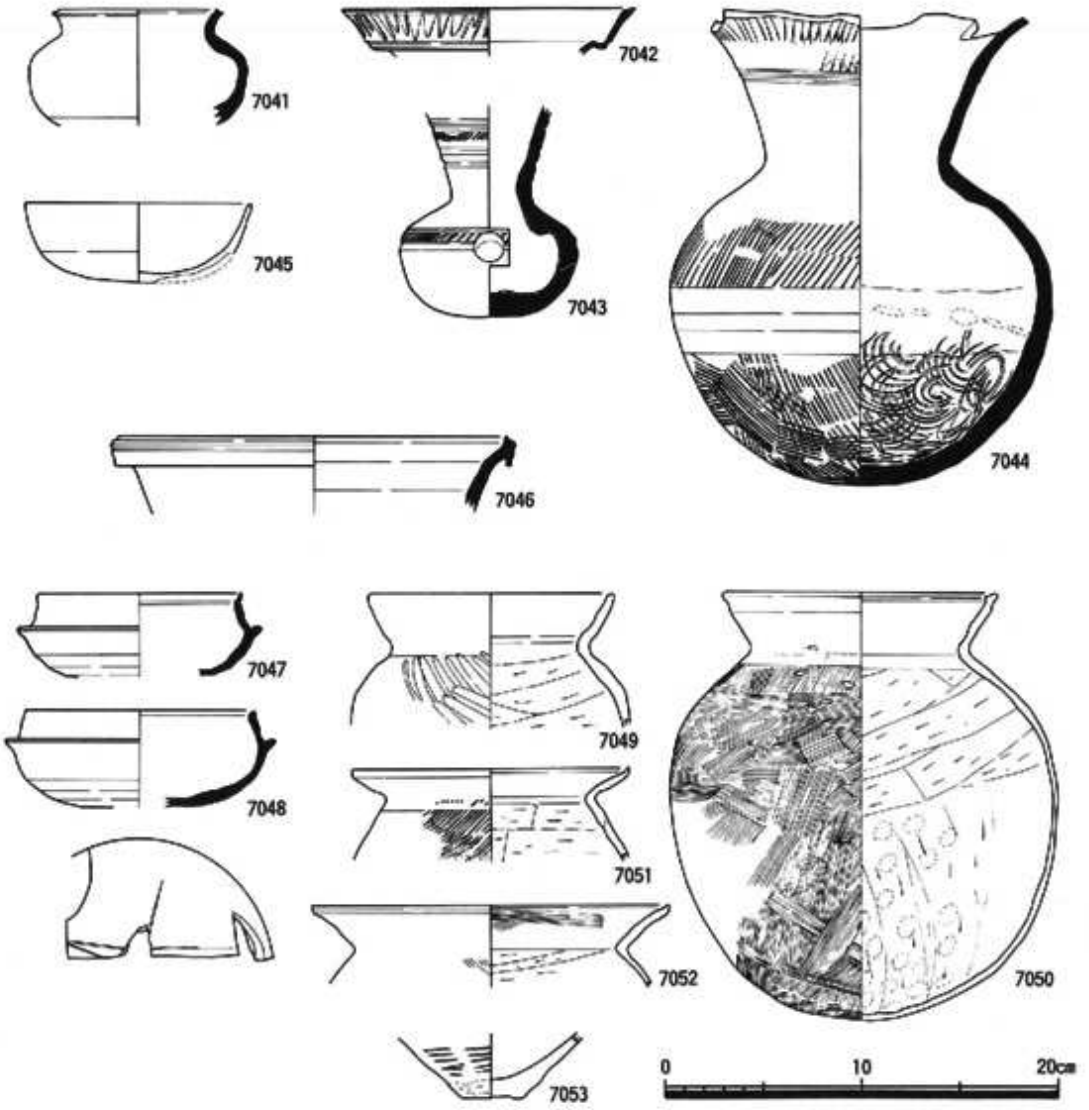
第2面の床土である710層を剝いだ段階で、洪水層Ⅱである708層と同様の堆積状況を示す土層711層・712層があらわれた。この層は、基本層では洪水層Ⅲにあたる。711層灰褐色微砂～粗砂は洪水層Ⅱの708層上部灰色微砂～粗砂と、712層暗褐色シルトと植物遺体の互層は同層下部の灰色シルトときわめて似かよっており、耕土直上に植物遺体の貼りついた状況までが第2面水田と同様であった。また、711層・712層両層間には、灰色粘土～シルトの薄い互層も数枚堆積しており、このなかに複数の水田耕土が存在している可能性が考えられる。

この面でも、第2面同様、大畦畔を主軸として小畦畔を配した水田遺構のほか、溝が検出された。大畦畔は3条（大畦7301～大畦7303）、畦畔は9条（畦畔7301－7309）あり、水田は12筆（水田7301～水田7312）が確認された。溝は1条（SD7301）である。畦畔の方向は、第2面同様、おおむね北東－南西、北西－南東であるが、やや北に振る。

大畦畔は、耕土である713層紫褐色粘土、床土である714～716層灰緑色系の粘土～礫混じり粘土、下層の遺物包含層である717層～720層灰黒色粘土・黒灰色礫混じり粘土・黒褐色粘土混じり礫・茶褐色礫などを盛り上げ、たたきしめて構築されている。一方、小畦畔は床土を削り出してつくられており、これら大・小の畦畔の構築法も、第2面と同様である。

大畦畔は、調査区中央から東側で検出したもので、大畦7301は第２面の大畦7204と、大畦7302は同大畦7205と、大畦7303は同大畦7206の下層にあり、上層第２面の大畦7204～大畦7206が下層の大畦を意識し、踏襲して構築されていることは明らかである。大畦7301は北で３本に、大畦7303は南で２本に分岐しているようで、ともに高まりの間にも水田耕土が堆積している。

最小の大畦7303は基底幅0.8m前後・上面幅0.4m前後・高さ0.1～0.14m、最大の大畦7301は基底幅3.0m以上・上面幅2.5m以上・高さ0.6～0.8mで、第２面のものよりもやや小さい。



第24図　第７調査区出土遺物実測図－２

小畦畔の規模は、基底幅0.3～0.6m・上面幅0.1～0.45m・高さ0.04～0.1m程度で、やはり小規模であるが、畦畔7308は基底幅0.8～0.9m・上面幅0.3～0.4m・高さ0.15～0.2mあり、中では比較的大きいものである。水口の可能性のある畦畔の開口部は、畦畔7301と畦畔7302の間・畦畔7307と大畦7301の間・畦畔7309の中央部の3か所で認められたが、畦畔の接続部は検出していない。

水田上面は、大畦畔を境にして高低差があり、大畦7301より西側ではT.P.＋8.7～8.9mで西下がりとなっており、中央部の大畦7301と大畦7302に区切られた水田7308ではT.P.＋9.0前後を示す。大畦7302と大畦7303の間にある水田7309～水田7311ではT.P.＋8.9～9.0mとやや低くなり、大畦7303より東の水田7313ではT.P.＋9.0～9.1mと再び高くなる。

溝SD7301は、この面でとらえたが、本来の切り込み面は第2面水田の床である712層上面である。溝内部には、砂と粘土のブロック層が堆積していることから、人為的に埋め立てられた後に第2面の水田が構築されたものと考えられる。検出部の幅3m（復元2.2m前後）・深さ0.35m（復元0.5m）を測る。

大畦7301・大畦7302を構成する土層は砂と粘土のブロック状で、内部には、弥生時代後期～古墳時代中期までの時期幅の広い遺物（第25図7046～7053）が混在している。これは、大畦畔を構築する際、下層に堆積する前時代の2枚の遺物包含層719層・720層を削り取って造成したためと考えられる。

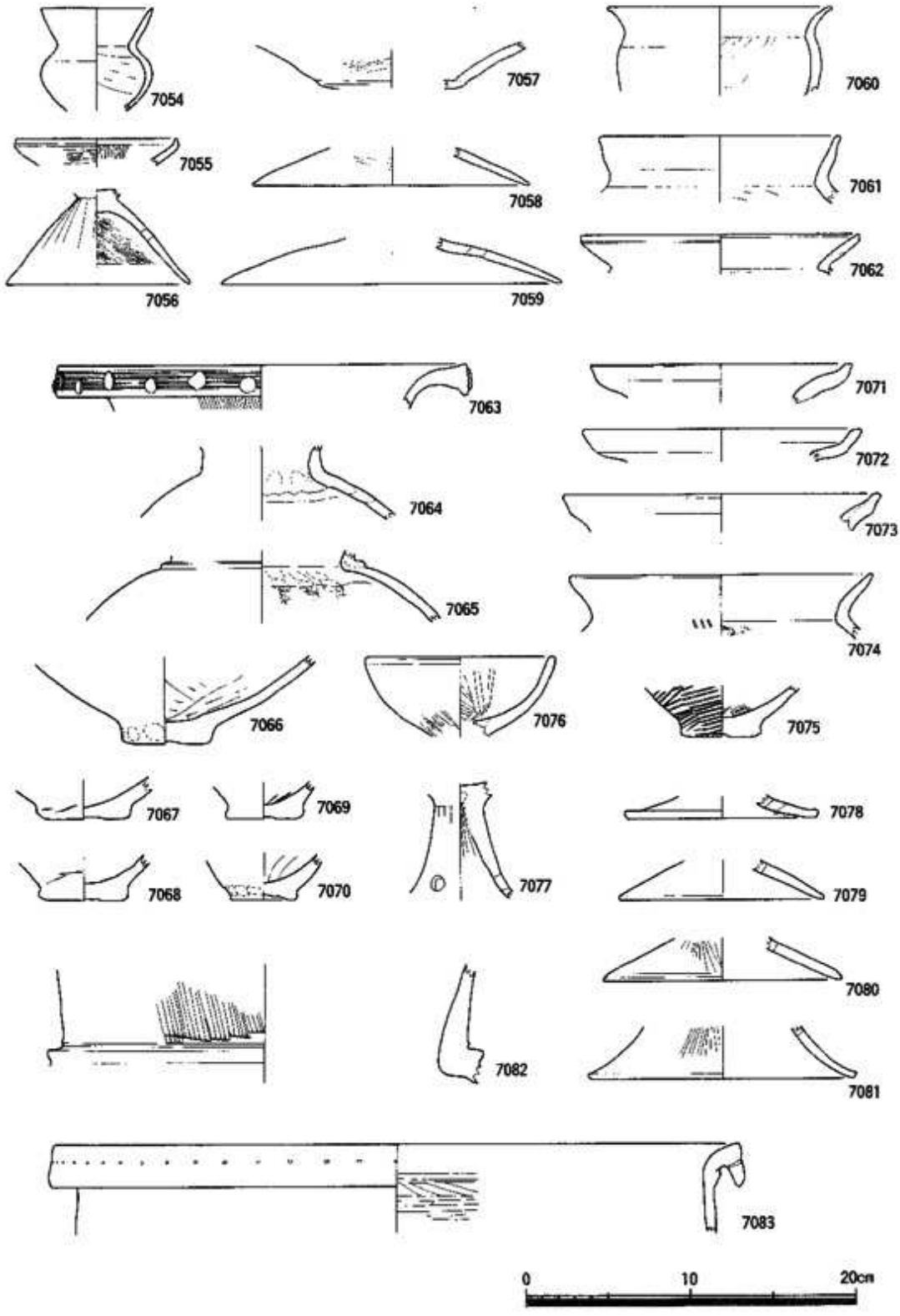
須恵器壺（7046）、同杯（7047・7048）、庄内傾向の甕底部（7053）の3点は大畦7301の下部から出土し、土師器甕（7049）、布留式甕（7050）、庄内甕（7051・7052）の4点は大畦畔7302の下部から出土している。そのほか、大畦7302の南側溝（18G区）から、大型の須恵器壺または甕の体部片が数点まとまって出土している。また、床土にあたる710層上面からは、土師器杯（第25図7045）が出土している。

これらの中でもっとも新しい遺物である須恵器（7046～7048）の年代から、この水田遺構の構築時期は古墳時代中期の5世紀中頃以降に比定できる。

大畦畔7301・7301下部層からは、比較的多量の遺物が出土しており、その中には明らかに前時代の混入遺物もあるが、この付近が両大畦畔の接続点・分岐点近くであることや、遺存状態のよい物もあることから、「埋置された土器」が含まれている可能性はある。

5）第4面

現地表下3.4～4.0m（T.P.＋8.2～8.8m）の721層茶褐色粗砂上面では、小穴7個（SP7401～SP7407）、溝1条（SD7401）の水田遺構以外の生活遺構を検出した。遺構面を構成する721層茶褐色粗砂は、調査Ⅲ第6調査区の626層灰黒色粗砂に対応する土層と考えられ、遺構面



第25図　第７調査区出土遺物実測図－３

であると同時に下層第5面の水田を覆う洪水層である。

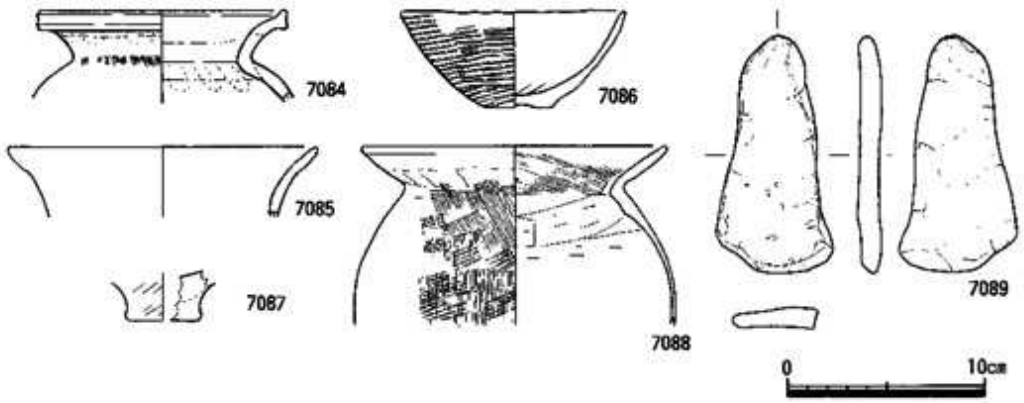
第6調査区では、土層上面のレベルは、T.P.+8.0～8.2mと東へ下がっていたが、ここでは、上層の第2面と同様、中央部と東端が高く（T.P.+8.7～8.8m）、18E区東半から西へ向かって緩い斜面となって0.3m程度落ち込んでいる。西側では層厚を減じて、堆積していない部分もある。また、下層第5面の畦畔を反映してか、土層上面には、凹凸が認められる。

小穴は、おもに高まりである中央部に点在しており、SP7401が18E区東側で、SP7402～SP7405が18F区中央でまとまって、SP7406・SP7407が18C区東端～18H区西端にかけて位置している。平面の形状は、円形～楕円形で、直径は0.15～0.83m・深さ0.05～0.1m程度で、内部には茶褐色粘土が堆積している。遺物の出土はなく、柱の痕跡等も認められなかったがSP7403のみ、柱の抜き取り痕のような突出部がある。

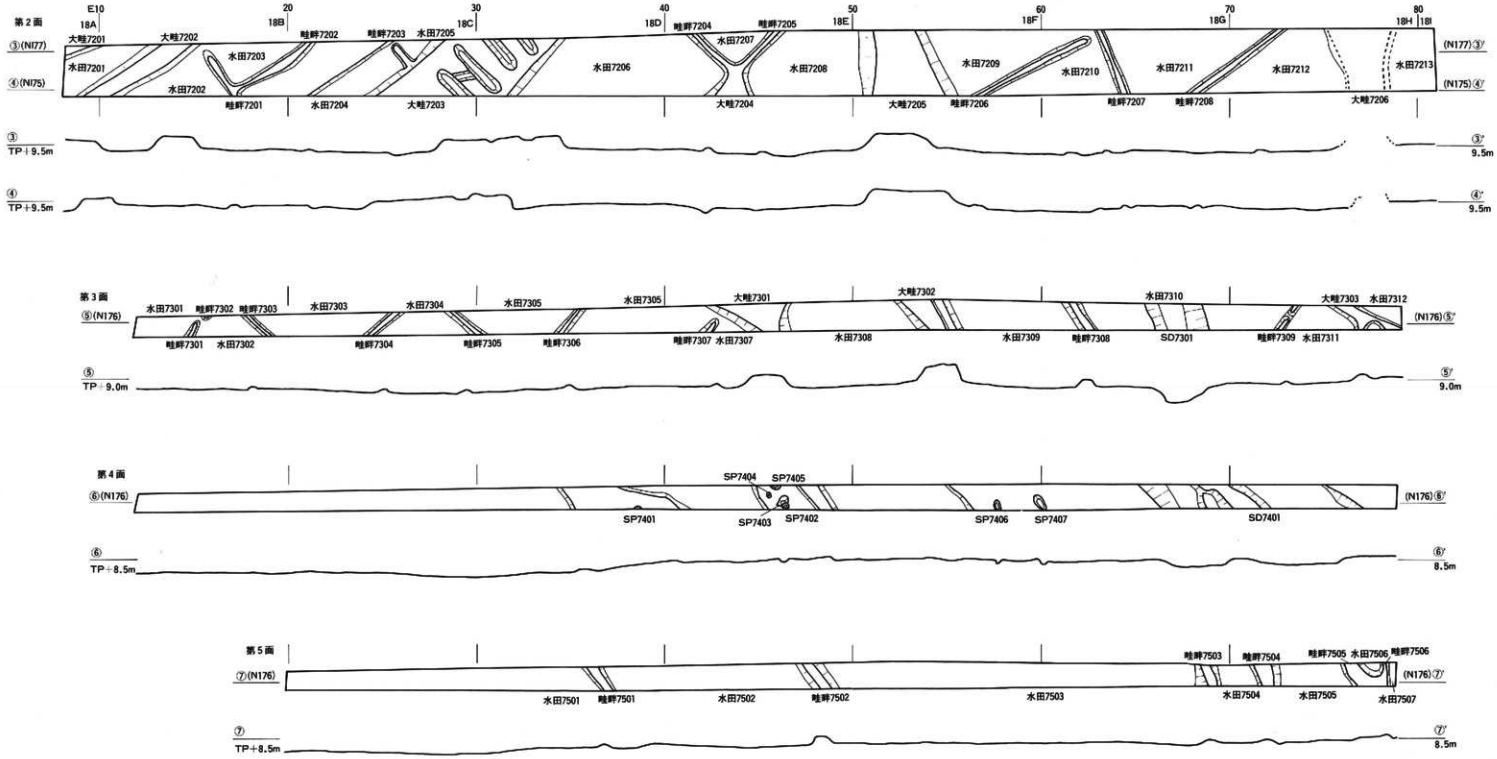
溝SD7401は、東端の18H～18I区にかけて検出したもので、北西－南東に伸びる。幅7.5m・深さ0.18～0.2mを測る。底部は下層第5面の畦畔の影響を受けたためか、中央部に高まりがある。内部堆積土は灰色粘土で、出土遺物はなかった。

この層上層に堆積する719層黒褐色粘土混じり礫には、弥生時代中期～古墳時代前期の土器類（第26図7054～7083）が含まれているが、先述したように、この土器類は上層第3面の大畦畔の構築の際に移動している可能性もあるため、この層中の遺物をもって、この遺構面の時代は決定できない。

一方、遺構面を構成する721層からは、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭（庄内期古相）の特徴をもつ土器類（第26図7084～7089）が出土している。



第26図　第7調査区出土遺物実測図－4



第27図　第7調査区第2面～第5面平断面図(S＝水平1／200・垂直1／80)

6）第5面

現地表下3.6～4.0m（T.P.+8.2～8.5m）723層緑灰色粘土上面第4面を構成する粗砂の直下には、含水量の多い722層緑灰色シルトが0.1m前後あり、それをとりはらうと水田耕土である723層淡緑灰色粘土があらわれる。層厚は0.3mまで確認したが、以下の上層については、確認していない。

この面では、畦畔6条（畦畔7501～畦畔7506）、水田7筆（水田7501～水田7507）を検出した。畦畔の方向は、南北方向からやや西に振っている。

畦畔の規模は、基底幅0.5～1.5m・上面幅0.45～0.85m・高さ0.04～0.1mで、第2面・第3面のものよりは大規模である。畦畔7506は中では小規模で、畦畔7505から「T字形」に分岐しており、畦畔7505は比較的大規模である。

畦畔は、耕土を盛り上げて構築されており、第2面・第3面の水田よりも大規模で、それとともに各畦畔の間隔も広いことから、大畦畔である可能性もあるが、この面ではいわゆる小畦畔は検出されていない。

各水田上面はほぼ平坦であるが、水田7502はT.P.+8.3m前後で緩やかに西へ下がっていき、畦畔7501を境として西端の水田7501は急に落ち込み、西端での上面のレベルはT.P.+8.1m前後を指す。この高低差は上層の第3面・第4面でも認められたもので、旧地形に起因するものであろう。

第3節　小結

今回の調査Ⅳをもって、当地での断続的な調査は一応終了した。今回の調査では、可能な限りの掘削を続け、最終的に5枚の遺構面を検出することができ、当地の下層部分の状況が明らかにできたことは、多大な成果であったと言える。

まず、第1面の水田遺構では、調査Ⅲ同様、水田耕作土の直下で平安時代後期の土器類が検出されたことから、その構築時期が明らかになった。

第2面・第3面の水田遺構については、これまでの調査では不明瞭な点が多々あったが、今回の調査で、二時期の水田が、大規模な洪水によって埋没したことが明らかになった。また、両水田で、「大畦祭祀」とも言える「埋納された土器」が検出されたことも大きな成果であったといえる。また、第1面とこの第2面・第3面との間には長期間の断絶が見られる。

第4面では、洪水層上面に水田遺構以外の生活遺構が営まれていることが明らかになったがこ生活面は、それほど長期間にわたってはいないようである。

第5面の水田遺構は、弥生時代に遡り得るもので、規模や構築方法が第2面・第3面の古墳時代の水田遺構とは異なっており、この間にも断絶が認められる。

第8章　まとめ

今回報告の田井中遺跡北部の調査では、はからずも毎年毎年調査対象面が下がっていき、最終的には、弥生時代後期・古墳時代中期・古墳時代後期・平安時代末期～鎌倉時代前期の4時期の水田遺構と古墳時代前期の集落遺構を検出することができた。

また、相前後して行われていた大阪府教育委員会の調査地（志紀遺跡）では、当調査地よりもさらに一時期古い弥生時代中期の水田遺構と、当地では欠落している奈良時代末期から平安時代にかけての集落遺構なども検出されており、当地域一帯の水田遺構の初見と、当地では自然環境に左右されながらも適地を選んで水田や居住地が連綿と営まれていたことが明らかにされてきている。

一方、当遺跡南部の空港1丁目（自衛隊内）の調査では、弥生時代前期から古墳時代後期の遺構群が検出されていることから、当地一帯では、弥生時代以来、南部の居住域と北部の生産域が明確に分かれていたものと考えられる。

1）弥生時代後期の水田遺構－第5面

この時期の水田は、小面積の調査となったために明確できてはいない部分が多いが、各畦畔は、耕土である［第20層］（723層）を盛り上げて構築されており、後の時代である古墳時代の水田畦畔よりも規模は大きく、規則性は見いだしにくい。

この水田が埋没し、廃絶するのは、上層に堆積する［洪水層Ⅳ］にあたる721層内部の出土遺物（7084～7089）から、古墳時代前期初頭の庄内期の比較的古い段階に比定できる。

2）古墳時代前期の集落遺構－第4面

この遺構面は、弥生時代の水田遺構が洪水によって埋没・廃絶した後、水の引いた［洪水層Ⅳ］721層上面に営まれている。遺構内部からの出土遺物はなかったが、遺構面直上に堆積する720層出土遺物（7054～7062）から、古墳時代前期（布留期）までの生活面と考えられる。

ただし、720層・721層は、次代の第3面の水田造営の際に削平されていたり、大畦畔構築に伴って移動している可能性があり、これだけでこの生活面の時期を決定するには無理があるものと考えられる。しかし、第3面水田遺構の大畦7301・大畦7302内部からは、元来の720層に属する古墳時代前期の遺物以外に、5世紀後半までの須恵器（7046～7048）を含んでいることから、おのずとその時期は限定できる。

3）古墳時代中期の水田遺構－第3面

前述のように、大畦7301出土遺物（7046～7048）、大畦7302出土遺物（7049～7053）から、第3面水田の構築時期は、古墳時代中期後半（5世紀後半）以降であることがわかる。大畦畔内部の土器類は、「大畦祭祀」の際に埋め込まれた可能性はあるものの、第2面水田でのように、平面的に検出できたものではない。

この第3面水田遺構は、水利を考えたうえでのことか、おおむね自然地形の高まりの部分に大畦畔が構築されており、その大畦畔を境として段差を設けて各水田を配置している。大畦畔は、下層の第4面集落遺構のベースである［洪水層Ⅳ］の721層・それに伴う遺物包含層である717層～720層などをブロック状に盛り上げ、たたきしめて構築されており、きわめて堅牢な作りのもので、道路や堤防の役目を果たしていたものと考えられる。

この大畦畔構築の際に近隣にあった古い時期の遺物が混入している可能性は高く、大畦7301・大畦畔7302の下部の719層には、弥生時代終末期～古墳時代前期初頭の甕（7053）や庄内甕（7051・7052）などが含まれており、この付近の土層堆積を複雑なものにしている。

一方、畦畔（小畦畔）は、床土を削り出して構築されているもので、高さも低く小規模で、不明瞭なものである。耕土上面には、一様に、粘土やシルトの薄い互層が数枚堆積しており、この中に複数時期の耕土が含まれている可能性は高い。

これらのことから、第3面水田では、大畦畔で区画された大区画の中で、数年にわたる耕作が行われており、小畦畔はそのつど任意に設けられていることが考えられる。

4）古墳時代後期の水田遺構－第2面

第2面の水田遺構は、大畦7203内部の出土遺物（7042～7044）から、古墳時代後期後半（6世紀後半）に構築されたことがわかる。この水田遺構では、東部の3本の大畦畔（大畦畔7024～大畦畔7026）は、下層第3面水田遺構の3本の大畦畔（大畦畔7301～大畦畔7303）とほぼ同位置に踏襲して構築されていること、小畦畔の方向も下層水田とほぼ同方向であることから、下層水田の埋没・廃絶時期と、第2面水田の構築時期には大きな隔たりはないものと考えられる。

この水田は、前代の第3面水田よりも大規模な設計のもとで造営されており、溝ＳＤ7301の埋め立てや、低い部分である第7調査区西部（大畦畔7203以西）の床を盛り、整地している様子が土層堆積からうかがえる。

「大畦祭祀」が確認できた大畦畔7203は、最大のもので、第2面水田構築の際あらたに設けられており、ここに「祭祀」の意味があるのかもしれない。この面の大畦畔もまた、下層に堆積する［床土Ⅱ］にあたる710層・［洪水層Ⅲ］711層などを薄く敷き伸ばしたように何度も積

み重ね、たたきしめた様子が観察できる。この面の大畦畔もまた、堤防や道路などの役割を果したものと考えられる。

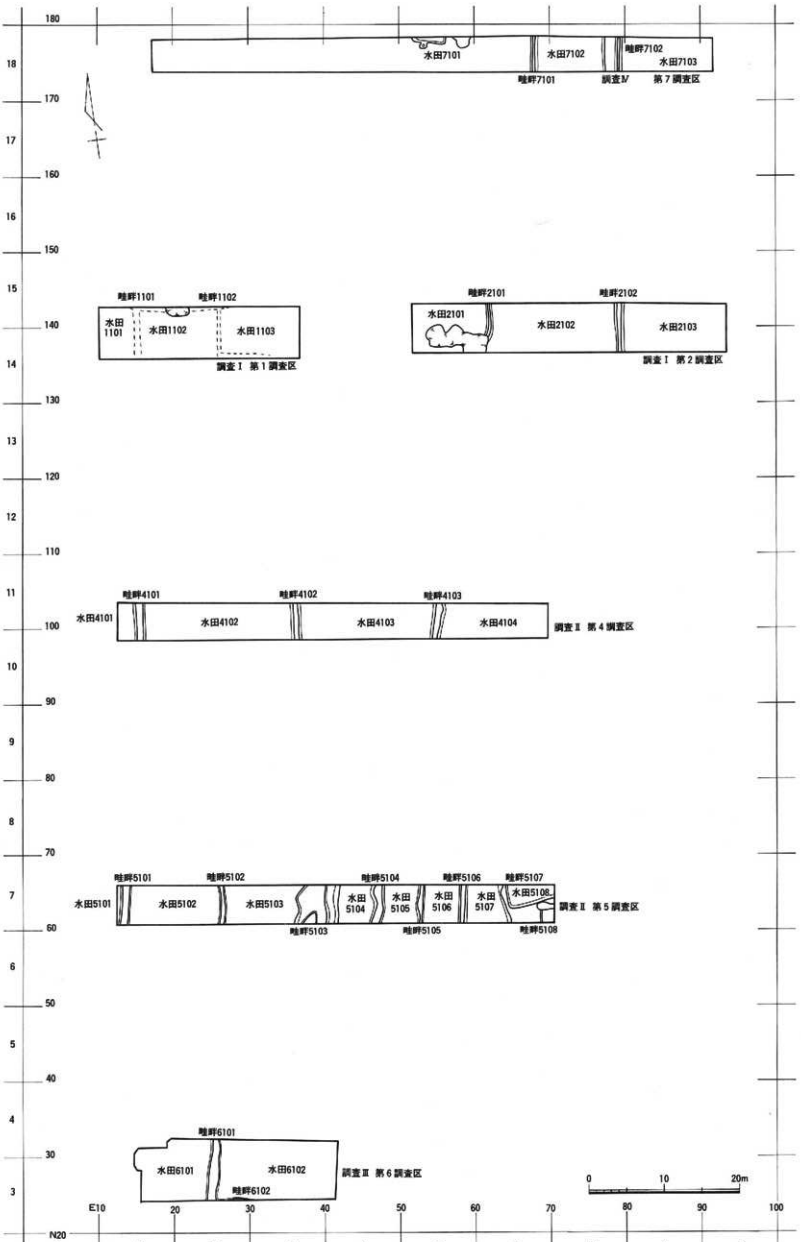
この水田の埋没・廃絶時期は明確にはできないものの、水田耕作土上層に堆積する［洪水層Ⅱ］の出土遺物（4099～4104・5015～5053・6034～6042）から、古墳時代末期から奈良時代を時代を通じて付近一帯が水没していたことがわかる。そのような中でも、水没を免れたところや水の引いたところを選んで、点々と土壙や溝などが構築されていることが、大阪府教育委員会の調査によって報告されているが、それ以後、耕地としては顧みられることはなかったようである。

5）平安時代末期～鎌倉時代前期の水田遺構－第1面

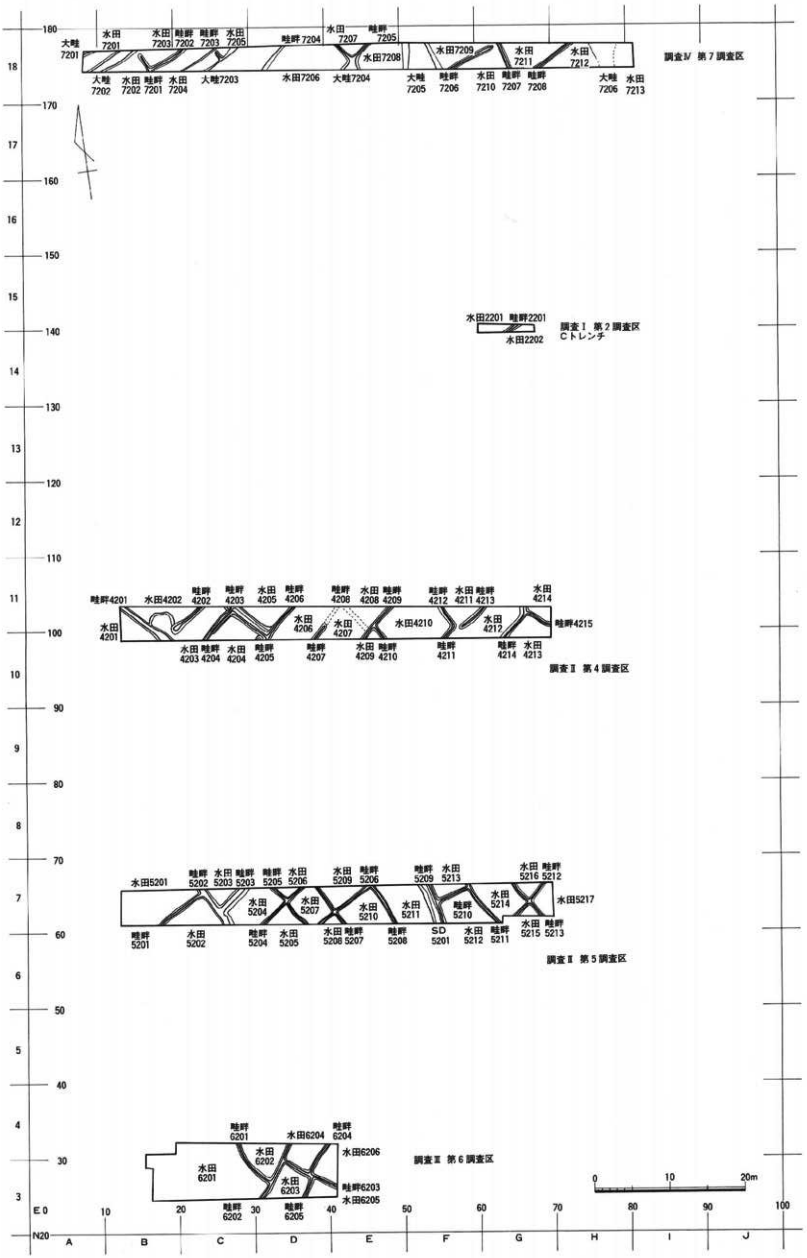
この地が再び耕地として利用されるようになるのは、［耕土Ⅰ］直下の［第10層］にあたる706層中に土師器小皿（7038）や瓦器椀（7039）が含まれていることから、平安時代後期以降に比定できる。また、平面的には明らかにできなかったが、［第10層］下部の粘土層（514層・614層・707層）もまた、水田耕土の可能性がある。

第2面の水田遺構と第1面水田遺構の間の断絶は5世紀近くあり、この間の社会情勢の変化を反映してか、畦畔の方向やその構築方法が異なっている。また、同時にこの間、当地一帯は水没しており、長期にわたって耕地や居住地としては不適当な土地であったことがわかる。このことは、八尾市南部でこの時期を通じて、集落の検出例の少ないこととも無関係ではないだろう。この面の水田は、東西・南北方向に伸びる畦畔で区画されており、条里に規制され、整然と構築されている。同時期の水田遺構は木の本遺跡・八尾南遺跡（本報告Ⅱ）・東弓削遺跡（本報告Ⅲ）などでも検出されており、この時期に一定の企画のもとで広範囲な水田開発の行われていることがわかる。当調査地では、水田1筆の全容を検出したものは皆無であるが、他の調査地では、おおむね一辺5m前後・10m前後・20m前後の区画が見られる。当調査地では、東西幅5m前後の水田は4筆（水田5105～水田5107）、10m前後の水田は5筆（水田1102・水田5102・水田5103・水田7102）、18－20mの水田3筆（水田2102・水田4102・水田4103）の3種が認められる。

この面の水田の埋没・廃絶時期は、鎌倉時代中頃に下るが、土層堆積からは、一挙に埋没した北部の第1調査区・第2調査区・第7調査区と、徐々に埋没していった南部の第3調査区～第6調査区に分かれるようで、全域が同時に埋没したわけではないようである。そのため、南部では調査対象としなかったこの水田面より上層にも鎌倉時代～室町時代の耕土が存在しており、さらに上層には、江戸時代の耕土なども見られ、当地一帯が近代の軍事施設として開発されるまで、農地として利用され続けていたことが明らかになった。



第282図 第1面全体図


調査Ⅰ・第 7 調査区
調査Ⅰ 第 2 調査区
Cトレンチ
調査Ⅱ 第 4 調査区
調査Ⅱ 第 5 調査区
調査Ⅱ 第 6 調査区
0 10 20m
E 0
N20
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J

第29図 第2面全体図

第9章　付表

第1節　遺構一覧表

1）第1面畦畔

遺構番号	地区	方向	法量 (m) 下幅	上幅	高さ	検出長	水田との位置関係	備考
畦畔1101	13H 14B	南-北 N-6°-E	(0.7~1.0)	不明	不明	6.7	西に水田1101、東に水田1102	痕跡のみ検出 南の延長線上に畦畔4101
畦畔1102	13C 14C	南-北 N-8°-E	(0.4~0.5)	不明	不明	6.7	西に水田1102、東に水田1103	痕跡のみ検出
畦畔2101	13G 14G	南-北 N-11°-E	0.6~1.0	0.2~0.3	0.05~0.1	5.1	西に水田2101、東に水田2102	東で西へ振る、南端は孤立、南の延長線上に畦畔4103？
畦畔2102	13H 14H	南-北 N-8°-E	1.1~1.4	0.4~0.6	0.02~0.08	6.6	西に水田2102、東に水田1103	北の延長線上に畦畔7102
畦畔4101	10B 11B	南-北 N-7°-E	1.1~1.5	0.8~1.0	0.05~0.75	5.0	西に水田4101、東に水田4102	北の延長線上に畦畔1101、南の延長線上に畦畔5101
畦畔4102	10D 11D	南-北 N-4°-E	0.8前後	0.5~0.6	0.05~0.12	4.9	西に水田4102、東に水田4103	南の延長線上に畦畔5103、北の延長線上に畦畔2101
畦畔4103	10F 11F	南-北 N-15°-E	0.8前後	0.5~0.6	0.03~0.05	4.9	西に水田4103、東に水田4104	東下がりの段状を呈する 北の延長線上に畦畔2101？
畦畔5101	7B	南-北 N-11°-E	1.3~1.4	0.9~1.1	0.03~0.10	5.4	西に水田5101、東に水田5102	北の延長線上に畦畔4101
畦畔5102	7C	南-北 N-14°-E	0.6~1.0	0.3~0.6	0.03~0.11	5.1	西に水田5102、東に水田5103	北の延長線上に畦畔1102、南の延長線上に畦畔6101
畦畔5103	7D	南西-北東 N-30°-E	0~2.0	0~1.5	0.06前後	1.8	北西に水田5103	北端はとぎれ、流路を作り、北の延長線上に畦畔4102
畦畔5104	7E	南-北 N-12°-E	1.3~1.7	0.7~1.3	0.04~0.09	5.2	西に水田5104、東に水田5105	
畦畔5105	7F	南-北 N-10°-E	0.4~1.1	0.2~0.7	0.03~0.05	5.2	西に水田5105、東に水田5106	北の延長線上に畦畔4103？
畦畔5106	7F	南-北 N-10°-E	1.0~1.1	0.5~0.7	0.02~0.1	5.1	西に水田5106、東に水田5107	北の延長線上に畦畔2101？
畦畔5107	7G	南-北 N-3°-W	0.9~1.3	0.3~0.7	0.02~0.1	3.0	西に水田5107、東に水田5108	南端は高まりとL字形に接続
畦畔6101	3C 4C	南-北 N-11°-E	1.1~1.7	0.7~1.3	0.05~0.08	8.3	西に水田6101、東に水田6102	北の延長線上に畦畔4102、南端で畦畔6102と丁字形に接続
畦畔6102	3D 4D	南-西 N-9°-S	0.5以上	0.3以上	0.05~0.1	6.0	北に水田6102	西端で畦畔6102と丁字形に接続、北壁のみ検出
畦畔7101	18G	南-北 N-12°-E	0.8~0.9	0.3~0.4	0.09~0.12	4.8	西に水田7101、東に水田7102	南の延長線上に畦畔8101？
畦畔7102	18H	南-北 N-9°-E	0.8~0.9	0.3~0.4	0.04~0.15	4.7	西に水田7102、東に水田7103	央の延長線上に畦畔2102、西側に西下がりの段を有する

2）第1面水田

遺構番号	地区	法量 (m) 東西	南北	上面の標高(T.P.-m)	畦畔との位置関係	備考
水田1101	13B 14B	4.7以上	6.8以上	(東) 9.600~9.710 (西)	東に畦畔1101	
水田1102	13B~13C 14B~14C	10.0~10.3	6.6以上	(西) 9.520~9.735 (東)	西に畦畔1101、東に畦畔1102	
水田1103	13C~14C 13D~14D	10.5以上	6.3以上	(北西) 9.630~9.815 (南東)	西に畦畔1101、東に畦畔1102	
水田2101	13F~14F 13G~14G	10.0以上	6.5以上	(南西) 9.600~9.780 (北東)	東に畦畔2101	
水田2102	13G~13H 14G~14H	10.0以上	16.0~17.3	(南) 9.500~9.760 (北)	西に畦畔2101、東に畦畔2102	
水田2103	13H~13I 14H~14I	13.6以上	16.0~17.3	(東) 9.560~9.700 (西)	西に畦畔2102	
水田4101	10B 11B	2.4以上	5.0以上	(北西) 9.680~9.730 (南東)	東に畦畔4101	
水田4102	10B~10D 11B~11D	9.6~9.7	5.1以上	(北東) 9.650~9.767 (南西)	西に畦畔4101、東に畦畔4102	

遺構番号	地区	法量(m) 東西	南北	上面の標高(T.P.+m)	畦畔との位置関係	備考
水田4103	10D～10F 11D～11F	18.0～18.8	4.9以上	(北東) 9.460 ～ 9.670 (南西)	西に畦畔4102、東に畦畔4103	
水田4104	10F～10G 11F～11G	14.0～14.9	4.7以上	(南西) 9.380 ～ 9.500 (北東)	西に畦畔4103	
水田5101	7B	0.5以上	5.3以上	9.260 前後	東に畦畔5101	
水田5102	7B 7C	11.8～12.0	5.3以上	(西) 9.230 ～ 9.370 (東)	西に畦畔5101、東に畦畔5102	
水田5103	7C 7D	9.2～10.8	5.0以上	(東) 9.210 ～ 9.300 (西)	西に畦畔5102、東に波路、南東に畦畔5103	
水田5104	7E	4.2～ 4.8	5.2以上	(南西) 9.260 ～ 9.340 (北東)	西に溝SD5101、東に畦畔5104	
水田5105	7E 7F	4.1～ 5.1	5.1以上	(西) 9.360 ～ 9.410 (東)	西に畦畔5104、東に畦畔5105	
水田5106	7F	4.7～ 4.9	5.1以上	(北東) 9.310 ～ 9.390 (南西)	西に畦畔5105、東に畦畔5106	
水田5107	7F 7G	4.7～ 5.7	5.1以上	(南東) 9.400 ～ 9.500 (北西)	西に畦畔5106、東に畦畔5107	
水田5108	7G 7H	6.0以上	2.9以上	9.500 前後	西に畦畔5107、南に高まり	
水田6101	3B～3C 4B～4C	10.2以上	8.4以上	(南西) 9.800 ～ 9.960 (北東)	東に畦畔6101	
水田6102	3C～3E 4C～4E	15.8以上	8.1以上	(南東) 9.810 ～ 9.990 (北西)	西に畦畔6101、南に畦畔6102	
水田7101	18F 18G	(10前後)	4.7以上	(南西) 9.870 ～10.260 (北東)	東に畦畔7101	
水田7102	18G 18H	10.2～10.3	4.8以上	(北西) 9.990 ～10.250 (南東)	西に畦畔7101、東に畦畔7102	
水田7103	18H 18J	12.5以上	4.6以上	(南西)10.100 ～10.360 (南西)	西に畦畔7202	

3) 第2面畦畔

遺構番号	地区	方向	法量(m) 下幅	上幅	高さ	検出長	水田との位置関係	備考
畦畔2201	13G～14G	南西－北東 N－62°－W	0.6 ～0.75	0.18～0.3	0.13～0.2	2.1	北西に水田2201、南東に水田2202	
畦畔4201	10B～11B	南東－北西 N－44°－W	0.9 ～1.8	0.3 ～1.0	0.07～0.2	7.0	南西に水田4201、北東に水田4202	畦畔4202との接続部は水口
畦畔4202	10B～11B 10C～11C	南西－北東 N－50°－E	0.6 ～1.3	0.15～0.45	0.04～0.11	5.8	北西に水田4202、南東に水田4203	南西端は水口
畦畔4203	10C～11C	南西 北東 N－54°－E	0.4 ～0.6	0.15～0.2	0.2 前後	3.9	北西に水田4203、南東に水田4204	畦畔4202との接続部は水口、畦畔4205とL字形に接続
畦畔4204	11C	南東 北西 N－19°－W	0.9	0.6	0.04～0.1	0.8	南西に水田4203	南端は水口
畦畔4205	11C 10D～11D	南東 北西 N－46°－W	0.8 ～1.0	0.2 ～0.3	0.04～0.1	5.7	南西に水田4204、北東に水田4205	畦畔4203とL字形、畦畔4206とT字形に接続
畦畔4206	10D～11D	南西 北東 N－47°－E	0.5 ～0.9	0.1 ～0.35	0.07～0.19	5.6	北西に水田4204・水田4205、南東に水田4206	畦畔4205とT字形に接続
畦畔4207	10D～11D	南西 北東 N－33°－E	0.5 ～0.65	0.15～0.3	0.06～0.08	2.7 (5.6)	北西に水田4205、南東に水田4207	中央部は水口？ 北東部は痕跡のみ
畦畔4208	10E～11E	南東 北西 N－35°－W	0.5 ～0.65	——	(0.02 前後)	(4.6)	南西に水田4207、北東に水田4208	痕跡のみ検出 畦畔4209とT字形に接続
畦畔4209	10E～11E	南西 北東 N－50°－E	0.75～0.85	0.2 ～0.25	0.04～0.08	3.7	北西に水田4207・水田4208、北東に水田4209・水田4210	畦畔4208・畦畔4210とT字形に接続
畦畔4210	10E～11E	南東 北西 N－30°－W	0.6 ～0.7	0.2 ～0.25	0.03～0.04	2.2	南西に水田4209、北東に水田4210	畦畔4209とT字形に接続
畦畔4211	10F～11F	南東 北西 N－24°－W	0.6 ～0.7	0.2 ～0.25	0.04～0.12	2.2	南西に水田4210、北東に水田4211	畦畔4212とL字形に接続、接続部の東側は水口
畦畔4212	11F	南西 北東 N－48°－E	0.65～0.7	0.15～0.2	0.02～0.12	3.6	北西に水田4210、南東に水田4212	畦畔4211とL字形に接続、接続部の東側は水口

遺構番号	区	方向	法量 (m) 下幅	上幅	高さ	検出長	水田との位置関係	備考
畦畔4213	11F 11G	南西 北東 N−38°−E	0.65−0.8	0.15−0.2	0.07−0.1	4.6	北西に水田4211、南東に水田4212	南西端は水口
畦畔4214	10G−11G	南西−北東 N−42°−E	0.65−1.1	0.15−0.35	0.04−0.12	5.5	北西に水田4212、南東に水田4213、東に水田4214	畦畔4215と丁字形に連続
畦畔4215	11G	南東−北西 N 60°−W	0.5 −0.6	0.15−0.25	0.06−0.11	3.5	南西に水田4213、北東に水田4214	畦畔4214と丁字形に接続
畦畔5201	7B 7C	南西−北東 N−63°−E	0.5 −0.8	0.2 −0.35	0.08−0.11	7.0	北西に水田5201、南東に水田5202	畦畔5202と丁字形に接続
畦畔5202	7C	南東−北西 N−31°−W	1.1 −1.6	0.5 −0.8	0.06−0.2	6.5	南西に水田5202、北東に水田5203・水田5204	畦畔5201・畦畔5203と丁字形に接続、大型
畦畔5203	7C	南西−北東 N−53°−E	1.25−1.4	0.6 −0.7	0.1 −0.22	4.5	北西に水田5203、南東に水田5204	畦畔5202と丁字形に接続、大型
畦畔5204	7D	南東−北西 N−35°−W	0.3 −0.6	0.15−0.3	0.02−0.04	7.5	南西に水田5204・水田5205、北東に水田5206・水田5207	畦畔5205とX字形に接続
畦畔5205	7D	南西−北東 N−55°−E	0.4 −0.6	0.25−0.35	0.02−0.04	7.8	北西に水田5204・水田5206、南東に水田5205・水田5207	畦畔5206とX字形に接続
畦畔5206	7D 7E	南東−北西 N−23°−W	0.3 −0.5	0.15−0.3	0.03−0.07	6.4	南西に水田5207・水田5208、北東に水田5209・水田5210	畦畔5207とX字形に接続
畦畔5207	7D 7E	南西−北東 N−60°−E	0.35−0.6	0.25−0.45	0.02−0.07	8.15	北西に水田5207・水田5209、南東に水田5208・水田5210	畦畔5208と丁字形に接続か？
畦畔5208	7E	南東−北西 N−25°−W	0.25−0.75	0.25−0.5	0.03−0.07	5.0	南西に水田5210、北東に水田5211	畦畔5207と丁字形に接続か？
畦畔5209	7F	南東−北西 N−11°−W	0.65−0.75	0.25−0.35	0.04−0.12	5.7	南西に水田5211、北東に水田5212・水田5213	畦畔5210と丁字形に接続
畦畔5210	7F	南西−北東 N−74°−E	0.65−0.75	0.25−0.35	0.04−0.1	4.3	南東に水田5212、北西に水田5213	畦畔5209・畦畔5211と丁字形に接続
畦畔5211	7F 7G	南東−北西 N 32°−W	0.45−0.6	0.2 −0.35	0.03−0.1	5.7	南西に水田5212・水田5213、北東に水田5214	畦畔5210と丁字形に接続
畦畔5212	7G	南東−北西 N−35° W	0.4 −0.55	0.15−0.35	0.04−0.08	6.6	南西に水田5214・水田5215、北東に水田5216・水田5217	畦畔5213とX字形に接続
畦畔5213	7G	南西−北東 N−50° E	0.45−0.55	0.1 −0.35	0.02−0.1	6.0	北西に水田5214・水田5216、南東に水田5215・水田5217	畦畔5213とX字形に接続
畦畔6201	3C−4C 3D	南東−北西 N−38°−W	0.45−0.65	0.1 −0.25	0.06−0.12	7.0	南西に水田6201、北東に水田6202	畦畔6202と丁字形に接続
畦畔6202	3D−4D	南西 北東 N−31°−E	0.6 −0.7	0.15−0.3	0.08−0.17	8.5	北西に水田6201・水田6202、南東に水田6203・水田6204	畦畔6201・畦畔6203と丁字形に接続
畦畔6203	3D−4D 3E−4E	南東−北西 N−56°−W	0.55−0.75	0.15−0.25	0.08−0.18	8.0	南西に水田6203・水田6205、北東に水田6204・水田6206	畦畔6202と丁字形に接続
畦畔6204	3D−4D	南西−北東 N−39°−E	0.4 −0.55	0.15−0.25	0.08−0.18	4.3	北西に水田6204、南東に水田6206	畦畔6203と丁字形に接続
畦畔6205	3D 3E	南西−北東 N−30°−E	0.6 −0.8	0.25−0.3	0.08−0.18	3.0	北西水田6203、南東水田6205	畦畔6203と丁字形に接続
畦畔7201	18C	南東−北西 N−22°−W	0.55−0.6	0.3 −0.35	0.04−0.08	3.0	南西に水田7202、北東に水田7203・水田7204	畦畔7202と丁字形に接続、北端は水口
畦畔7202	18C 18D	南西−北東 N−65°−E	0.5 −0.7	0.25−0.45	0.03−0.04	5.0	北西に水田7203、南東に水田7204	畦畔7201と丁字形に接続
畦畔7203	18D	南東−北西 N 30°−W	0.55−0.65	0.35−0.4	0.03−0.05	1.3	南西に水田7204、北東に水田7205	畦畔7203と丁字形に接続 土器埋納
畦畔7204	18F	南東−北西 N−33°−W	0.65−0.7	0.25−0.45	0.05−0.1	3.0	南西に 水田7206、北東に水田7207	大畦7204の頂点に畦畔7205とV字形に接続
畦畔7205	18F	南西−北東 N−54° E	0.6 −0.7	0.3 −0.35	0.06−0.1	3.0	北西に水田7207、南東に水田7208	大畦7204の頂点に畦畔7204とV字形に接続
畦畔7206	18G 18H	南西−北東 N−70°−E	0.35−0.5	0.25−0.3	0.03−0.05	6.6	北西に水田7209、南東に水田7210	北東端は水口
畦畔7207	18H	南東−北西 N−14°−W	0.4 −0.6	0.25−0.4	0.03−0.04	3.6	南西に水田7210、北東に水田7211	
畦畔7208	18H 18I	南西 北東 N−61°−E	0.45−0.5	0.2 −0.35	0.03−0.05	6.3	北西に水田7211、南東に水田7212	
大畦7201	18H	南西−北東 N−81°−E	1.0 以上	0.8 以上	0.2 −0.26	2.0	南東に水田7201	

遺構番号	地区	方向	法量（m） 下幅	上幅	高さ	検出長	水田との位置関係	備考
大畦7202	18B	南西－北東 N－64°－E	1.4 －1.75	0.8 －1.1	0.1 －0.22	5.4	北西に水田7201、南東に水田7202・水田7203	
大畦7203	18D 18E	南西 北東 N－49°－E	5.4 前後	4.5 前後	0.1 －0.31	4.9	北西に水田7204・水田7205、南東に水田7206	畦畔7203とT字形に接続、上面に礫、土器堆積
大畦7204	18F	西側の辺 南西－北東 N－53°－E 東側の辺 南東－北西 N－14° W	1.2 －2.5	0.8 －1.9	0.02－0.05	2.0	西に水田7206、北に水田7207 東に水田7208	北側の頂点で畦畔7204・畦畔7203とV字形に接続
大畦7205	18G	西側の辺 南－北 N 4°－E 東側の辺 南東－北西 N 20°－W	3.5 －5.0	2.2 －3.9	0.29－0.34	3.4	西に水田7208、東に水田7209	畦畔7206とT字形に接続か？
大畦7206	18I	西側の辺 南東－北西 N－13°－W	2.0 －3.5 以上	――	0.04－0.12	3.7	南西に水田7212	東端は不明

4）第2面水田

遺構番号	地区	法量（m） 南西－北東	南東－北西	上面の標高（T.P.1m）	畦畔との位置関係	備考
水田2201	13G－14G	1.8以上	3.0以上	（東） 9.240－9.290 （西）	南東に畦畔2201	
水田2202	13G－14G	1.8以上	1.9以上	（北東） 9.040－9.220 （南西）	北西に畦畔2201	
水田4201	10B－11B	3.5以上	6.8以上	（北東） 9.000－9.190 （南西）	北東に畦畔4201	北東端、畦畔1291に沿って溝状に窪む
水田4202	10B－11B 10C－11C	5.7以上	5.5以上	（南） 9.060－9.200 （北）	南西に畦畔4201、南東に畦畔4202	南端、水口の開削窪む
水田4203	10B－11B 10C－11C	8.0前後	2.3－3.0 以上	（南西） 9.120－9.200 （北東）	北東に畦畔4204、南東に畦畔4203、北西に畦畔4202	南東端、畦畔4203に沿って溝状に窪む、復元面積24㎡
水田4204	10C－11C 10D－11D	4.7以上	5.4以上	（南東） 9.040－9.200 （北西）	北東に畦畔4205、南東に畦畔4206、北西に畦畔4203	南東隅、窪む（水口か）
水田4205	10C－11C 10D－11D	4.7以上	6.0以上	（南東） 9.100－9.200 （北西）	南西に畦畔7204・畦畔7205、南東に畦畔4206	南西端、畦畔7205に沿って溝状に窪む
水田4206	10D－11D 10E－11E	5.6以上	4.5－4.7	（南西） 9.150－9.230 （北東）	北東に畦畔4206、南東に畦畔4207	
水田4207	10D－11D 10E－11E	5.5以上	4.6以上	（南東） 9.160－9.210 （北西）	北東に畦畔4208、北西に畦畔4207	
水田4208	10K－11E	3.8以上	4.0以上	9.200前後	南西に畦畔4208、南東に畦畔4209	
水田4209	10E	1.5以上	1.5以上	（西） 9.250－9.260 （東）	北西に畦畔4209、北東に畦畔4210	
水田4210	10E－11E 10F－11F	8.0前後	7.2前後	（南東） 9.130－9.300 （北西）	北西畦畔4209、南西畦畔4210 南東畦畔4211、北東畦畔4212	復元面積56㎡
水田4211	11F	4.1以上	3.3以上	（南） 9.070－9.230 （西）	南西に畦畔4212、北東に畦畔4213	南端の水口付近は窪む
水田4212	10F－11F 10G－11G	6.5以上	3.9以上	（南西） 9.100－9.180 （北東）	北東に畦畔4213、南東に畦畔4214	南西部の水口付近は窪む
水田4213	10G－11G	4.0以上	4.2以上	（西） 9.150－9.280 （東）	北西に畦畔4214、北東に畦畔4215	
水田4214	11G	南北 2.0以上	東西 3.1以上	（東） 9.180－9.220 （西）	西に畦畔4214、南に畦畔4215	
水田5201	7B 7C	11.1以上	7.0以上	（南西） 8.960－9.060 （北東）	南東に畦畔5201、北東に畦畔5202	
水田5202	7B 7C	6.3以上	4.6以上	（南西） 8.990－9.050 （北東）	北西に畦畔5201、北東に畦畔5202	
水田5203	7B 7C	3.5以上	3.1以上	（南東） 8.989－9.070 （北西）	南西に畦畔5202、南東に畦畔5203	
水田5204	7C 7D	6.5－7.0	4.3－4.7	（北東） 8.750－8.860 （南西）	南東畦畔5202、北西畦畔5203 北東畦畔5204、南東畦畔5205	復元面積28㎡

遺構番号	地区	法量（m） 南西　北東	南東－北西	上面の標高（T.P.+m）	畦畔との位置関係	備考
水田5205	7D	3.9以上	3.6以上	（西）8.770 ～ 8.930（東）	北東に畦畔5204、北西に畦畔5205	
水田5206	7D	2.3以上	2.3以上	（西）8.760 ～ 8.870（東）	南西に畦畔5204、南東に畦畔5205	
水田5207	7D 7E	3.8～4.3	3.5～4.2	（西）8.860 ～ 8.900（東）	南西畦畔5204、北西畦畔5205 北東畦畔5206、南東畦畔5207	復元面積20㎡
水田5208	7D 7E	2.0以上	1.6以上	（東）8.830 ～ 8.880（西）	北東畦畔5206、北西畦畔5207	
水田5209	7D 7E	5.1以上	3.8以上	（南東）8.800 ～ 8.870（北西）	南西畦畔5206、南東畦畔5207	
水田5210	7K	5.5前後	5.1以上	（北西）8.800 ～ 8.930（南東）	南西に畦畔5206、北東に畦畔5207、北西に畦畔5208	
水田5211	7E 7F	4.8～4.9	6.1以上	（北西）8.860 ～ 8.960（南東）	南西に畦畔5208、北東に畦畔5209	
水田5212	7F 7G	4.1～5.2以上	5.9以上	（南西）8.790 ～ 8.960（南東）	南西に畦畔5209、北西に畦畔5210、北東畦畔5211	
水田5213	7F	4.0以上	2.1以上	（南西）8.780 ～ 8.840（北東）	南西に畦畔5209、南東に畦畔5210、北東に畦畔5211	
水田5214	7F 7G	4.5～4.8	7.0以上	（北西）8.900 ～ 8.970（南東）	南西に畦畔5211、北東に畦畔5212、南東畦畔5213	
水田5215	7G	2.2以上	2.1以上	（北）8.880 ～ 8.990（南）	北東に畦畔5212、北西に畦畔5213	
水田5216	7G	2.6以上	2.8以上	（東）8.870 ～ 8.900（西）	南西に畦畔5212、南東に畦畔5213	
水田5217	7G 7H	3.8以上	2.8以上	（北西）8.860 ～ 8.940（南東）	南西に畦畔5212、北西に畦畔5213	
水田6201	3B～3D 4B～4C	13.0前後	10.3以上	（南西）8.940 ～ 9.010（北東）	北東に畦畔6201、南東に畦畔6202	
水田6202	3C～3D 4C～4D	5.0以上	6.3以上	（南西）8.990 ～ 9.020（北東）	南西に畦畔6201、南東に畦畔6202	東端、畦畔6202に沿って歪む
水田6203	3D	5.1以上	4.1以上	（北西）8.980 ～ 9.020（南東）	北西に畦畔6202、北東に畦畔6203、南東に畦畔6205	東端、畦畔6203に沿って歪む
水田6204	3D 4D	4.2以上	3.8以上	（西）9.000 ～ 9.090（東）	北西に畦畔6202、南西に畦畔6203、南東に畦畔6204	東端、畦畔6204に沿って歪む
水田6205	3D～3E 4D～4K	2.7以上	3.7以上	（西）9.020 ～ 9.060（東）	北東に畦畔6203、北西に畦畔6205	
水田6206	3D～3E 4D～4K	4.9以上	3.7以上	（南西）8.990 ～ 9.120（北東）	南西に畦畔6203、北西に畦畔6204	
水田7201	18B～18C	4.9以上	2.1以上	（南西）9.320 ～ 9.450（北東）	北西に大畦7201、南東に大畦7202	
水田7202	18C	5.0以上	3.1前後	（東）9.340 ～ 9.420（西）	北東に畦畔7201、北西に大畦7202	
水田7203	18C～18D	4.2以上	2.3以上	（東）9.360 ～ 9.450（西）	南西に畦畔7201、南東に畦畔7202	
水田7204	18C～18D	4.5以上	4.0以上	（北東）9.310 ～ 9.410（南西）	北西に畦畔7202、北東に畦畔7203、南東に大畦7203	南東側は大畦7203に沿って一段下がる
水田7205	18D	1.3以上	1.5以上	（東）9.300 ～ 9.400（西）	南西に畦畔7203、南東に大畦7203	
水田7206	18E～18F	4.1以上	5.0以上	（南東）9.270 ～ 9.440（北西）	北東に畦畔7204、北西に大畦7203、南東に大畦7204	
水田7207	18F	2.3以上	2.6	（東）9.340 ～ 9.360（西）	南西に畦畔7204、南東に畦畔7205	
水田7208	18F	南北 3.6以上	南西 5.9以下	（北東）9.290 ～ 9.430（南西）	北西に畦畔7205、南西に大畦7204、東に大畦7205	
水田7209	18G～18H	7.8前後	4.2以上	（南）9.300 ～ 9.470（北西）	南東に畦畔7206、南西に大畦7205	
水田7210	18G～18H	6.3以上	3.0以上	（北）9.260 ～ 9.370（北西）	北西に畦畔7206、北東に畦畔7207	
水田7211	18H～18I	8.3以上	3.7以上	（北東）9.350 ～ 9.420（南西）	南西に畦畔7207、南東に畦畔7208	

遺構番号	地区	法量(m) 東西	南北	上面の標高(T.P.+m)	畦畔との位置関係	備考
水田7212	18H～18I	5.8以上	4.7以上	(東) 9.320～9.400 (北西)	北西に畦畔7208、北東に大畦7206	

5) 第3面畦畔

遺構番号	地区	方向	法量(m) 下幅	上幅	高さ	検出長	水田との位置関係	備考
畦畔7301	18C	南西－北東 N－33°－E	0.3 ～0.45	0.1 ～0.15	0.04～0.06	1.0	北西に水田7301、南東に水田7302	北東端（畦畔7302との間）は水口
畦畔7302	18C	南西－北東 N－33°－E	0.5 前後	0.25前後	0.04～0.06	0.6	北西に水田7301、南東に水田7302	南西端（畦畔7301との間）は水口
畦畔7303	18C	南東－北西 N－29°－W	0.45～0.5	0.1 ～0.15	0.06	1.45	南西に水田7302、北東に水田7303	
畦畔7304	18D	南西－北東 N－64° E	0.4 ～0.5	0.2 ～0.25	0.06～0.07	1.6	北西に水田7303、南東に水田7304	
畦畔7305	18D～18E	南東－北西 N－42° W	0.55～0.6	0.1 ～0.25	0.03～0.05	2.2	南西に水田7304、北東に水田7305	
畦畔7306	18E	南西－北東 N－46°－E	0.5 ～0.55	0.1 ～0.2	0.06～0.1	1.8	北西に水田7305、南東に水門7306	
畦畔7307	18F	南西－北東 N－43°－E	0.4 ～0.5	0.15～0.2	0.07～0.1	0.8	北西に水田7306、南東に水田7307	北東端（大畦7301との間）は水口
畦畔7308	18H	南東－北西 N－24°－W	0.75～0.9	0.3 ～0.45	0.16～0.18	1.7	南西に水田7309、北東に水田7310	北東端（大畦7301との間）は水口
畦畔7309	18I	南西－北東 N－43°－E	0.4 ～0.5	0.15～0.2	0.05～0.06	1.7	北西に水田7310、南東に水田7311	中央部は水口？
大畦7301	18F	南東－北西 N 52°－W (南西側)	南端の東西 1.9 北端の東西 3.7	南端の東西 0.65 北端の東西 3.1	0.2 ～0.22	1.5 ～2.5	南西に水田7306・水田7307、東に水田7308	東側の辺は南北（N－7°－E）に伸びる、北部では3条の畦畔に分岐する、大畦7204のド部にあたる
大畦7302	18F	南東－北西 N 32°－W (南西側) N－18°－W (北東側)	南端の東西 1.98 北端の東西 2.35	南端の東西 1.2 北端の東西 1.8	0.28～0.37	2.0	南西に水田7308、北東に水田7309	北西側に段をもつ、大畦7205の下部にあたる
大畦7303	18I	南東－北西 N 57°－W (北西側)	0.8 前後 東西端0.48 南東端0.8	0.4 前後 東西端0.23 南東端0.62	0.1 ～0.14	2.5	南西に水田7311、北東に水田7312	南部では2条の畦畔に分かれる、大畦7206の下部

6) 第3面水田

遺構番号	地区	法量(m) 南西－北東	南東－北西	上面の標高(T.P.+m)	畦畔との位置関係	備考
水田7301	18C	1.8 以上	3.0 以上	(西) 8.780～8.800 (東)	南東に畦畔7301・畦畔7302	
水田7302	18C	1.6 (2.5) 以上	1.5 (3.0) 以上	8.800前後	北西に畦畔7301・畦畔7302、北東に畦畔7303	
水田7303	18C～18D	1.65(4.0) 以上	1.5 (5.0) 以上	(東) 8.740～8.810 (西)	南西に畦畔7303、北東に畦畔7304	
水田7304	18D	1.85(3.5) 以上	2.0 (3.4) 以上	(南) 8.710～8.730 (西)	北西に畦畔7304、北東に畦畔7305	
水田7305	18D～18E	1.7 (3.8) 以上	2.4 (4.6) 以上	(西) 8.750～8.850 (東)	南西に畦畔7305、南東に畦畔7306	
水田7306	18E～18F	1.7 以上	3.8 (5.35) 以上	(西) 8.830～8.900 (東)	北西に畦畔7306、南東に畦畔7307、北東に大畦7301	
水田7307	18F	0.9 以上	1.2 以上	(西) 8.880～8.900 (東)	北西に畦畔7307、北東に大畦7301	
水田7308	18F～18G	5.5 前後	2.0 以上	(西) 8.880～9.040 (東)	西～北に大畦7301、北東に大畦7302	
水田7309	18G～18H	5.3 ～5.5	1.7 以上	(東) 8.880～9.000 (西)	南西に大畦7302、北東に畦畔7308	
水田7310	18H～18I	2.8 以上	2.0 以上	(西) 8.860～8.970 (東)	南西に畦畔7308 (溝SD7301)	中央部に溝SD7301

遺構番号	地区	法量（m） 南西 北東	南東－北西	上面の標高(T.P.+m)	畦畔との位置関係	備考
水田7311	18I	1.6（2.3）以上	2.6	（西） 8.940～9.040 （東）	北西に畦畔7309、北－東に大畝7303	
水田7312	19I	0.9 以上	2.1 以上	（西） 9.040～9.090 （東）	南西に大畝7303	

7）第4面遺構

遺構番号	地区	長軸・溝路方向	法量（m） 長径	短径	深さ	検出レベル高(T.P.+m)	備考
SP7401	18E	不明	（東－西） 0.32		0.06	（西） 8.469～8.474 （東）	南部は調査区外へ至る
SP7402	18F	南東－北西 N-27°-W	0.38	0.29	0.06	（南西） 8.560～8.567 （北東）	小穴SP7403を切る
SP7403	18F	南東－北西 N-27° W	0.7	0.45	0.08	（南西） 8.544～8.572 （北東）	小穴SP7402に切られる、南西部に往抜き取り痕？
SP7404	18F	南東－北西 N-27° W	0.18	0.15	0.02～0.03	（南西） 8.558～8.568 （北東）	
SP7405	18F	南東－北西 N-27°-W	（東・西） 0.5 前後		0.05	（南） 8.576～8.596 （北）	北部は調査区外へ至る
SP7406	18G	南東－北西 N-27°-W	0.55以上	0.35	0.05～0.11	8.56 前後	南部は調査区外へ至る
SP7407	18G 18H	南東－北西 N-27°-W	0.83	0.46	0.05～0.09	（東） 8.480～8.547 （西）	小穴SP7406との間隔は2.25m
SD7401	18II 18I	東東・北西 N-34°-W	（南西－北東の幅） 7.5 前後		0.18～0.2	（東） 6.476～8.581 （西）	中央部に高まりを有する

8）第5面畦畔

遺構番号	地区	方向	法量（m） 下幅	上幅	高さ	検出長	水田との位置関係	備考
畦畔7501	18E	南東・北西 N-27°-W	0.6 ～0.9 以上	0.48～0.5 以上	0.04～0.05	1.7	南西に水田7501、北東に水田7502	
畦畔7502	18F	南東・北西 N-26°-W	1.2 ～1.3	0.48～0.5	0.15～0.18	1.8	南西に水田7502、北東に水田7503	
畦畔7503	18H	南東－北西 N-12°-W	1.2 ～1.35	0.45～0.55	0.06～0.12	1.3	西に水田7503、東に水田7504	ほぼ南北に伸びる
畦畔7504	18I	南－北 N-3°-W	1.2 ～1.5 以上	0.5 ～0.85 以上	0.04～0.08	1.2	西に水田7504、東に水田7505	ほぼ南北に伸びる
畦畔7505	18I	南東－北西 N-30°-W	1.2 ～1.3 以上	0.6 ～0.8 以上	0.07前後	1.5 ～1.8	南西に水田7505、北東に水田7506	畦畔7506と接続
畦畔7506	18I	南－北 N-7°-E	0.5 前後	0.12～0.15	0.1 前後	1.0	西に水田7506、東に水田7507	畦畔7505と接続、ほぼ東北に伸びる

9）第5面水田一覧

遺構番号	地区	法量（m） 東西－北東	南東－北西	上面の標高(T.P.+m)	畦畔との位置関係	備考
水田7501	18D～18E	（13.0）以上	1.2 以上	（南西）8.120～8.310（北東）	東側に畦畔7501	
水田7502	18K～18F	（8.8）以上	1.8 以上	（西） 8.280～8.360 （東）	西側に畦畔7501、東側に畦畔7502	西端は畦畔7502に沿って曲る
水田7503	18F～18H	東西 18.8～20.0	南北 1.2 ～1.5	（東） 8.330～8.400 （西）	西側に畦畔7502、東側に畦畔7503	
水田7504	18H～18I	東西 1.6～ 1.8	南北 1.3 以上	8.380前後	西側に畦畔7503、東側に畦畔7504	
水田7505	18I	東西 3.2～ 3.8	南北 1.3 以上	（西） 8.350～8.420 （東）	西側に畦畔7504、東側に畦畔7505	
水田7506	18I	東西 0.9以上	南北 0.45以上	8.400前後	西側に畦畔7505、東側に畦畔7506	
水田7507	18I	東西 0.4以上	南北 1.15以上	（西） 8.400～8.470 （東）	西に畦畔7506	

第2節　出土遺物一覧表

1）第1調査区

番号	器種	出土地点	法量（cm）	特徴	図版番号	備考
1001	土師器小皿	14B区 103層	口　径　10.2 器　高　1.1	ナデ、ヨコナデ		
1002	瓦器椀	14B 103	口　径　14.9	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（粗）		

2）第2調査区

番号	器種	出土地点	法量（cm）	特徴	図版番号	備考
2001	土師器小皿	14I区 203a層	口　径　8.8 器　高　1.1	ナデ、ヨコナデ		
2002		14H 203	口　径　8.8 器　高　1.1	ナデ、ヨコナデ		
2003		14H 203	口　径　10.6	ナデ、ヨコナデ		灯芯油痕あり
2004		14I 203	口　径　9.6	ケズリ、ナデ、ヨコナデ		灯芯油痕あり
2005		14H 203	口　径　10.2	ヨコナデ		
2006		14H 203	口　径　11.7	ナデ、ヨコナデ		
2007	土師器皿	14I 203b	口　径　14.0	ヨコナデ		
2008		14I 203b	口　径　13.8	ナデ、ヨコナデ		
2009		14I 203b	口　径　14.8	ケズリ、ナデ、ヨコナデ		
2010		14H 203	口　径　15.2	ナデ、ヨコナデ		
2011		14I 203b	口　径　15.8	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
2012		14I 203b	口　径　17.4	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
2013	瓦器小皿	14H 203	口　径　8.9	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（密）		
2014	瓦器椀	14H 203	口　径　12.2	指おさえ、ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（粗）		
2015		14H 203b	口　径　15.0	指おさえ、ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（粗）		
2016		14I 203	口　径　15.0	ケズリ、ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（粗）		
2017		14I 203b	口　径　17.0	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（密）		
2018		14I 203b	高台径　6.0 高台高　1.0	ナデ、外面ヘラミガキ（密）		
2019		14I 203b	高台径　6.8 高台高　0.5	ナデ、ヘラミガキ（密）		
2020	白磁碗	14I 203b	高台径　6.8 高台高　0.6	カンナ削り、外面～外底面露胎 見込みに沈線	五二	

3）第3調査区

番号	器種	出土地点	法量（cm）	特徴	図版番号	備考
3001	土師器小皿	2C区 305層	口　径　8.5	ナデ、ヨコナデ		灯芯油痕あり
3002		2C 305	口　径　9.2 器　高　1.6	指おさえ・ケズリ後ナデ・ヨコナデ		灯芯油痕あり
3003	瓦器椀	2C 305	口　径　14.8 器　高	指おさえ、ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（粗）粗		
3004		2C 305	高台径　5.8 高台高　0.5	ナデ、見込みに格子状ヘラミガキ（密）		

4）第4調査区

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	特徴	図版番号	備考
4001	土師器杯	10G区 409 層	口 径 9.9	ナデ、ヨコナデ、内面暗文状ヘラミガキ（放射状）		
4002		10D 408	口 径 11.3	ナデ、ヨコナデ		
4003		10G 409	口 径 12.9	ナデ、ヨコナデ、内面暗文状ヘラミガキ（放射状）		
4004		10B 408	口 径 19.0	ナデ、ヨコナデ、内面暗文状ヘラミガキ（平行線）		
4005		11C 408	底 径 15.8	ナデ、ヨコナデ、内面暗文状ヘラミガキ（体部放射状底部螺旋）		
4006		11F 408	－	ナデ、ヨコナデ、内面暗文状ヘラミガキ（2段の平行線）		
4007		10G 409	－	ナデ、ヨコナデ、内面暗文状ヘラミガキ（平行線）		内面に煤付着
4008		11C 408	口 径 20.1	ヘラケズリ、ヨコナデ		報製
4009	土師器甕	11D 408	口 径 20.9	ヨコナデ		
4010		10D 409	口 径 22.7	ヘラケズリ、ハケ、ヨコナデ		
4011		10G 409	口 径 33.0	ナデ、ヨコナデ		
4012	土師器小皿	11G 408	口 径 7.2	ナデ、ヨコナデ		
4013		10G 408	口 径 9.6	ナデ、ヨコナデ		
4014		11F 408	口 径 9.7	ナデ、ヨコナデ		
4015		11G 408	口 径 10.9	ナデ、ヨコナデ		
4016		11D 408	口 径 9.3 器 高 1.3	ナデ、ヨコナデ		
4017		11G 408	口 径 9.5 器 高 1.3	ナデ、ヨコナデ	五二	
4018		10D 408	口 径 8.0 器 高 0.9	ナデ、ヨコナデ	五二	
4019		11F 408	口 径 8.2 器 高 0.9	ナデ、ヨコナデ	五二	
4020		10D 408	口 径 9.7	ナデ、ヨコナデ	五二	
4021		11F 408	口 径 9.5 器 高 1.0	ナデ、ヨコナデ		
4022		10C 408	口 径 11.2	ナデ、ヨコナデ		
4023		10D 408	口 径 11.8 器 高 1.3	ナデ、ヨコナデ		
4024		11D 408	口 径 7.9 器 高 1.1	ナデ、ヨコナデ		
4025		11D 408	口 径 8.0	ナデ、ヨコナデ		
4026		11F 408	口 径 7.7 1.3	ナデ、ヨコナデ		
4027		10D 408	口 径 8.9 1.7	ナデ、ヨコナデ	五二	
4028		11E 408	口 径 9.7 器 高 1.9	ナデ、ヨコナデ	五二	
4029		10B 408	口 径 9.9 器 高 1.7	ナデ、ヨコナデ	五二	
4030		11C 408	口 径 7.7	ナデ、ヨコナデ		

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	特徴	図版番号	備考
4031	土師器小皿	10D区 408 埋	口 径 7.9 器 高 1.6	ナデ、ヨコナデ		
4032		10B 408	口 径 8.5	ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ		
4033		11E 408	口 径 10.0 器 高 2.1	ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ	五二	
4034		11G 408	口 径 10.0	ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ		
4035		10G 408	口 径 9.9	ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ		
4036	土師器皿	11G 408	口 径 12.9	ナデ、ヨコナデ		
4037		10F 409	口 径 14.2	ナデ、ヨコナデ		
4038		10C 408	口 径 14.1	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
4039		11E 408	口 径 14.0	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
4040		10B 408	口 径 15.1	指おさえ、ナデ、2段のヨコナデ		
4041		10C 408	口 径 15.1	ナデ、ヨコナデ		
4042		11G 408	口 径 16.3	ナデ、ヨコナデ		
4043		11G 408	口 径 16.7	ナデ、ヨコナデ		
4044		11E 408	口 径 15.0	ナデ、指おさえ、2段のヨコナデ		
4045		10E 408	口 径 15.5	ナデ、ヨコナデ		
4046		10G 408	口 径 15.3	指おさえ、ナデ、2段のヨコナデ		
4047		11D 408	口 径 15.3	ナデ、2段のヨコナデ		
4048		11G 408	口 径 14.1	指おさえ、ナデ、2段のヨコナデ		
4049		11G 408	口 径 15.0	ナデ、2段のヨコナデ		
4050		11D 408	口 径 15.6	指おさえ、ナデ、2段のヨコナデ		
4051		11G 408	口 径 15.8	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		内面漆付着
4052		10G 408	口 径 16.2	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
4053		11F 408	口 径 16.6	ナデ、ヨコナデ		
4054		11G 408	口 径 16.5	指おさえ、ナデ、2段のヨコナデ		
4055		11G 408	口 径 18.1	指おさえ、ナデ、2段のヨコナデ		
4056		11G 408	口 径 19.1	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
4057	土師器小型高杯	10G 409	脚 径 4.3	手づくね、ナデ、ヨコナデ		
4058		10F 409	脚 径 4.3	手づくね、ナデ、ヨコナデ		
4059	土師器羽釜	10D 408		ナデ、ヨコナデ		内面に煤付着
4060	須恵器外蓋	10F	口 径 12.5	回転ケズリ、回転ナデ		外面灰かぶり

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	特徴	図版番号	備考
4061	須恵器杯蓋	10F区 409 層	口 径 13.0	回転ケズリ、回転ナデ		
4062		10E 408	口 径 14.0	回転ケズリ、回転ナデ		
4063		11E 408	口 径 9.3 器 高 3.0	回転ケズリ、回転ナデ	十二	
4064	須恵器杯身	10C 408	口 径 3.9	回転ケズリ、回転ナデ		外面灰かぶり
4065		10D 408	口 径 3.3	回転ケズリ、回転ナデ		
4066	須恵器器台	11E 408	最 径 24.2	回転ナデ 波状文4本、0.5cm		
4067	須恵器短頸壺	10E 408	口 径 8.9	回転ナデ		
4068	須恵器広口壺	10G 408	口 径 9.4	回転ナデ		内面灰かぶり
4069	須恵器長頸壺	11D 408		回転ナデ、カキ目		
4070	須恵器小型壺	11E 408	口 径 4.4 器 高 6.7	回転ケズリ、回転ナデ	五	
4071	須恵器提瓶	11D 408	最大径 13.9	回転ナデ、カキ目		
4072	須恵壺蓋	10C 409	口 径 19.5	回転ナデ		灰かぶり
4073		10C 408	口 径 21.0	回転ナデ		灰かぶり
4074		10F 409	口 径 21.2	回転ナデ、タタキ		
4075		11B 408	口 径 21.8	回転ナデ 頂部に沈線		
4076		10K 408	口 径 22.8	回転ナデ		自然釉
4077	黒色土器椀	10D 408	口 径 12.6	ヨコナデ		A類
4078		10G 408	口 径 15.2	ヨコナデ、外面ヘラミガキ（粗）		B類
4079	黒色土器鉢	11G 408	高台径 13.8 高台径 0.3	ヨコナデ、畝文状ヘラミガキ		A類
4080	瓦器小皿	11G 408	口 径 7.7	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（外面粗・内面密）		
4081		10G 408	口 径 8.0	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（内面体部斜・見込み密な格子状）		
4082		10E 408	口 径 9.5 器 高 2.2	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（体部斜・見込み粗い格子状）		
4083	瓦器椀	10D 408	口 径 13.7	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（密）		
4084		11G 408	口 径 14.8	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（密）		
4085		10K 408	口 径 13.9	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（外面粗・内面密）		
4086		10E 408	口 径 15.0	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（外面やや粗・内面密）		
4087		10B 408	高台径 5.6 高台高 0.8	高台周囲ナデ		煤付着
4088		11B 408	高台径 5.9 高台高 0.8	高台周囲ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ（内面粗）		
4089		11E 408	高台径 7.7 高台高 0.7	高台周囲ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ（内面密）		
4090		11B 408	高台径 6.5 高台高 0.9	高台周囲ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ（内面密）		

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	特徴	図版番号	備考
4091	瓦器椀	11D区 408 層	高台径 6.2 高台高 1.0	ナデ、ヨコナデ、内面ヘラミガキ（粗）		
4092		10C 408	高台径 7.0 高台高 1.0	ナデ、ヨコナデ、内面ヘラミガキ（粗）		
4093		11D 408	高台径 5.9 高台高 0.9	ナデ、ヨコナデ、内面ヘラミガキ（粗）		
4094		11C 408	高台径 6.2 高台高 0.9	ナデ、ヨコナデ、内面ヘラミガキ（粗）高台裏に「×」印		
4095	土師皿	10G 413	口 径 13.5	ヘラケズリ、ヨコナデ		
4096	土師器（古）甕	11G 413	口 径 7.5	ヨコナデ		
4097	土師器（古）高杯	11G 412	口 径 13.8	ハケ、ヨコナデ、内面放射状ヘラミガキ		
4098	土師器（古）甕	11G 412	口 径 19.5	ハケ、ヨコナデ		
4099	須恵器杯身	10G 412	口 径 14.6	回転ナデ		外面灰かぶり
4100		11E 412	口 径 12.4	回転ナデ		外面灰かぶり
4101	土師器杯	11E 412	口 径 10.3 器 高 3.6	ナデ、ヨコナデ、内面放射状ヘラミガキ	五一	
4102		11B 412	口 径 10.6 器 高 3.6	ナデ、ヨコナデ、内面放射状ヘラミガキ	九二	
4103		10F 413	口 径 13.4	ナデ、ヨコナデ		
4104		11D 412		ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ外面（横）、内面（縦）		
4105	叩き石	11B 412	長 径 13.5 短 径 9.6	周縁に使用痕	五三	
4106	土師器（古） 直口壺	10G Hトレンチ 417	口 径 12.9	ヨコナデ		
4107	布留式甕	10G Hトレンチ 417	口 径 14.9	ヨコナデ		

5）第5調査区

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	特徴	図版番号	備考
5001	土師器小皿	7E 509	口 径 9.1	ナデ、ヨコナデ		
5002	土師器皿	7G 509	口 径 13.2	ナデ、ヨコナデ		
5003		7D 509	口 径 14.5	ナデ、2段のヨコナデ		
5004		7D 509	口 径 14.5	ナデ、ヨコナデ		
5005		7F区 509 層	口 径 16.5	ナデ、ヨコナデ		
5006		7F 509	口 径 17.7	ナデ、ヨコナデ		
5007	瓦器椀	7D 509	口 径 12.1	ナデ、ヨコナデ、外面ヘラミガキ（粗）		
5008		7C 509	口 径 12.7	指おさえ、ナデ、ヨコナデ、外面ヘラミガキ（粗）		
5009	須恵器杯蓋	7C区 509 層	口 径 17.5	回転削り、回転ナデ		
5010	須恵器杯身	7C 509	口 径 15.0	回転ナデ		外面灰かぶり

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	特徴	図版番号	備考
5011	須恵器蓋	7D 509	口 径 19.5	回転ナデ		
5012	土師器甕	7E 509	口 径 14.0	指ナデ、ハケ、ヨコナデ		
5013	土師器杯	7D 509	口 径 12.0	ナデ、ヨコナデ		
5014		7G 509	口 径 －	ナデ、ヨコナデ、内面放射状ヘラミガキ		
5015	土師器高台椀	7C 516	口 径 22.5	ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ		
5016	土師器小型壺	7E 516	口 径 9.0	ナデ、ヨコナデ		
5017	土師器甕	7C 516	口 径 11.8	ナデ、ヨコナデ、ハケ		煤付着
5018		7D 516	口 径 15.6	ナデ、ヨコナデ、ハケ	九四	
5019		7D 516	口 径 15.5	ナデ、ヨコナデ、ハケ		
5020		7E 516	口 径 19.8	ナデ、ヨコナデ		
5021		7E 516	口 径 23.2	ハケ、ヨコナデ		
5022		7E 516	口 径 28.0	ナデ、ヨコナデ、ハケ		
5023	土師器杯	7E 516	口 径 10.0	ナデ、ヨコナデ、内面放射状ヘラミガキ	五三	
5024		7E 516	口 径 11.7 器 高 4.4	指おさえ、ナデ、ヨコナデ、内面放射状ヘラミガキ	五三	底部に木葉痕
5025		7G 516	口 径 11.8	ナデ、ヨコナデ、内面放射状ヘラミガキ		
5026		7G 516	口 径 12.0	ナデ、ヨコナデ		
5027		7G 516	口 径 12.3	ナデ、ヨコナデ		
5028		7G 516	口 径 9.7	ナデ、ヨコナデ、内面放射状ヘラミガキ		
5029		7C 516	口 径 10.1	ナデ、ヨコナデ、内面放射状ヘラミガキ		
5030		7C 516	口 径 10.9	ナデ、ヨコナデ		
5031		7C 516	口 径 12.0	ナデ、ヨコナデ、内面放射状ヘラミガキ		
5032	土師器鉢	7D 516	高台径 8.4 高台高 0.7	ナデ、ヨコナデ、内面放射状ヘラミガキ		
5033	土師器杯	7G 516	口 径 17.4 6.6	ナデ、ヨコナデ、内面放射状ヘラミガキ		
5034	土師器高杯	7D 516	口 径 17.2	ナデ、ヨコナデ、内面放射状ヘラミガキ	五三	
5035	土師器鉢	7E 516	口 径 17.4	ナデ、ヨコナデ、外面ヘラミガキ		
5036		7E 516	口 径 16.2	ナデ、ヨコナデ、外面ヘラミガキ		
5037	須恵器杯蓋	7E	口 径 12.0	回転ケズリ、回転ナデ		
5038		7C 516	口 径 12.8	回転ケズリ、回転ナデ		
5039		7E	口 径 13.3	回転ケズリ、回転ナデ		
5040	須恵器杯身	7E 516	口 径 11.6	回転ケズリ、回転ナデ		

番号	器種	出土地点	法量（cm）	特徴	図版番号	備考
5041	須恵器杯身	7 K区 516 層	口 径 12.9	回転ケズリ、回転ナデ		煤付着
5042		7 F 516	口 径 12.3	回転ケズリ、回転ナデ		
5043		7 G 516	口 径 10.0 器 高 2.8	回転ケズリ、回転ナデ、静止ナデ、ヘラ切り 外底面にヘラ描き「×」印	五六	
5044		7 G 516	口 径 7.9	回転ケズリ、回転ナデ		灰かぶり
5045		7 F 516	口 径 8.6	回転ケズリ、回転ナデ、ヘラ切り	六四	灰かぶり
5046		7 G 516	口 径 13.3 器 高 3.5	回転ケズリ、回転ナデ、静止ナデ、ヘラ切り	五四	
5047		7 F 516	高台径 10.6 高台高 0.8	回転ケズリ、回転ナデ		灰かぶり
5048	須恵器壺	7 G 516	口 径 9.3	回転ナデ		灰かぶり
5049		7 E 516	口 径 12.7	回転ナデ		灰かぶり
5050	須恵器横瓶	7 G 516	最大径 20.3	回転ナデ、カキ目		灰かぶり
5051	須恵器甕	7 E 516	口 径 21.5	回転ナデ		灰かぶり
5052		7 E 516	口 径 20.5	回転ナデ		
5053	須恵器短頸壺	7 C 516	口 径 11.3	回転ケズリ、回転ナデ	五四	
5054	須恵器杯蓋	7 F 溝SD5201	口 径 15.4	回転ケズリ、回転ナデ	六四	灰かぶり
5055		7 F 溝SD5201	口 径 12.9	回転ケズリ、回転ナデ		外面に煤付着
5056	布留式甕	7 F 溝SD5201	口 径 13.2	ヨコナデ		
5057	土師器杯	7 F 溝SD5201	口 径 10.8	ナデ、ヨコナデ		

6）第6調査区

番号	器種	出土地点	法量（cm）	特徴	図版番号	備考
6001	土師器小皿	3 C～4 C区 610 層	口 径 7.8	ナデ、ヨコナデ		
6002		3 C～4 C 610	口 径 7.9	ナデ、ヨコナデ		
6003		3 D～4 D 610	口 径 8.4 器 高 1.3	ナデ、ヨコナデ		
6004		3 B 611	口 径 9.4 器 高 1.5	ナデ、ヨコナデ		
6005		3 D 611	口 径 0.4	ナデ、ヨコナデ		
6006		3 D～4 D 611	口 径 9.4	ナデ、ヨコナデ		
6007		3 B～4 B 610	口 径 7.8 器 高 1.3	ナデ、ヨコナデ		
6008		3 D～4 D 610	口 径 8.0 器 高 1.3	ナデ、ヨコナデ		底部糸切痕
6009		3 D～4 D 610	口 径 9.9	ナデ、ヨコナデ		
6010		4 C 611	口 径 0.4	ナデ、ヨコナデ		

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	特徴	図版番号	備考
6011	土師器小皿	3C区 611 層	口 径 7.7	ナデ、ヨコナデ		
6012		3D～4D 610	口 径 7.8	ナデ、ヨコナデ		
6013	土師器皿	3B～4B 610	口 径 9.8	ナデ、ヨコナデ		
6014		3B～4B 610	口 径 10.0	ナデ、2段のヨコナデ		
6015		3D 611	口 径 11.9	ナデ、2段のヨコナデ		
6016		4C 611	口 径 13.2	ナデ、2段のヨコナデ		
6017		3D～4D 610	口 径 14.2	ナデ、ヨコナデ		
6018		3D～4D 610	口 径 14.8	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
6019		3B 611	口 径 15.3	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
6020		3D～4D 610	口 径 15.0	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
6021		3D～4D 610	口 径 15.1	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
6022		3B～4B 610	口 径 13.1 器 高 1.7	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		煤付着
6023		3D～4D 610	口 径 14.4	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
6024		3D～4D 610	口 径 15.8	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
6025		3C 611	口 径 13.9	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
6026		3D～4D 610	口 径 13.3	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
6027		4K 611	口 径 14.2 器 高 2.8	指おさえ、ナデ、ヨコナデ	五四	
6028		3D～4D 610	口 径 14.8	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
6029		4E 611	口 径 15.9	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		外面煤付着
6030		3D 611	口 径 16.0 器 高 1.5	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
6031	瓦器椀	3B 611	口 径 14.5	ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（内外面粗、見込み格子状）		
6032		3B～4B 610	高台径 6.6 高台高 0.6	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（見込み格子状）		
6033		3D～4D 610	高台径 5.7 高台高 0.6	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（見込み格子状）		
6034	土師器小型甕	3D 615	口 径 8.1 器 高 4.8	ナデ、ヨコナデ	五五	
6035		3B～4B 616	口 径 8.3	ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ	五五	
6036	土師器小型甕	3C 615	口 径 10.4	指おさえ、ナデ、ヨコナデ	五五	
6037	土師器甕	3B～4B 616	口 径 13.2	ナデ、ヨコナデ		
6038		3B～4B 615	口 径 12.8	ハケ、ヨコナデ		
6039	土師器甕	4C 616	口 径 16.2	ヘラケズリ、ヨコナデ	五四	
6040		4C 616	口 径 18.0	ナデ、ヨコナデ	五四	

番号	器種	出土地点	法量（cm）	特徴	図版番号	備考
6041	土師器杯	4C区 616 層	口 径 9.8	ナデ、ヨコナデ		
6042		4C 615	口 径 10.2	ナデ、ヨコナデ		
6043		3E 615	口 径 12.8	指押さえ、ナデ、ヨコナデ		
6044		4C 616	口 径 16.2	ヨコナデ		
6045		3E 615	口 径 17.8	指押さえ、ナデ、ヨコナデ		
6046	須恵器杯蓋	3C 615	口 径 10.1	回転ケズリ、回転ナデ		
6047	須恵器杯身	4C 616	受部径 10.0	回転ケズリ、回転ナデ		
6048	須恵器蓋	4C 616	口 径 13.0	回転ナデ	五四	内面灰かぶり
6049	須恵器蓋	4C 616	口 径 16.2	タタキ、回転ナデ	五五	
6050	須恵器杯身	4C 616	高台径 9.4 高台高 0.5	回転ナデ		
6051	弥生土器（中期） 小型壺	Iトレンチ 625	口 径 9.8 器 高 9.5	ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ	五五	復付着
6052	弥生土器（中期） 壺	Iトレンチ 624	底 径 6.8	ヘラミガキ、ナデ、ヨコナデ		煤付着
6053	弥生土器（中期） 壺	Iトレンチ 624	底 径 6.8	ナデ、ヘラミガキ		煤付着
6054	弥生土器（後期） 鉢	Iトレンチ 624	口 径 11.6 器 高 5.8	指おさえ、ナデ、ヨコナデ	五五	
6055	土師器 小型丸底壺	Iトレンチ 623	最大径 7.8 現存高 5.0	ヘラケズリ、ナデ	五五	

7）第7調査区

番号	器種	出土地点	法量（cm）	特徴	図版番号	備考
7001	須恵器杯蓋	18D区 704 層	口 径 11.2	回転ケズリ、回転ナデ		外面灰かぶり
7002	須恵器杯身	18II 704	口 径 11.6	回転ケズリ、回転ナデ		外面受部以下灰かぶり
7003	須恵器蓋	18I～18J 704	口 径 4.5	回転ナデ		外面灰かぶり
7004	須恵器杯	18I～18J 704	高台径 12.0 高台高 0.7	回転ケズリ、回転ナデ、静止ナデ		
7005	土師器小皿	18F 704	口 径 8.2 器 高 1.1	指おさえ、ナデ、ヨコナデ		
7006		18I～18J 704	口 径 8.6 器 高 1.2	ナデ、ヨコナデ		
7007		18E 704	口 径 7.9 器 高 1.5	ナデ、ヨコナデ		
7008		18I～18J 704	口 径 9.7 器 高 1.2	ナデ、ヨコナデ		
7009		18I～18J 704	口 径 6.9 器 高 1.2	ナデ、2段のヨコナデ		
7010		18II 704	口 径 7.3 器 高 1.1	ナデ、2段のヨコナデ		

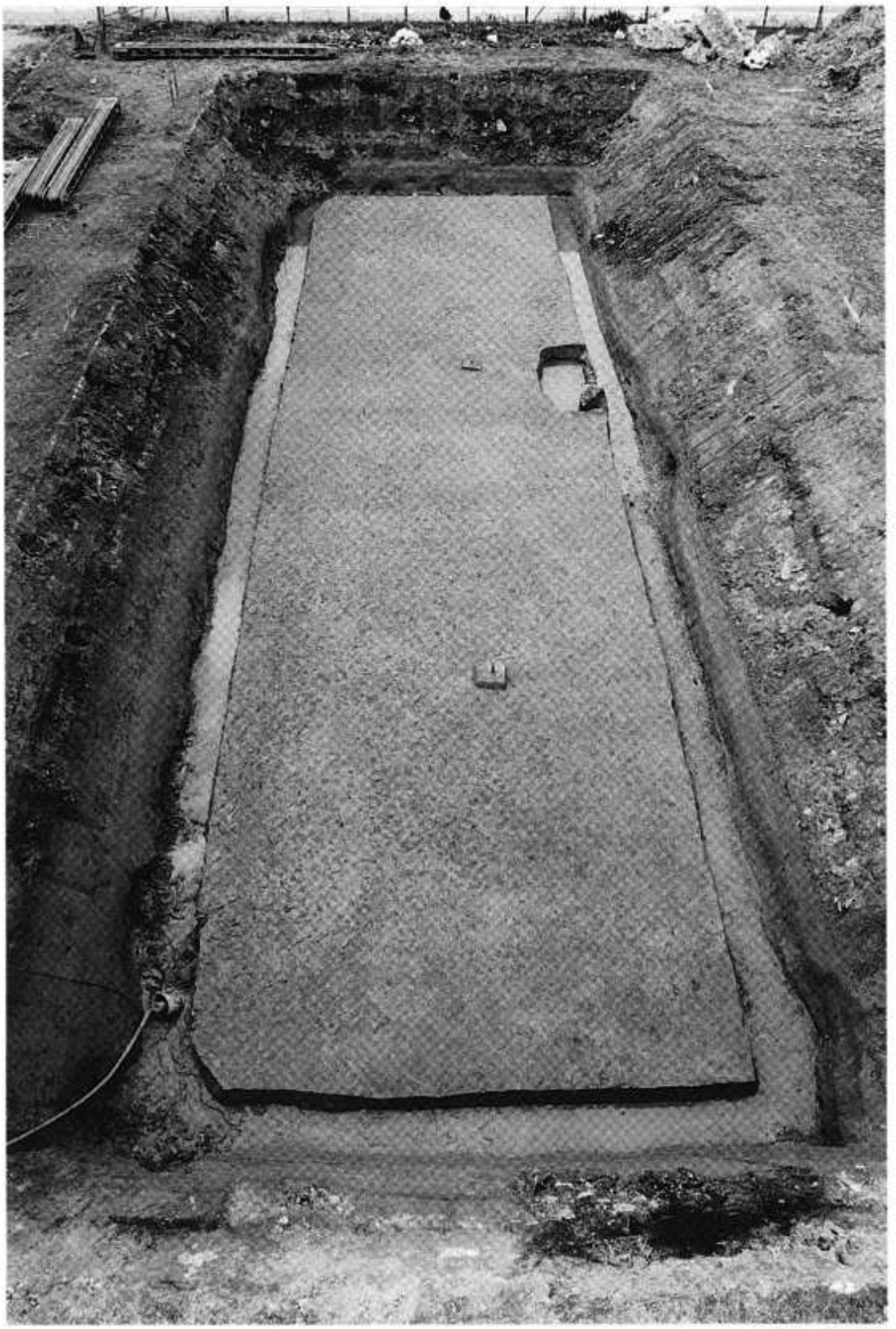
番号	器種	出土地点	法量 (cm)	特徴	図版番号	備考
7011	土師器小皿	18E区 704 覆	口 径 8.0 器 高	ナデ、2段のヨコナデ		
7012		18D 704	口 径 8.8 器 高	ナデ、2段のヨコナデ		灯芯油痕
7013		18I～18J 704	口 径 6.9 器 高 1.1	ナデ、2段のヨコナデ		
7014		18I～18J 704	口 径 7.7 器 高 1.1	ナデ、ヨコナデ		
7015		18I～18J 704	口 径 8.0 器 高 1.1	ナデ、ヨコナデ		灯芯油痕
7016		18I～18J 704	口 径 9.2	ナデ、ヨコナデ		
7017	土師器鉢	18E 704	口 径 12.9	ナデ、ヨコナデ		
7018		18E 704	口 径 12.9	ナデ、ヨコナデ		内面に煤付着
7019	瓦器小皿	18I～18J 704	口 径 9.0	ナデ、ヨコナデ		
7020	瓦器椀	18I～18J 704	口 径 14.7	指おさえ、ヨコナデ、ヘラミガキの痕跡		
7021		18D 704	口 径 14.9	指おさえ、ヨコナデ、ヘラミガキの痕跡		
7022		18I～18J 704	口 径 15.9	ナデ、ヨコナデ		
7023		18I～18J 704	口 径 16.4	指おさえ、ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（粗）		
7024		18I～18J 704	口 径 14.2	指おさえ、ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（粗）		
7025		18E 704	口 径 13.8	指おさえ、ヨコナデ、ヘラミガキの痕跡		
7026		18H～18I 704	口 径 13.0	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（粗）		
7027		18H～18I 704	口 径 10.9	指おさえ、ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（粗）		
7028		18H～18I 704	高台径 4.9 高台高 0.2	ヨコナデ		
7029		18I 704	高台径 6.5 高台高 0.3	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（粗）		
7030		18D 704	高台径 5.2 高台高 0.5	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキの痕跡		
7031		18E 704	高台径 4.6 高台高 0.4	指おさえ、ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（粗）		内面に煤付着
7032		18E 704	高台径 5.4 高台高 0.1	ヨコナデ		
7033	白磁椀	704	高台径 6.6 高台高 0.6	カンナケズリ 見込みに沈線、側面～外底面露胎		
7034	土錘（三郎貫）	704	長 さ 7.7 最大径 2.5	手ずくね		
7035	須恵器杯蓋	18G 706	口 径 14.8	回転ナデ		
7036	土師器杯	18H～18I 706	口 径 18.5	ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ、放射状ヘラミガキ		
7037		18H 706	口 径 20.0	ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ、放射状ヘラミガキ		
7038	土師器小皿	18E 706	口 径 9.7	ナデ、ヨコナデ		
7039	瓦器椀	18C 706	口 径 14.5	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（粗）		
7040	平瓦	18C 706	現存長 7.6 厚 さ 1.9	芯面 布目 5×6 / 1cm 凸面 タタキ目 3条 / 1cm		

番号	器種	出土地点	法量（cm）	特徴	図版番号	備考
7041	須恵器短頸壺	18H～18I区 708A層	口 径 7.9	回転削り、回転ナデ	五六	
7042	須恵器甕	大畦7203 710C	口 径 15.0	回転ナデ 口縁外端面にヘラ描き波状文	五六	大畦7203の供献土器
7043		大畦7203 710C	最大径 9.3 現存高 10.8	回転ケズリ、回転ナデ、頸部と肩部に凹線文・列点文 孔径 1.4cm	五六	大畦7203の供献土器
7044	須恵器壺	大畦7203 710C・H	口 径 16.5 現存高 24.4	タタキ（外面平行・内面同心円）回転ナデ、静止ナデ 口縁部打ち欠く、口頸部・体部で分散	五六	大畦7203の供献土器
7045	土師器杯	18D 714	口 径 10.5 器 高 4.1	ナデ、ヨコナデ	五六	床土直上面
7046	須恵器壺	大畦7301 中層717B	口 径 10.9	回転ナデ		
7047	須恵器杯身	大畦7301 中層717B	口 径 10.4 現存高 4.3	回転ケズリ、回転ナデ		
7048		大畦7301 中層717B	口 径 11.7 現存高 5.0	回転ケズリ、回転ナデ 外底面にヘラ描き	五六	
7049	土師器甕	大畦7301 中層717B	口 径 12.5	ヘラケズリ、ヘラミガキ、ヨコナデ		
7050	布留式甕	大畦7301 中層 718	口 径 13.7 器 高 22.1	指おさえ、ヘラケズリ、ナデ、ハケ、ヨコナデ 肩部にヘラ先の圧痕（3個）	五六	煤付着
7051	庄内甕	大畦7301 中層 718	口 径 14.2	ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ、タタキ（右上り）、ハケ		
7052		大畦7301 中層 718	口 径 18.3	ヘラケズリ、ナデ、タタキ（左上り）、ハケ		外面に煤付着
7053	V様式系甕	大畦7301 中層 718	底 径 3.2	ヘラケズリ、ナデ、タタキ（水平～右上り）		
7054	土師器（古） 小型丸底壺	18F 719層	口 径 6.9	ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ		
7055	土師器（古） 小型器台	18G～18F 719層	口 径 9.7	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（外底横・内面放射状）		
7056		18E 719層	胴 径 11.2	絞り、ハケ、ヘラによる面取り、ナデ、ヨコナデ		
7057	土師器（古）高杯	18E 719層	杯底径 9.2	杯部外底面ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ		
7058		18K 719層	器 径 16.9	ナデ、ヨコナデ		
7059		18G 719層	口 径 20.8	ナデ、ヨコナデ 1孔残存		
7060	土師器 （古）鉢	18G 719層	口 径 13.7	ナデ、ヨコナデ、ハケの痕跡		
7061		18F～18G 719層	口 径 14.4	ヘラケズリ、ヨコナデ 口縁部に凹線		
7062	庄内甕	18E 719層	口 径 18.8	ヘラケズリ、ヨコナデ		
7063	土師器（古） 広口壺	18F 719層	口 径 34.9	指おさえ、ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ 口縁端部に4条の凹線、円形浮文		内面に煤付着
7064	土師器（古） 壺	18F 719層	頸部径 7.1～7.6	指おさえ、ハケ、ナデ		
7065		18G 719層	頸部径 12.4	指おさえ、ハケ、ナデ 頸基部に貼り付け突帯1条		
7066		18F 719層	底 径 5.3	指おさえ、ヘラケズリ、ナデ		
7067		18F 719層	底 径 5.8	ナデ、タタキの痕跡		
7068		18F～18G 719層	底 径 5.5	ナデ、タタキの痕跡		外底面に板の圧痕
7069		18F 719層	底 径 4.8	ナデ		
7070	土師器（古）鉢	18F 719層	底 径 4.0	指おさえ、ナデ		

番号	器種	出土地点	法量（cm）	特徴	図版番号	備考
7071	土師器（古）甕	18F区 719層	口 径 15.8	ヨコナデ		
7072		18F 719層	口 径 16.8	ヨコナデ		
7073		18G 719層	口 径 19.0	ヨコナデ		
7074		18E 719層	口 径 18.0	ナデ、ヨコナデ、ハケ、タタキ		
7075		18F～18G 719層	底 径 4.9	ナデ、ハケ、タタキ（右上り）		
7076	土師器（古）高杯	18G 719層	口 径 11.2	ヨコナデ、ヘラミガキ		
7077		18G 719層	基部径 3.1	絞り目、ヘラミガキ 1孔残存		
7078		18F 719層	脚 径 11.4	ヨコナデ、ヘラミガキ 1孔残存		
7079		18G 719層	脚 径 12.3	ナデ、ヨコナデ 1孔残存		
7080		18F 719層	脚 径 14.4	ヨコナデ、ヘラミガキ（外面放射状） 1孔残存		
7081		18G 719層	脚 径 16.0	ヘラケズリ、ヨコナデ、ヘラミガキ（外面放射状） 1孔残存		
7082	土師器（古） 大型壺	18F 719層	頸部径 24.9	ナデ、ヨコナデ、ハケ 頸基部に貼り付け突帯、突帯以間に赤色顔料		
7083	弥生土器（Ⅲ） 大型壺	18F 719層	口 径 41.8	ヨコナデ、ヘラミガキ 口縁端面に刺突文		
7084	弥生土器（V）～ V様式系 広口壺	18F区 721層	口 径 12.6	指おさえ、ナデ、ハケ、ヨコナデ	五七	
7085		18G 721層	口 径 15.8	ナデ、ヨコナデ		
7086	弥生土器（V）～ V様式系 小型鉢	18G 721層	口 径 11.3 器 高 4.9	ナデ、ヨコナデ、タタキ（右上り） 穿孔1	五七	
7087	弥生土器（V）～ V様式系 甕	18E 721層	底 径 3.8	タタキ（右上り）、ナデ		
7088	庄内甕	18F 721層	口 径 15.6	ヘラケズリ、タタキ（右上り）、ハケ、ヨコナデ	五七	内外面に煤付着
7089	砥石	18H 721層	現存長 12.3 厚 さ 1.6	両面、側縁に使用痕あり	五七	

図　　版

図版一　第1調査区



全景（東から）

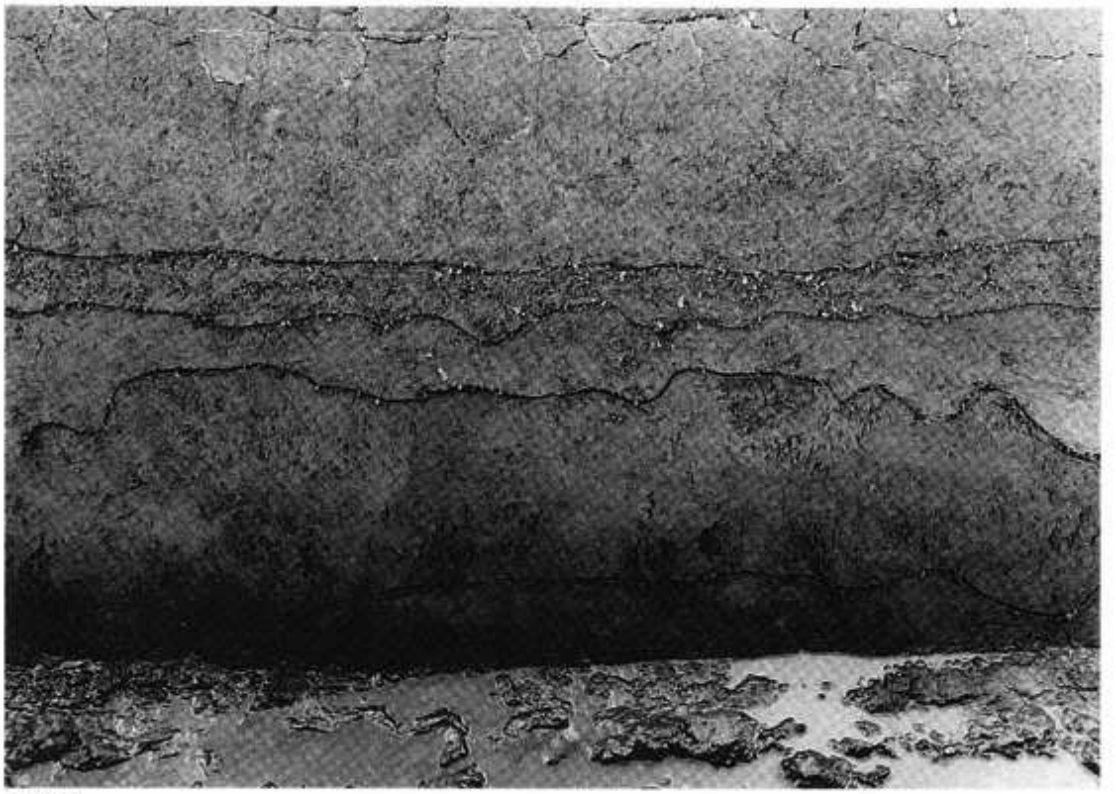
全景（東から）

畦畔2102(南から)

同北壁

図版四　第2調査区

畦畔2102(南から)

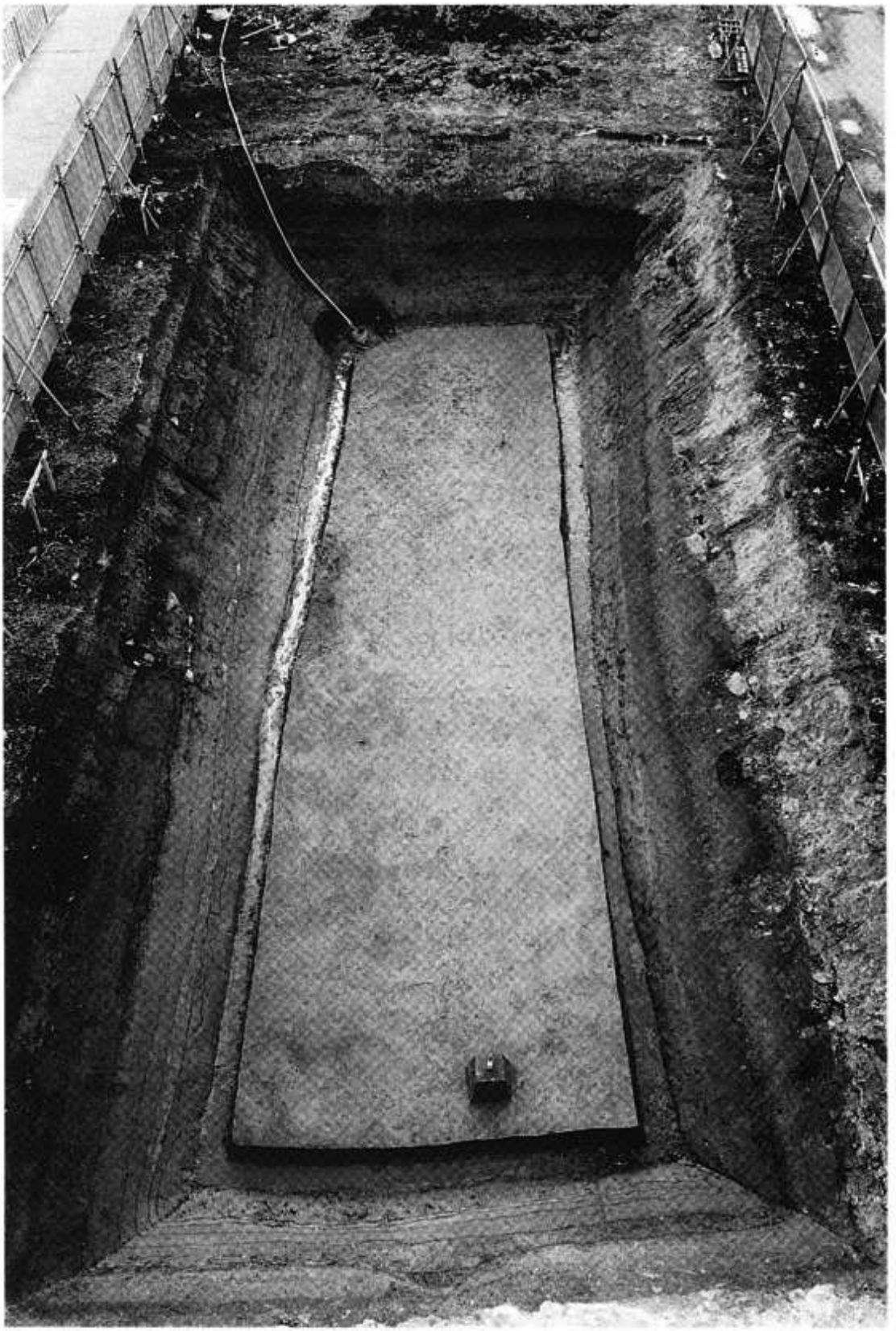


同北壁

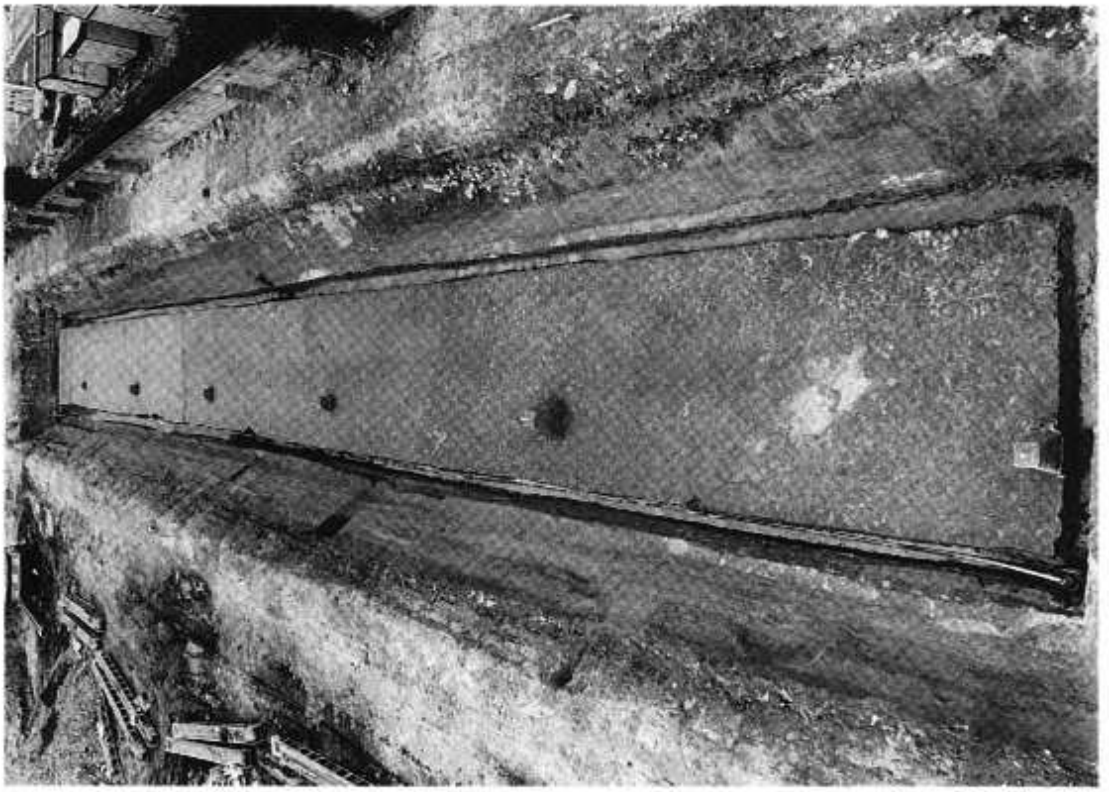
図版五　第2調査区

Cトレンチ　畦畔2201（南から）

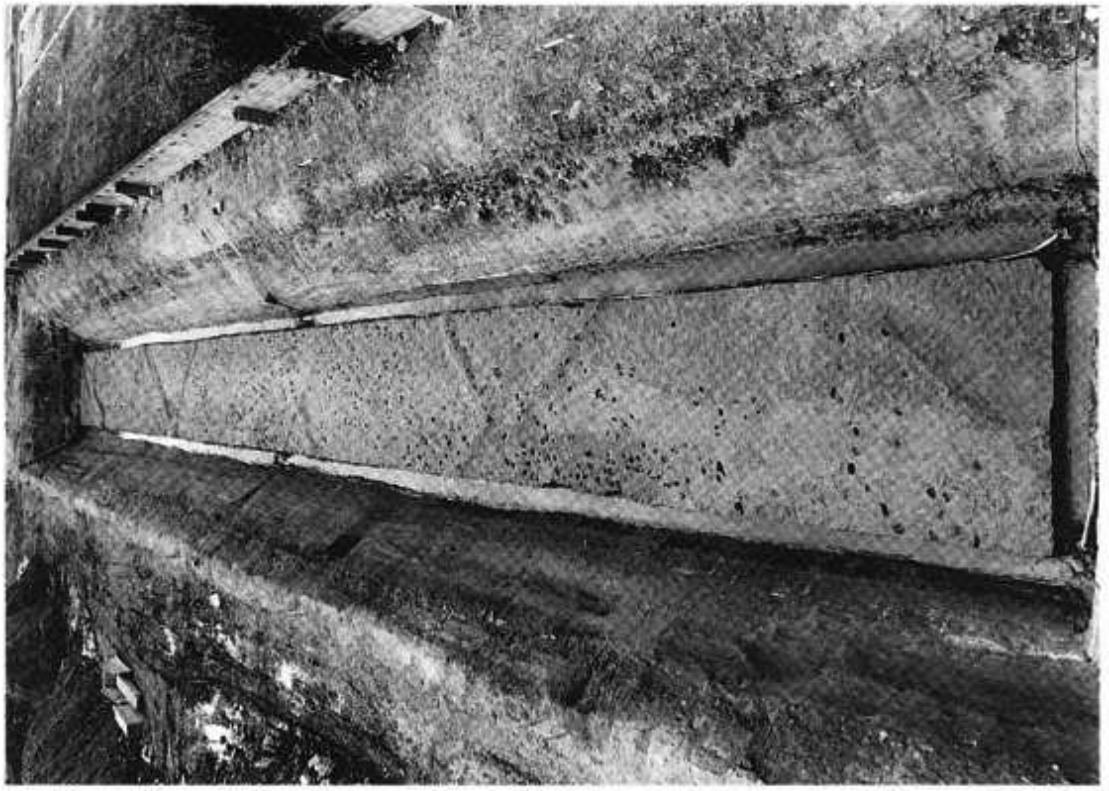
同上北壁



全景（東から）



第1面全景（東から）

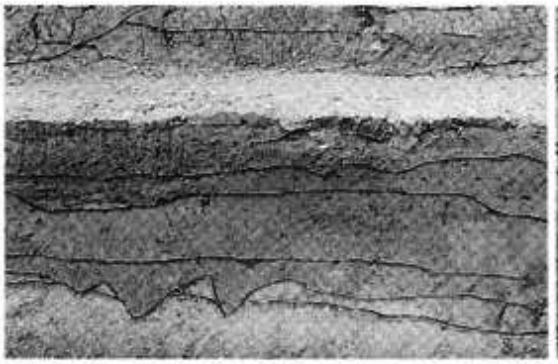


第2面全景（東から）

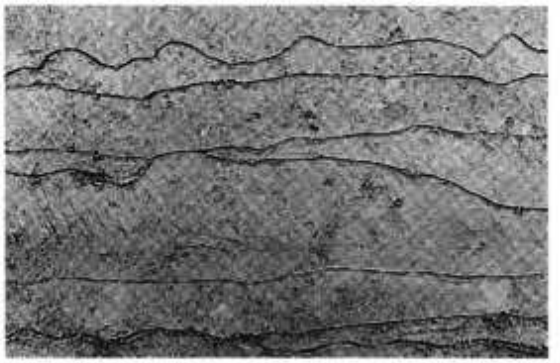
図版八　第4調査区

畦畔4101（南から）

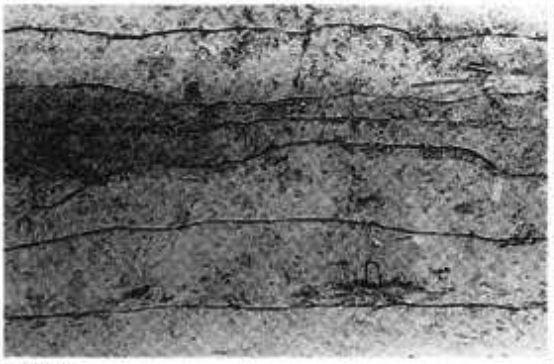
畦畔4102（南から）



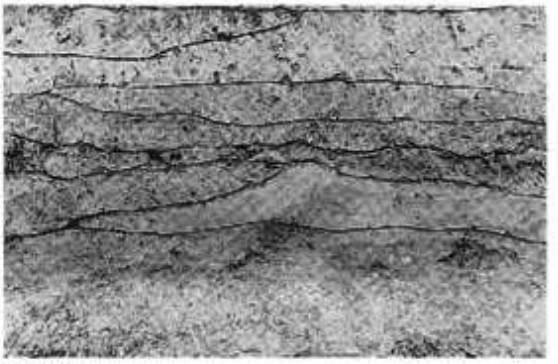
同北壁



同北壁



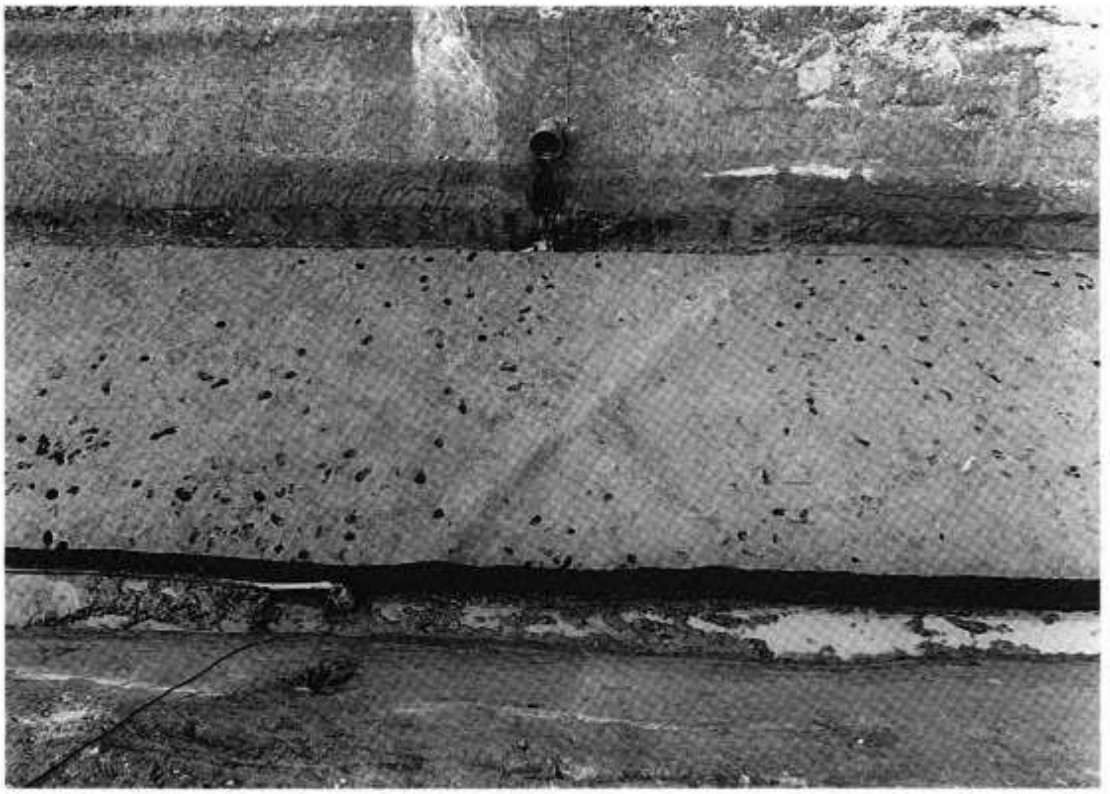
同南壁



同南壁

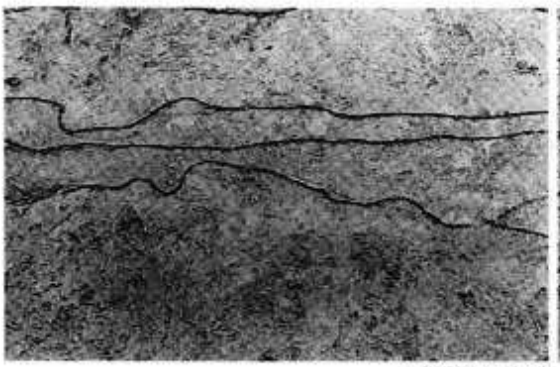
水田4201～水田4203（南から）

水田4204～水田4207（南から）



水田4206～水田4210（南から）

水田4210～水田4214（東から）



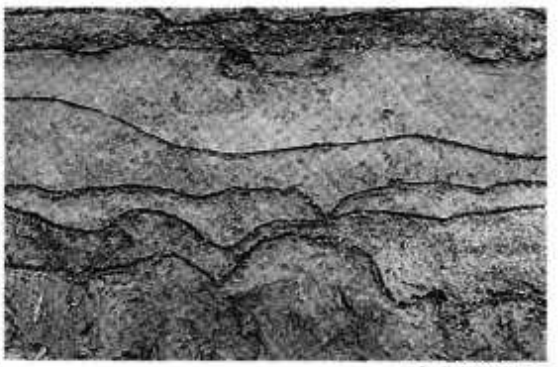
畦畔4201南壁

畦畔4202南壁

畦畔4203北壁

畦畔4204南壁

畦畔4205北壁

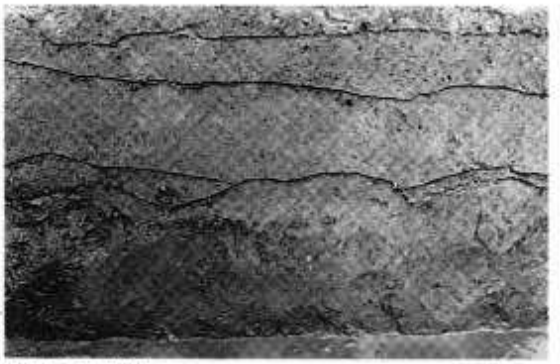


畦畔4206南壁

畦畔4206北壁

畦畔4207南壁

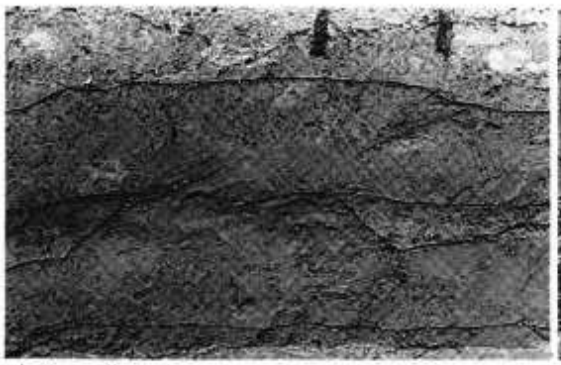
畦畔4209南壁



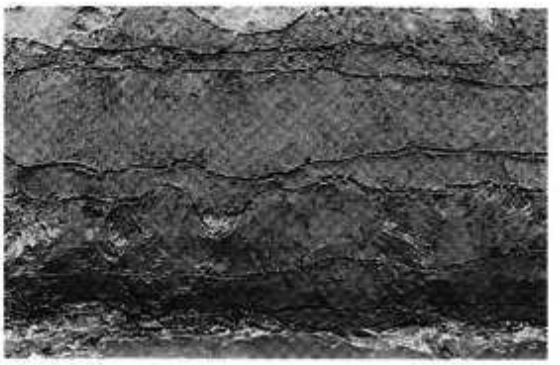
畦畔4209北壁

畦畔4210南壁

畦畔4210北壁



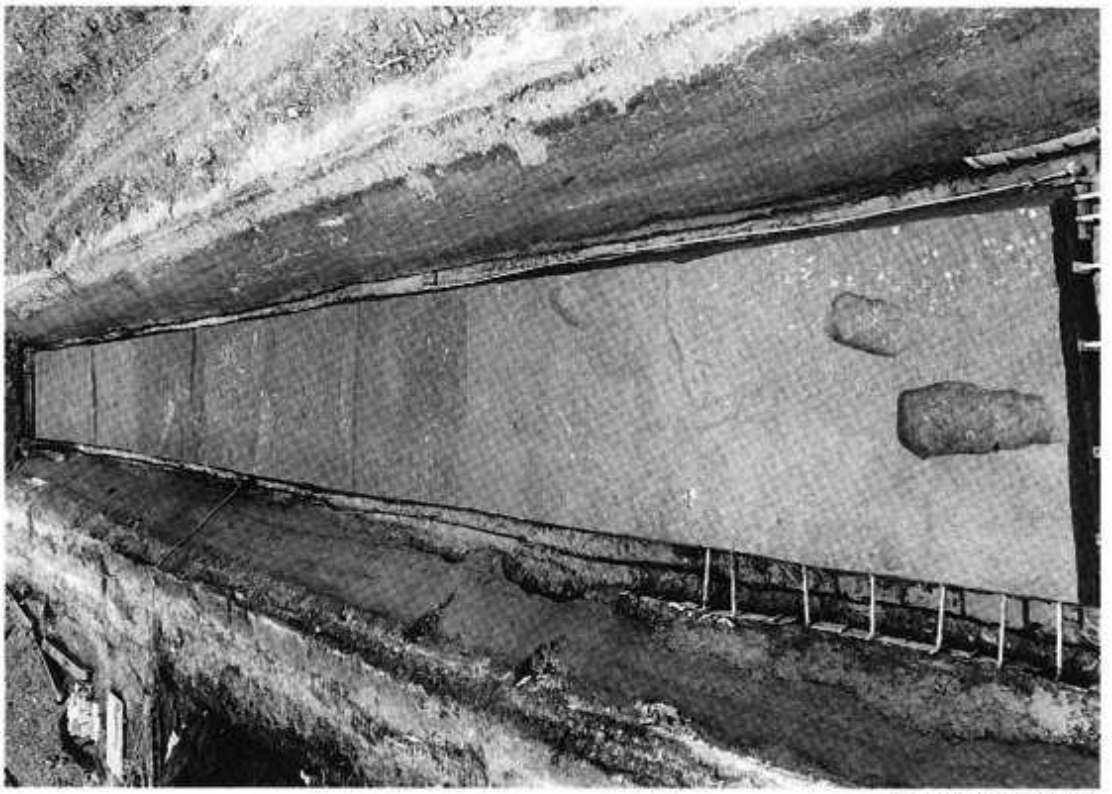
畦畔4212北壁



畦畔4211南壁

畦畔4213北壁

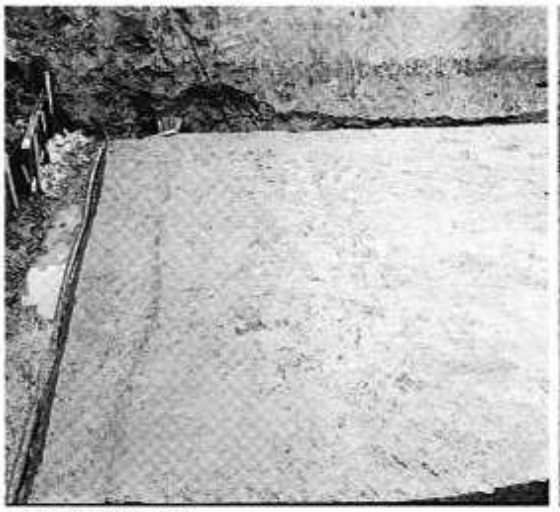
畦畔4214南壁



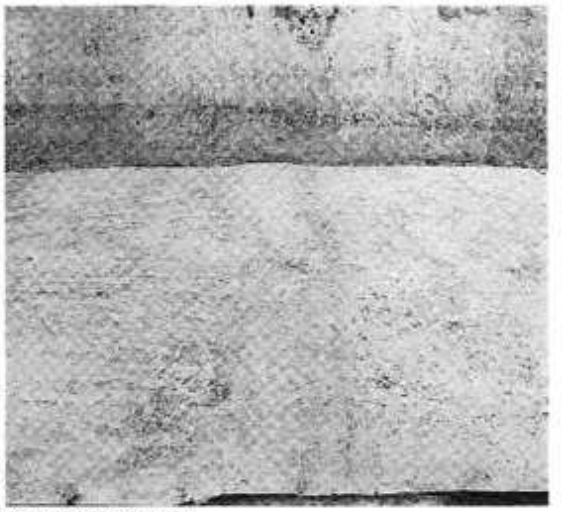
第1面全景（東から）

第2面全景（東から）

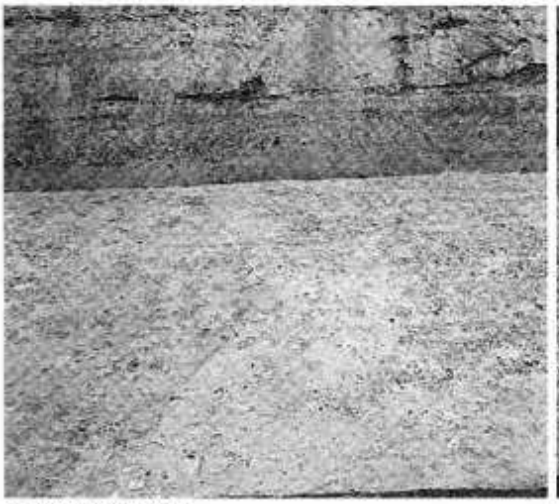
図版一四　第5調査区



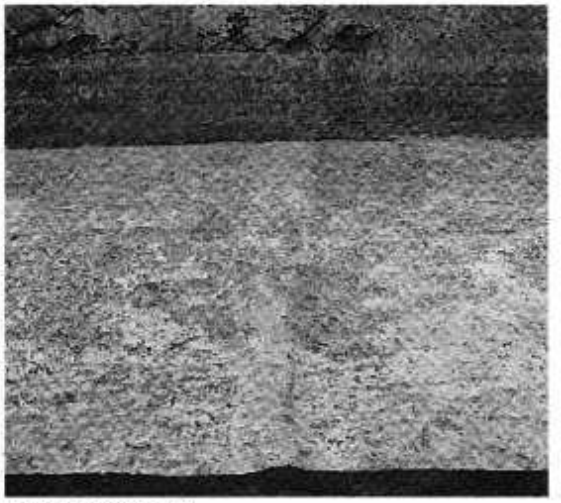
畦畔5101（南から）



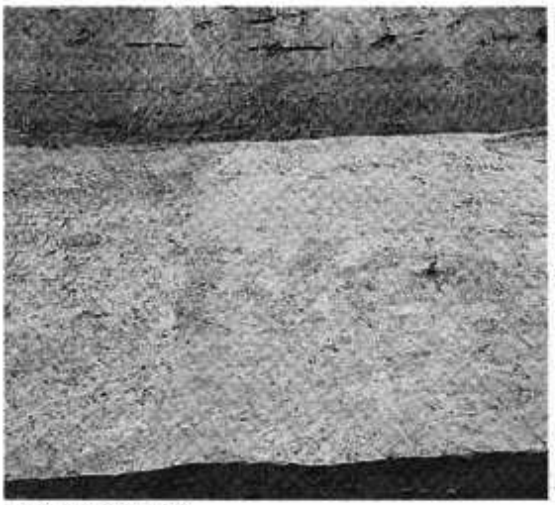
畦畔5102（南から）



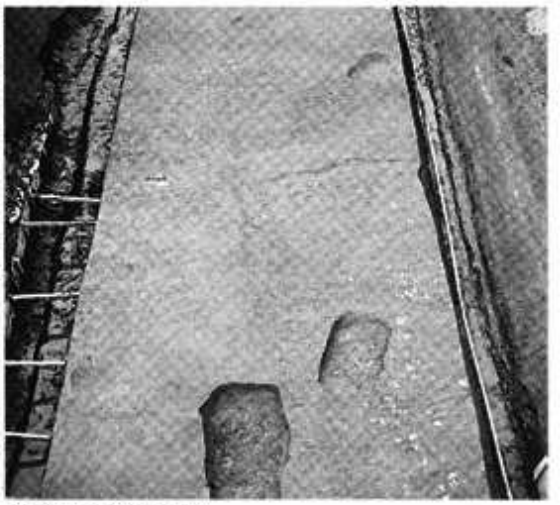
畦畔5104（南から）



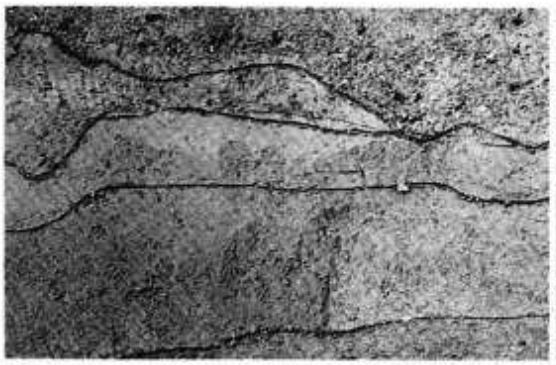
畦畔5105（南から）



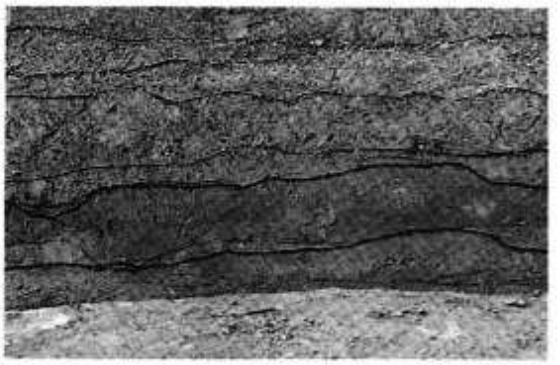
畦畔5106（南から）



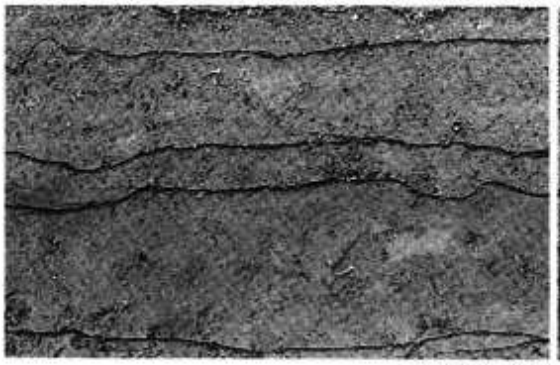
調査区東部（東から）



畦畔5102北壁



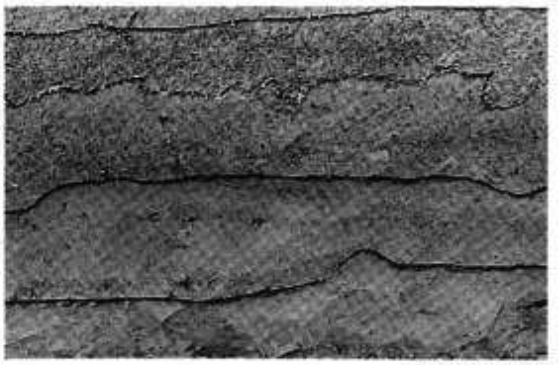
畦畔5104北壁



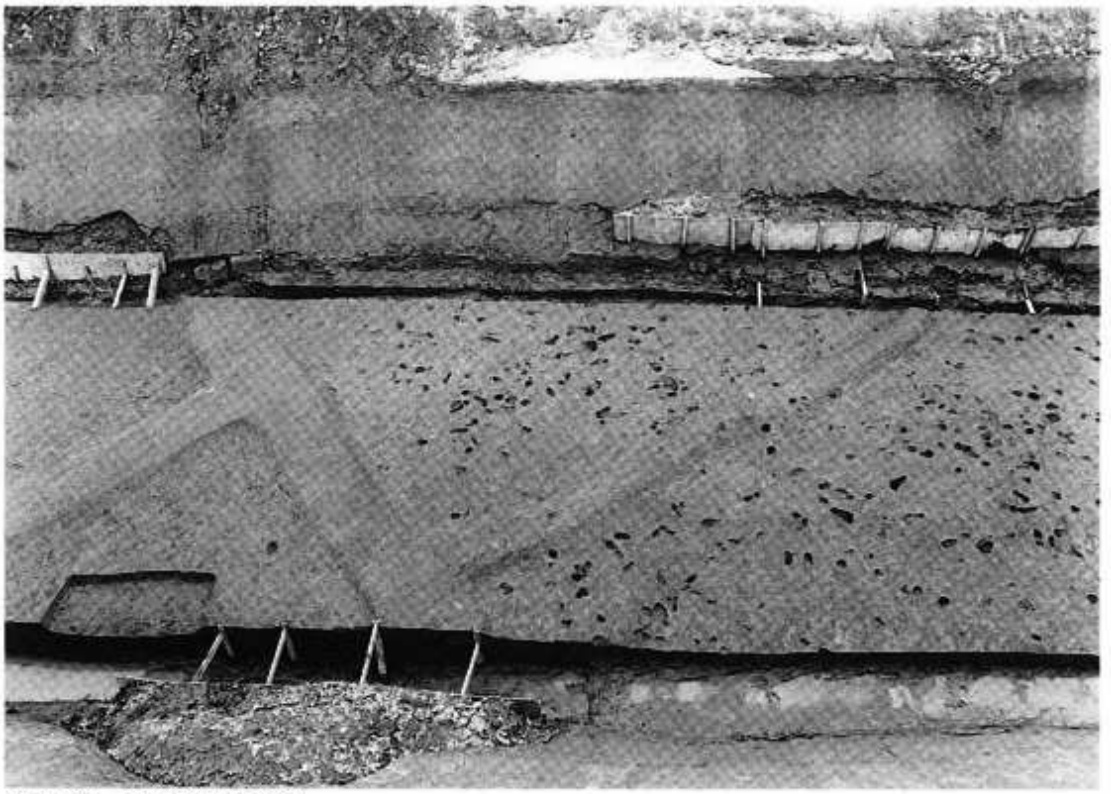
畦畔5105北壁

畦畔5106北壁

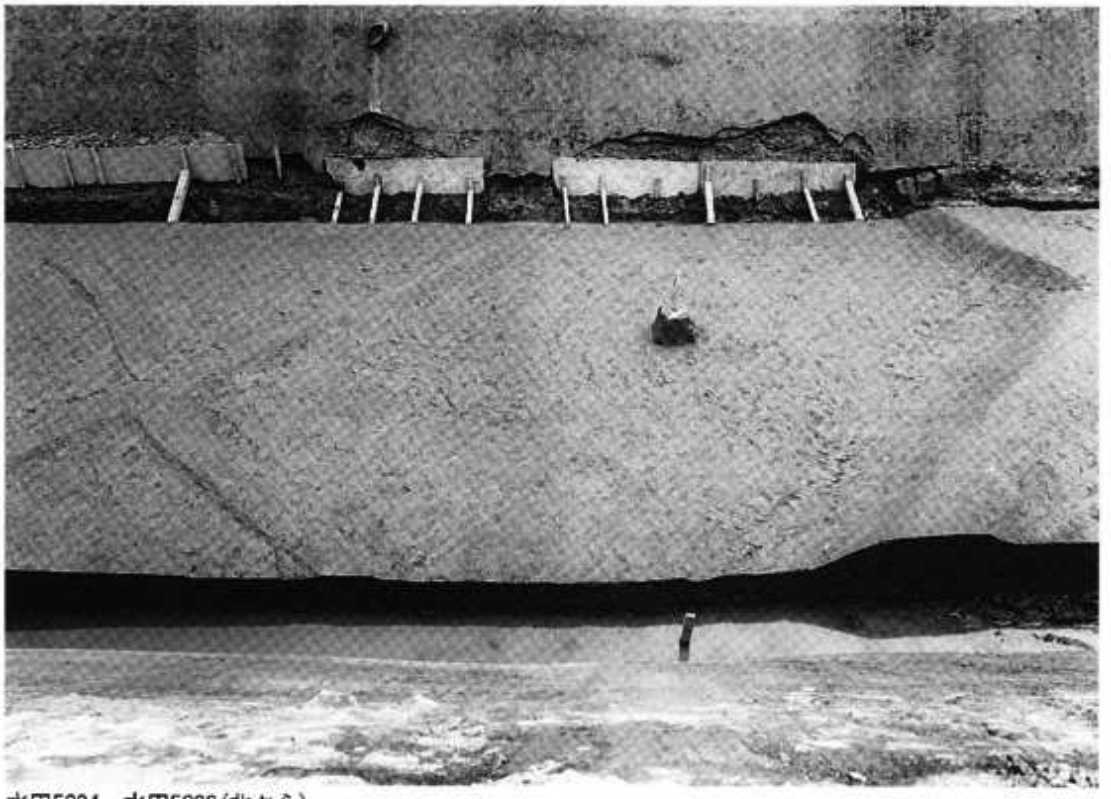
畦畔5103水口（北から）



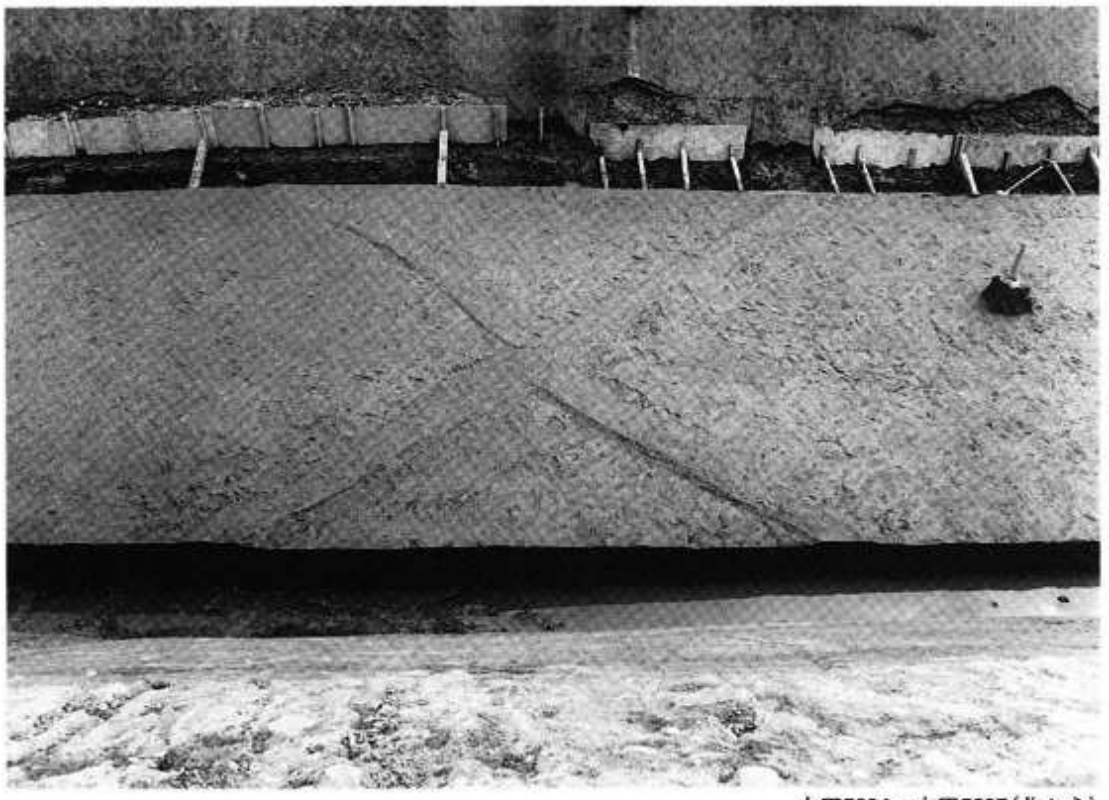
畦畔5107北壁



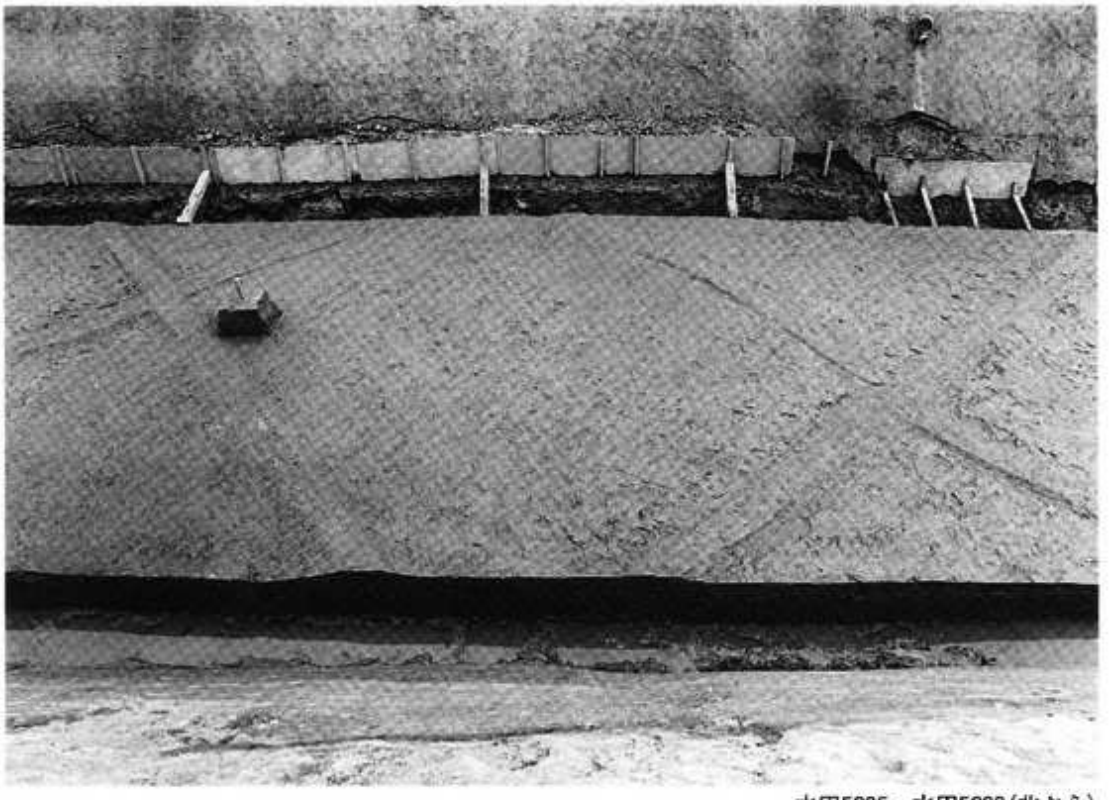
水田5201～水田5204（北から）



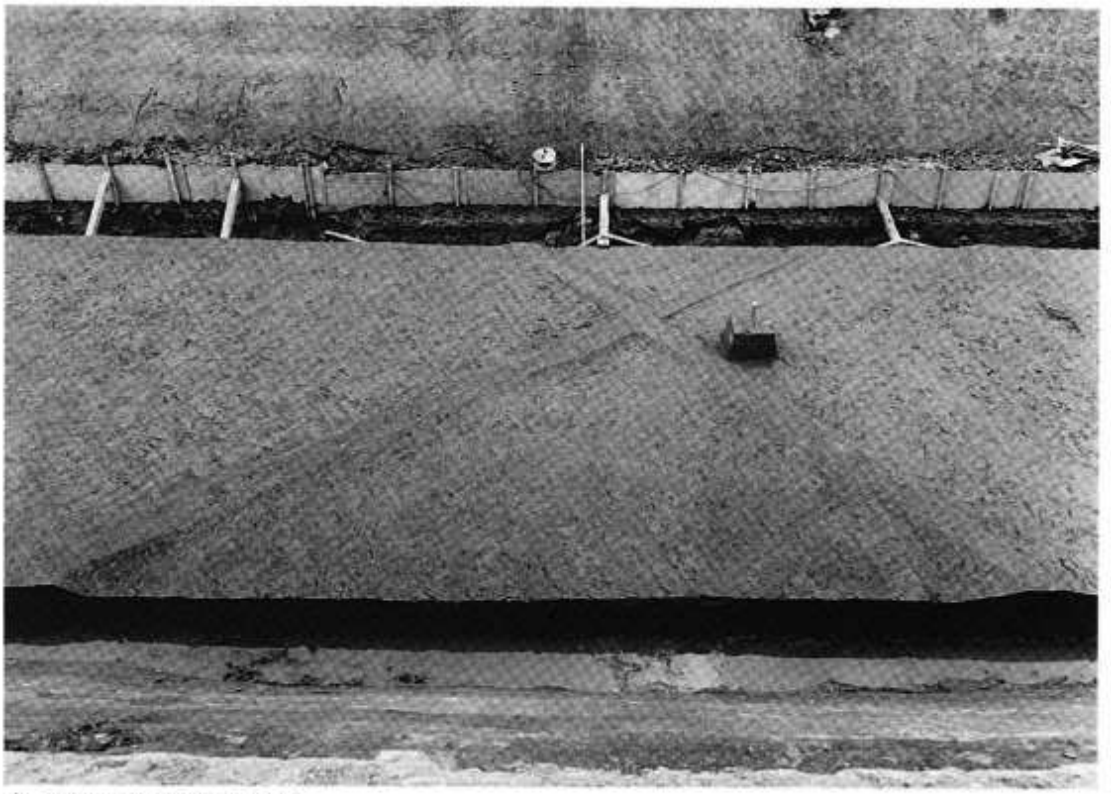
水田5204～水田5206（北から）



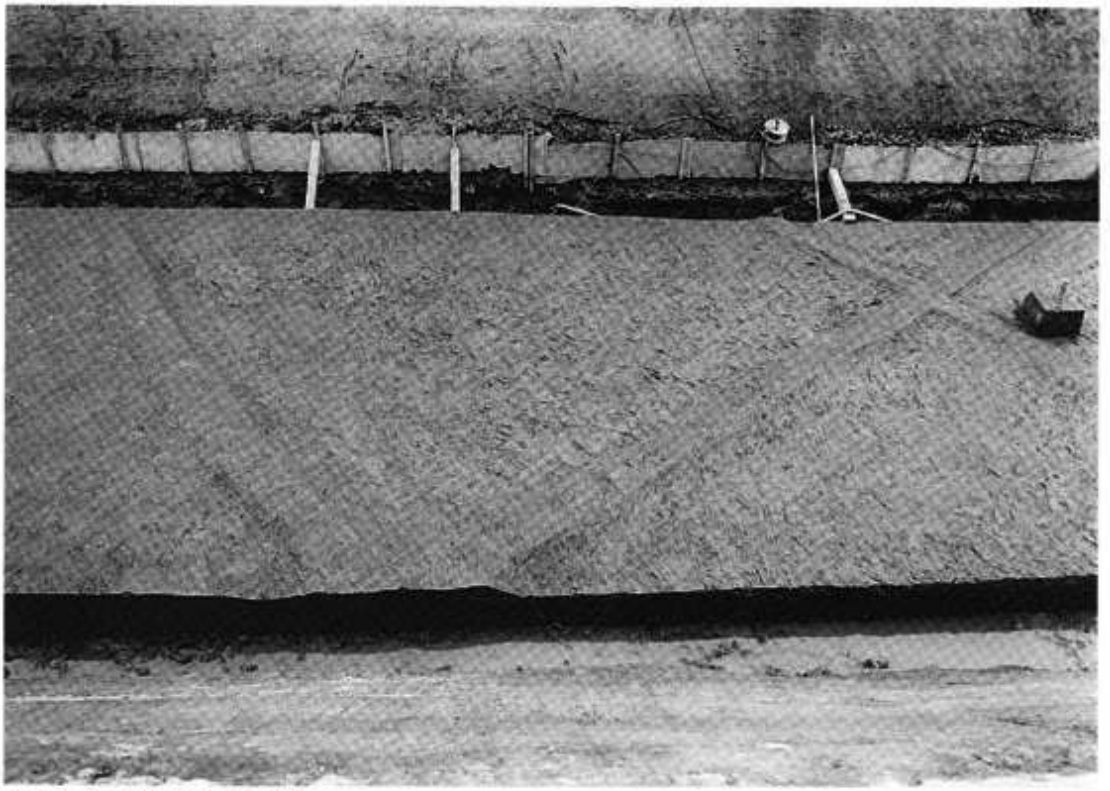
水田5204～水田5207（北から）



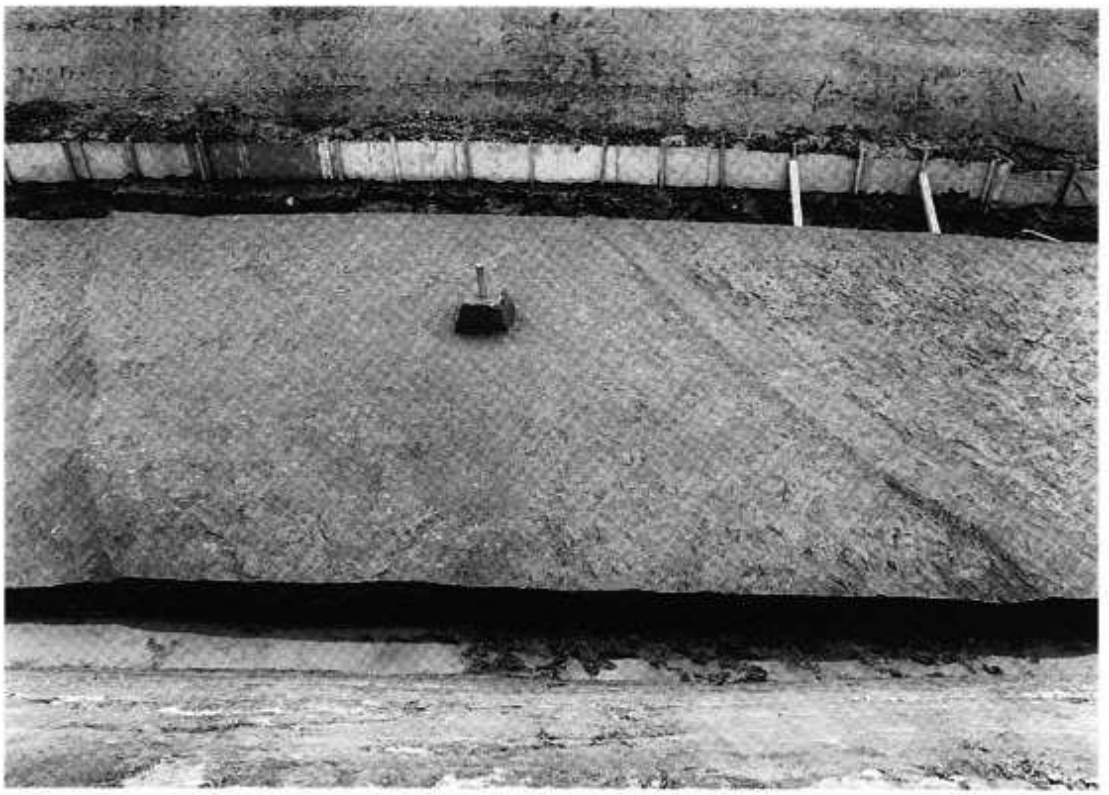
水田5205～水田5209（北から）



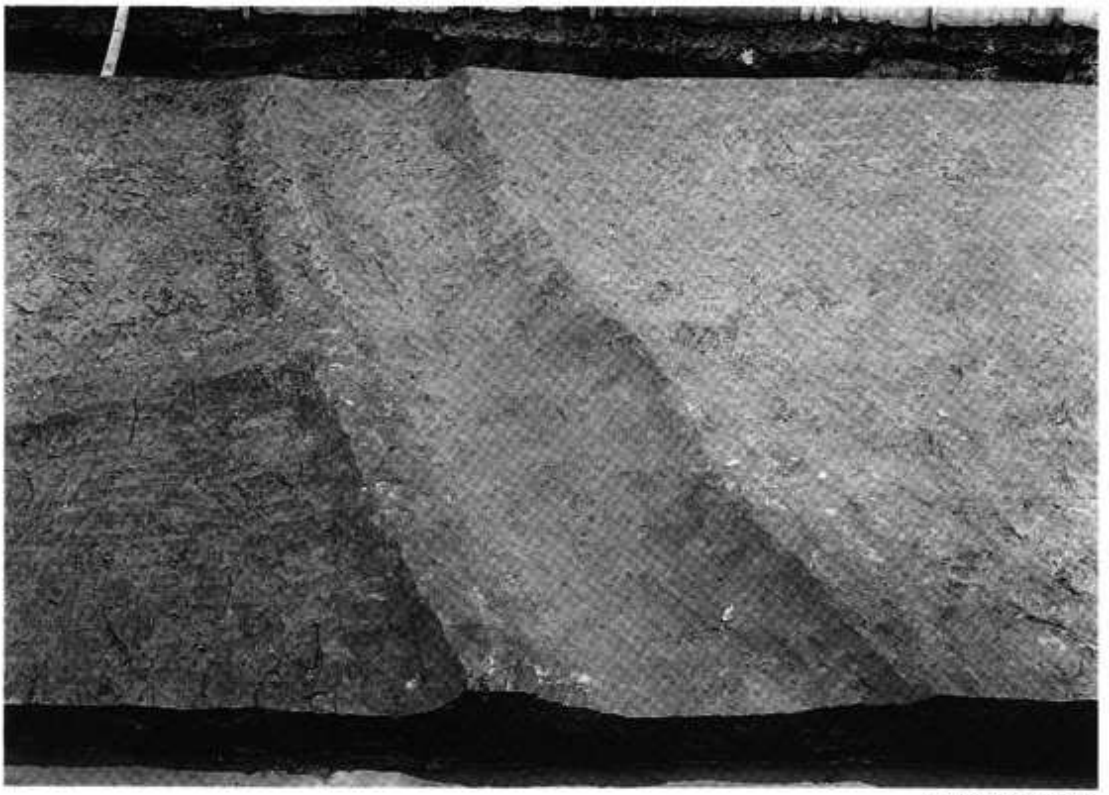
水田5207～水田5210（北から）



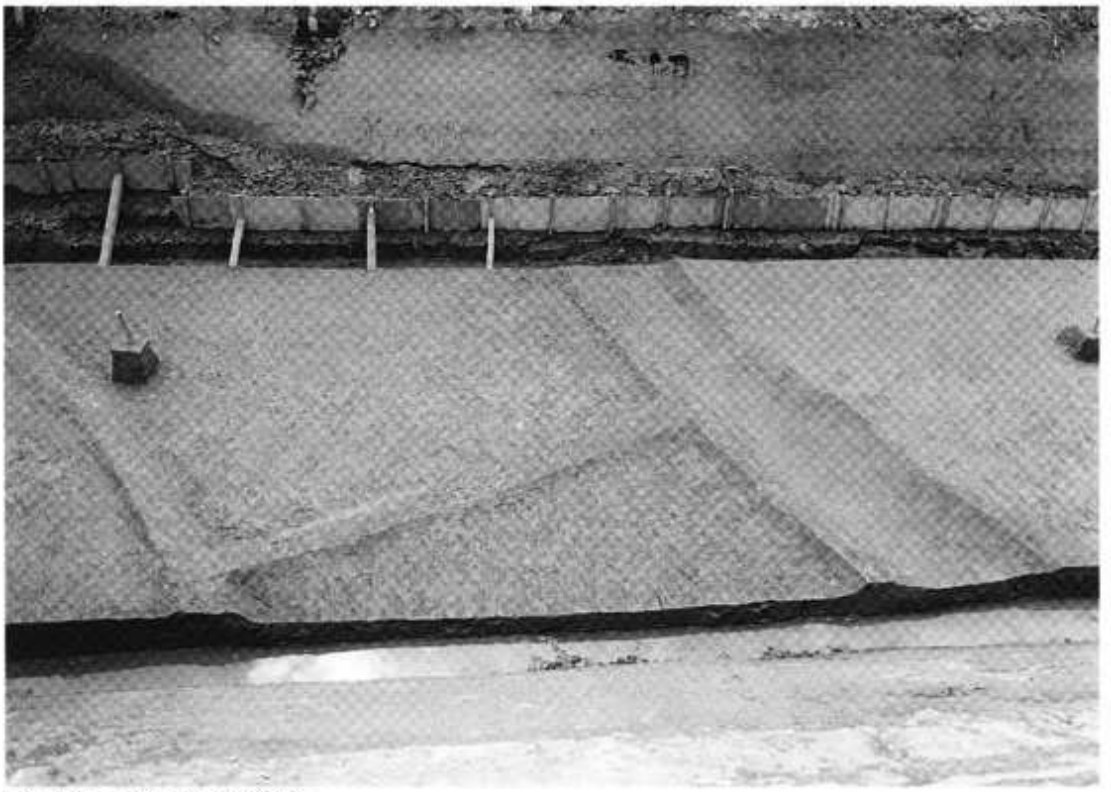
水田5208～水田5211（北から）



水田5210～水田5211（北から）



SD5201（北から）



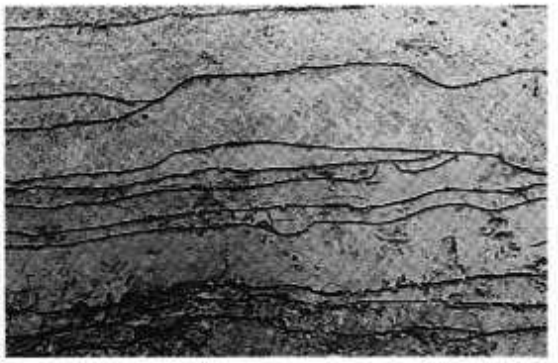
水田5211～水田5214（北から）

水田5214～水田5217（北から）

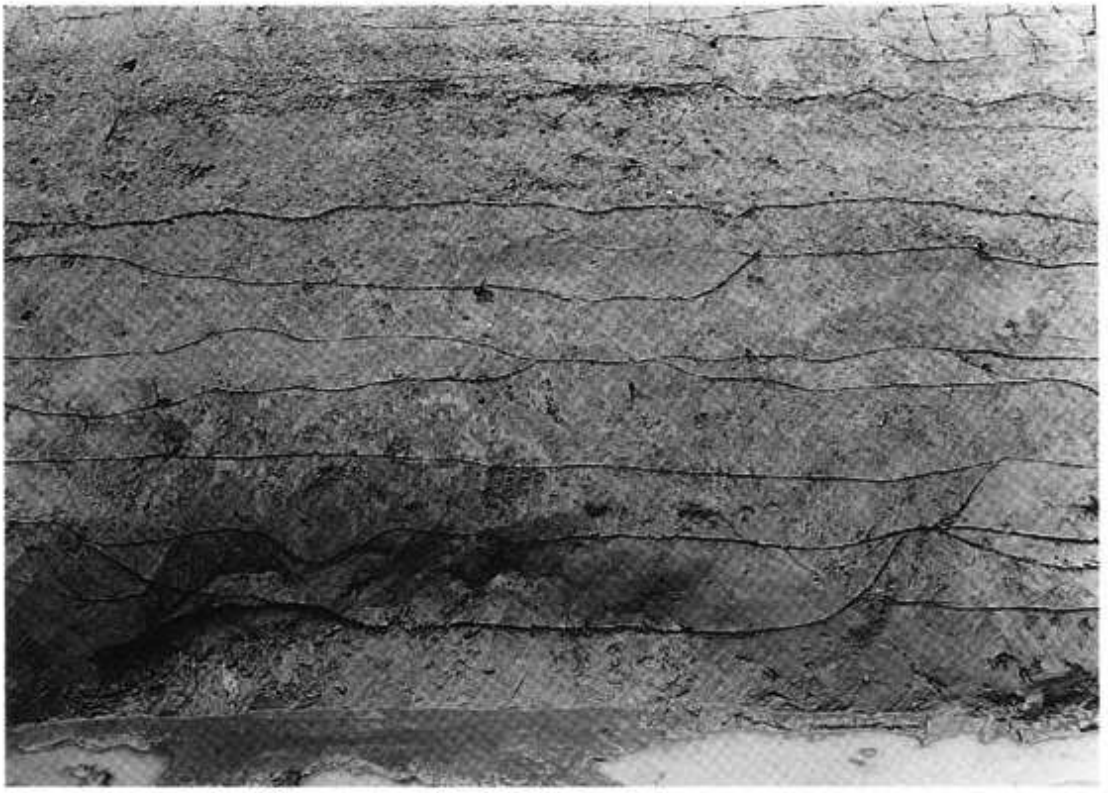
畦畔5205・畦畔5206北壁

畦畔5207・畦畔5208北壁

畦畔5212北壁



畦畔5213北壁



畦畔5209・SD5201北壁

Fトレンチ全景(西から)

同南壁1

同南壁2

同南壁3

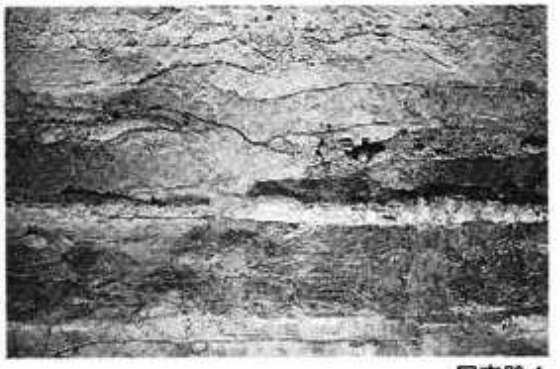
同南壁4

Gトレンチ全景(西から)

同南壁1

同南壁2

同南壁3



同南壁4

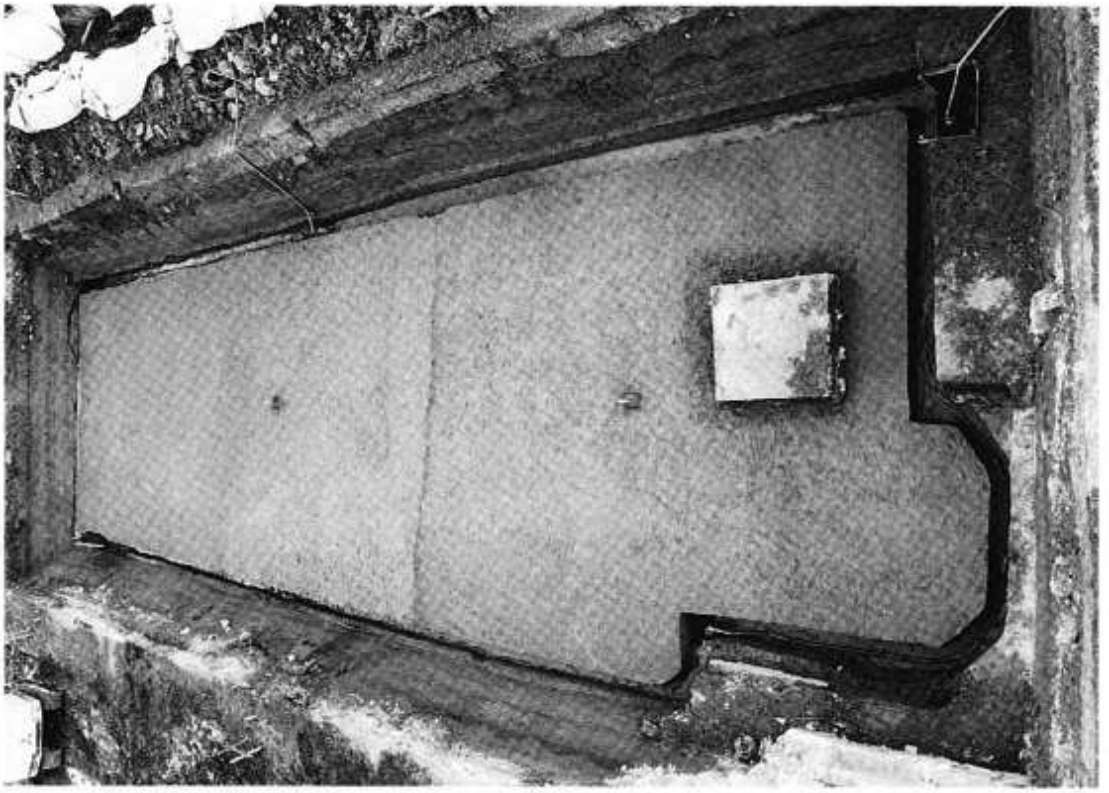
Hトレンチ全景(西から)

同南壁1

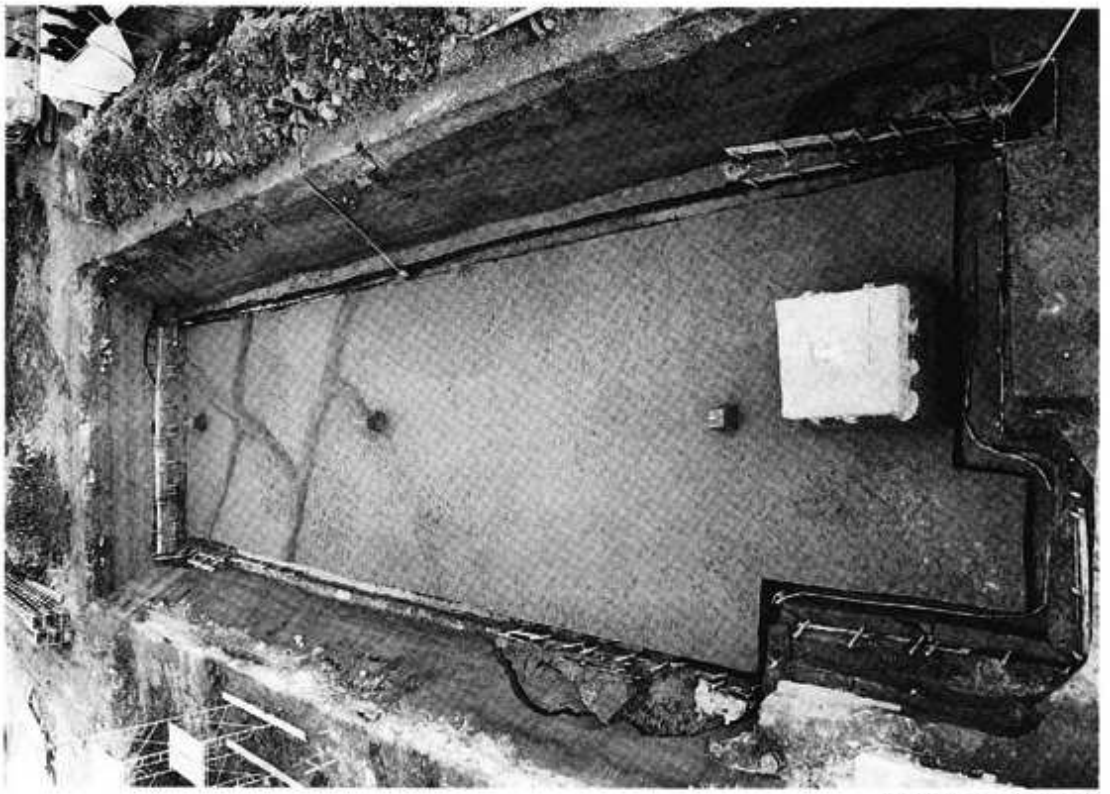
同南壁2

同南壁3

同南壁4

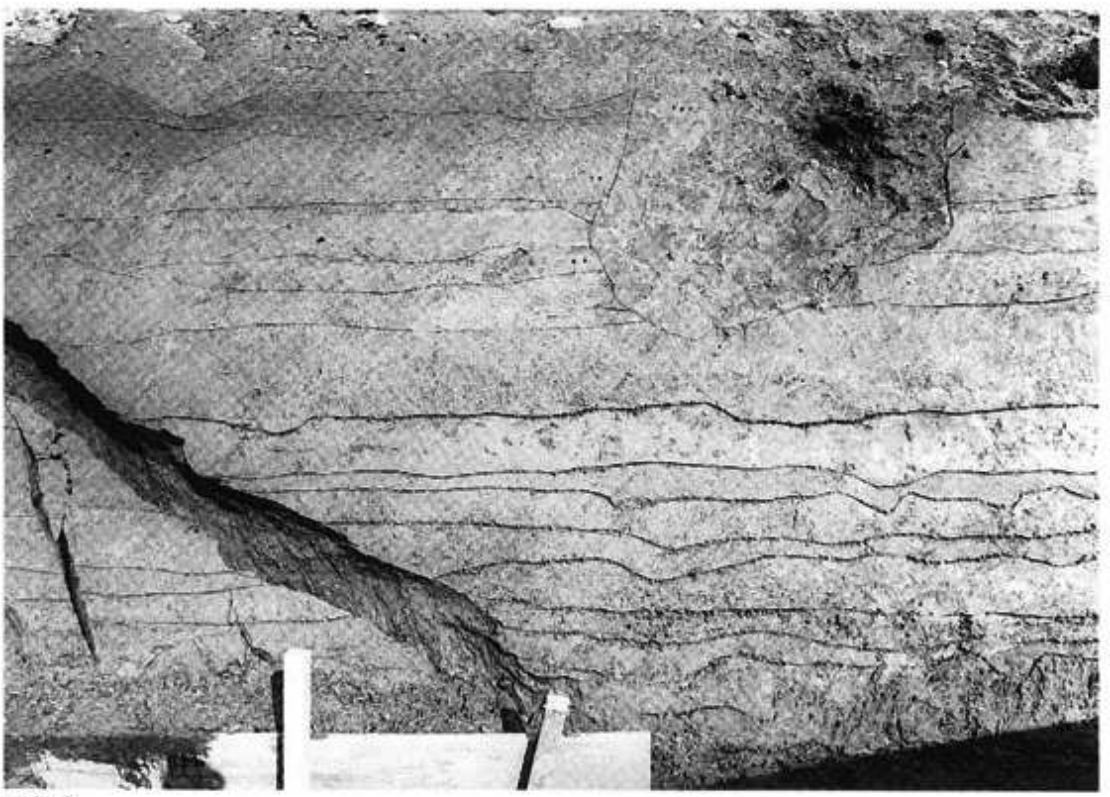


第1面全景(西から)

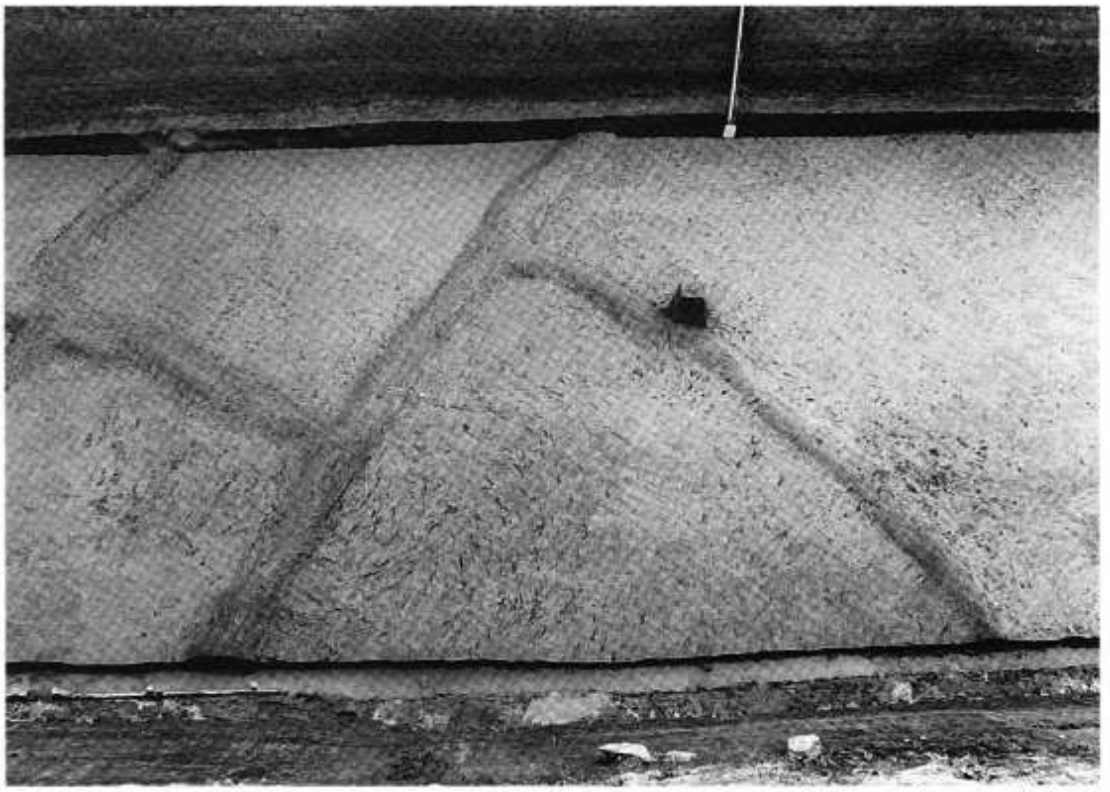


第2面全景(西から)

畦畔6101（北から）



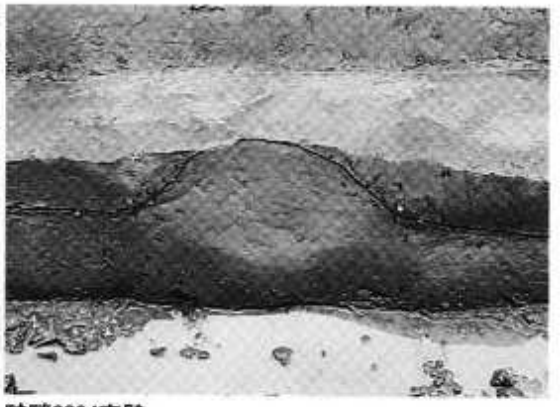
同北壁



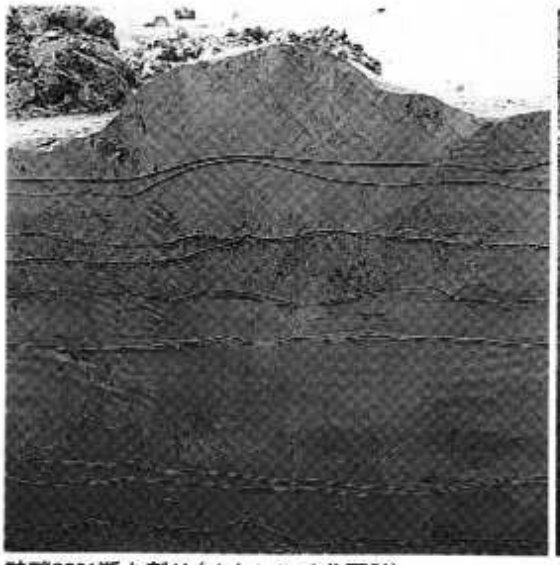
水田6201～水田6204（北から）

水田6203～水田6206（北から）

畦畔6202南壁



畦畔6204南壁



畦畔6201断ち割り（Jトレンチ北西壁）

畦畔6202断ち割り（Jトレンチ南西壁）

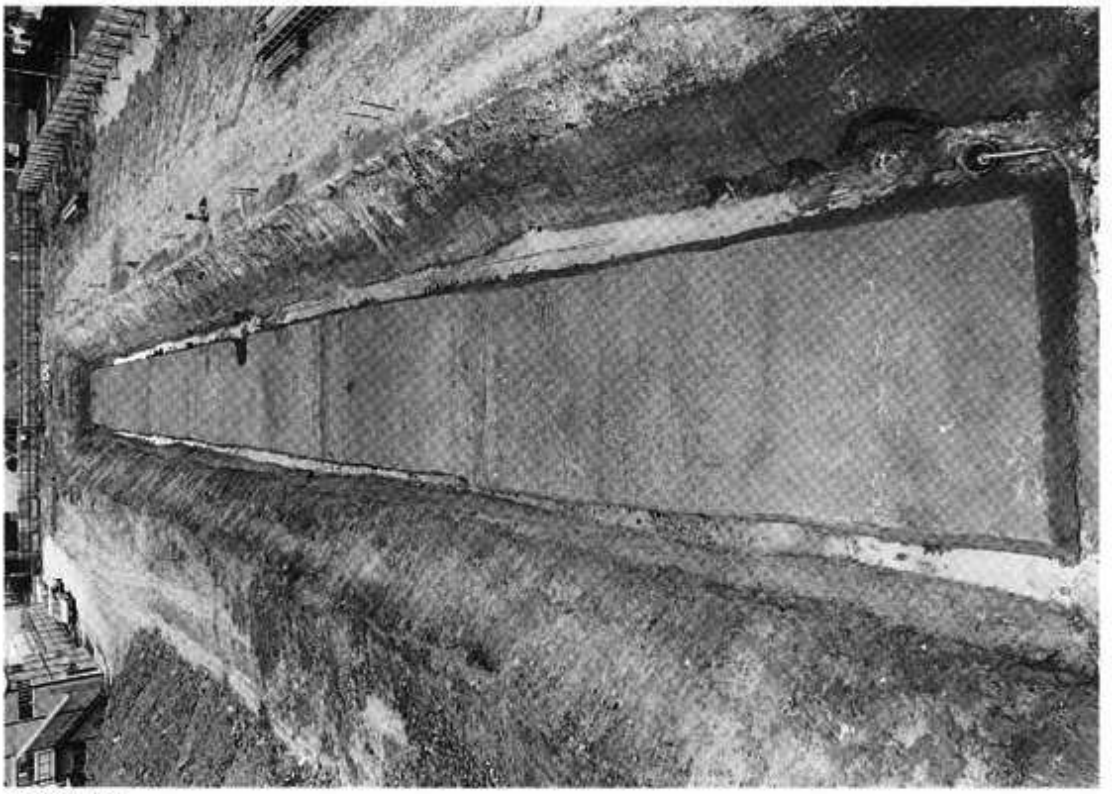
畦畔6203断ち割り（Kトレンチ北西壁）

畦畔6204断ち割り（Kトレンチ南西壁）

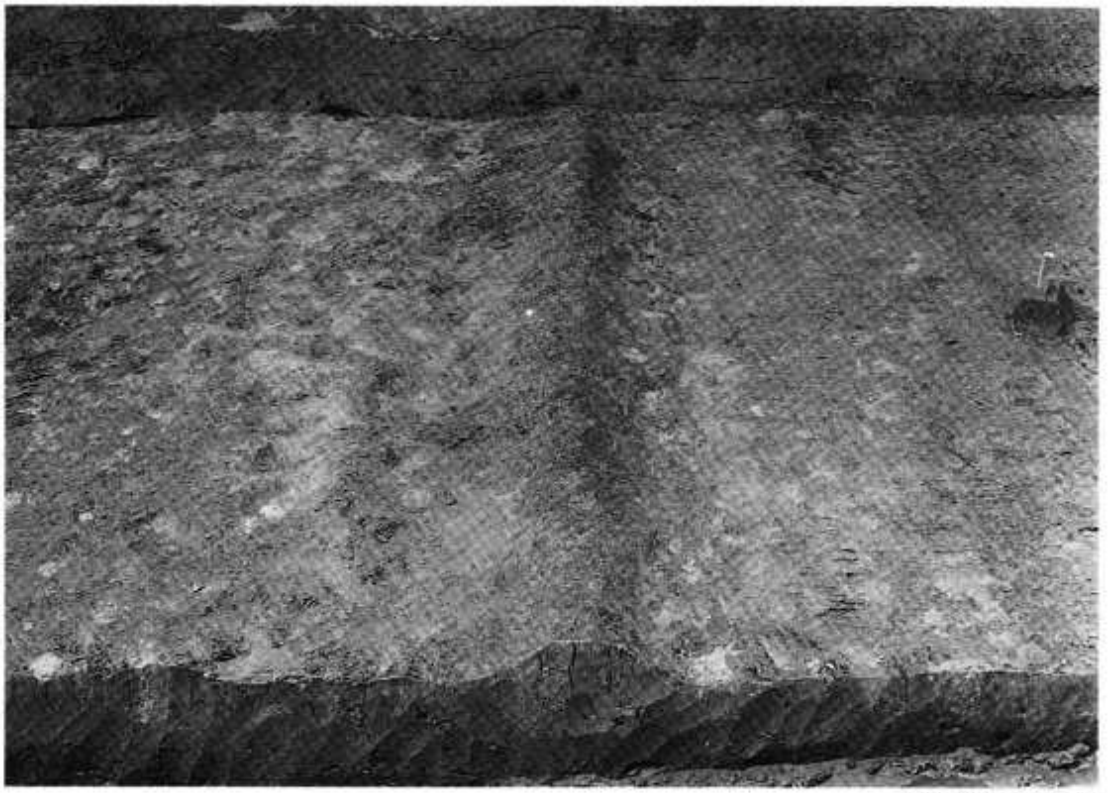
Ⅰトレンチ南壁

図版三〇　第7調査区

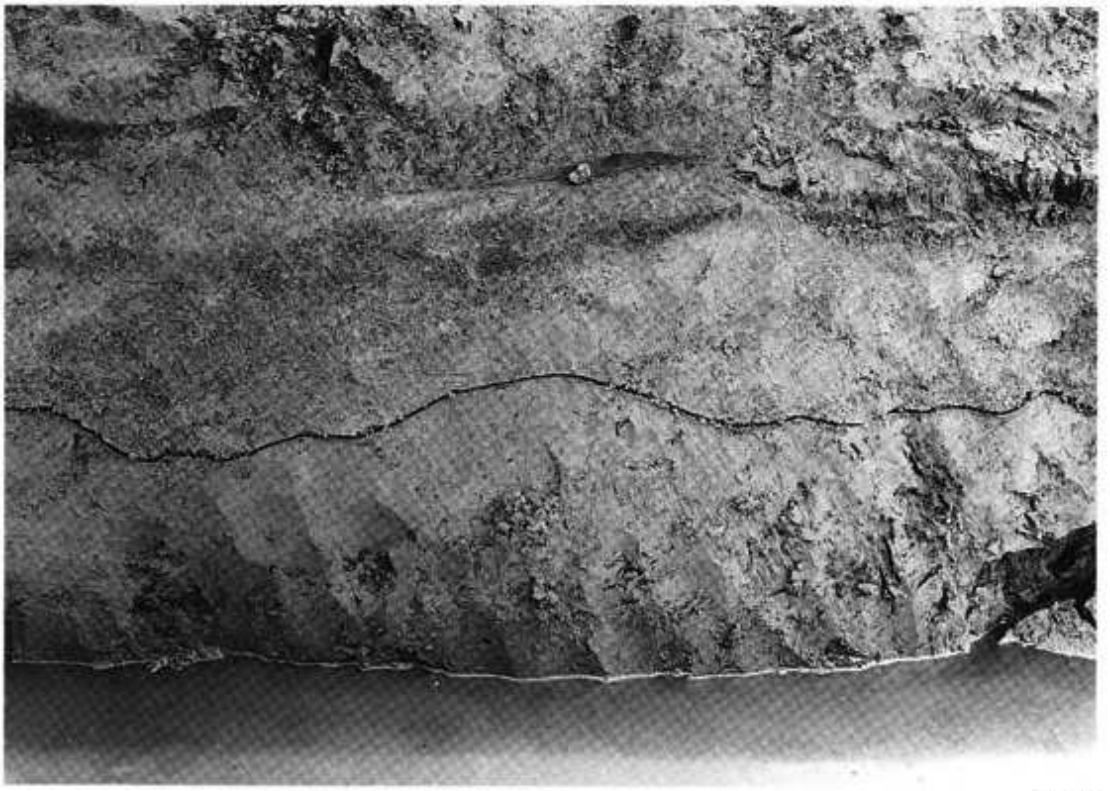
第1面全景(西から)



同(東から)



畦畔7101（南から）

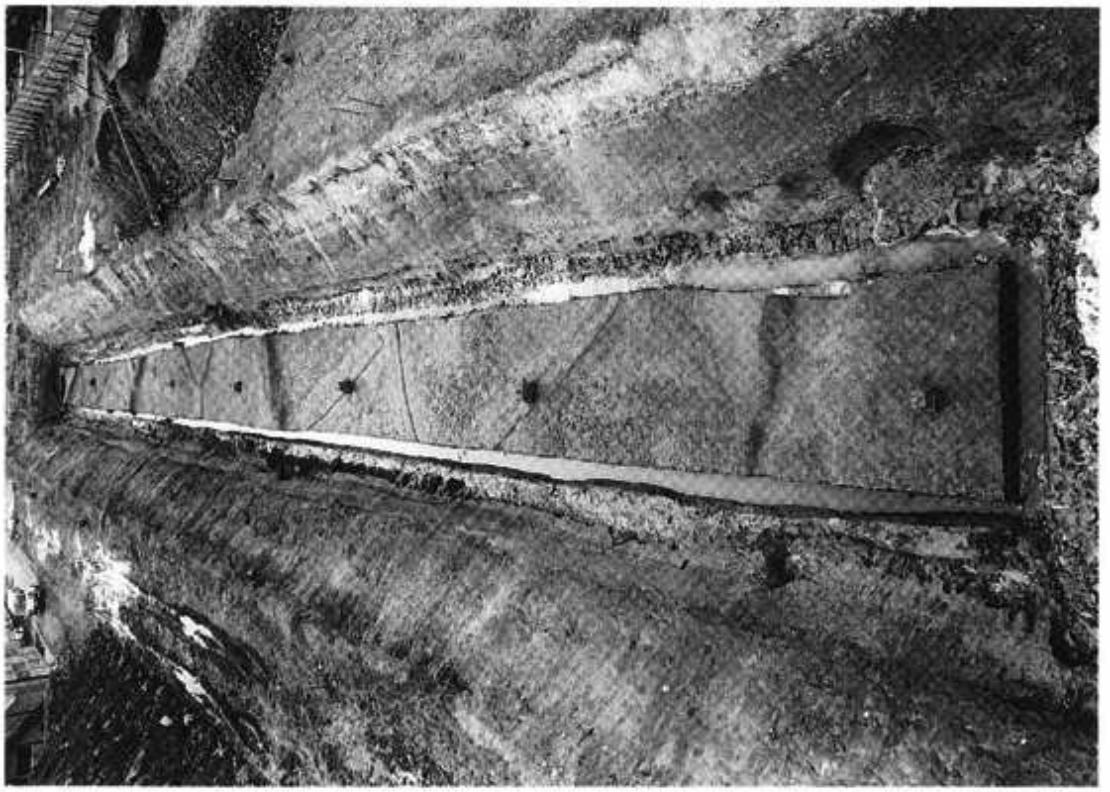


同南壁

畦畔7102（南から）

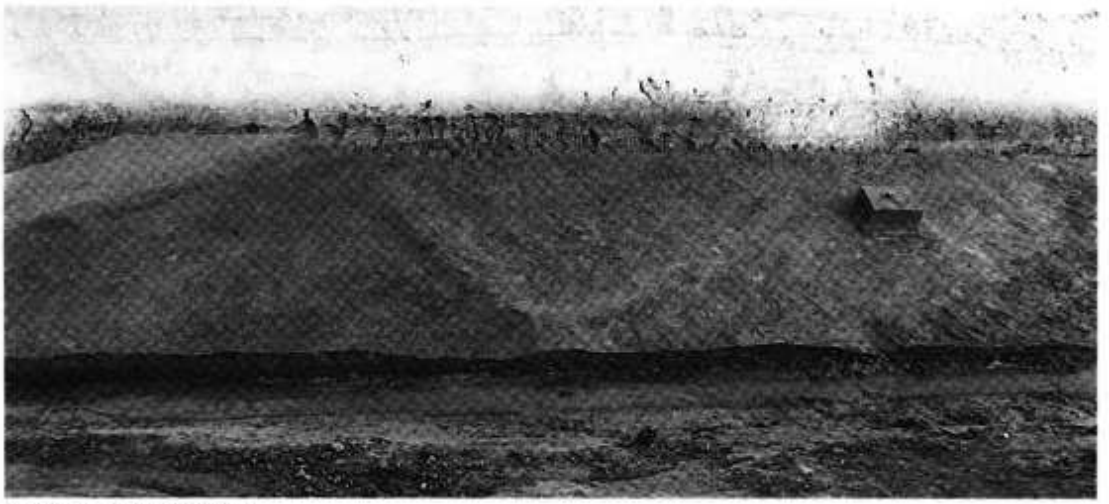
同南壁

第2面全景（西から）

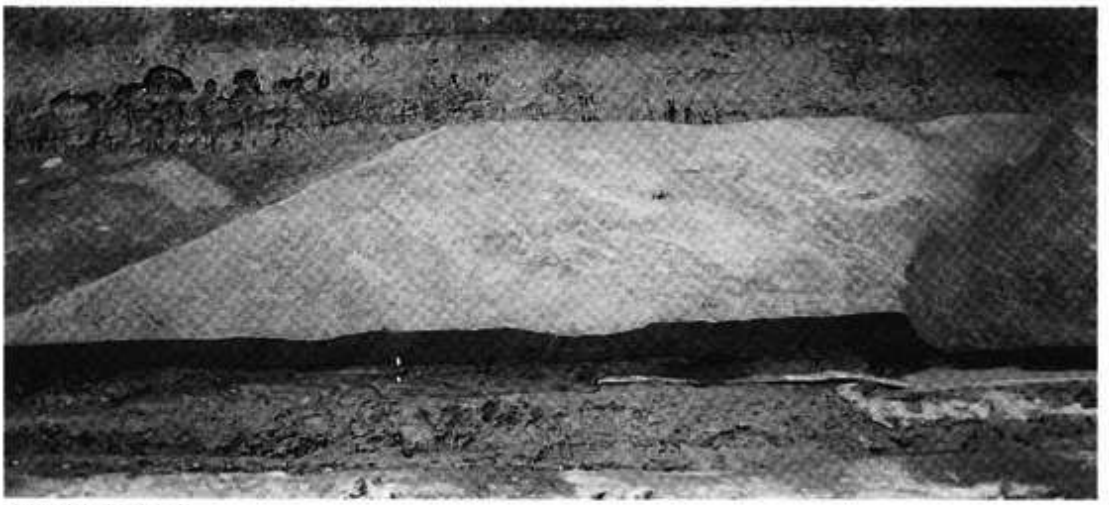


同（東から）

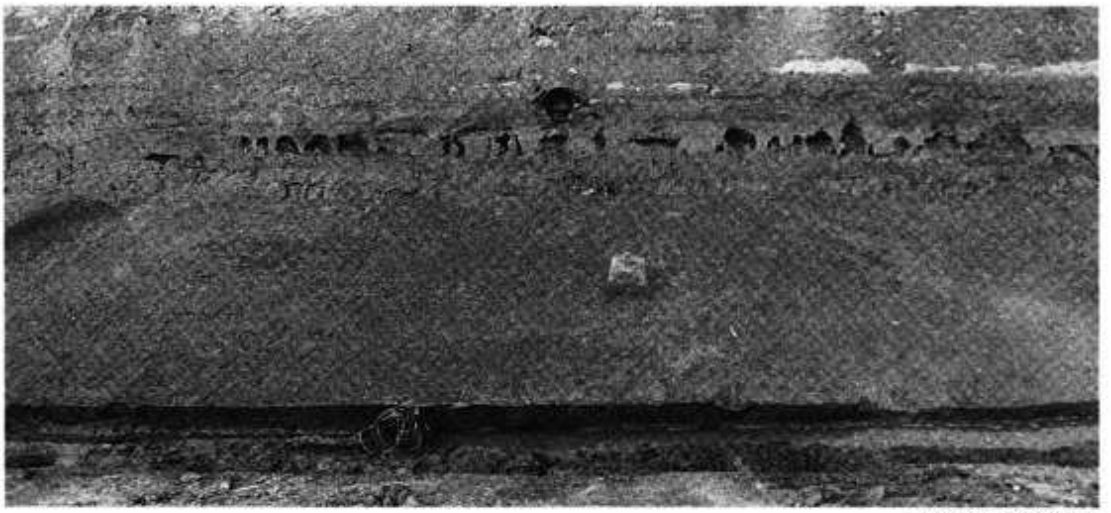
大畦7201・7202　水田7201～7203（南から）



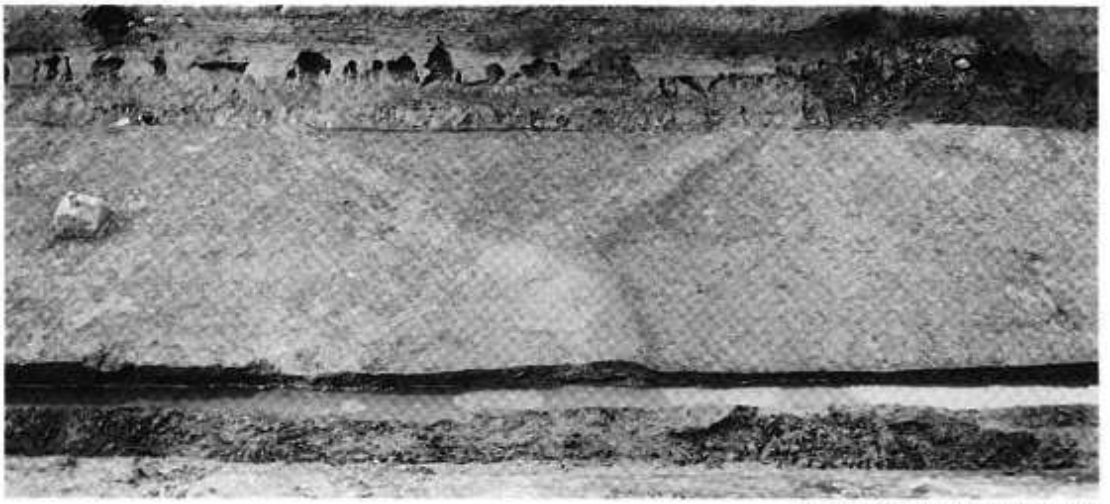
水田7201～7205（南から）



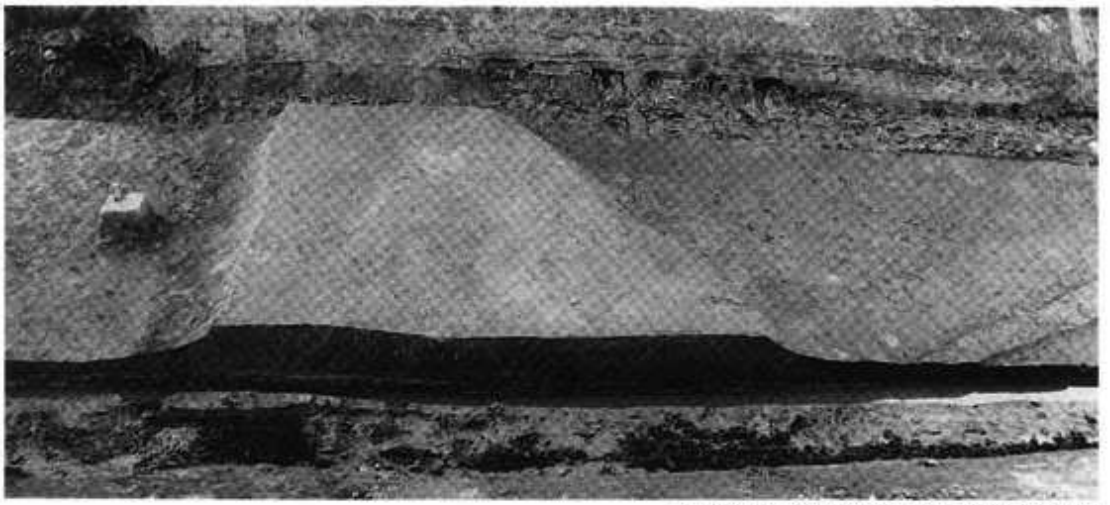
大畦7203（南から）



水田7206（南から）

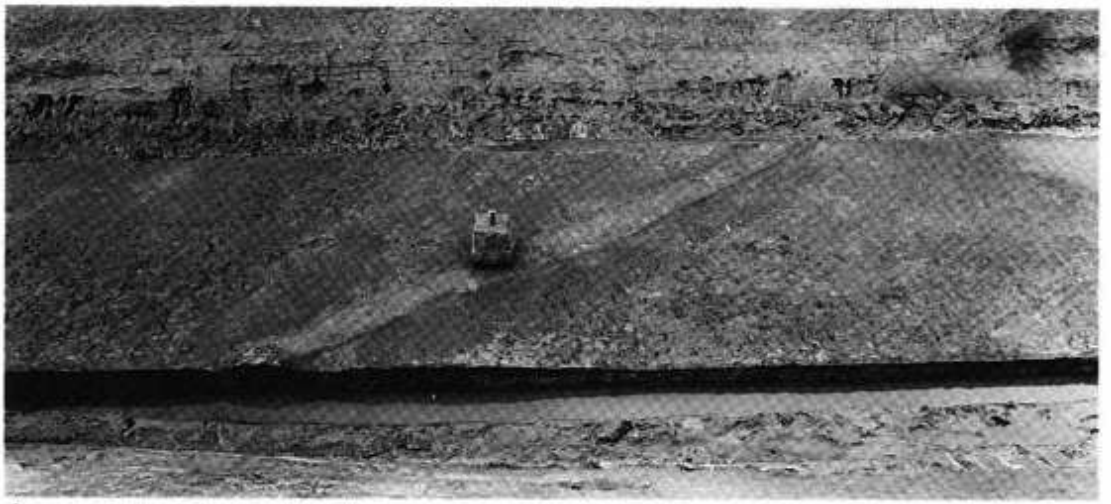


水田7206～水田7208（南から）

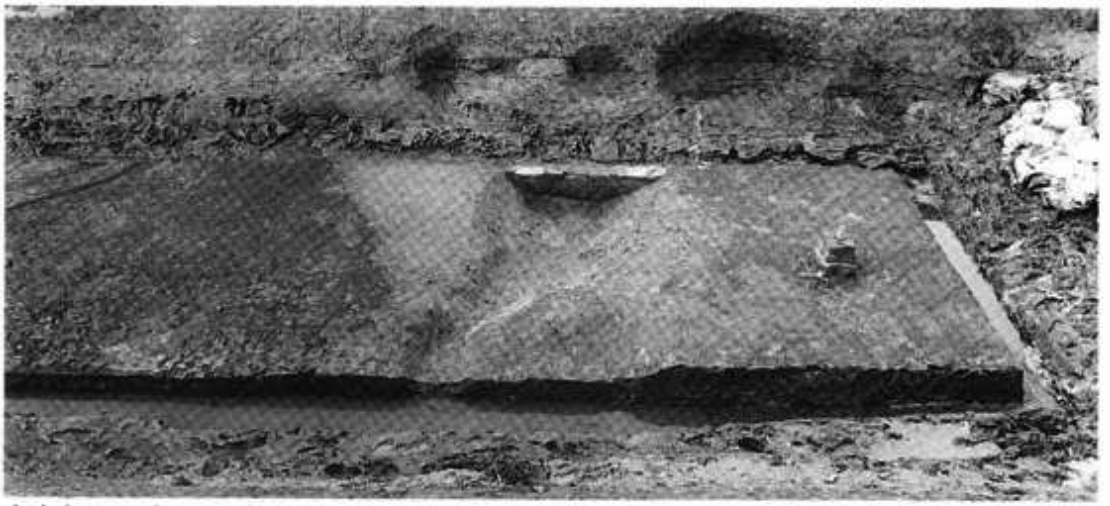


大畦7205・水田7208・水田7209（南から）

水田7209～7211（南から）

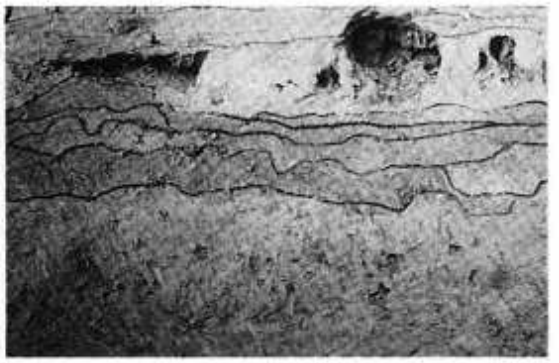


水田7211・7212（南から）

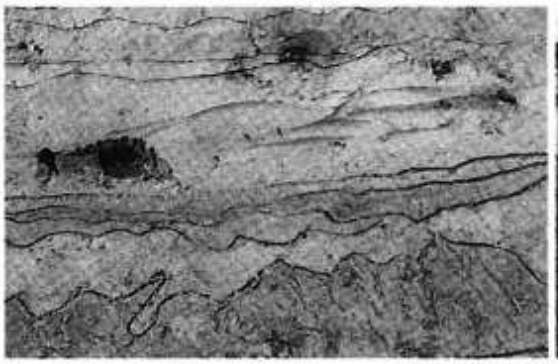


大畦畔7206・水田7212（南から）

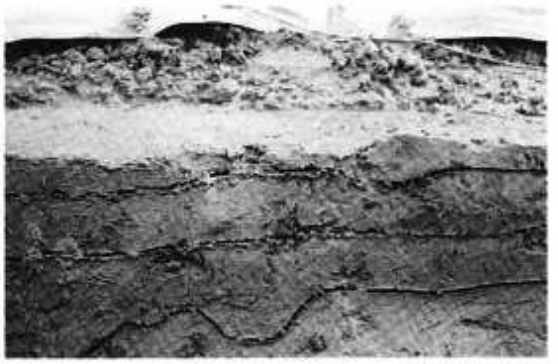
畦畔7201・畦畔7202南壁



畦畔7204北壁



畦畔7205北壁



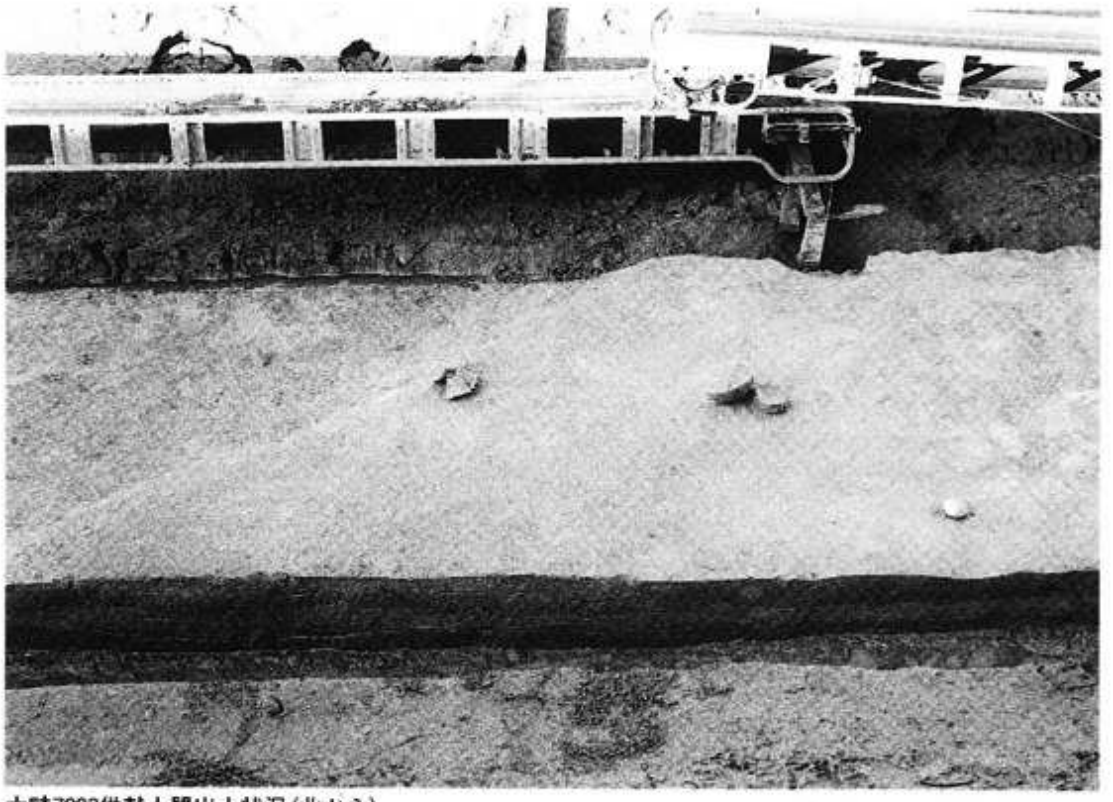
畦畔7206南壁

畦畔7207北壁

畦畔7207南壁

畦畔7208・7209南壁

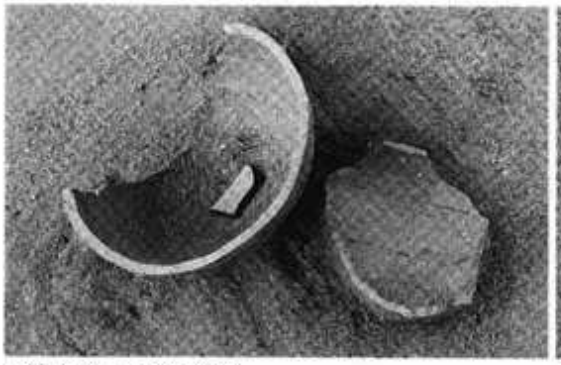
畦畔7208・大畦7206北壁



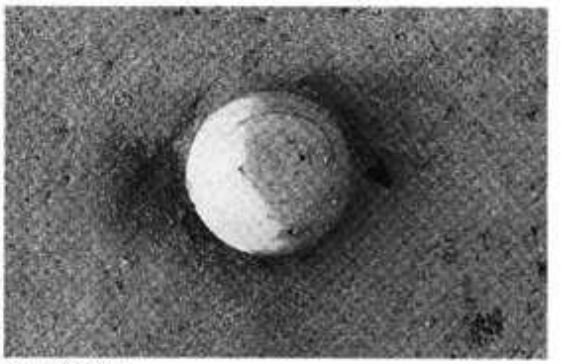
大畦7203供献土器出土状況(北から)

供献土器7045体部

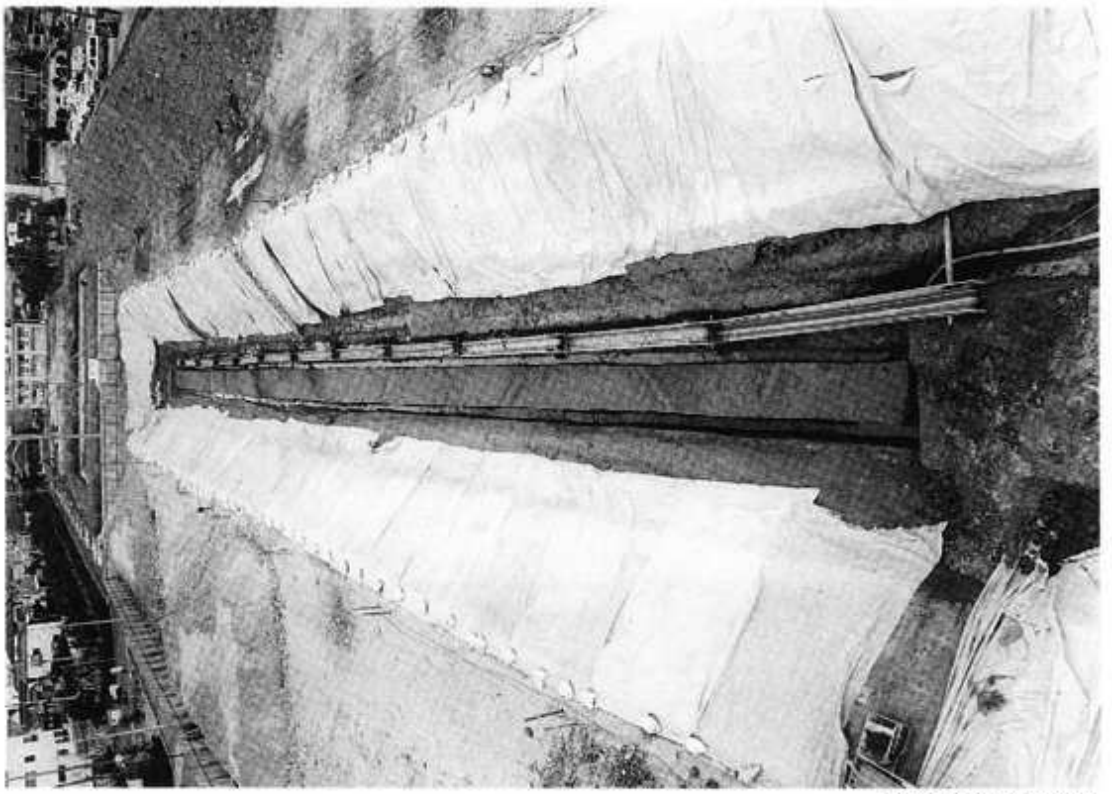
同口頸部～肩部



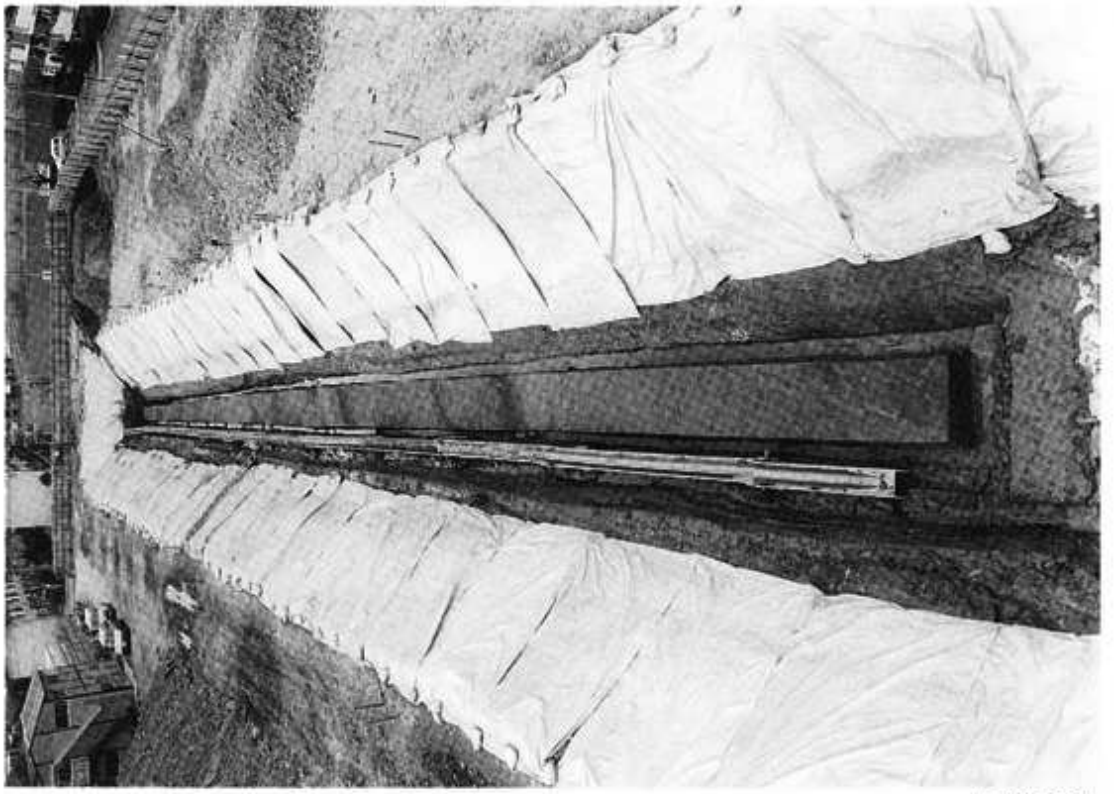
同体底部・7043口縁部



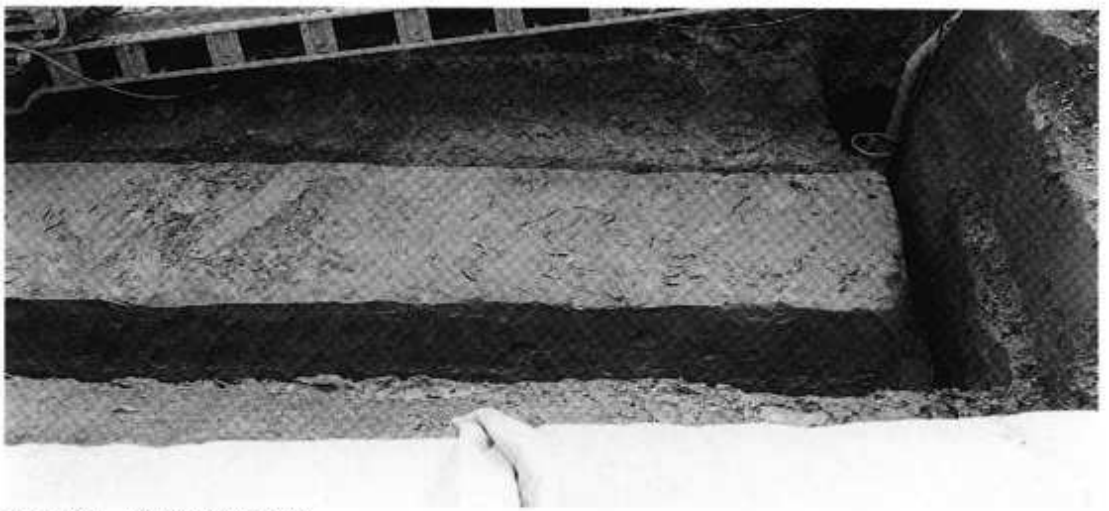
7044体底部



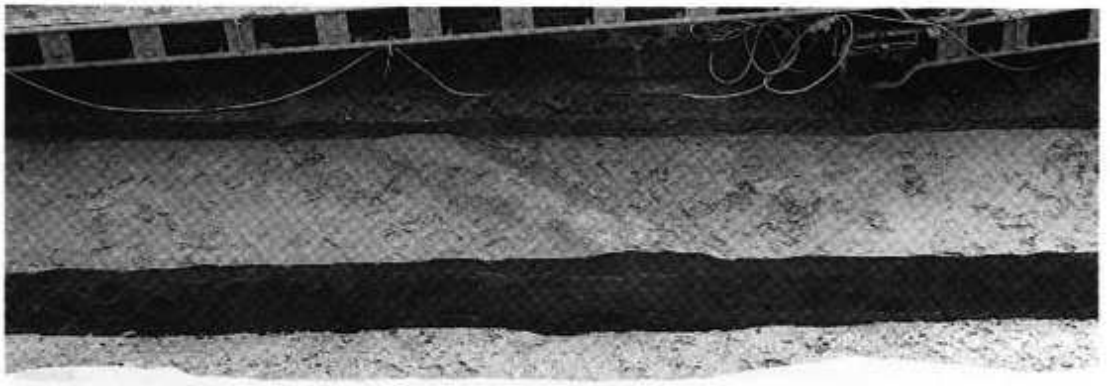
第3面全景（東から）



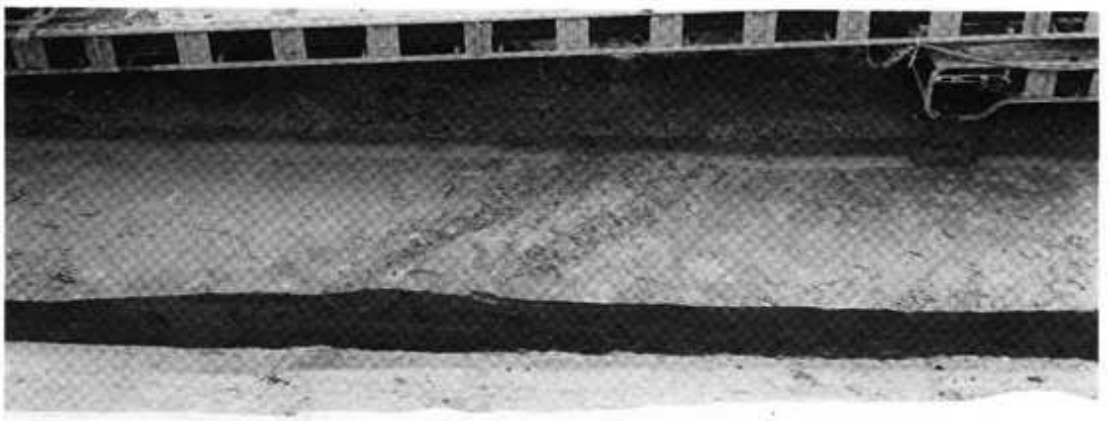
同（西から）



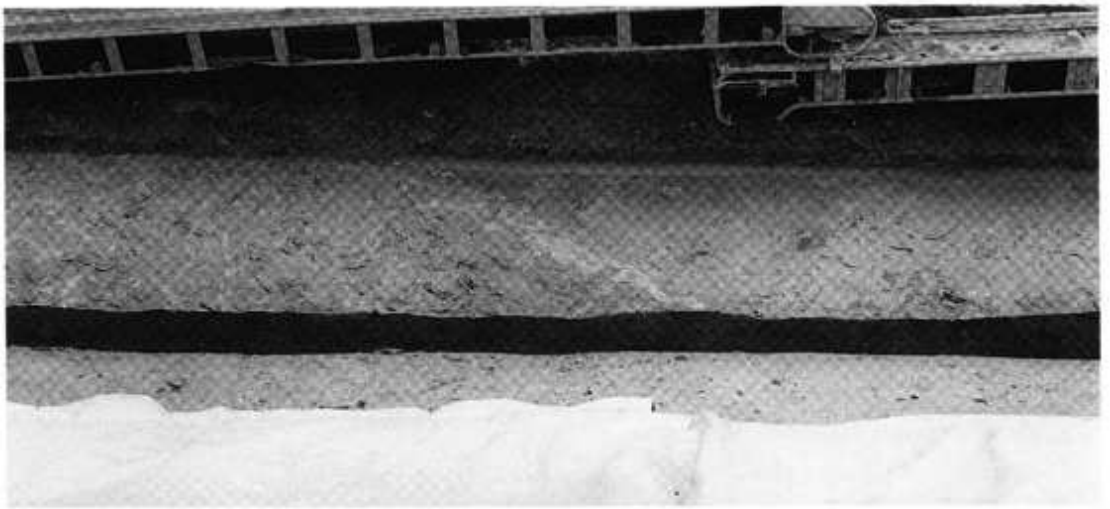
水田7301～水田7302（北から）



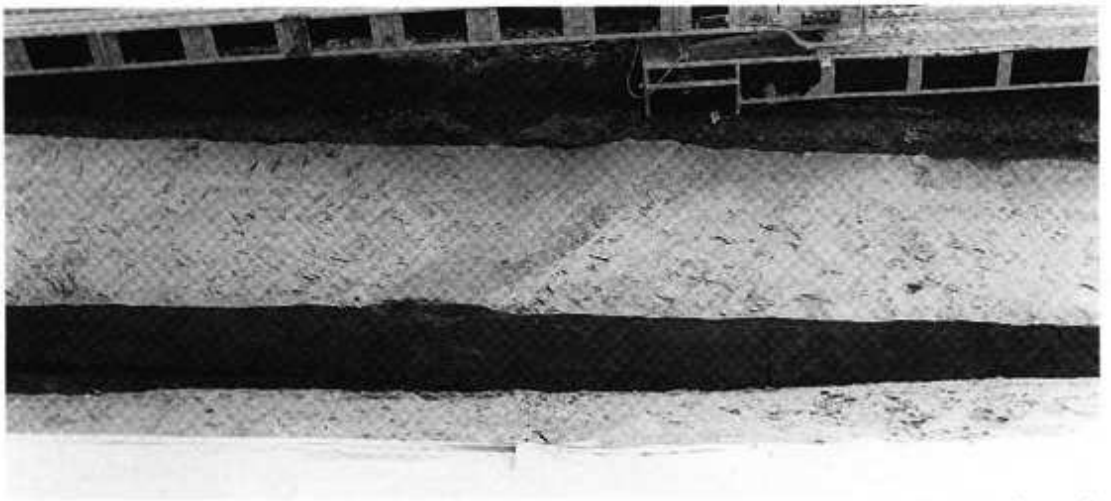
水田7302～水田7303（北から）



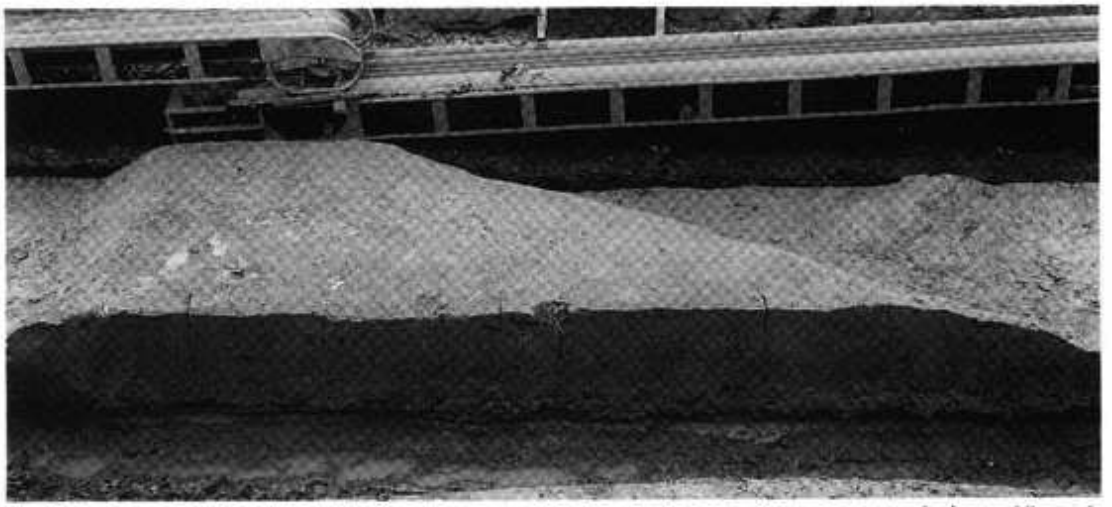
水田7303～水田7304（北から）



水田7304・水田7305（北から）

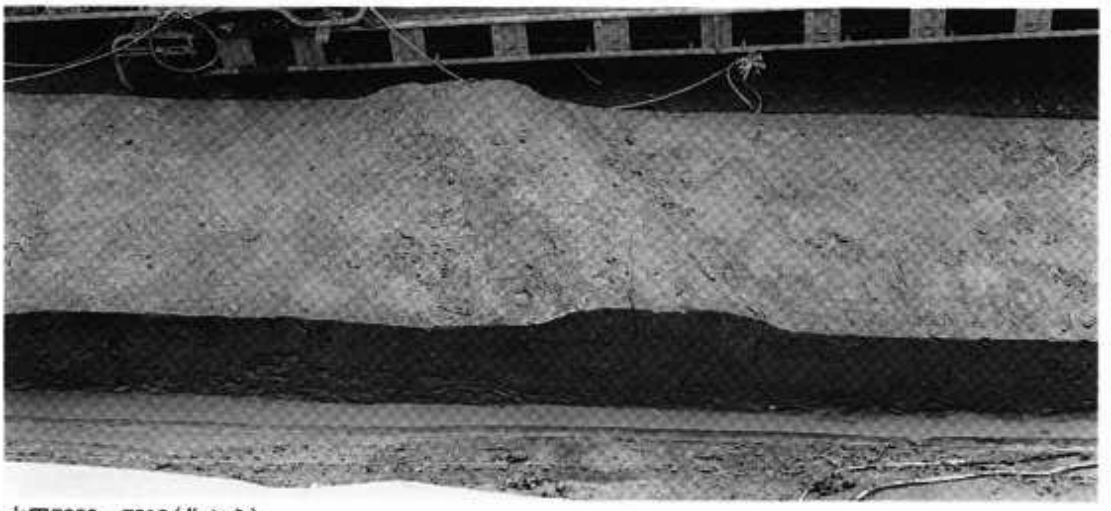


水田7305・水田7306（北から）

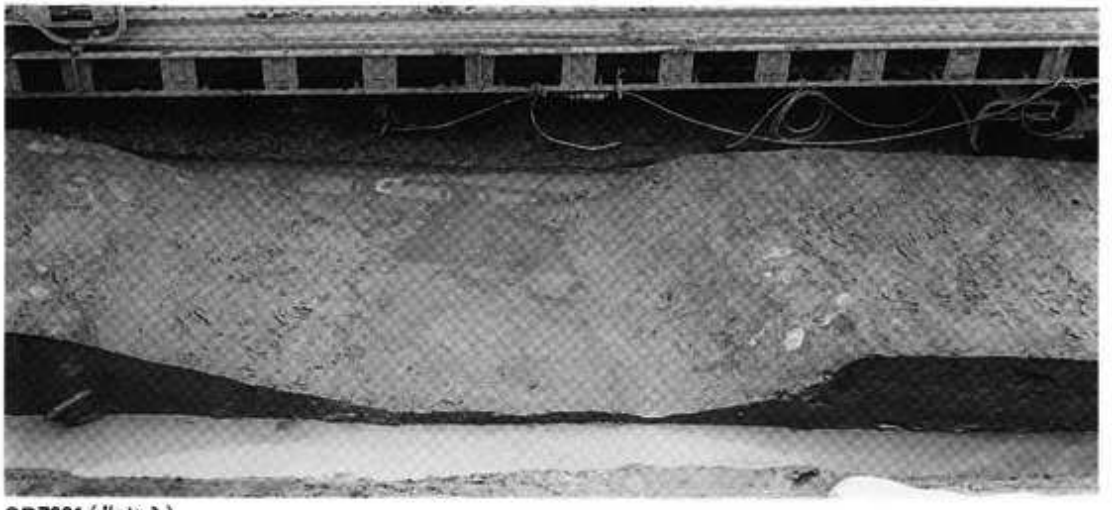


大畦7301（北から）

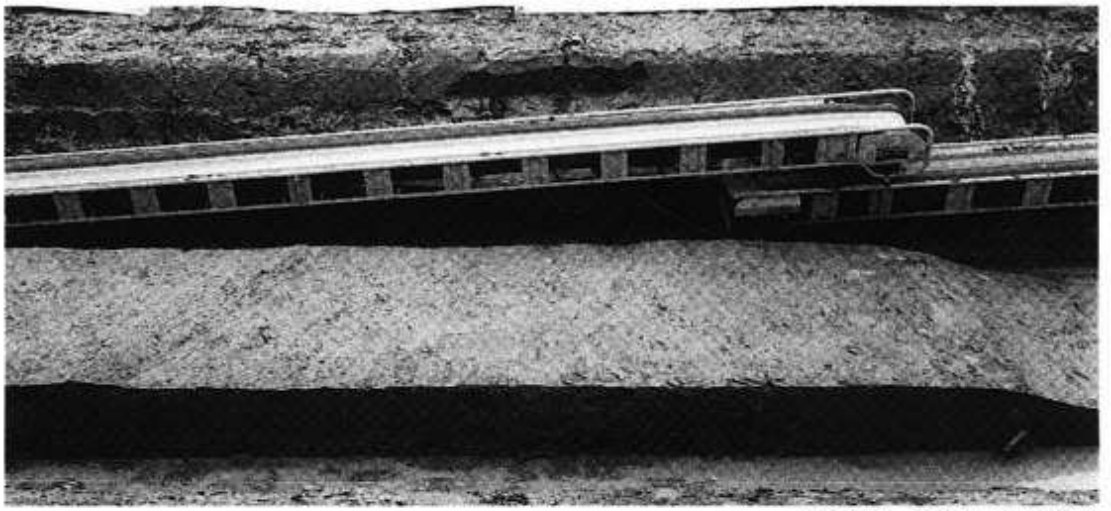
大畦7302（北から）



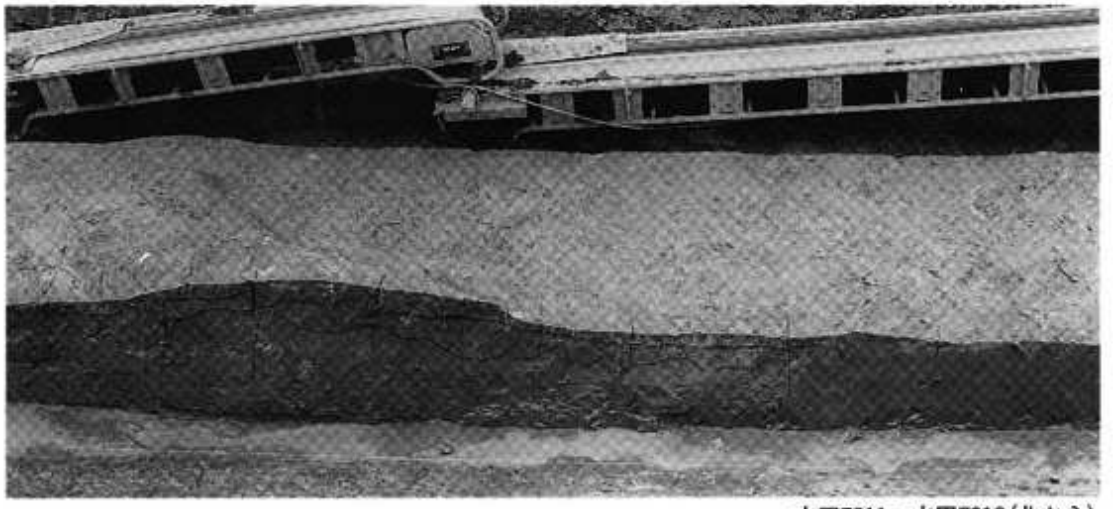
水田7309～7310（北から）



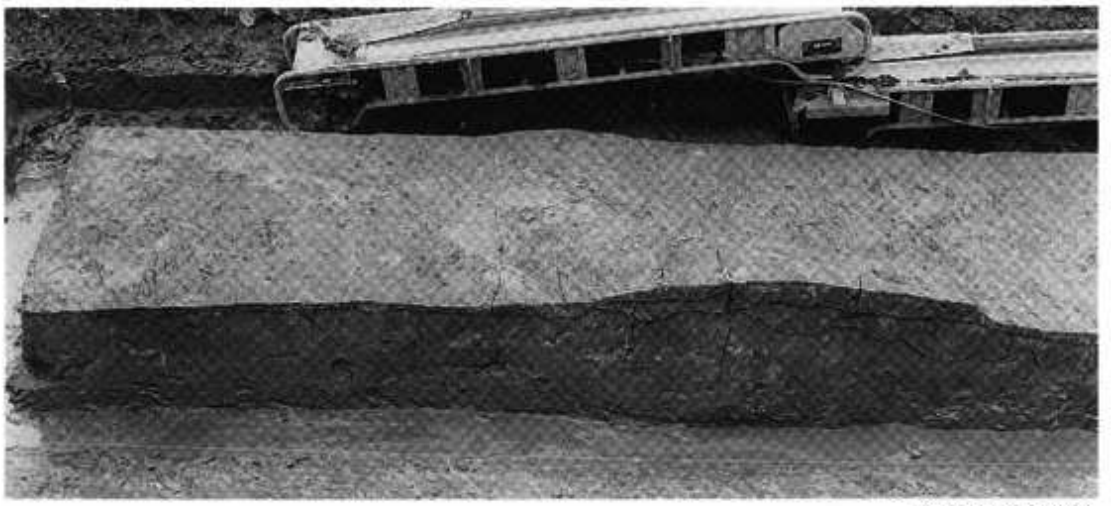
SD7301（北から）



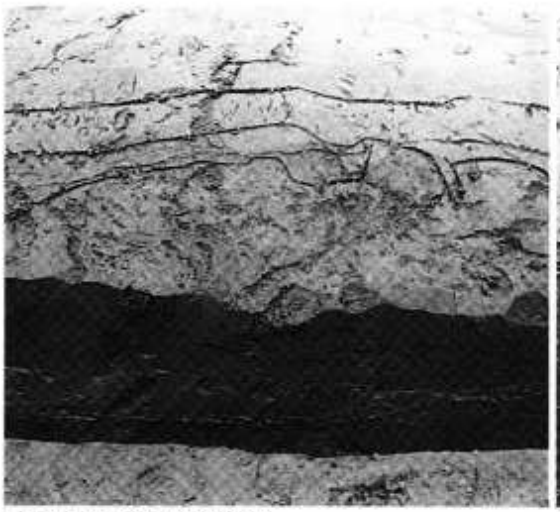
水田7310～水田7311（北から）



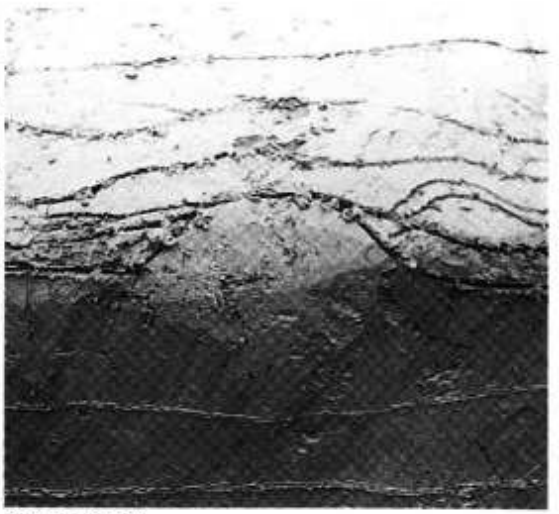
水田7311～水田7312（北から）



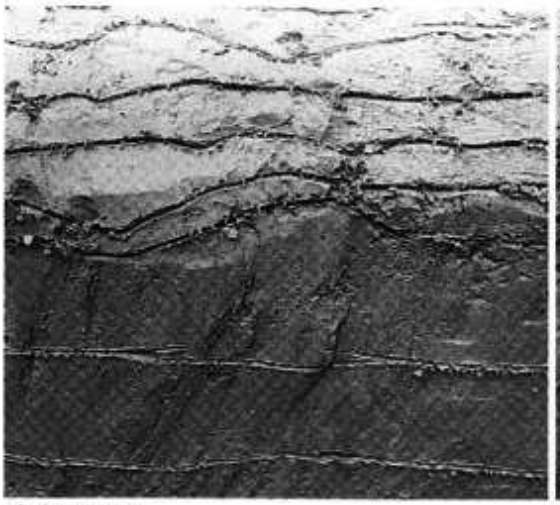
大畦7303（北から）



畦畔7302・畦畔7303北壁

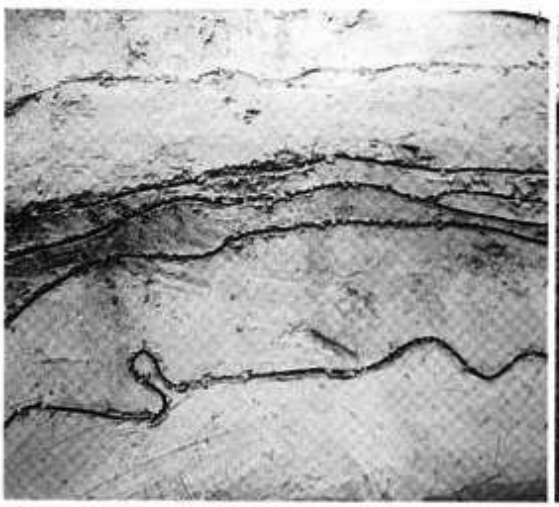


畦畔7304北壁

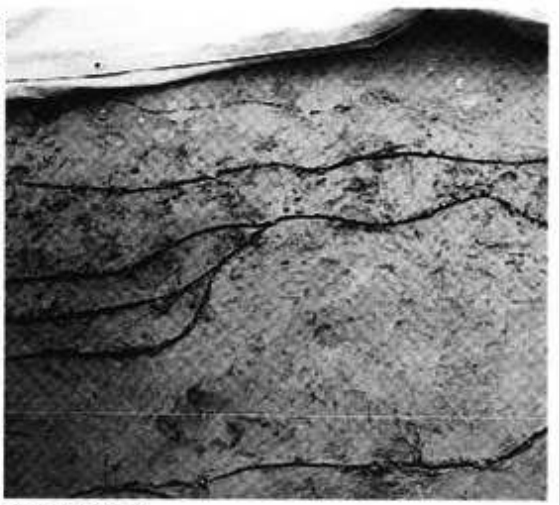


畦畔7305北壁

畦畔7306北壁



畦畔7308北壁



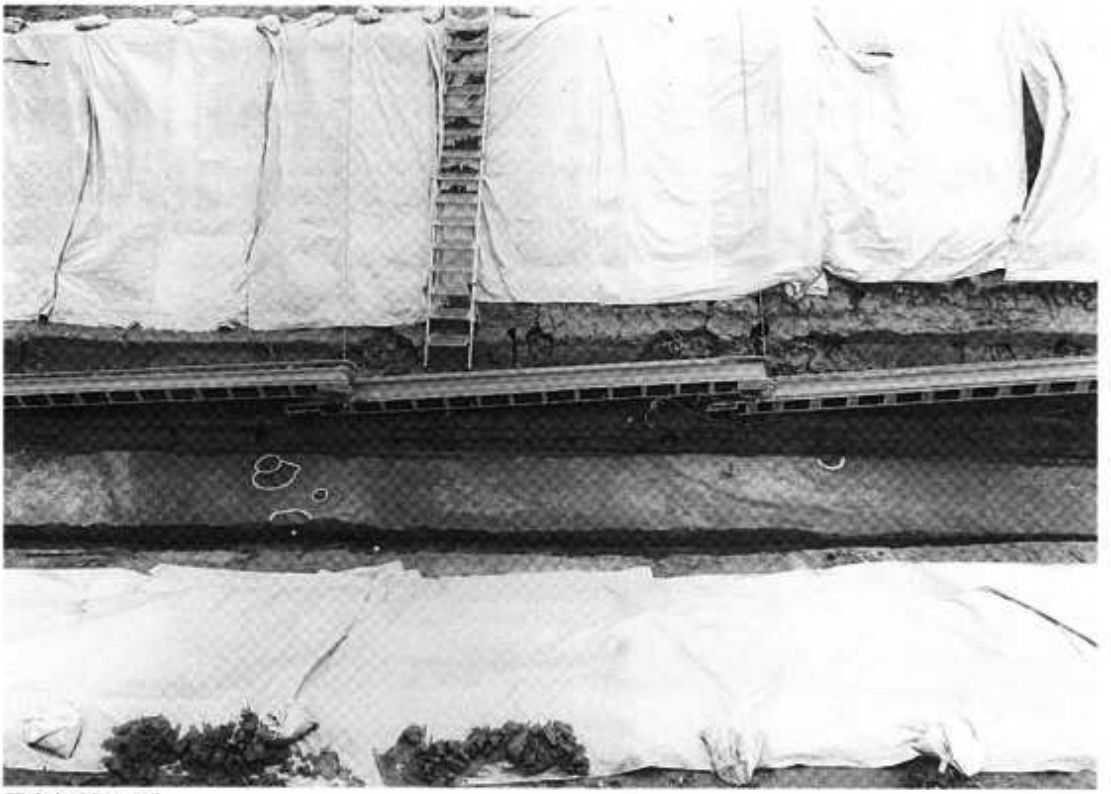
畦畔7309北壁

大畦7301東部（北から）

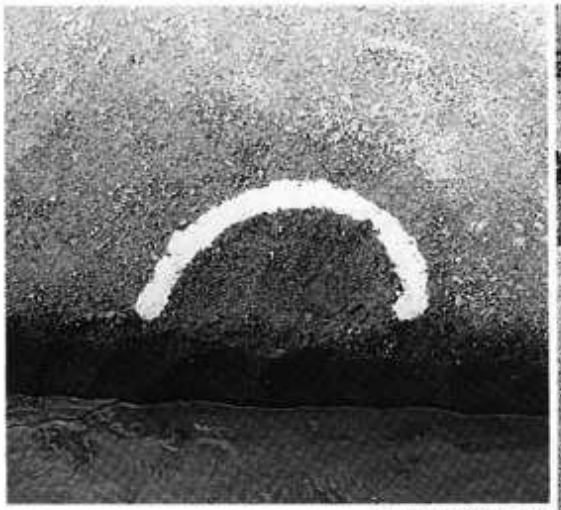
大畦7302（北から）

大畦7303（北から）

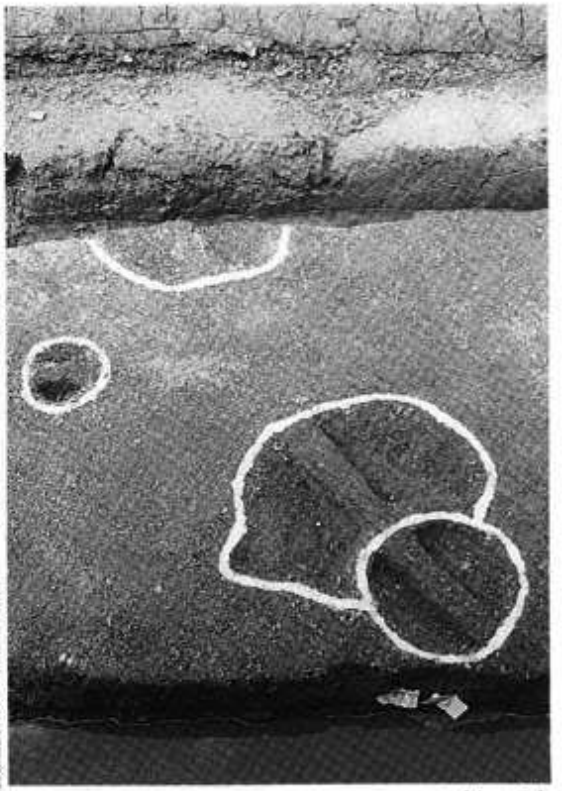
第4面全景（西から）



同東部（北から）



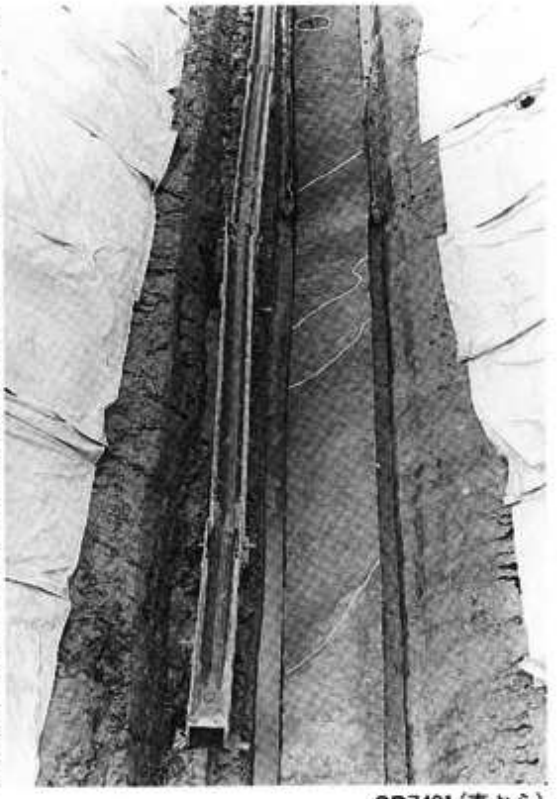
SP7401（南から）



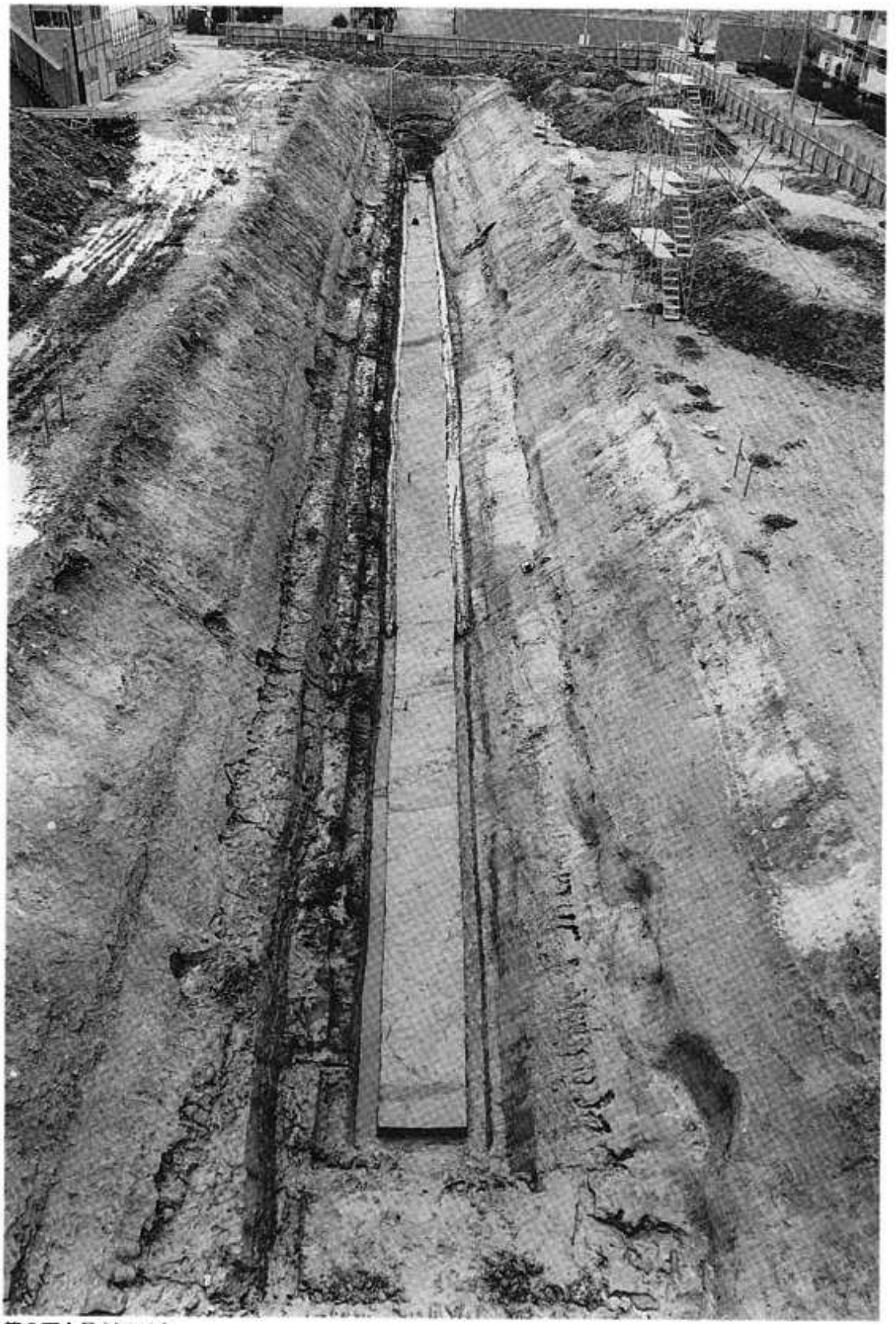
SP7402～SP7405（南から）

SP7406（南から）

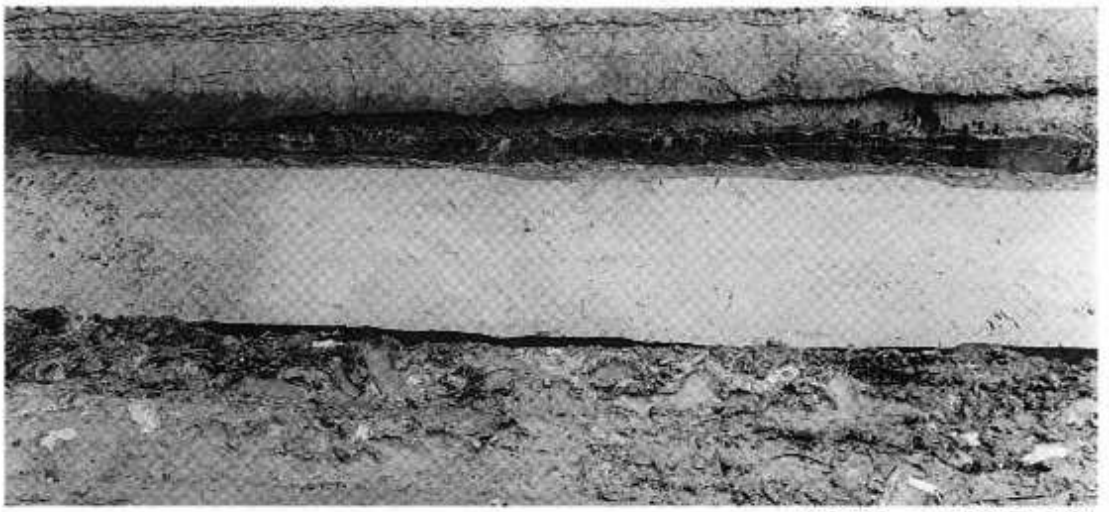
SP7407（南から）



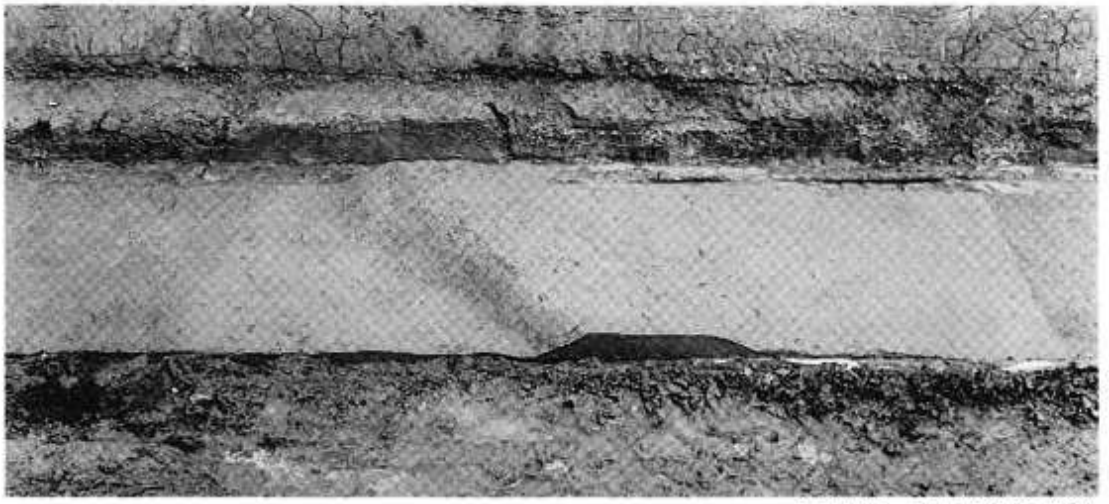
SD7401（東から）



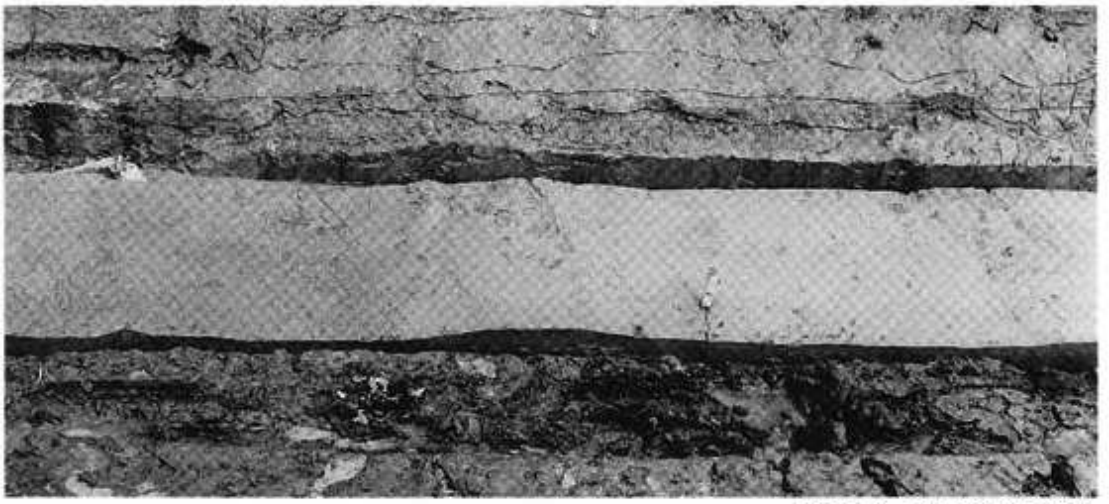
第5面全景（東から）



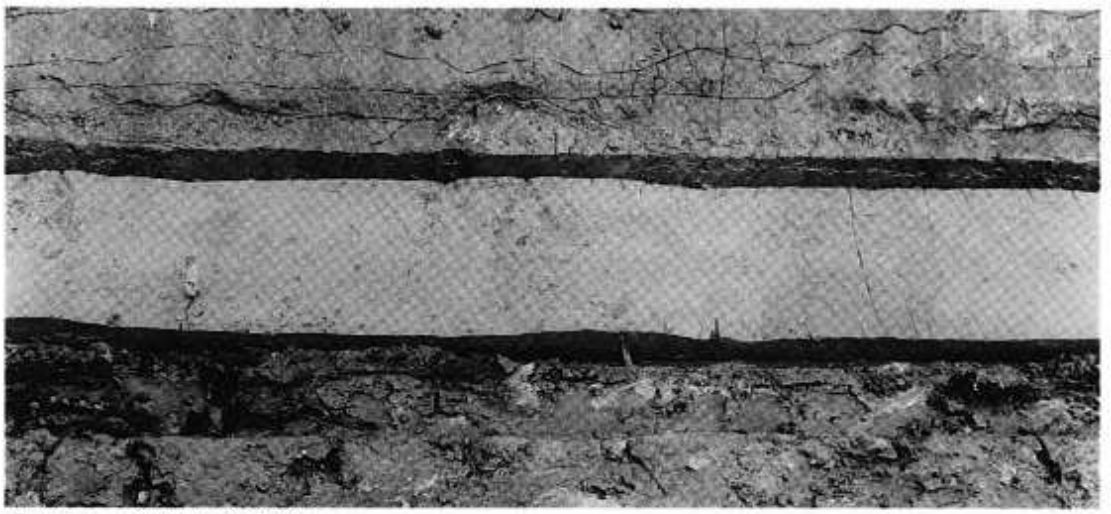
水田7501～水田7502（南から）



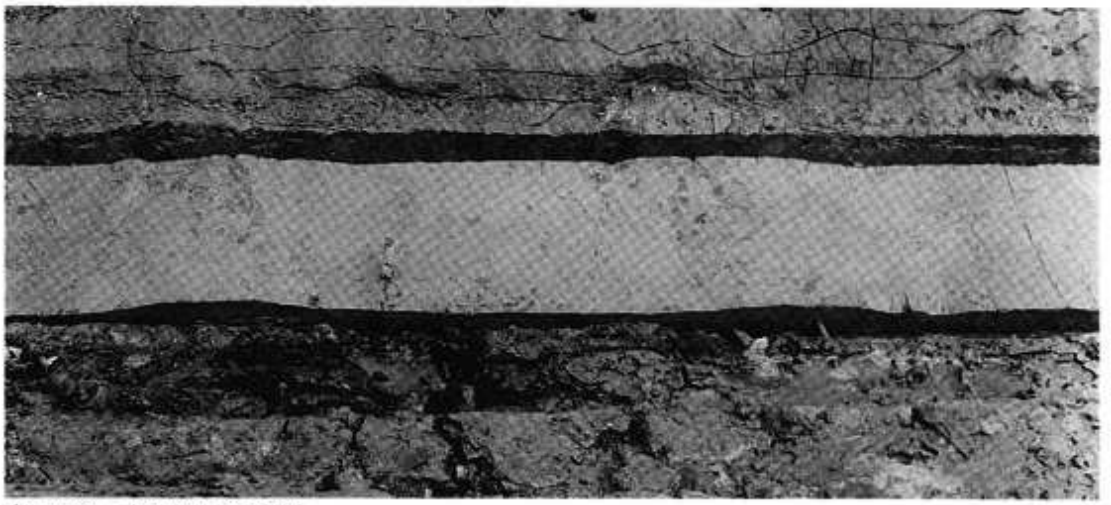
水田7502～水田7503（南から）



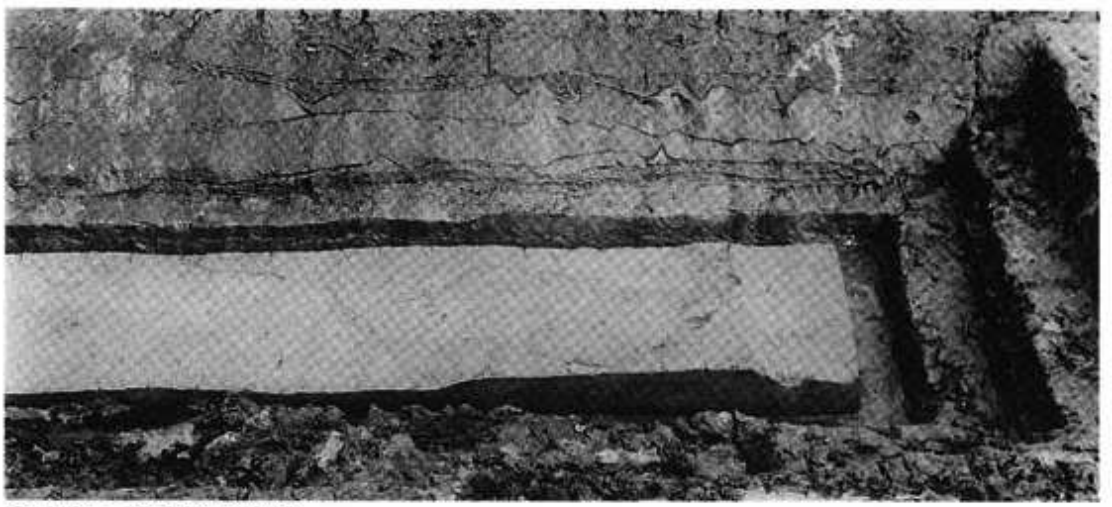
水田7503～水田7504（南から）



水田7504～水田7505（南から）



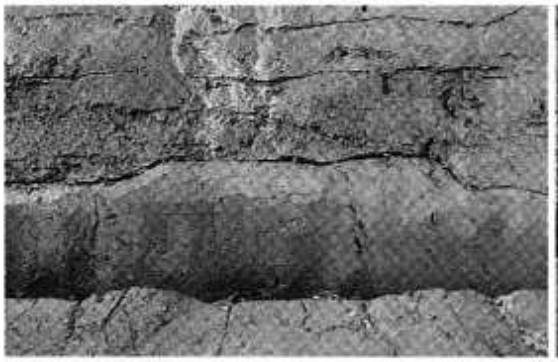
水田7503～水田7505（南から）



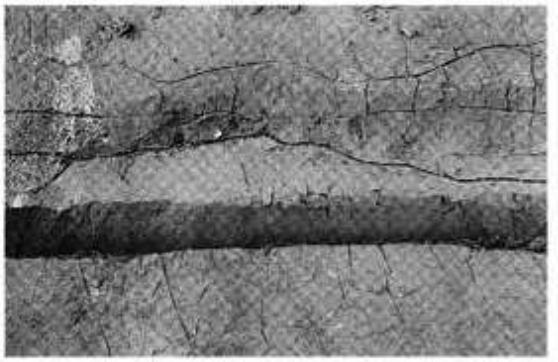
水田7505～水田7507（南から）

畦畔7501北壁

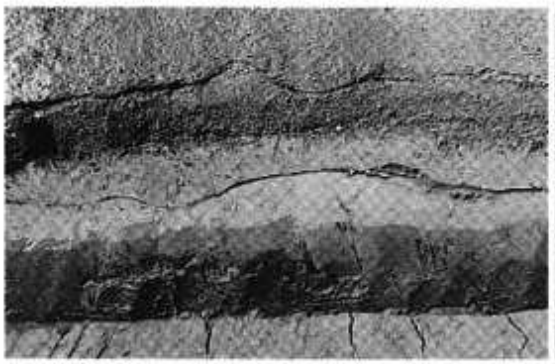
畦畔7502北壁



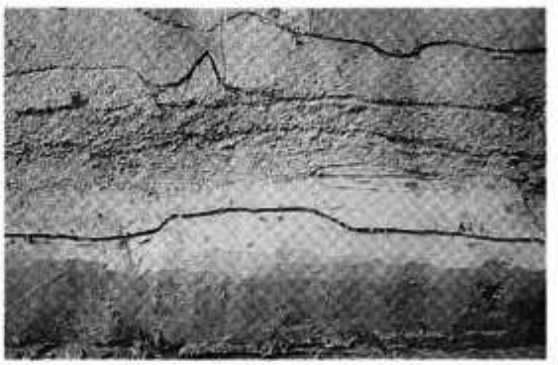
畦畔7503北壁



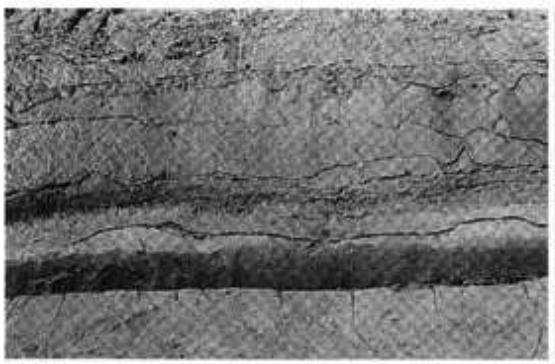
畦畔7504北壁



畦畔7505北壁



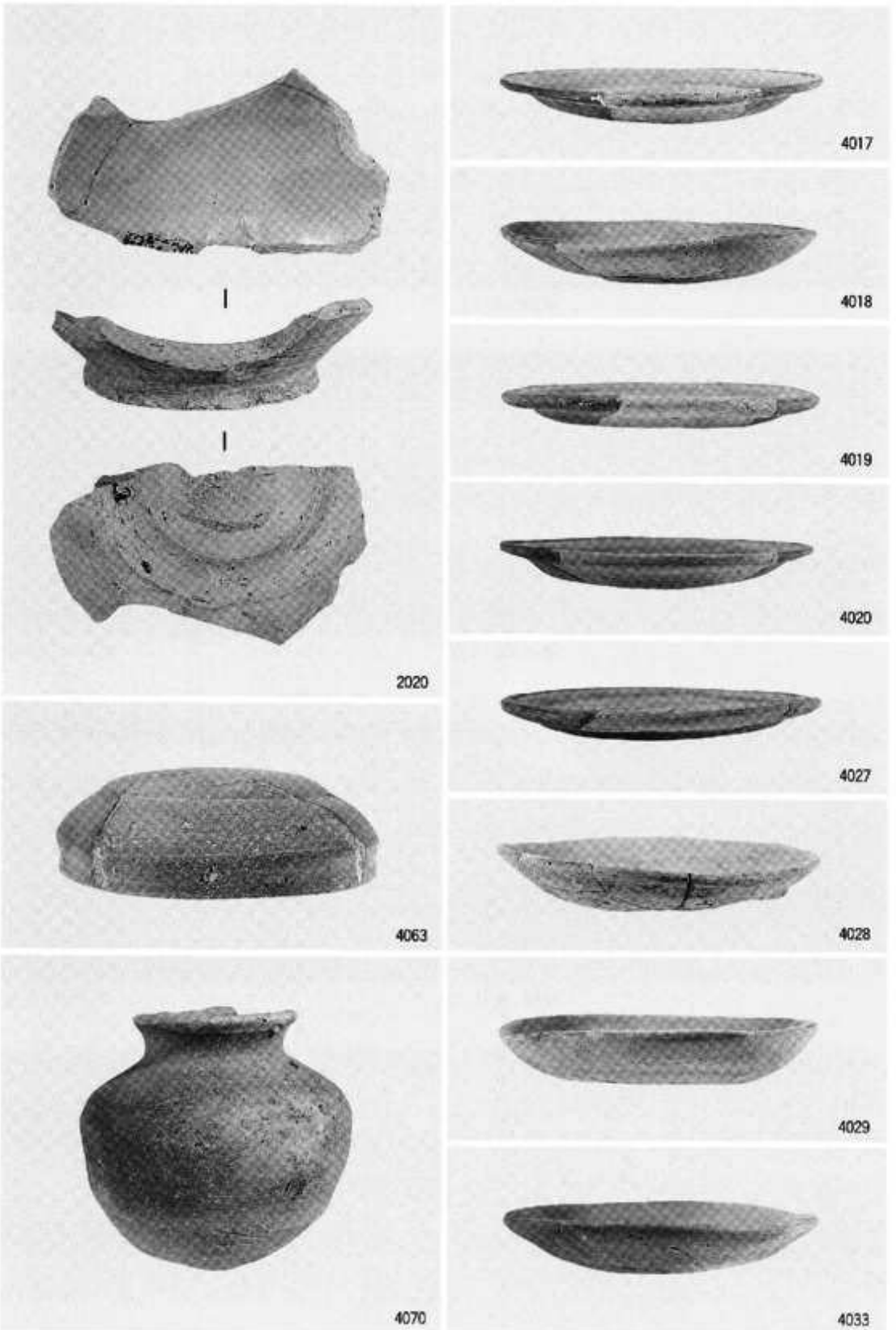
畦畔7506北壁



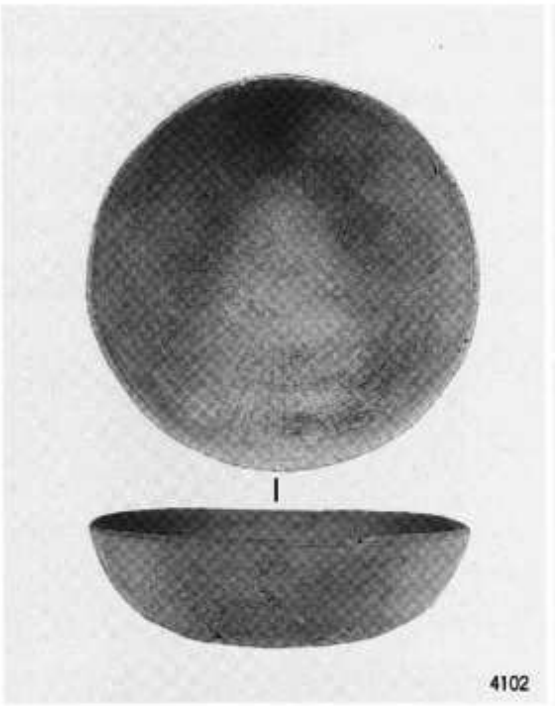
畦畔7505・畦畔7056北壁

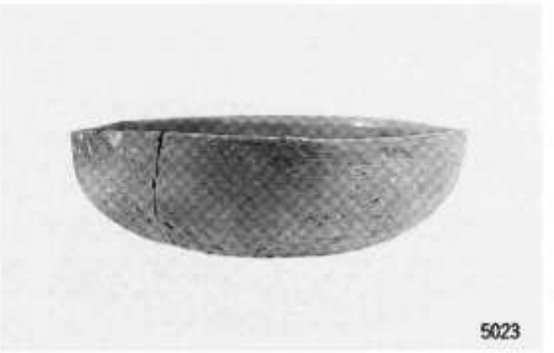
畦畔7505・畦畔7056南壁

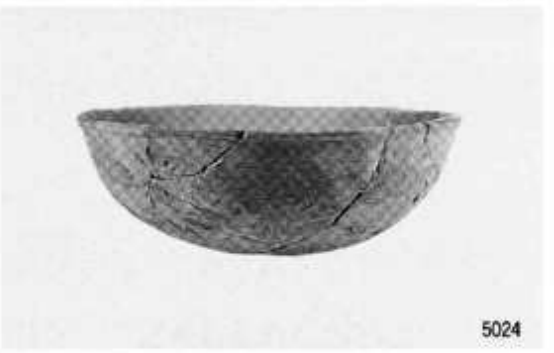
図版五二　出土遺物

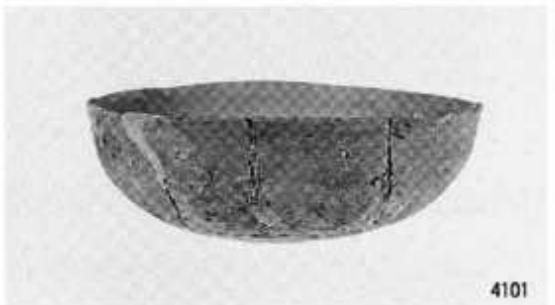


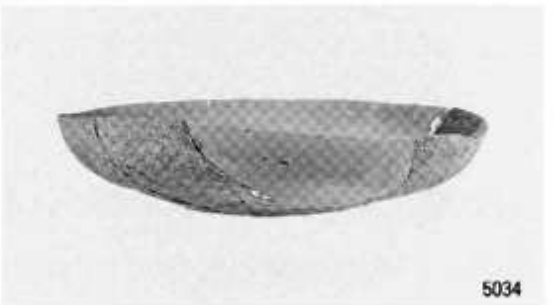
第2調査区(2020)、第4調査区(4017～4070)出土遺物

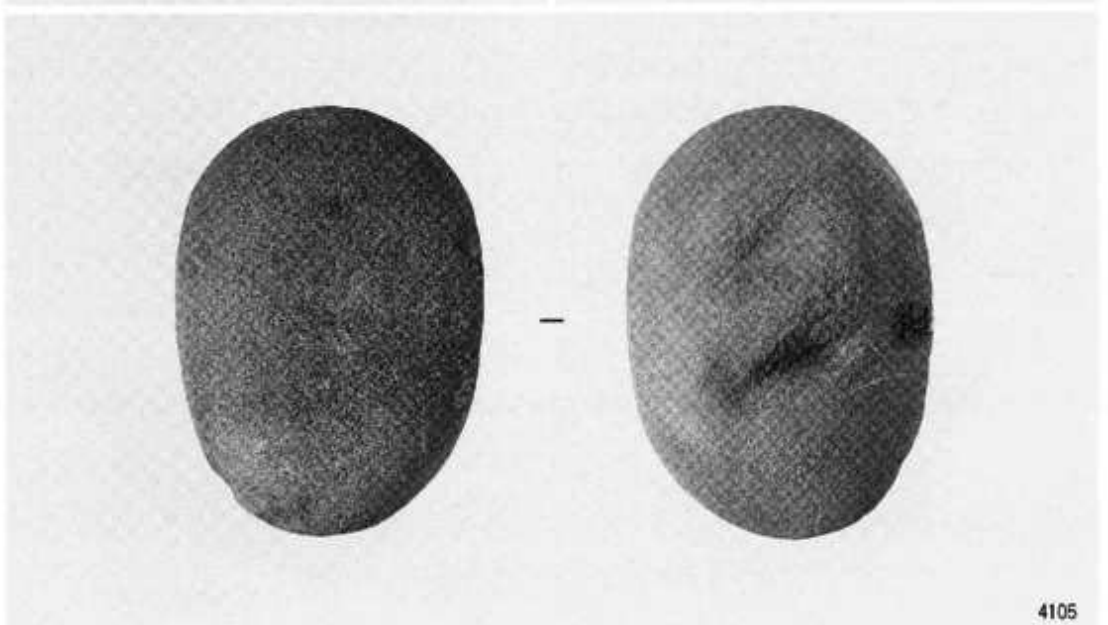




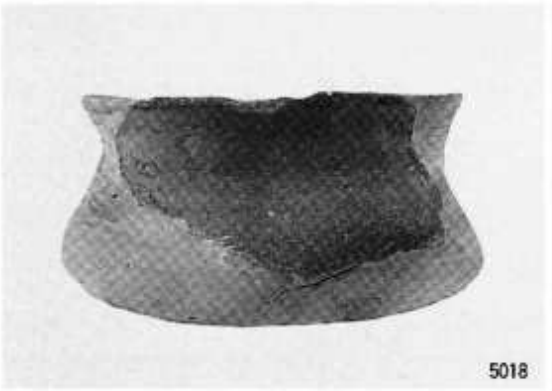






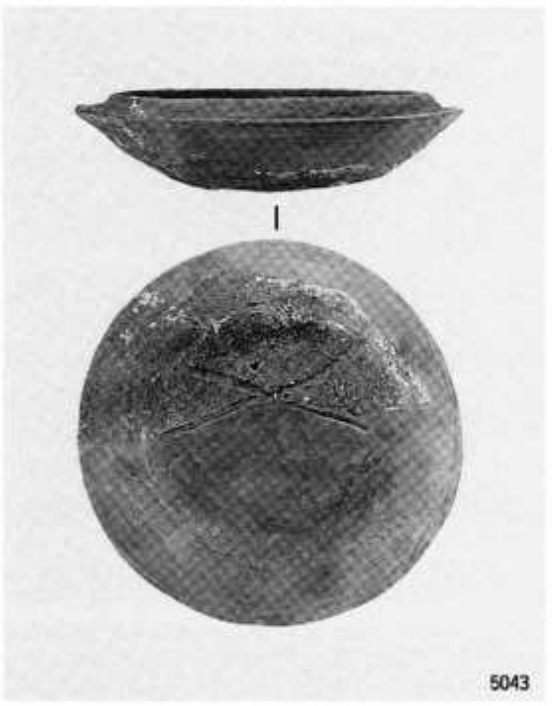


第4調査区(4101～4105)、第5調査区(5023～5034)出土遺物

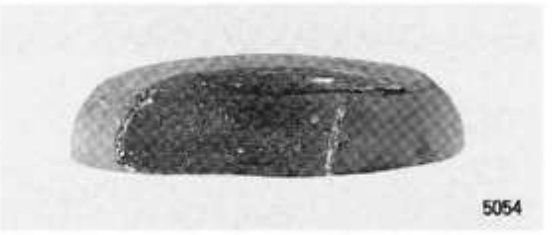

5018

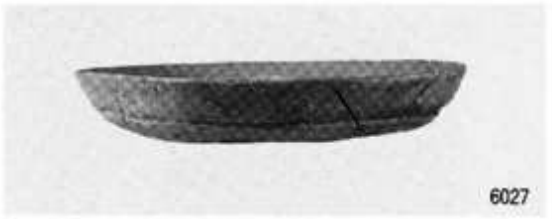
5045

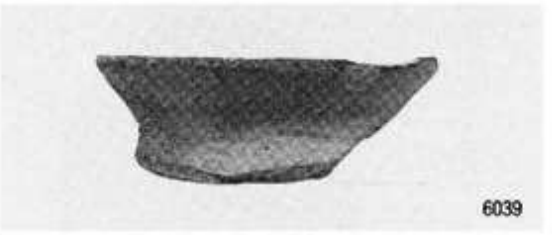
5046

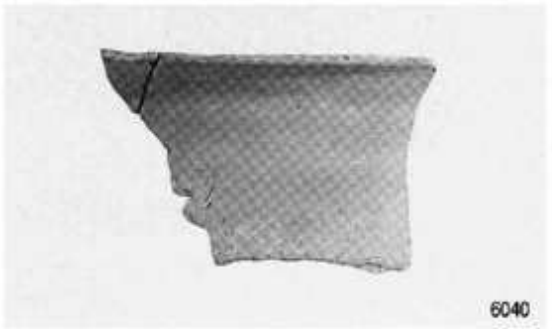

5043

5053


5054

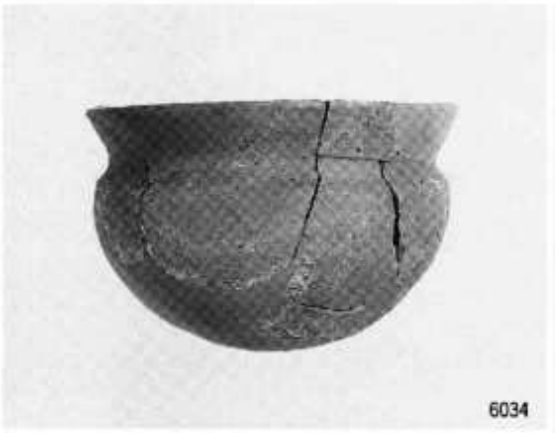

6027

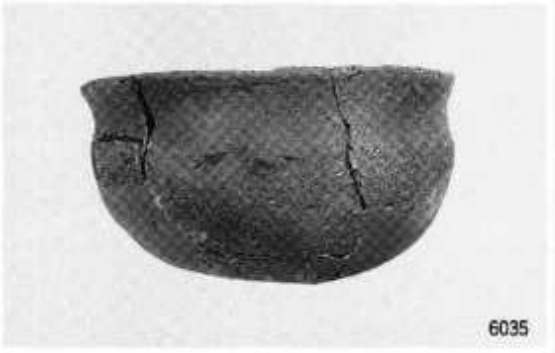

6039

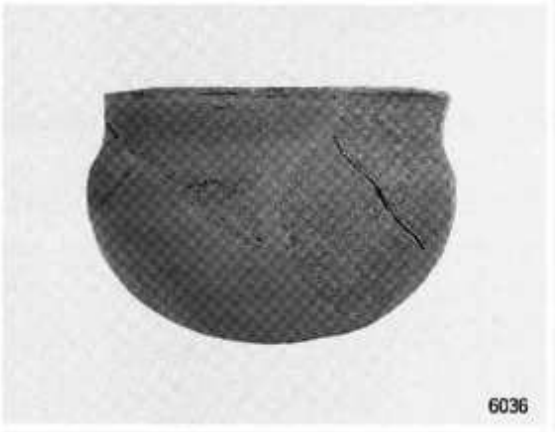

6040

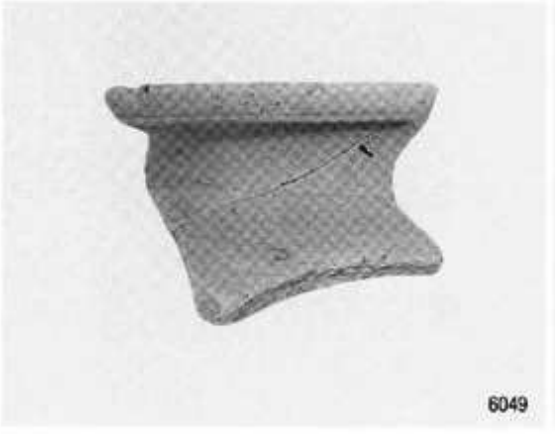
6048

第5調査区(5018～5054)、第6調査区(6027～6048)出土遺物


6034


6035


6036

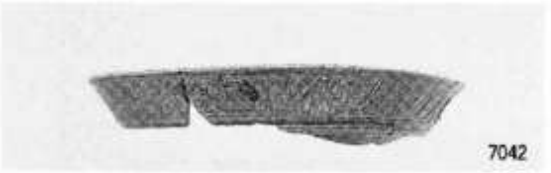

6049

6051

6054

6055

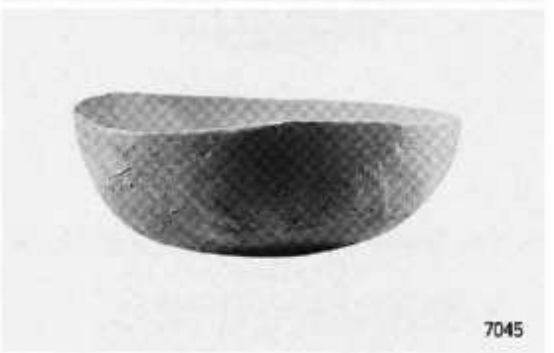
第 6 調査区出土遺物


7042

7043

7044

7041


7045

7048

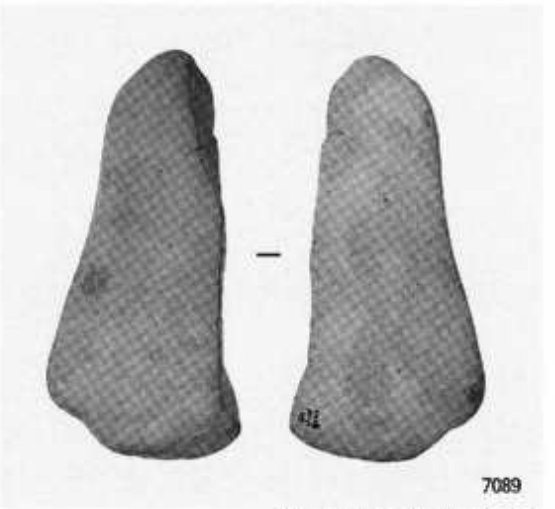
7050

第７調査区出土遺物－１

7084

7086

7088


7089

第７調査区出土遺物－２

Ⅱ　八尾南遺跡第10次調査（ＹＳ87－10）

例　　言

1　本書は、八尾市西木の４丁目４－１で実施した、国家公務員合同宿舎建設に伴う八尾南遺跡第10次調査の報告である。

1　本書で報告する八尾南遺跡第10次調査の発掘調査業務は、財団法人八尾市文化財調査研究会が、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第20号　昭和62年４月13日付）に基づいて、近畿財務局から委託を受けて実施したものである。

1　現地調査は、昭和62(1987)年７月27日から同年10月３日にかけて、成海佳子を担当者として実施した。調査面積は、696.12㎡を測る。

1　調査参加者は以下のとおりである。　　（五十音字順）

麻田　優、小西博樹、坂本真由美、角　肇、棚橋佐知子、前田晴美、正木洋二、松下哲也
和田　孝

目　　次

第１章　はじめに……83

第２章　調査概要　第１節　調査経過……85
　　第２節　地区割……85
　　第３節　層序……86
　　第４節　検出遺構と出土遺物……87

第３章　まとめ　第１節　古墳時代中期以前の水田遺構（第３面）……98
　　第２節　古墳時代中期の集落遺構（第２面）……100
　　第３節　平安時代末期の水田遺構（第１面）……100

第４章　付表　第１節　検出遺構一覧表……104
　　第２節　出土遺物一覧表……107

挿 図 目 次

第1図　調査地周辺図……83
第2図　調査区設定図……85
第3図　第1面平断面図（折り込み）……89～90
第4図　第5層出土遺物実測図……91
第5図　第2面平断面図……93
第6図　小穴ＳＰ201 遺物出土状況……94
第7図　第7層出土遺物実測図……94
第8図　第3面平断面図・壁面図（折り込み）……95～96
第9図　第3面全体図……99
第10図　第2面全体図…… 101
第11図　第1面全体図…… 103

図 版 目 次

図版一　第1面全景(西から)
図版二　水田105・水田106、水田105～水田107
図版三　水口1、水口2、水口4－水口8
図版四　畦畔101・畦畔102・畦畔104～畦畔107壁面
図版五　畦畔101・畦畔105・畦畔107 断ち割り
図版六　第2面全景(西から)、第3面全景(西から)
図版七　第2面西部(西から)、同上　東部(東から)
図版八　第5層、ＳＰ201、第7層出土遺物
図版九　第5層出土遺物
図版一〇　第5層、第7層出土遺物

第1章　はじめに

八尾南遺跡は、八尾市南西部の若林町・西木の本一帯に位置している。当遺跡の西から北へかけては、大阪市平野区長吉川辺・長吉長原・長吉六反と接し、この付近は「長原遺跡」と呼ばれており、八尾南遺跡とともに旧石器時代からの複合遺跡として認識されている。地形的には、南から伸びる羽曳野丘陵と河内平野の接点にあたることから、遺跡南部は丘陵状の高まり、遺跡北部は谷状の低平地となっている。

そのためか、遺跡南部の若林町では比較的浅いところで後期旧石器時代の生活面が検出されるのに対し、遺跡北部の西木の本では、これまでに弥生時代後期の遺構面までしか確認できていないのが現状である。今回報告の調査地は、遺跡北部に位置しており、立地条件から見れば田井中遺跡・木の本遺跡・亀井遺跡などの沖積作用の著しい遺跡と似ている。

当遺跡内では、地下鉄開通後の駅前開発や八尾空港跡地再開発などが進んでおり、それに伴う発掘調査件数も増えている。今回報告の調査地周辺に限れば、八尾市教育委員会調査地（①・②）、（財）大阪市文化財協会調査地（③）、当研究会調査地（④～⑩）がある。

第1図　調査地周辺図

当遺跡北部での最初の発掘調査は、昭和55(1980)年度に、八尾市教育委員会が行った八尾南遺跡範囲確認調査で、この調査地は、当調査地の南東にあたる。ここでは、現地表下2.0mで平安時代の埋没水田、2.4mで古墳時代の遺物包含層を検出している（①）。

翌昭和56(1981)年度には、①地点の北に隣接する地点で調査が行われており、上層で平安時代の埋没水田、下層で古墳時代中期の遺構面が検出され、いわゆる「初期須恵器・韓式系土器の一括資料を含む土坑が検出された（②）。

次いで昭和59(1984)年度には、②地点および当調査地の西～北側で調査が行われたが、ここでも、前回の調査同様、二時期の遺構面が検出され、さらに下層に古墳時代中期以前の水田遺構のあることが明らかになった（④）。とくに中層の古墳時代中期の遺構面では、掘立柱建物や土器溜め・土坑などが検出され、この時期、この近辺が居住域であったことが明確にできたまた遺物についても、前回の②地点と同様、多量の初期須恵器や韓式系土器のほか製塩土器・滑石製勾玉も含まれており、この地域の特異性が明らかになったといえる。

さらに昭和62(1987)年度には、当調査地の東側の道路敷下で、公共下水道工事に伴う発掘調査がされており、前述の3時期の遺構面に対応する土層を確認している（⑥）。

なお、平成4(1992)年度には、当調査地の北東側でも調査が行われているが、ここでは古墳時代中期の遺構面が2次期に分かれ、住居群を形成していることが判明した。とくに下層遺構からは夥しい量の初期須恵器や韓式系土器、管玉・勾玉の出土があった（⑩）。

表1　周辺の発掘調査一覧表

番号	調査主体	遺跡・調査区名	調査原因	調査期間	面積㎡	所在地	調査概要
①	八尾市教育委員会	八尾南遺跡 第4調査区	範囲確認調査	1980. 6	20	西木の本4	古墳時代中期の遺物包含層、平安時代水田
②	八尾市教育委員会	八尾南遺跡	防衛庁宿舎建設	1981. 6/3～7/11	432	西木の本4－11	古墳時代中期遺構面、平安時代水田
③	(財)大阪市文化財協会	長原遺跡 NG82－26次	国家公務員宿舎建設	1982. 12 ～1983. 3	1,100	大阪市平野区長吉長原東3－14	古墳時代前期の遺物包含層、平安時代末期～鎌倉時代の水田
④	(財)八尾市文化財調査研究会	八尾南遺跡 第3次YS84－3	国家公務員宿舎建設	1984. 7/10～1985. 3/30	990	西木の本4－4	古墳時代前期初頭水田、古墳時代中期遺構面韓式系土器、平安時代水田
⑤	(財)八尾市文化財調査研究会	八尾南遺跡 第4次YS84－4	病院建設	1984. 10/5～11/6	630	西木の本1－63	弥生時代後期遺物包含層・遺構面、古墳時代中期遺物包含層
⑥	(財)八尾市文化財調査研究会	八尾南遺跡 第6次YS86－6	公共下水道工事	1987. 1/7～1/31	120	西木の本3・4	古墳時代・平安時代遺構面相当層
⑦	(財)八尾市文化財調査研究会	八尾南遺跡 第7次YS86－7	仮称第2大正小学校新築	1987. 2/10～1987. 7・8	3,044	木の本110	古墳時代前期、古墳時代中期～後期、古墳時代後期、平安時代後期～鎌倉時代水田
⑧	(財)八尾市文化財調査研究会	八尾南遺跡 第11次YS88－11	共同住宅建設	1988. 7/19～7/26	100	木の本2－46・49	弥生時代後期～古墳時代前期（庄内式）遺物包含層
⑨	(財)八尾市文化財調査研究会	八尾南遺跡 第16次YS89－16	公共下水道工事	1989. 10/25～1990. 2/22	97.38	木の本1、南木の本4	弥生時代後期、古墳時代前期相当層、古墳時代中期以降の旧渡河川
⑩ 追記	(財)八尾市文化財調査研究会	八尾南遺跡 第18次YS92－18	防衛庁宿舎建設	1992. 8/17～10/31	400	南木の本3－12 2	古墳時代前期・古墳時代中期（2時期）遺構面、韓式系土器・初期須恵器・勾玉、管玉
⑪ 追記	(財)八尾市文化財調査研究会	八尾南遺跡 第19次YS93－19	防衛庁宿舎建設	1993. 10/21～12/13	700	西木の本4－4	弥生時代、古墳時代中期初頭、古墳時代後期遺構面

文献
①「八尾南遺跡範囲確認調査」『八尾南遺跡・恩智遺跡発掘調査概要　八尾市文化財調査報告6』　八尾市教育委員会　1981
②「八尾南遺跡発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報1980・1981年度(財)八尾市文化財調査研究会報告2』(財)八尾市文化財調査研究会　1983
③『大阪市平野区長原遺跡発掘調査報告III』(財)大阪市文化財協会　1983
④『八尾南遺跡(第3次調査)』『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要昭和59年度(財)八尾市文化財調査研究会報告5』(財)八尾市文化財調査研究会　1984
⑤『八尾南遺跡(第4次調査)』『昭和59年度事業概要報告(財)八尾市文化財調査研究会報告7』(財)八尾市文化財調査研究会　1985
⑥『八尾南遺跡(第6次調査)』『昭和61年度事業概要報告(財)八尾市文化財調査研究会報告14』(財)八尾市文化財調査研究会　1987
⑦『八尾南遺跡(第7次調査)』『八尾市文化財調査研究会年報　昭和62年度(財)八尾市文化財調査研究会報告16』(財)八尾市文化財調査研究会　1988
⑧『八尾南遺跡(第11次調査)』『八尾市文化財調査研究会年報　昭和63年度(財)八尾市文化財調査研究会報告23』(財)八尾市文化財調査研究会　1989
⑨『八尾南遺跡(第16次調査)』『八尾市文化財調査研究会年報　平成元年度(財)八尾市文化財調査研究会報告28』(財)八尾市文化財調査研究会　1990
⑩『八尾南遺跡(第18次調査)』『平成4年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会　1993
⑪『八尾南遺跡(第19次調査)』『平成5年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会　1994

2章　調査概要

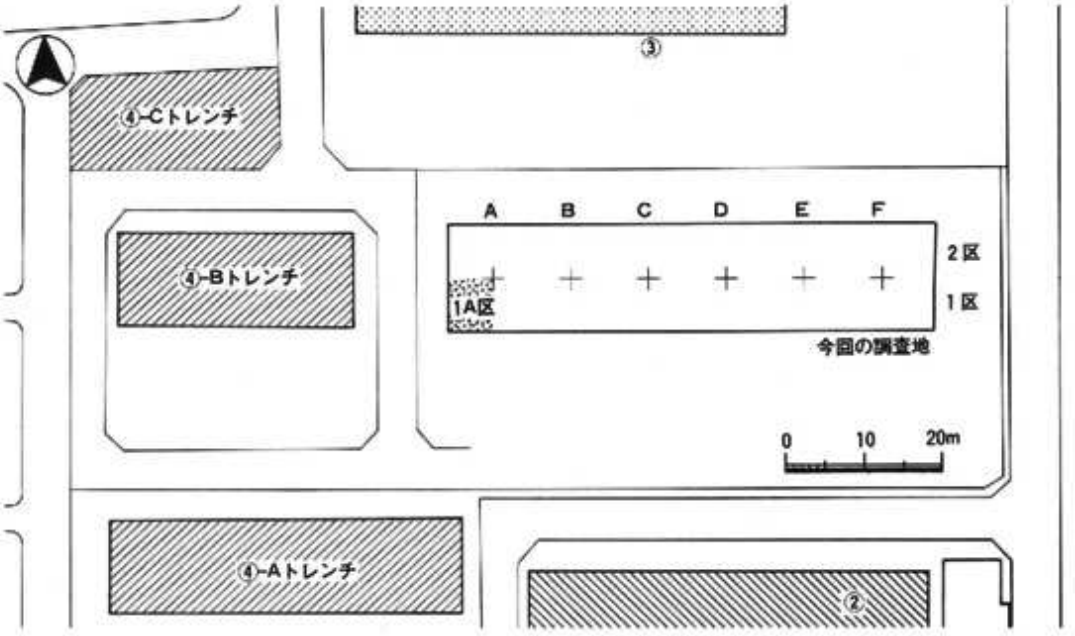
第1節　調査経過

5階建の国家公務員合同宿舎建設予定地に合わせて、東西62m・南北14mの調査区を設定した。周辺では、昭和57年～59年（1982年～1984年）にかけて、同様の原因で3件の調査（②～④）が行われていることから、これらの調査成果を踏まえて、今回の調査に臨んだ。

掘削方法は、いわゆる素掘り（オープンカット）で、平安時代の水田上部に堆積する砂層上面（地表下2m前後）までを機械掘削とし、そこから約1m前後を手掘りとした。その結果、3時期の遺構面を検出することができた。各遺構面検出時点で、そのつど写真撮影・図面作成などの記録に必要な作業をし、それらの作業終了後、順次掘り下げた。調査期間は昭和62年7月27日から10月3日まで、調査面積は上幅で約700㎡を測る。なお、当調査区では、壁面の勾配は十分に取ったため、最終面の面積は約490㎡に減少している。

第2節　地区割

南北は、調査区の中心で2分割し、南を1区・北を2区と呼んだ。東西は敷地境界線の西端から10mごとに区画し、西からA・B‥‥G区と呼んだ。各区画については、それらをあわせて1A区‥‥2G区と呼んだが、本文では「A区」・「B杭周辺」などと表した部分もある。



第2図　調査区設定図

第3節　層序

調査区の地表面はT.P.+10.8～10.9mとおおむね一定しているが、東部の1B区・2B区を中心として、0.5～0.6mの高まりが見られた。盛土は厚く1.3～2.0m程度あり、旧耕土・床土は損なわれている部分が多い。基本的な層は10枚を数え、すべての層が東へ緩やかに下がっている。

第1層：緑灰色～灰黒色細砂混じり粘質土　層厚0.2～0.3m

近年の造成によるものか、耕土・床土が混ざりあった状態で、判別不能であった。

第2層：灰黄色細砂混じり粘質土　層厚0.2～0.4m

近世～近代の耕土・床土の可能性がある。

第3層：灰色粘土　層厚0.2～0.4m

東部では波状痕跡が顕著に認められ、窪み内部にA層黄茶色粗砂が堆積していることから、中世～近世の埋没水田の可能性がある。

第4層：灰色礫混じり粘質土　層厚0～0.1m

第3層の床土の可能性がある。

第5層：灰色微砂～細砂　層厚0.1～0.4m

平安時代末期の水田上面を覆う洪水層で、水量は豊富であった。弥生時代後期～平安時代末期に至る各時期の遺物を含むが、量は少ない。

第6層：茶褐色粘土　層厚0.1～0.3m

平安時代末期の水田耕土で、粘性はきわめて高い。この上面を第1面とした。上面のレベルはT.P.+8.3～8.5mで、西が高く東が低い。東部や足跡状遺構の窪み内部には、青灰色シルトが堆積している。

第7層：黒灰色細砂混じり粘質土　層厚0.1～0.3m

古墳時代中期以降の遺物をわずかに含む。

第8層：灰色粗砂　層厚0～0.2m

上面が古墳時代中期の遺構面で、第2面と呼んだ。上面のレベルは、T.P.+7.7～7.9m程度である。この層も第5層同様洪水に伴う堆積土と考えられるが、遺物は含んでいない。中央部では薄くなり、欠落する部分も多い。遺構も、東西両端に分かれて存在していた。

第9層：緑灰色粘土　層厚0.05～0.1m

古墳時代中期以前の水田耕土で、この層上面を第3面と呼んだ。上面のレベルはT.P.+7.6～7.9mで、やはり西が高い。この面でも、中央部では遺構は認められなかった。

第10層：暗灰色粘土　層厚0.2～0.3m以上

きわめて粘性の高い土層である。

第11層：灰色粗砂層厚0.5m以上

部分的に検出した土層であるが、含水量はきわめて多い。

第4節　検出遺構と出土遺物

現地表下2.3～2.5mの第6層茶褐色粘土上面（T.P.+8.3～8.5m）で、平安時代末期の水田遺構、そこより0.5～0.6m下層の第8層灰色粗砂上面（T.P.+7.8～7.9m）で、古墳時代中期の集落遺構、その直下の第9層緑灰色粘土上面（T.P.+7.6～7.8m）で、古墳時代中期以前の水田遺構を検出した。それぞれを新しい順に、第1面～第3面と呼んだ。各上層上面は、層序の項でも述べたように、西が高く東へ向かってゆるやかに下がっており、東西の比高差は0.2～0.3m程度ある。遺物の出土量はわずかで、総量でコンテナ1箱分である。第5層灰色微砂～細砂には弥生時代後期～平安時代末期のもの、第7層黒灰色細砂混じり粘質土には、古墳時代中期～平安時代前期のものが含まれている。ともに、時代幅が広く、摩耗を受けた小破片が多い。また、遺構内部出土のものは、1点のみであった。

1）　平安時代末期の水田遺構（第1面）

地表下2.3～2.5mの第6層茶褐色粘土上面で、水田遺構を検出した。畦畔7条（畦畔101～畦畔107）、水田7筆（水田101～水田107）で、足跡状遺構は、水田面のみならず、畦畔上面にも、無数に遺存している。

畦畔には、東西方向に伸びるもの1条（畦畔101）、南北方向に伸びるもの4条（畦畔102・畦畔104・畦畔105・畦畔107）のほか、北西－南東に伸びるもの2条（畦畔103・畦畔106）がある。畦畔は、基底幅0.6～2.1m、高さ0.7～0.35m程度で、すべて耕土である第6層を盛り上げて作られており、凹凸の激しいふぞろいな形状である。

畦畔101：調査区東部北側を東西に伸びるもので、調査④Bトレンチで検出した畦畔Ⅰの東の延長である。東端は畦畔107の西約4m付近でとぎれていることから、この畦畔は東西の端を検出したことになる。この畦畔は、他の畦畔との接続部には必ず水口が設けられており、その他にも3か所の水口がある。なかでも、畦畔105との接続部は「食い違い」になっており、そこから南東へ舌状に伸びる畦畔106があり、複雑な形になっている。

畦畔102：平面的には、調査区北西隅の2A区でわずかに検出しただけであるが、畦畔101との接続部に水口を設けた後、わずかに西へ振ってさらに南へ伸びることが、側溝や西壁の観察から確認できた。

畦畔103：２Ｃ区西寄り、畦畔102から東16ｍ付近で検出した。南東－北西に伸びるもので、北東側に溝状の窪みが認められる。

畦畔104：２Ｃ区中央部北端、畦畔103の東３ｍに位置する。畦畔101との接続部は水口となっているが、その部分はとぎれるのではなく、高さを減じて続いている。

畦畔105：調査区中央部、１Ｄ区・２Ｄ区中央で検出した。畦畔101との接続部付近には、３か所の水口がある。また、調査区南端では一旦とぎれているが、南壁で畦状の高まりを検出していることから、この部分にも水口が設けられており、さらに南へと畦畔が伸びるものと思われる。この畦畔105の北部では、西側の水田104と東側の水田105との間に0.15～0.2ｍの段差があり、東の水田104が低い。

畦畔106：調査区中央部、１Ｄ・２Ｄ・１Ｅ・２Ｅで検出した。畦畔101の東端付近から南東方向に伸びる。他の畦畔に比して高さも低く、方向も異なっている。

畦畔107：１Ｅ・２Ｅ区東寄りで検出した。北端は畦畔101との接合部付近まででとぎれており、北部は幅広でわずかな高まりとなっている。畦畔101との接合部以外にも、その付近に２か所の水口がある。

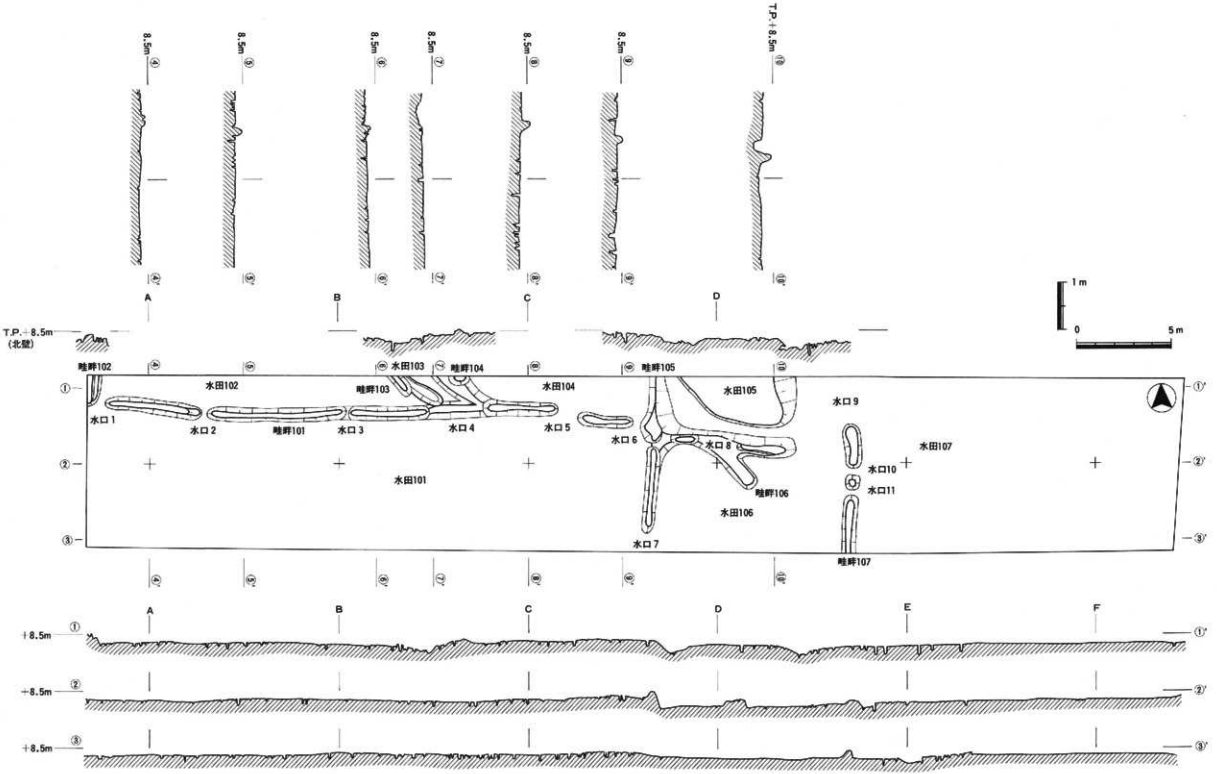
水田101：１Ａ区～１Ｄ区、２Ａ～２Ｄ区で検出した。北を畦畔101、西を畦畔102、東を畦畔105で区画されており、東西幅は約30ｍを測る。上面はおおむね平坦であるが、南が高く北へ徐々に下がる。他の水田との高さの関係は、水田102・水田103よりは0.05～0.1ｍ程度高く、水田104よりは0.1～0.2ｍ程度高い。

水田102：２Ａ～２Ｃ区で検出した。南を畦畔101、西を畦畔102、東を畦畔103で区画され、東西幅は15～17ｍを測る。上面レベルは水田101よりやや低めで、とくに東半分が低くなっているが、水田103よりは0.1ｍ以上高い。平面の形状は、畦畔104の方向から、三角形・台形などが想定できる。

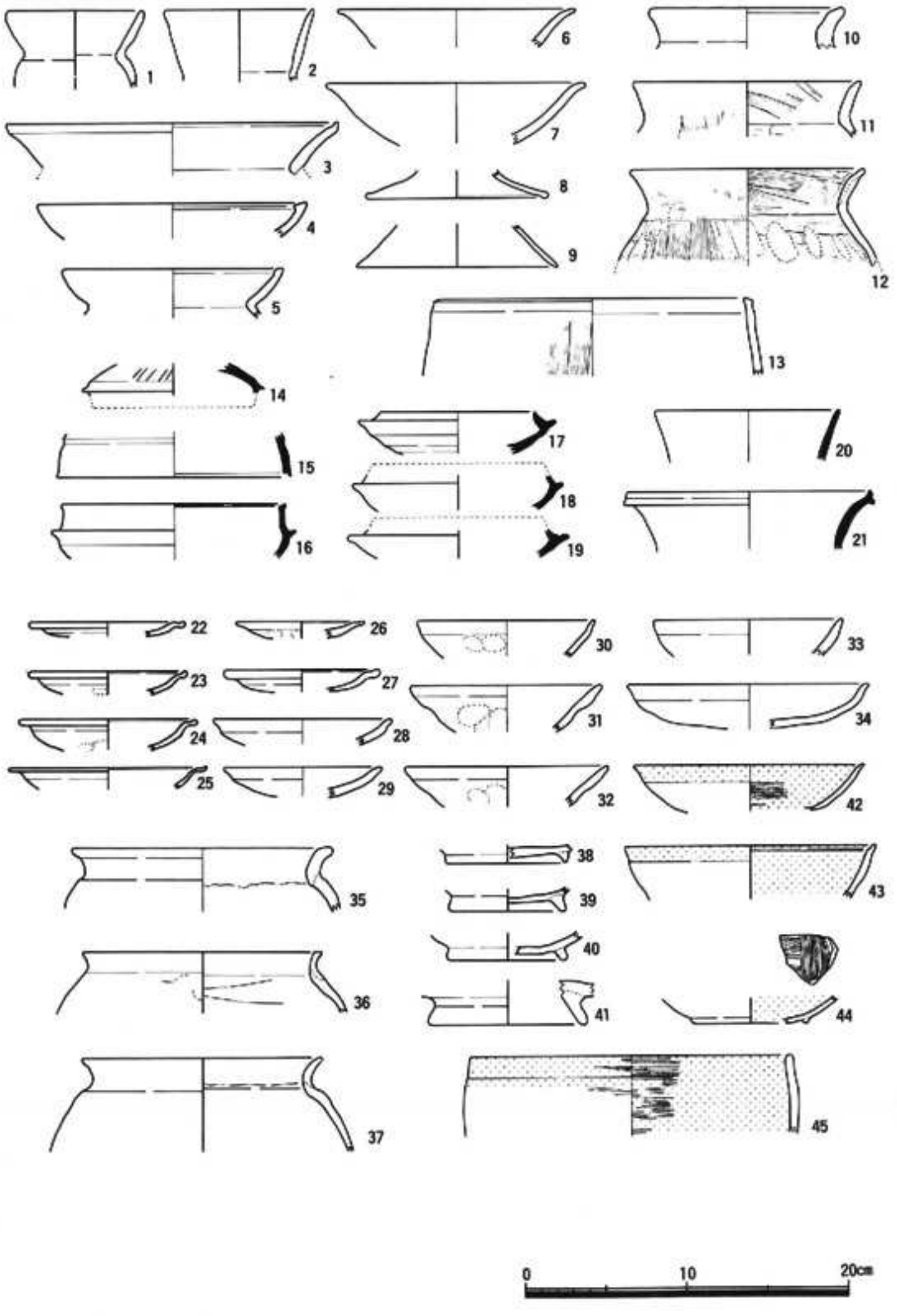
水田103：２Ｃ区中央部で検出した。南を畦畔101、西を畦畔103、東を畦畔104で区画されている。東西幅は約４ｍ程度であるが、北側で西へ広がるものと思われる。西端では、畦畔103に沿った溝状の窪みがあり、周囲の水田より一段落ち込んでいる。

水田104：２Ｃ・２Ｄ区で検出した。南を畦畔101、西を畦畔104、東を畦畔105で区画されており、東西幅は19ｍである。周囲の水田よりは高く、とくに東隣の水田105の西端とは、畦畔105を境として0.2～0.25ｍ程度の段がある。

水田105：２Ｄ・２Ｅ区で検出した。南を畦畔101、西を畦畔105で区画されている。東側の畦畔107はとぎれているが、北端にわずかな高まりが認められ、この付近を水田105の東端と考えれば、東西幅は10ｍ前後となる。南側および東側には、畦畔101・畦畔104に沿った溝状の窪みがある。



第3図　第1面平断面図（S＝水平1／200・垂直1／80）



第4図　第5層出土遺物実測図

水田106：１Ｄ・１Ｅ区で検出した。北を畦畔101、西を畦畔105、東を畦畔107で区画されており、東西幅は10ｍ程度である。水田上面は水田101より0.2ｍ程度下がっており、畦畔106の延長線上から北東部へ向かってゆるやかに下がっている。

水田107：１Ｅ～１Ｆ・２Ｅ～２Ｆ区、畦畔107の東側の水田である。東部は、畦畔107から東10ｍ付近で足跡状遺構が極端に少なくなり、水田上面も平坦になることから、この付近が水田107の東端とも考えられる。また、他の水田で見られた無秩序な足跡とは異なり、１Ｆ～２Ｆ区の中央部を北西から南東に向かって歩いた状態の足跡が遺存していた。

２）　第５層出土遺物

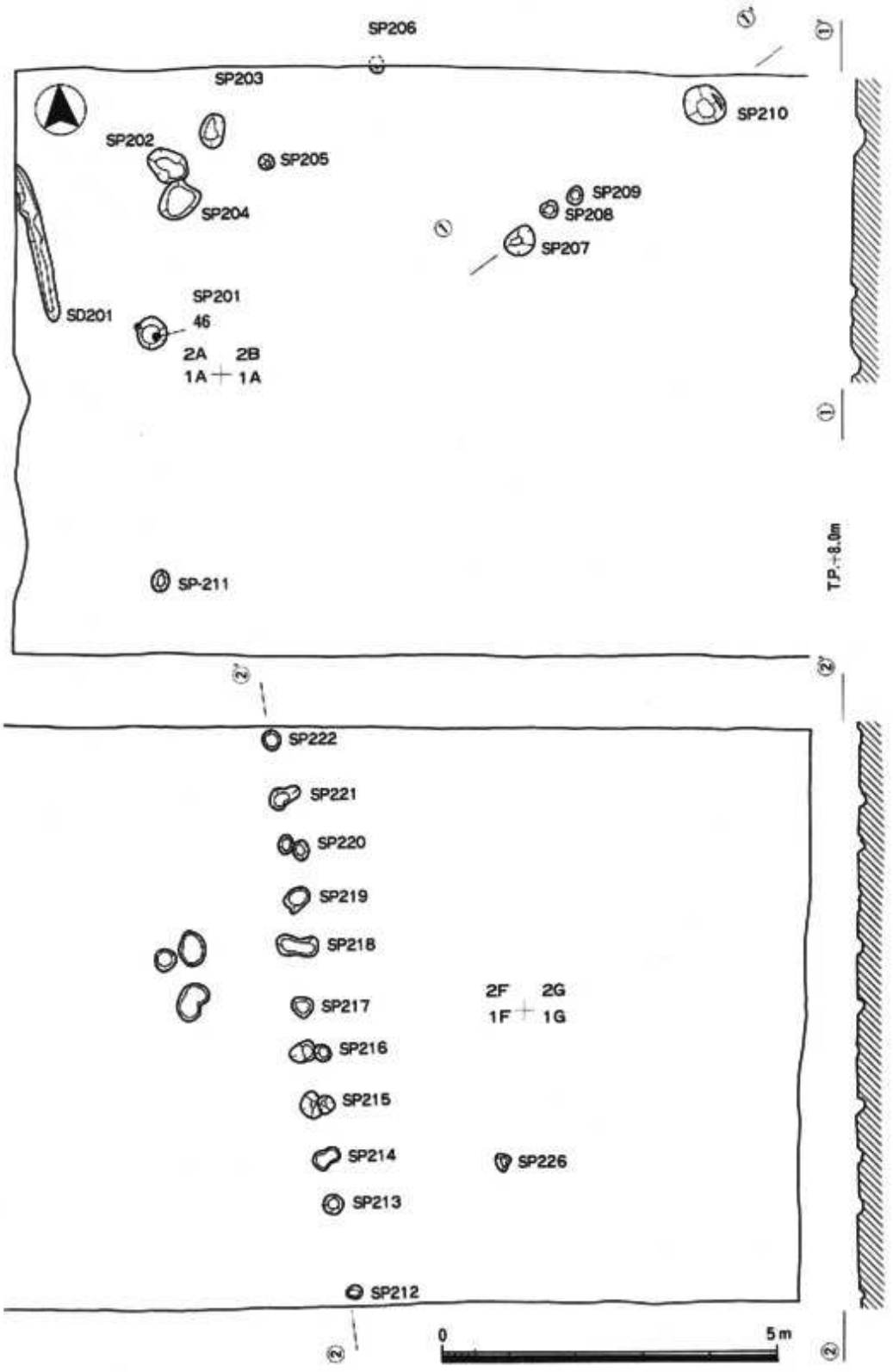
水田上面に堆積する第５層灰色微砂～細砂の厚さは0.1～0.4ｍあり、水田上面の窪みに厚く堆積している。そのため、遺物の出土位置は、水田103および水田105の溝状の窪み、水田106の北東部、水田107上面などに集中している。地区でいえば、２Ｃ区・２Ｄ区・１Ｅ～２Ｅ区・１Ｆ～２Ｆ区にあたる。これらの遺物はすべて小破片で、しかも流れに洗われて摩耗したものばかりである。時期は、古墳時代前期（１～９）、古墳時代中期～後期（10～21）、平安時代後期～末期（22～45）のほか、弥生時代後期のものも含んでおり、幅は広い。

特記すべきものには、いわゆる初期須恵器（14）や、韓式土器の流れをくむタテハケ・長胴傾向の土師器甕（12）、同甑（13）のほか、製塩土器など、これまでの調査でも検出しているものがあるが、これらは水田埋没時期の直接の遺物ではない。水田埋没の時期に直接関係する遺物には、土師器小皿（22～29）、同中皿（33・34）、同杯（30～32・38～41）、黒色土器椀（42～44）、同鉢（45）などである。図示したものの中に、瓦器椀はないが、小破片ながらも口縁部１片、体部９片、高台部１片が出土している。また、土師器小皿のうち（26～29）は瓦器椀出現以降に見られる形態を示していることから、この水田の埋没時期は瓦器椀出現後に比定できる。

３）　古墳時代中期の遺構面（第２面）

地表下3.0ｍ前後に堆積する第８層灰色粗砂上面で、溝１条（ＳＤ201）、小穴26個（ＳＰ201～ＳＰ226）を検出した。層序の項でも述べたように、遺構面である第８層は調査区中央部では薄くなり、堆積していない部分もあった。そのため、遺構も調査区の西部と東部に分かれて検出した。

西部の遺構面はT.P.+7.8ｍ前後で、Ｂ区中央から緩い斜面となって東へ0.1～0.2ｍ程度落ち込んでいる。そこより東では層厚が著しく薄くなり、堆積していない部分もある。第８層が再び安定した状態で堆積するのは、Ｄ区中央以東で、東部の遺構面もまた、T.P.+7.8ｍ前後



第5図　第2面平断面図(S－水平1／100・垂直1／50)

を指している。

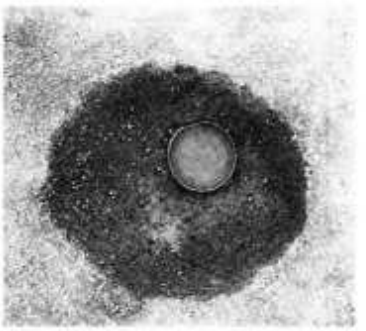
調査区西部で検出した遺構には、溝１条（ＳＤ201）、小穴11個（ＳＰ201～ＳＰ211）がある。

ＳＤ201は調査区北西隅からほぼ南北に伸びるもので、2.5ｍを検出したにすぎない。ＳＰ201～211も、柱根やその痕跡のあったものはなく、無秩序に掘り込まれており、各小穴間に規則性はない。

これらのうち、ＳＰ201からのみ、須恵器杯蓋(46)が出土している。(46)はほぼ完存しており、口縁部を上に向けた状態で出土した。やや大型の器種で、形骸化した稜とその下部に沈線、口縁部内面に鈍い段を持つ。これらの特徴は、調査②・④で検出されている遺構内出土遺物の１群よりも明らかに後出のもので、５世紀後半～６世紀初頭に比定できる。

調査区東部では、小穴15個（ＳＰ212～ＳＰ226）を検出した。そのうちの11個（ＳＰ212～ＳＰ222）は、等間隔に並ぶ杭列で、柵・塀などの施設が考えられる。

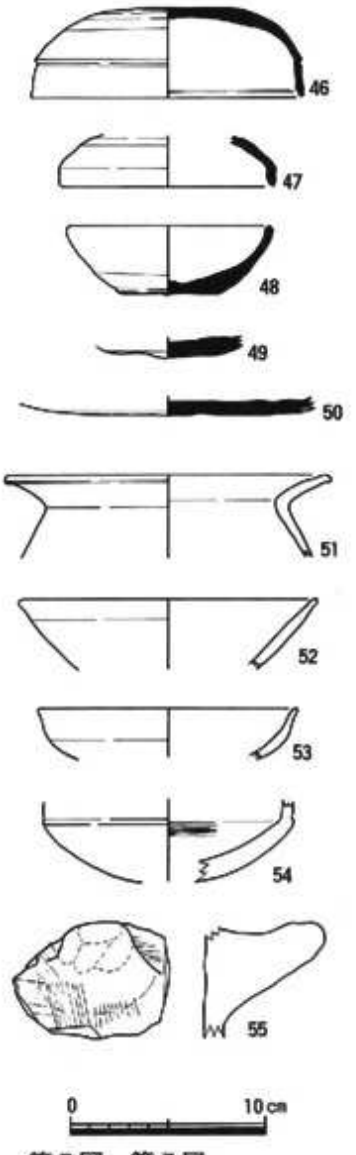
杭列（柵・塀）はほぼ南北に伸びるもので、径0.3～0.4ｍの小穴が0.5～0.6ｍの間隔で掘り込まれている。南端のＳＰ212とＳＰ213との間隔は１ｍ以上あり、やや広くなっている。また、上面の形状が楕円形のＳＰ214・ＳＰ218・ＳＰ221や、重複した掘形のＳＰ215・ＳＰ216・ＳＰ220などがあることから、数度の建て替えのあったことがわかる。



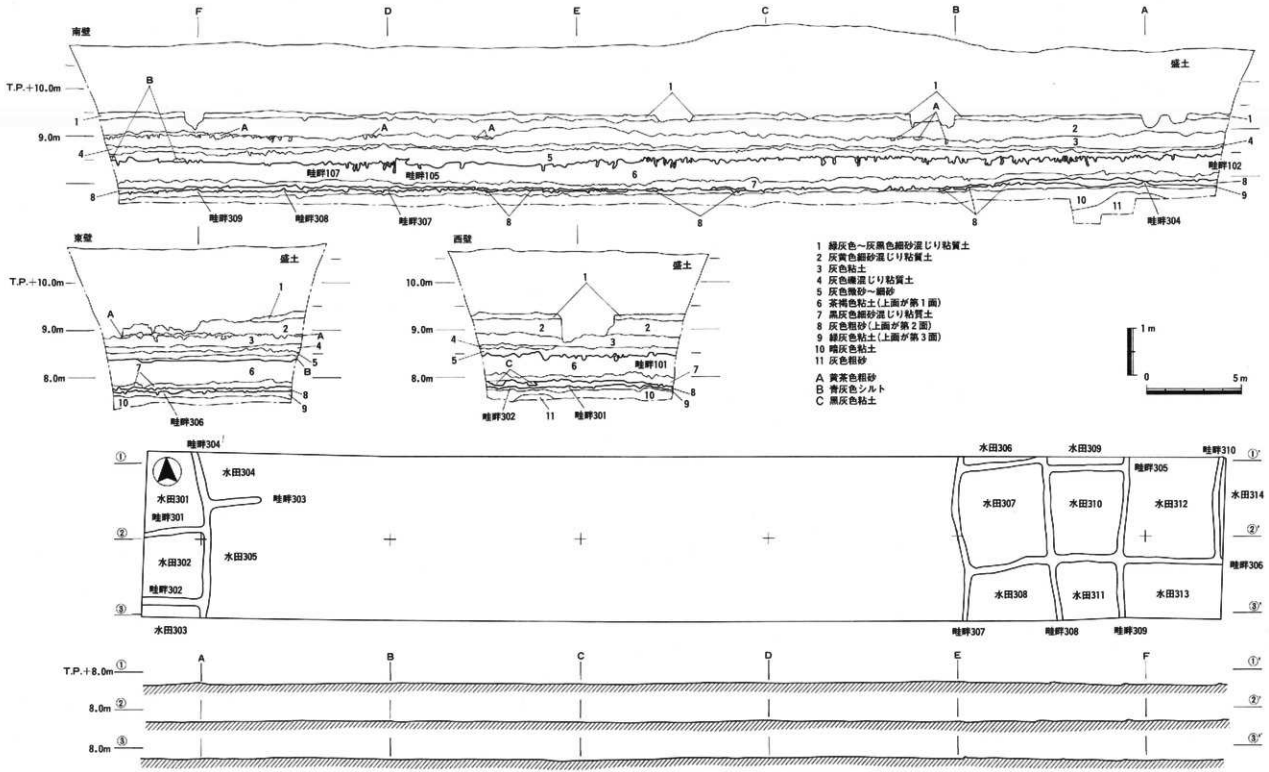
第６図　小穴ＳＰ201内遺物出土状況

４）　第７層出土遺物

第８層の上部に堆積する第７層黒灰色細砂混粘質土からは古墳時代中期以降の遺物（47～55）などがごく少量出土している。出土位置は、１Ｂ～１Ｃ区の第８層が斜面となって下がる部分にたまっていたものが多い。これらには時代幅があり、およそ５世紀前半から７世紀以降にまでまたがるものである。器種には、７世紀代の須恵器杯（47～49）、同時期からそれ以降に続く土師器杯（52・53）、５世紀前半の須恵器と共伴する土師器高杯(54)、同甑（55）などがある。



第７図　第７層出土遺物実測図



第8図　第3面平断面図・壁面図(S＝水平1／200・垂直1／80)

これらのうち、土師器高杯（54）は、器肉が厚いものの須恵器を模倣したような形態を示しており、類例には、調査③Aトレンチ SP－7出土の土師器高杯(94)、同Bトレンチ SD－8出土の土師器高杯（185)がある。

この第7層に含まれる時代幅のある遺物と、第8層および後述する第9層の堆積状況や検出以降の位置などは無関係とは考えにくく、構成の第6層水田構築の際、調査区中央部が整地・削平された可能性がある。

5）古墳時代中期以前の水田遺構（第3面）

地表下3.0～3.2mの第9層緑灰色粘土上面で、水田遺構を検出した。耕土である第9層は調査区全域にわたって堆積していたが、水田は第2面同様、調査区の東西に分かれて遺存しており、中央部では検出していない。第9層上面のレベルはT.P.+7.6～7.9mで、西部のA～B区が最も高い。B区中央から東へは緩い段となり、C区以東は0.1～0.2m低い。この状況は、上層の第8層と同じである。また、水田を検出していない中央部のうち、C区・D区では第9層の層厚がきわめて薄く、5cmに満たない部分や欠落している部分もあった。

調査区西部（A区・B区）では、畦畔4条（畦畔301～畦畔304）と水田5筆（水田301～水田305）を検出し、調査区東部（F区～G区）では、畦畔6条（畦畔305～畦畔310）と水田9筆（水田306～水田314）を検出した。

畦畔は東西・南北に伸びており、幅0.2～0.5m・高さ0.2～0.5m程度の規模を持つ。耕土である第9層を盛り上げて構築されているようであるが、第1面の畦畔と比べれば、かなり小規模である。また、とくに高さの点については、平面的に捉えた部分は少なく、壁面の観察によって復元した部分が多い。

水田は、すべてが方形の区画を持ち、水田上面は、第1面・第2面同様西～南が高く、東～北が低い。このことは、旧地形の影響をうけているためである。検出した水田のうち、1筆あたりの面積のわかるものは、東部の水田307(約20㎡)、水田310(約16㎡）であるが、他の水田も同様の規模になるものと考えられる。

西部で検出した水田304および水田305は、東側を区画する畦畔が検出されていないが、畦畔303が西から約2.5m地点でとぎれていることや、耕土の上面がB区中央部から東へ向かって落ち込んでいること、他の水田の東西幅などを考えあわせれば、B区中央付近を東端と見ることができ、東西幅は、4～5mに想定できる。しかし、この部分についても、耕土上面が後世に削平されている可能性もあることから、はなはだ不確かである。一方、東部に関しても、畦畔307より西に他の畦畔は認められないが、これも、最初からなかったのか、後世に削り取られたのかは不明である。

第3章　まとめ

今回の調査では、古墳時代中期以前の洪水で埋没した水田遺構（第3面）、その洪水層直上に営まれた集落遺構（第2面）、さらに上層で平安時代末期の洪水で埋没した水田遺構（第1面）の3枚の遺構面を捉えることができた。それぞれ、これまでの近隣の調査で検出されているもので、今回の調査によって、とくに第1面と第2面については、その東端の状態が明らかになったものと考えられる。以下に、過去の調査結果を参考に、各時期の遺構の広がりを考え、まとめにかえたい。

第1節　古墳時代中期以前の遺構（第3面）水田

調査④　Aトレンチ　未確認

Bトレンチ　大畦畔、畦畔1～畦畔14、水田A～水田O

Cトレンチ　大畦畔、畦畔15・畦畔16、水田P～水田S、溝SD－14

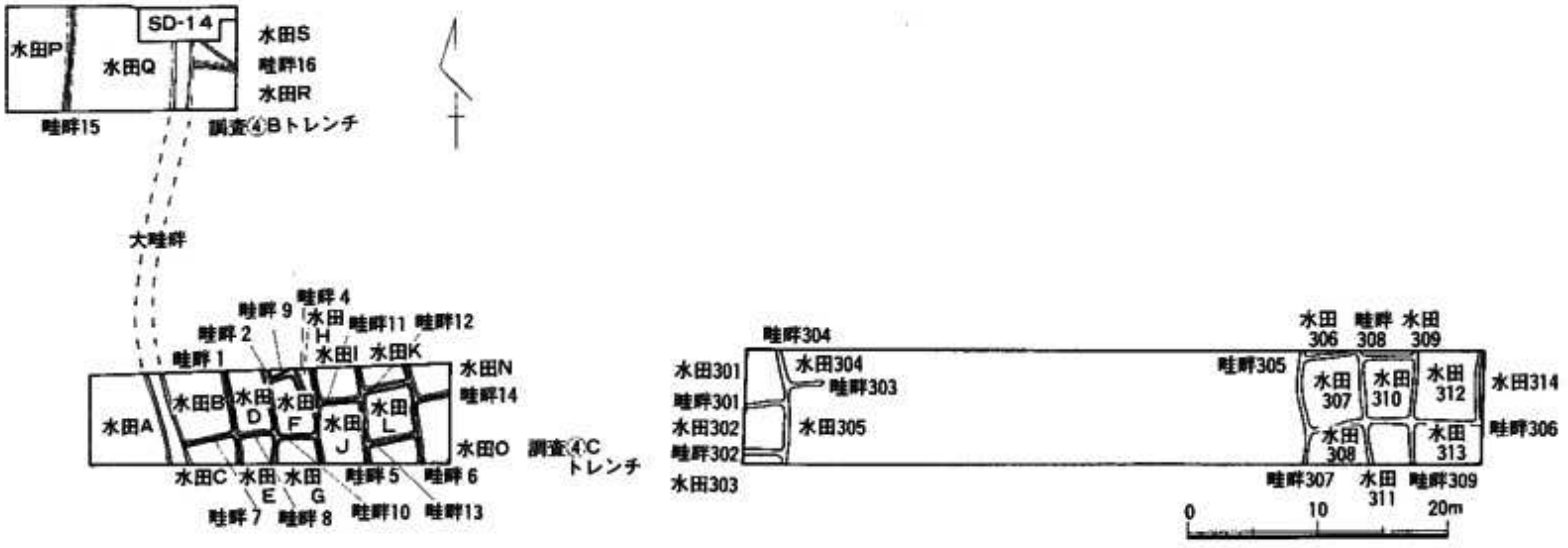
今回の調査　畦畔301～畦畔307・水田301～水田314

調査地周辺の旧地形は、南から西が高く、北から東が低い。この地形は、緩やかになりながらも、近年まで続くものである。この時代の水田遺構も、そのような自然地形に規制され、また、自然地形を利用し、構築されているものと思われる。それを反映したものか、大畦畔を境として、高まりである西部の水田（水田A・水田P・水田Q）と、窪地である東部の水田（水田B～水田D・水田301～水田314）とでは、区画が異なっている。

水田の方向や大きさなどについては、今回の調査による新知見はないが、水田のない部分のあることが疑問といえる。水田のない部分では、耕土である第9層が上層の第8層とともに薄くなっているところがあり、後世に掘削された可能性がある。また、調査③Aトレンチでは、耕土に対応する土層が堆積しているにもかかわらず、水田遺構が検出されていないことも、このことと無関係ではないだろう。

この水田の埋没時期については、上層の第8層上面に古墳時代中期遺構に集落が営まれていることから、それ以前であることは明らかであるが、この第8層中に遺物が含まれていないことから、決定はできない。構築時期についても同様で、下層からの遺物の出土が皆無で、時期を限定できないのが現状である。

一方、遺跡南部の岩林町では、弥生時代後期～古墳時代前期の水田遺構が検出されていることや、今回の調査地東200mの⑦地点（木の本110）でも古墳時代前期の水田が検出されていることなどから、この第3面の水田遺構を、この時期にあてはめることも可能である。



第9図　第3面全体図(縮図S－1／600)

第２節　古墳時代中期の集落遺構（第２面）

調査②　　土坑ＳＫ－１ほか

調査④　Ａトレンチ　掘建柱建物、土坑、溝、小穴

Ｂトレンチ　土坑、溝、小穴

Ｃトレンチ　未検出

今回の調査　溝ＳＤ201、杭列ほか小穴群

これまでの調査では、南西部にあたる調査④Ａトレンチに掘建柱建物や土坑などの生活に密着した遺構が集中しており、北側の調査④Ｂトレンチや東側の調査②では、遺構はまばらにしか検出されていない。また、もっとも北に位置する調査④Ｃトレンチでは、遺構は検出されていない。これの旧地形を反映したものといえ、高まりに住居が構築されていることわかる。今回の調査地は、遺構のまばらな部分にあたり、溝・小穴が検出されただけである。調査区東端のＳＰ212～ＳＰ222は、南北に等間隔に並ぶもので、それを柵や塀などの痕跡と見ることができる。また、過去の調査結果からも、東へ行くほど遺構が減少することを考えれば、この小穴の列を、集落の境界の柵や塀などと考えることもできるが、推測の域を出ない。

なお、今回の調査で遺構内から出土した須恵器杯蓋（46）は、これ１点では限定しにくいものの、これまでの調査で見られた須恵器の一群とは明らかな時期差がある。また、遺構面直上に堆積する第７層の出土遺物（47～50・52・53）に至っては、遺構とは不連続な時期のもので、これまでの調査ではまったく出土していない。また、これらはほとんどが遺構面を構成する第８層が薄くなっている部分に集中していることから、後世の混入と考えられる。

第３節　平安時代末期の水田遺構（第１面）

調査②　　１号畦畔～４号畦畔、水田Ａ～水田Ｄ

調査④　Ａトレンチ　未確認

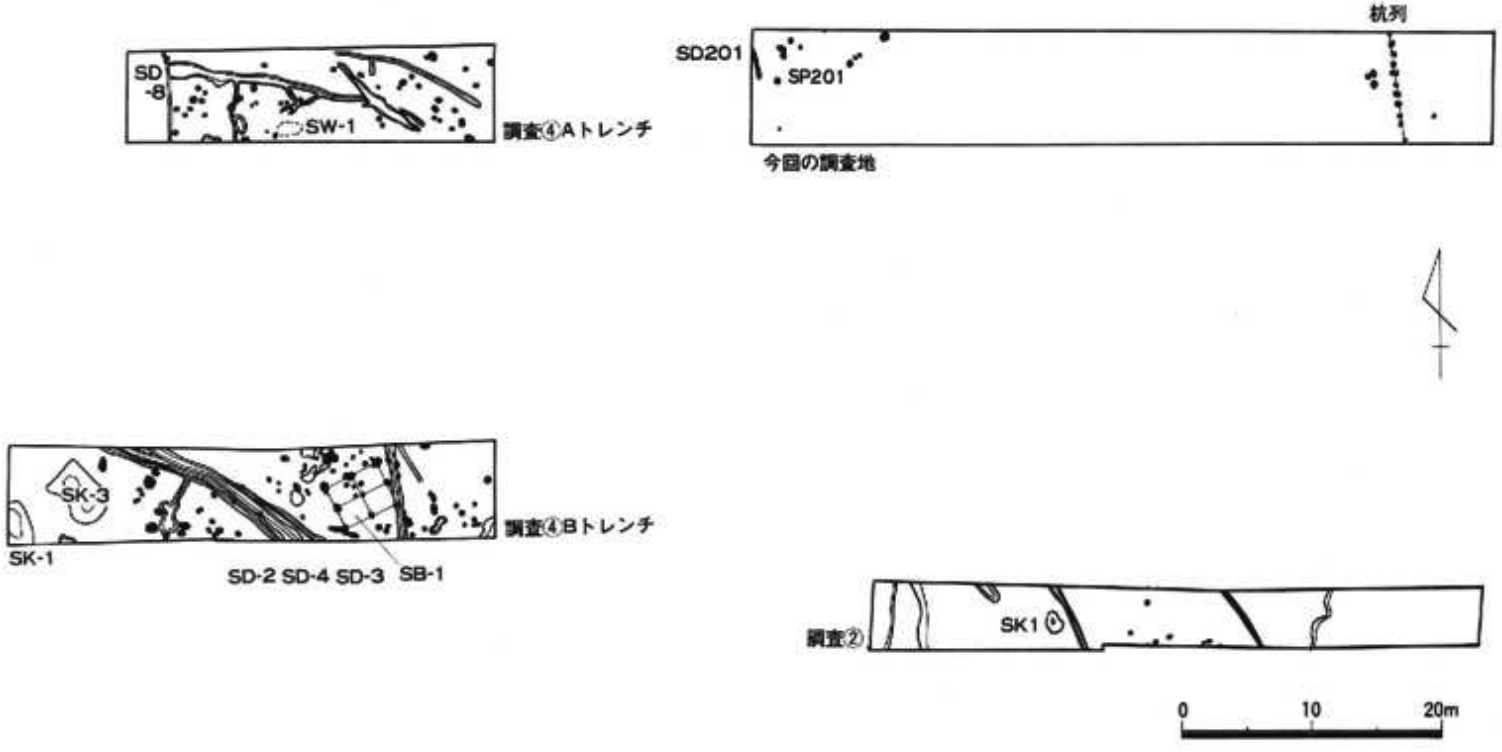
Ｂトレンチ　畦畔Ⅰ～畦畔Ⅲ、水田ａ～水田ｃ、自然河道、

Ｃトレンチ　水田ｄ、溝ＳＤ－15

今回の調査　畦畔101～畦畔107、水田101～水田107

この面の水田遺構は、調査④で西端を検出しているが、今回の調査で東の端が明らかになった。その範囲は、調査④Ｂトレンチ水田ａから、今回検出した水田107までで、東西幅は、およそ90ｍである。水田上面は、第２面・第３面と同様、南～西が高く、北～東へと低くなっている。

東部では、調査②の２号畦畔の西側は、水田Ｃの東半分まで溝状に窪んでおり、一時期の流路となっていたようである。この窪みは、調査②ほど顕著ではないが、今回の調査でも、畦畔



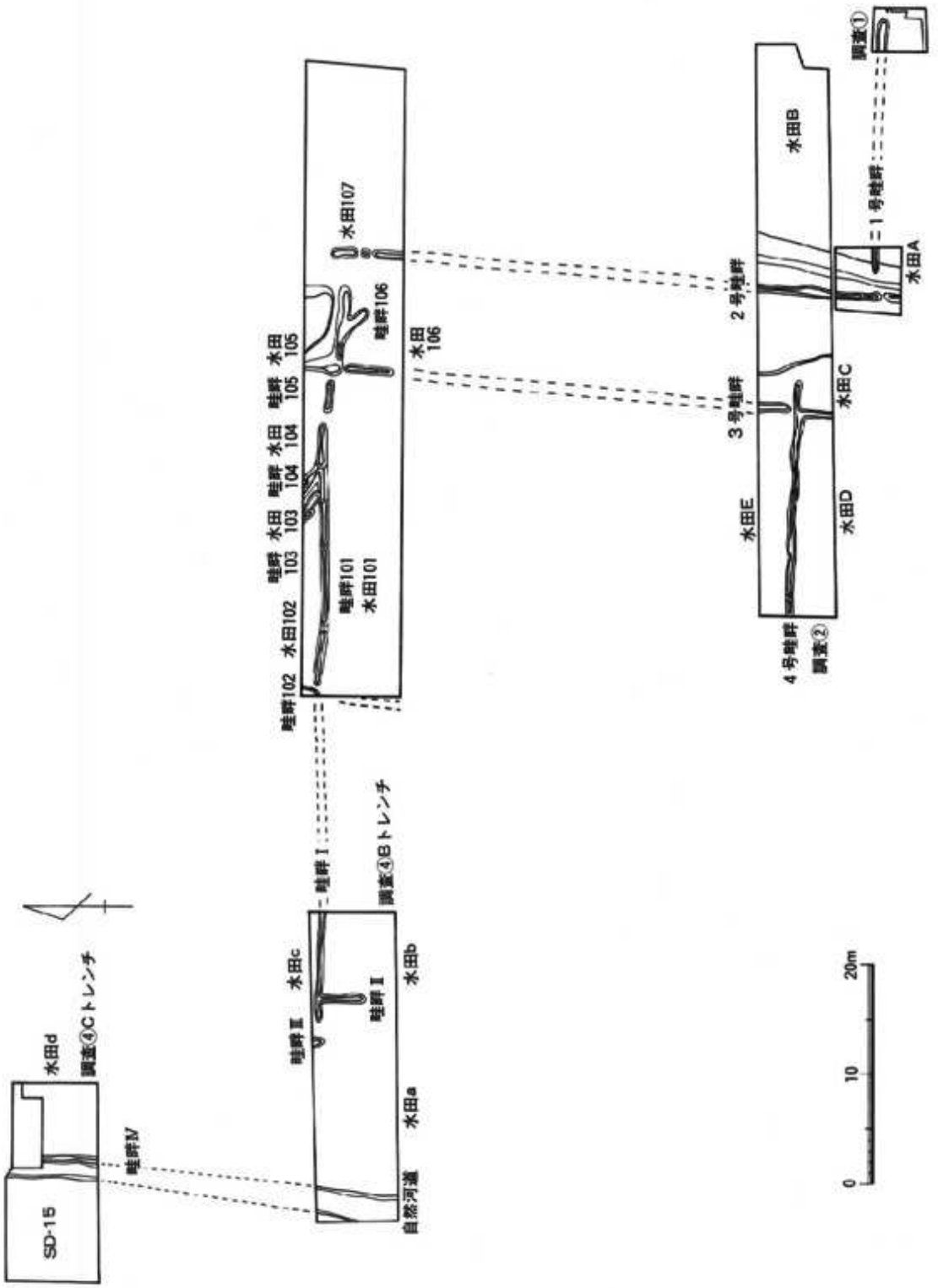
第10図　第２面全体図(略図S－１／600)

107に沿った溝状の窪みが、水田105・水田106の東半分、水田107の西部にあり、南から北への流路方向が考えられる。さらに、水田102・水田104→水田101→水田106→水田105・水田107と畦畔を越えるたびに、西から東へと段を持って下がっていき、この窪みへ水の流れていくようすがわかる。また、そのほか、水田105には、西を区画する畦畔105と南を区画する畦畔101に沿って、溝状にえぐれたような形の窪みがあり、ここでは北から東への流路があったようである。調査②の水田Bは、今回の調査結果を考えあわせれば、未耕地と考えてもよさそうである。

一方、水田西側には、調査④Bトレンチの自然河道とCトレンチ溝ＳＤ－15があるが、この部分はもっとも高所を占めており、東部の流路と比べれば人工的であり、人為的な規制を受けている可能性が高い。この河道または溝は、未耕地と水田を区画する目的とともに、東の流路が配水施設であるのに対して、導水施設としての役割を果しているものと考えられる。

畦畔Ⅰ＝畦畔101は、今回の調査で東の端を検出したもので、東西約75ｍ（調査④Bトレンチ畦畔Ⅲを越えてさらに西へ伸びるとすれば約85ｍとなる）あり、水田ａから水田105・水田106までの東西の範囲をカバーしている。このことから、この付近では、自然地形である南北の流路に直行させた東西の畦畔（畦畔Ⅰ＝畦畔101と調査②４号畦畔）が主軸となって水田が構築されたものと考えられる。これら２条の畦畔は、東端の窪みちかくに突出部（畦畔106ほか）を持つが、その位置や方向・形状から、同じ用途のものと考えられる。

水田１筆あたりの面積を復元できたものはないが、東西幅は約10ｍ（水田Ｃ・水田102～水田107）15－16ｍ（水田ａ・水田102）、約29ｍ（水田101）の３種類があり、一見乱雑な区画に見えるものの、５ｍ前後の倍数で区画していることがわかる。この水田の埋没時期は、これまでの調査結果のとおり、瓦器椀出現期にあたる平安時代末期である。同時期の埋没水田は、木の本遺跡（空港２丁目－1983年度調査地）や調査⑦（木の本110－1987年度調査地）があり、この時期に付近一帯が大規模な洪水に見舞われたことを物語っている。



第11図　第1面全体図(略図S＝1／600)

第5章　付表

第1節　遺構一覧表

1）第1面畦畔

遺構番号	地区	方向	法量（m） 幅	高さ	検出長	水口との位置関係 東	西	南	北	水口	備考
畦畔101	2A～2E	東西	1.2 ～0.7	0.07～0.32	36.0以上	－	－	水出101・106	水田102～105	水口1～9	東端はとぎれる、各畦畔との接続部はすべて水口
畦畔102	2A	南北	1.0 前後	0.1 ～0.19	2.5以上	水田102	－	－	－	水口1	水口1以南も伸びる
畦畔103	2C	北東南東	0.6 ～0.7	0.05～0.21	1.8以上	（北西）水田103	（南東）水田102	－	－	水口4	南東端はとぎれる、北東（水出103）側に溝状の窪みを伴う
畦畔104	2C	南北	1.1 前後	0.12前後	1.0以上	水田104	水田103	－	－	水口4	南端
畦畔105	1D～2D	南北	0.8 ～2.1	0.08～0.35	8.5以上	水田105・水出106	水田101・水田104、	－	－	水口6・7	南端はとぎれる、北部（水山105）側に溝状の窪み
畦畔106	1D～2D 1E～2E	北西南東	0.9 ～1.0	0.13～0.14	2.5	（水口106 内）		－		水口8	畦畔101 の水口8から南東に伸び、南東端はとぎれる
畦畔107	1E～2E	南北	0.73～0.95	0.06～0.17	7.5以上	水田107	水田105・水田106	－	－	水口9～11	北端はとぎれる

2）第1面水口

遺構番号	地区	法量（m） 東西	南北	上面の標高（T.P.-m）	畦畔との位置関係 東	西	南	北	備考
水田101	1A～1D 2A～2D	29.0～30.0	7.5以上	（南西）8.31～8.42（北東）	畦畔105	畦畔102	－	畦畔101	
水田102	2A～2C	16.3～15.0以下	1.5以上	（東）8.05～8.387（西）	畦畔103	畦畔102	畦畔101	〃	
水田103	2C	2.3～2.5以上	2.4以上	（北西）8.17～8.20（南東）	畦畔104	畦畔103	畦畔101		畦畔103 に沿って溝状に窪む
水山104	2C～2D	9.35 前後	2.3～2.5以上	（西）8.34～8.42（東）	畦畔105	畦畔104	畦畔101		
水山105	2D～2E	9.5 前後	3.2以上	（東）8.08～8.30（北）	畦畔107?	畦畔105	畦畔101		畦畔101 ・105 に沿って溝状に窪む
水山106	1D～1E 2D～2E	9.5 前後	5.5以上	（北東）8.20～8.32（南西）	畦畔107	畦畔105	〃	畦畔101	北辺中央付近から畦畔106 が南東に伸びる
水田107	1E～1G 2E～2G	16.5～17.5以上	10.0以上	（北西）8.20～8.44（南東）	－	畦畔107	－	－	南東から北西への歩行の足跡遺存

3）第2面遺構

	遺構番号	地区	〈T.P.+m〉検出レベル	方向	法量（m） 長さ・長径	幅・短径	深さ	内部堆積土	備考	
溝	SD201	2A	7.80～7.83	（流路）北－南	（検出長） 2.5	（幅） 0.3	0.13	黒灰色砂混粘土		
小穴	SP201	2A	7.83～7.85	（長軸）東－西	（長径） 0.5	（短径） 0.46	0.13	黒灰色砂混粘土 黒褐色粘土	須恵器杯蓋(45)出土 柱抜き取り痕？	
	SP202	2A	7.80～7.83	東－西	0.66	0.54	0.06	黒灰色砂混粘土		
	SP203	2A～2B	7.80～7.83	南－北	0.54	0.37	0.05	黒灰色砂混粘土	SP204 に切られる	
	SP204	2A	7.83～7.84	南西－北東	0.66	0.50	0.05	青灰色砂混粘土	柱間（m）	
	SP205	2B	7.82～7.83	東－西	0.23	0.21	0.14	黒灰色砂混粘土	1.4	南西－北東に並ぶ
	SP206	2B	7.79～7.80	不明	0.23	－	0.08	黒灰色砂混粘土	2.3	
	SP207	2B	7.86前後	南西－北東	0.5	0.39	0.12	黒灰色砂混粘土		
	SP208	2B	7.86前後	東－西	0.26	0.23	0.07	黒灰色砂混粘土	0.68	南西－北東に並ぶ
	SP209	2B	7.85前後	南－北	0.27	0.22	0.06	黒灰色砂混粘土	0.49	
	SP210	2B	7.72～7.88	南西－北東	0.64	0.38	0.25	黒灰色砂混粘土	2.35	
	SP211	1A	7.75～7.83	南－北	0.28	0.24	0.08	黒灰色砂混粘土		
柱列	SP212	1F	7.74～7.76	東－西	0.27	0.18	0.08	黒灰色砂混粘土	柱間（m）	
	SP213	1F	7.78～7.79	東－西	0.34	0.30	0.09	黒灰色砂混粘土	1.35	間隔広い
	SP214	1F	7.78～7.79	北東－南西	0.41	0.23	0.06	黒灰色砂混粘土	0.75	重複する？
	SP215	1F	7.78～7.79	南－北	（N）（東） 0.41 0.27	（N）（東） 0.31 0.23	（N）（東） 0.13 0.11	黒灰色砂混粘土	0.80	重複する（東が新）
	SP216	1F	7.78～7.79	東－西	0.41 0.27	0.39 0.23	0.07 0.03	黒灰色砂混粘土	0.80	重複する（東が新）
	SP217	1F～2F	7.77～7.78	東－西	0.32	0.29	0.09	黒灰色砂混粘土	0.75	
	SP218	2F	7.78前後	東－西	0.61	0.24	0.06	黒灰色砂混粘土	0.65～0.85	重複する？
	SP219	2F	7.77前後	南西－北東	0.41	0.29	0.07	黒灰色砂混粘土	0.75	柱抜き取り痕？
	SP220	2F	7.76～7.77	南－北	0.28 0.29	0.21 0.25	0.09 0.08	黒灰色砂混粘土	0.7 ～0.85	重複する（東が新）
	SP221	2F	7.75～7.76	南西－北東	0.30	0.20	0.11	黒灰色砂混粘土	0.7	重複する？
	SP222	2F	7.75～7.77	東－北	0.28	0.26	0.03	黒灰色砂混粘土	0.8 ～0.9	
小穴	SP223	1F～2F	7.77～7.78	南西－北東	0.57	0.34	0.03	黒灰色砂混粘土	楕円形	
	SP224	2F	7.77前後	南西－北東	0.33	0.26	0.04	黒灰色砂混粘土		
	SP225	2F	7.79前後	南－北	0.52	0.39	0.03	黒灰色砂混粘土		
	SP226	1F	7.78～7.79	南東－北西	0.27	0.23	0.05	黒灰色砂混粘土		

3）第3面畦畔

遺構番号	地区	方向	法量（m） 幅	高さ	検出長	水田との位置関係 東	西	南	北	備考
畦畔301	2A	東西	0.3～0.4	0.04～0.05	4.0以上	－	－	水田302	水田301	畦畔304とT字形に接続
畦畔302	1A	東西	0.4～0.5	0.06～0.1	4.0以上	－	－	水田303	水田302	畦畔304とT字形に接続
畦畔303	2B	東西	0.25～0.3	0.03～0.05	2.5	－	－	水田305	水田304	畦畔304とT字形に接続
畦畔304	2A～2B	南北	0.2～0.4	0.05～0.1	10.0以上	水田304・305	水山301～303	－	－	畦畔301～303とT字形に接続
畦畔305	2F	東西	0.25～0.3	0.02～0.04	8.5	－	－	水田307・310	水田306・309	畦畔307・309とT字形、308と食い違い
畦畔306	1F～1G	東西	0.3～0.35	0.02～0.05	14.0以上	－	－	水田308・311・313	307・310・312・314	畦畔307・310とT字形、308・309と十字形に接続
畦畔307	2E～1F	南北	0.2～0.4	0.04～0.05	11.0以上	水田306～308	－	－	－	畦畔305・306とT字形に接続
畦畔308	1F～2F	南北	0.3～0.4	0.04～0.06	10.0以上	水田309 311	水山306～318	－	－	畦畔305と食い違い、306と十字形に接続
畦畔309	1F～2F	南北	0.3～0.4	0.05～0.06	10.0以上	水田312～313	水山309～311	－	－	畦畔305とT字形、306と十字形に接続
畦畔310	1G～2G	南北	0.3～0.35	0.02～0.05	6.0以上	水田314	水山312	－	－	畦畔306とT字形に接続

5）第3面水田

遺構番号	地区	法量（m） 東西	南北	上面の標高（T.P.+m）	畦畔との位置関係 東	西	南	北	備考
水田301	1A	3.5以上	4.5以上	（西端）7.74～7.79（北東）	畦畔304	－	畦畔301	－	
水田302	1A	3.5以上	3.0～3.5	（北）7.78～7.81（南）	畦畔304	畦畔303	畦畔303		
水田303	1A	3.5以上	1.5以上	（南東）7.77～7.79（北西）	畦畔304	－	－	畦畔302	
水田304	2B	3.0～4.0	2.5以上	（西南）7.70～7.75（北東）	－	畦畔304	畦畔303	－	
水田305	1B	3.0～4.0	6.5以上	（南西）7.69～7.82（北東）	－	畦畔304	－	畦畔303	
水田306	2F	4.0	0.5以上	7.69～7.71	畦畔308	畦畔307	畦畔305	－	
水田307	1F～2F	4.0～4.5	5.0	（北・東）7.69～7.73（南）	畦畔308	畦畔307	畦畔306	畦畔305	
水田308	1F	4.2～4.8	3.0以上	（北）7.71～7.75（南）	畦畔308	畦畔307	－	畦畔306	
水田309	2F	4.0	0.1以上	7.68～7.69	畦畔309	畦畔308	畦畔306	畦畔305	
水田310	1F～2F	3.4～4.0	4.5	（北・東）7.67～7.72（南）	畦畔309	畦畔308	畦畔305	畦畔306	
水田311	2F	2.8～3.0	3.0以上	（北・東）7.68～7.72（南）	畦畔309	畦畔308	－	畦畔306	
水山312	1F～2G	4.5～4.8	5.3以上	（北東）7.68～7.69（南西）	畦畔310	畦畔309	畦畔306	－	
水山313	2F～2G	5.2以上	3.0以上	（北）7.60～7.71（南）		畦畔309	－	畦畔306	
水山314	1F～2G	0.3以上	5.3以上	（北）7.67～7.69（南）		畦畔310	畦畔306	－	

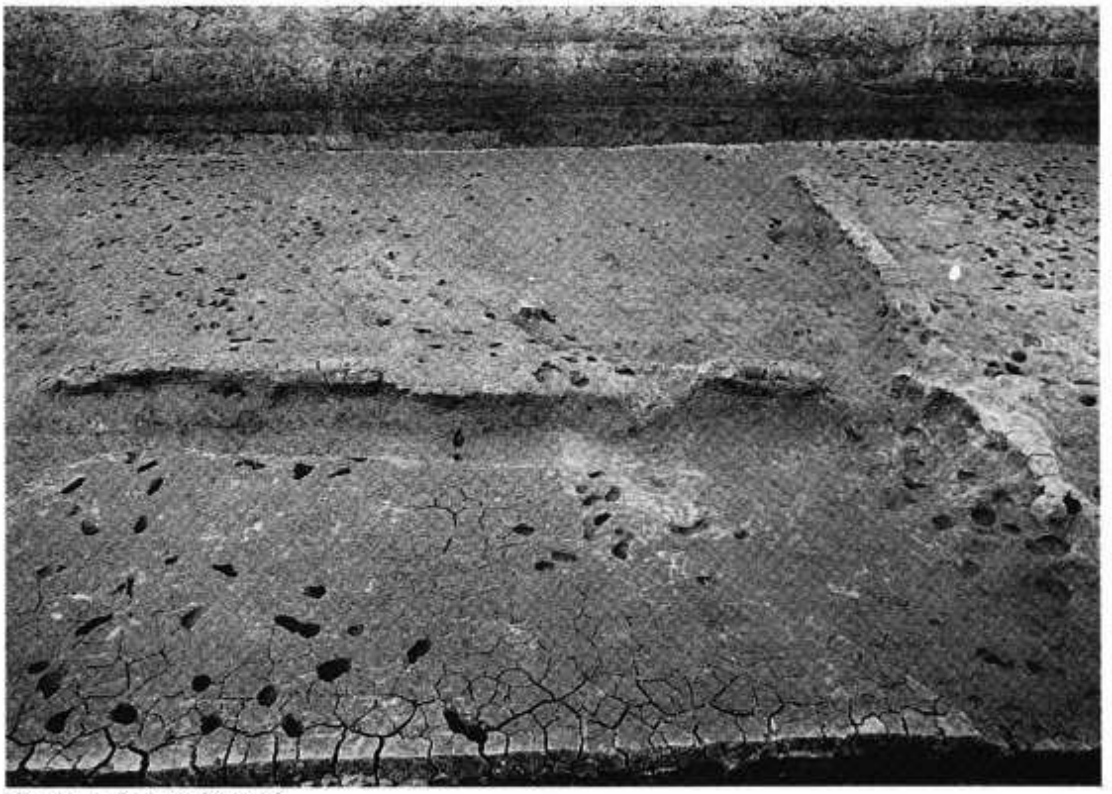
第2節　出土遺物一覧表

番号	器種	出土地点		法量（cm）	色調	胎土	焼成	特徴	個数	備考
1	小型丸底壺	地区 B区	土層 5層	口 径 8.2	乳褐色	やや粗	良好	ナデ，ヨコナデ	八	
2	土師器小型坩	C区	5層	口 径 9.0	乳褐色	精良	良好	ヨコナデ		
3	庄内甕	C区	5層	口 径20.2	茶褐色	精良	良好	ヨコナデ		
4	布留式甕	C区	5層	口 径16.3	暗褐色	やや粗	良好	ヨコナデ		
5		C区	5層	口 径13.4	淡赤褐色	やや粗	良好	体部ヘラケズリ？		
6	土師器高杯	C区	5層	口 径15.7	淡赤褐色	精良	良好	ヨコナデ		
7		C区	5層	口 径14.3	淡赤褐色	やや粗	良好	ヨコナデ		
8		D区	5層	裾 径10.8	赤褐色	やや粗	良	ヨコナデ		
9		D区	5層	裾 径12.4	乳褐色 赤褐色	やや粗	良好	ヨコナデ		
10	土師器壺	C区	5層	口 径11.6	乳褐色～赤褐色	精良	良好	ヨコナデ	八	
11		C区	5層	口 径13.8	淡赤褐色～暗赤褐色	精良	良好	外面強い縦ハケ後ヨコナデ，内面ヘラケズリ，ヨコナデ，ハケ		
12		C区	5層	口 径14.1	淡赤褐色 乳褐色	精良	良好	外面強い縦ハケ後ヨコナデ，内面横ハケ，指おさえ	八	内面に炭化物
13	土師器甑	C区	5層	口 径18.6	乳褐色	やや粗	良好	平行タタキ，ナデ，ヨコナデ		外面に炭化物
14	須恵器杯蓋	C区	5層	復 径15.2	淡灰色	密	良好	回転ケズリ，回転ナデ 櫛描列点文	九	
15		D区	5層	口 径14.4	灰白色	密	良好	回転ナデ	九	外面灰かぶり
16	須恵器杯身	D区	5層	口 径13.6 受部径14.9	灰白色	密	良好	回転ケズリ，回転ナデ	九	
17		C区	5層	口 径 9.7 受部径11.2	淡灰色	密	良好	回転ケズリ，回転ナデ	九	中核は灰色 外面灰かぶり
18		F区	5層	受部径13.0	淡灰色	やや粗	良	回転ナデ	九	
19		D区	5層	受部径13.6	灰白色	密	良好	回転ナデ	九	中核に灰色
20	須恵器壺	C区	5層	口 径11.2	白灰色	精良	良好	回転ナデ		
21		C区	5層	口 径14.9	淡灰～暗灰色	精良	良好	回転ナデ	八	中核は灰色 灰かぶり
22	土師器小皿	C区	5層	口 径 9.5	淡褐色	精良	良好	ナデ，ヨコナデ	九	
23		F区	5層	口 径 9.6	白茶色	精良	良好	指おさえ，ナデ，ヨコナデ	九	
24		C区	5層	口 径10.6	淡橙色～乳白色	精良	良好	指おさえ，ナデ，ヨコナデ	九	
25		C区	5層	口 径11.9	乳白色	精良	良好	ナデ，ヨコナデ	九	
26		B区	5層	口 径 7.6	乳褐色	精良	良好	指おさえ，ナデ，ヨコナデ	九	
27		C区	5層	口 径 9.4	乳白色	精良	良好	ナデ，ヨコナデ		
28		B区	5層	口 径10.8	乳褐色	精良	良好	ナデ，ヨコナデ	九	
29		F区	5層	口 径 9.5	乳褐色	精良	良好	ナデ，ヨコナデ	九	
30	土師器杯・蓋	B区	5層	口 径10.8	乳褐色	精良	良好	指おさえ，ナデ，ヨコナデ	九	

番号	器種	出土地点		法量 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	図版	備考
31	土師器杯・椀	地区 C区	土層 5層	口 径 11.7	乳褐色	精良	良	指おさえ、ナデ、ヨコナデ	九	
32		C区	5層	口 径 12.3	乳褐色	やや粗	良	指おさえ、ナデ、ヨコナデ	九	
33		A区	5層	口 径 11.5	乳褐色	精良	良好	ナデ、ヨコナデ		
34	土師器中皿	A区	5層	口 径 14.6	乳褐色	精良	良好	ナデ、ヨコナデ	九	
35	土師器甕	C区	5層	口 径 15.9	黄褐色	精良	良好	ナデ、ヨコナデ、口縁上端面に沈線巡る、口縁部と頸部の接合面顕著に眼る		内面暗褐色
36		C区	5層	口 径 14.5	赤褐色	精良	良好	ナデ、ヨコナデ、外面に弱いヘラケズリ		内面乳褐色
37		C区	5層	口 径 14.6	黄褐色	やや粗	良好	ナデ、ヨコナデ		内面茶褐色
38	土師器杯・椀	D区	5層	高台径 7.4 高台高 0.7	黄褐色～明橙色	精良	良好	ナデ、ヨコナデ		
39		C区	5層	高台径 6.8 高台高 1.0	淡橙色	精良	良好	ナデ、ヨコナデ	○	内面淡灰褐色
40		F区	5層	高台径 7.0 高台高 0.8	淡赤褐色	精良	良好	ナデ、ヨコナデ	一○	内面淡灰黄色
41	土師器鉢？	C区	5層	高台径 9.5 高台高 1.7	橙～赤褐色	やや粗	良好	ナデ、ヨコナデ	一○	
42	黒色土器B類椀	B区	5層	口 径 14.1	淡橙～淡黄色	精良	良好	内面密な横ヘラミガキ、ナデ、ヨコナデ	○	内面漆黒色
43		B区	5層	口 径 15.3	淡褐色	精良	良好	密な横ヘラミガキ、ナデ、ヨコナデ	一○	内面漆黒色
44		D区	5層	高台径 7.0 高台高 0.3	淡褐色	精良	良好	内面密なヘラミガキ(見込みと体部で分割)、ナデ、ヨコナデ	一○	内面黒灰色、光沢あり
45	黒色土器B類鉢	C区	5層	口 径 19.6	乳褐～淡橙色	やや粗	良好	ヘラミガキ(内緻密、外雑)、ヨコナデ	一○	内面漆黒色
46	須恵器杯蓋	SP－201		口 径 13.8 器 高 4.5	灰～淡灰色	密	良好	回転ケズリ、回転ナデ	八	
47		D区	7層	口 径 10.7	暗灰色	緻密	良好 堅緻	回転ケズリ、回転ナデ		
48	須恵器杯身	C区	7層	口 径 10.2 器 高 3.6	灰～暗灰色	密	良好	回転ナデ	八	
49		B区	7層		淡灰色	緻密	良好 軟質	回転ナデ、内外底面静止ナデ	一○	
50		D区	7層		淡青～黒灰色	密	良好	回転ナデ、内外底面静止ナデ	○	
51	七師器甕	B区	7層	口 径 16.2	白灰色	密	良好	ナデ、ヨコナデ		
52	七師器高杯	E区	7層	口 径 14.9	乳褐色	やや粗	良好	ナデ、ヨコナデ		
53	土師器高杯	B区	7層	口 径 13.1	乳褐色	精良	良好	ナデ、ヨコナデ		
54	土師器高杯	C区	7層	脚 径 12.7	乳白色	やや粗	良	ナデ、ヨコナデ、内面ヘラミガキ		
55	土師器甑 (把手)	B区	7層		乳白色	やや粗	良	指おさえ成形、粗いハケ	八	

図　　版

第1面全景（西から）

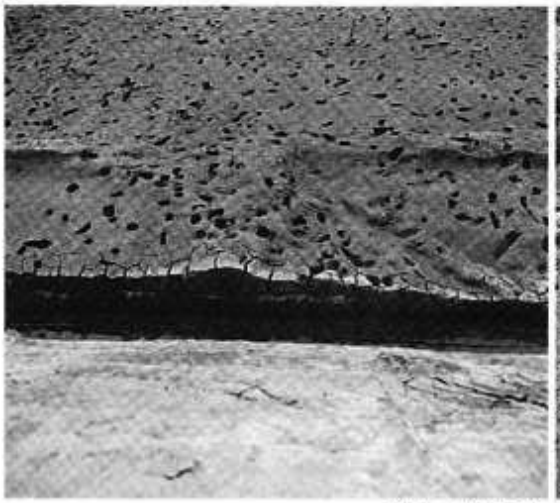


水田105・水田106(北から)

水田105～水田107(北から)

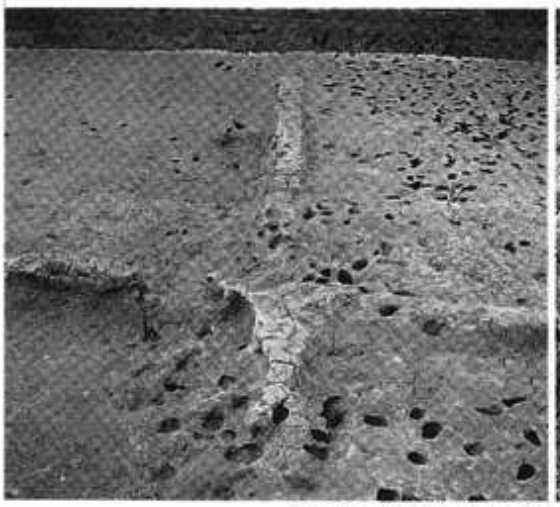
水口1（北から）

水口2（北から）



水口4（北から）

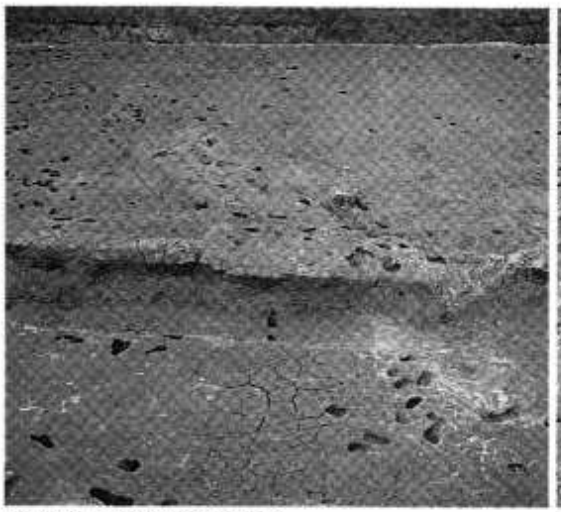
水口5（南から）



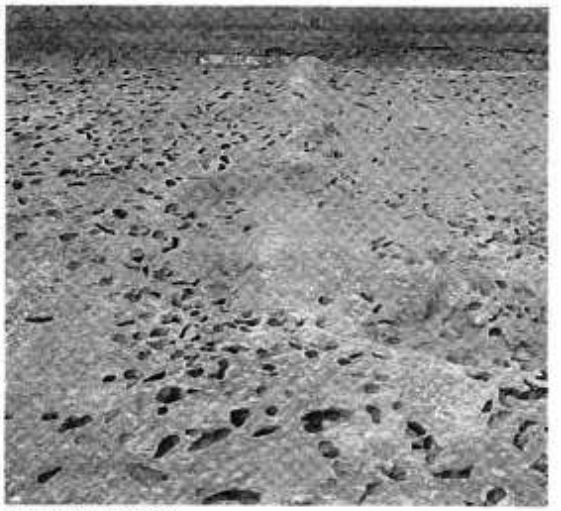
水口6～水口8（北から）

水口8（南から）

図版四　第1面



畦畔101・畦畔106(北から)



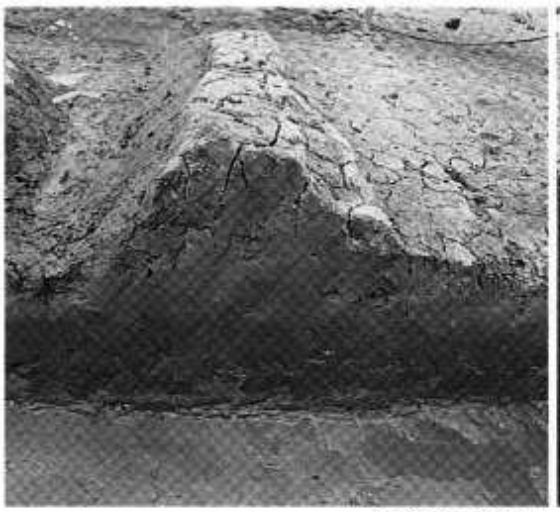
畦畔107(北から)

畦畔102北壁

畦畔104北壁

畦畔105北壁

畦畔107南壁

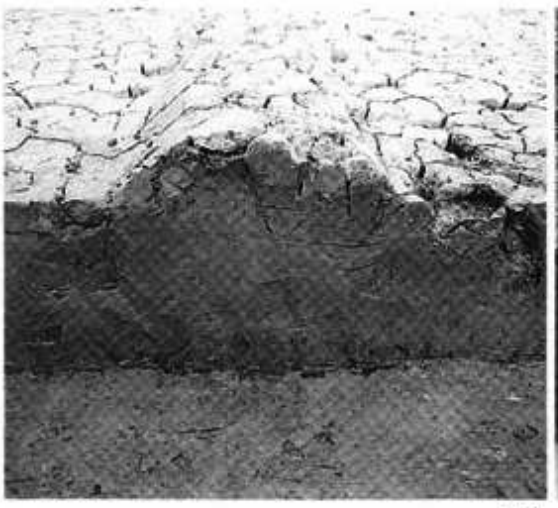


畦畔101断ち割り

畦畔105断ち割り

同上

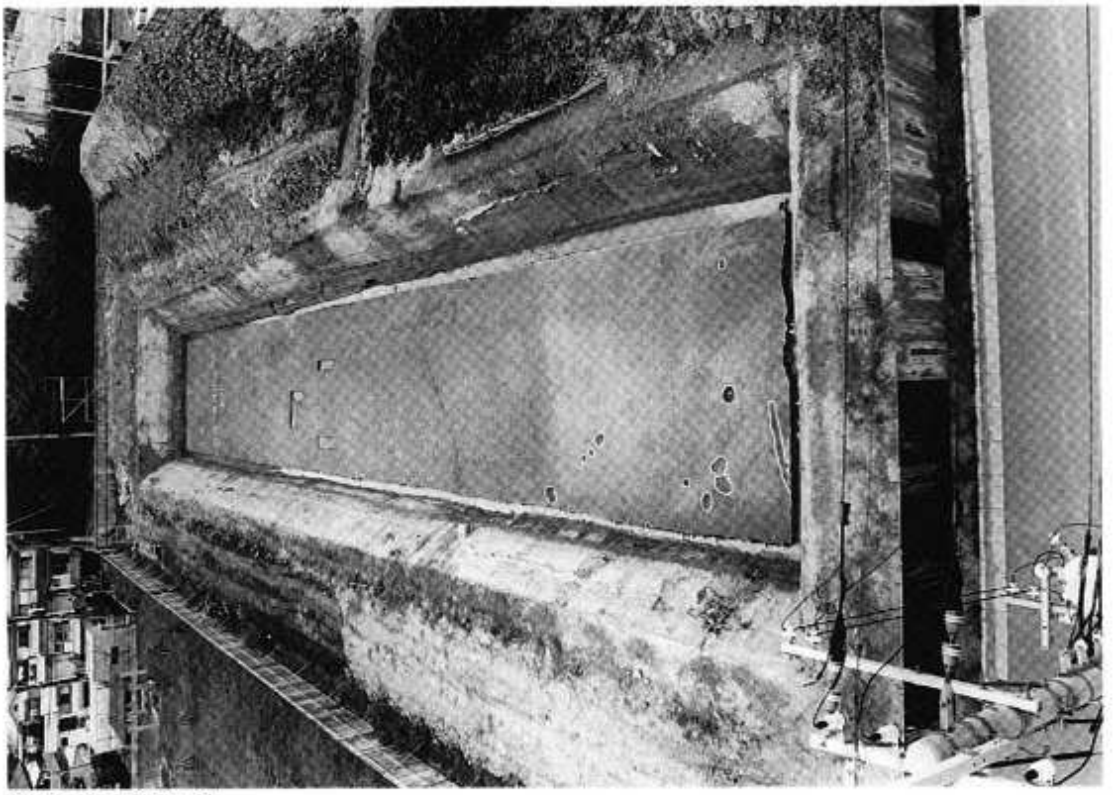
同上



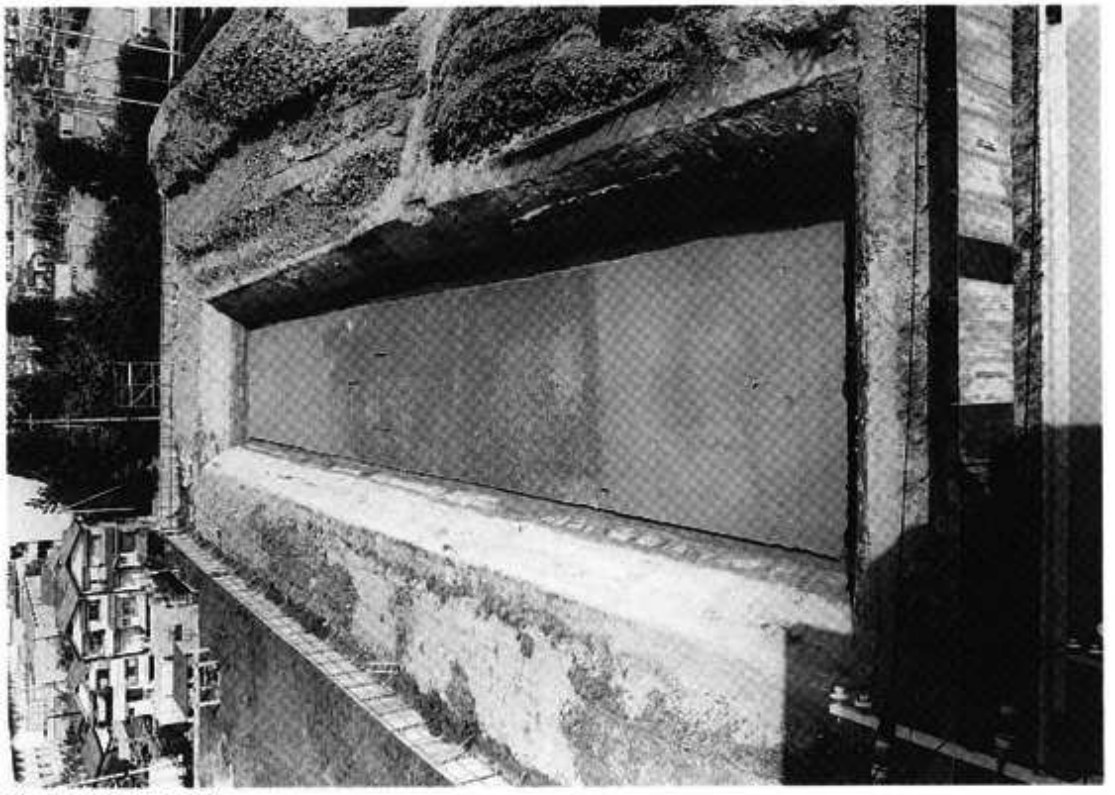
同上

畦畔107断ち割り

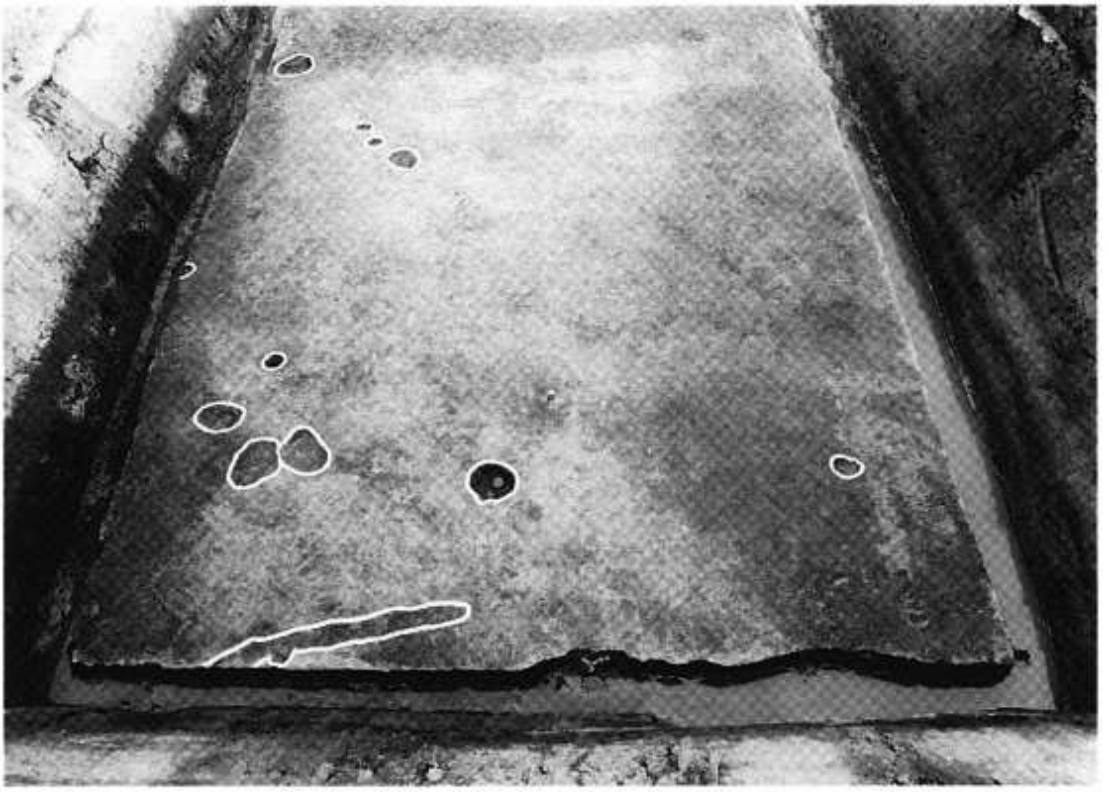
図版六　第2面・第3面



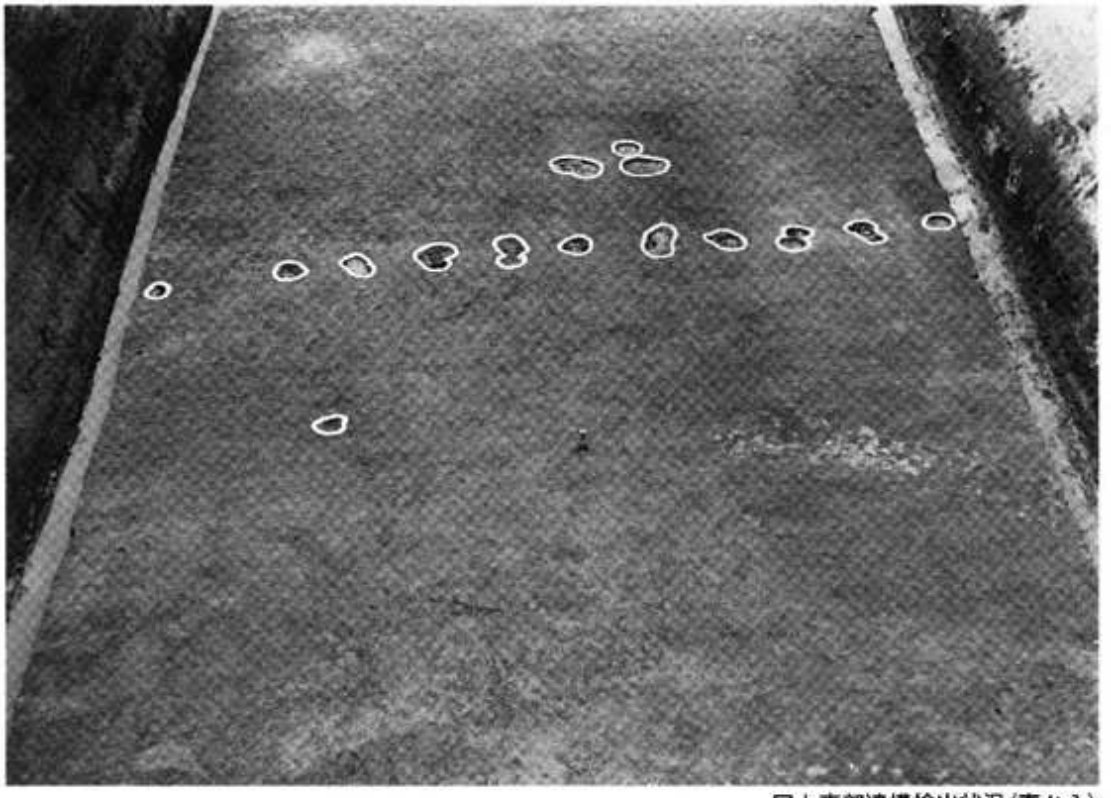
第2面全景（西から）



第3面全景（西から）

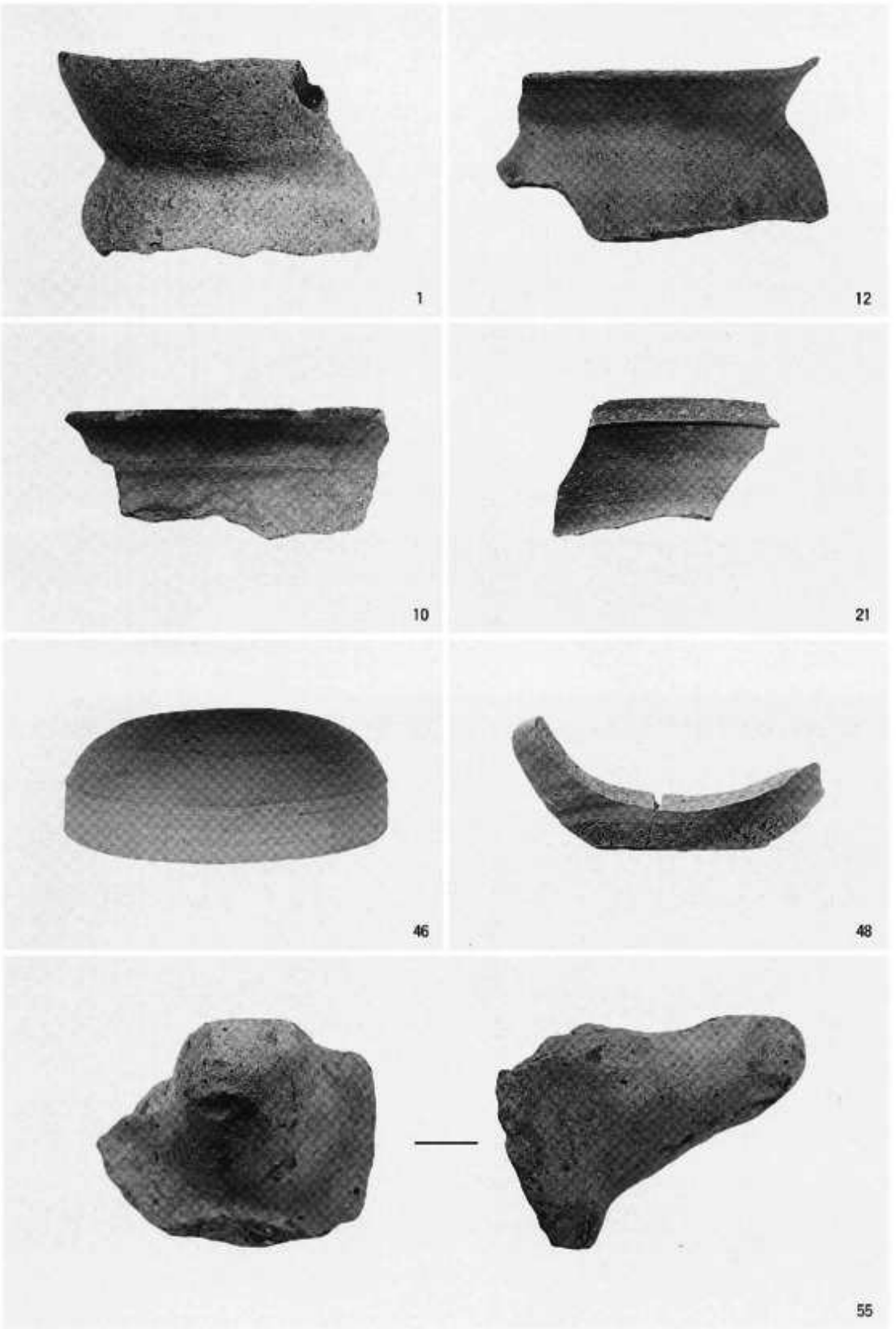


第2面西部遺構検出状況（西から）

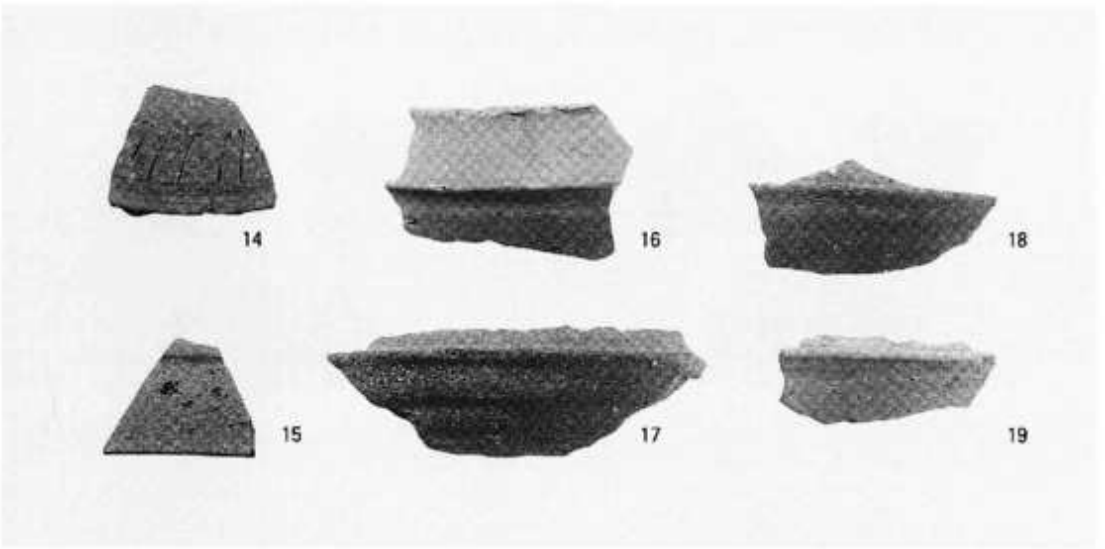


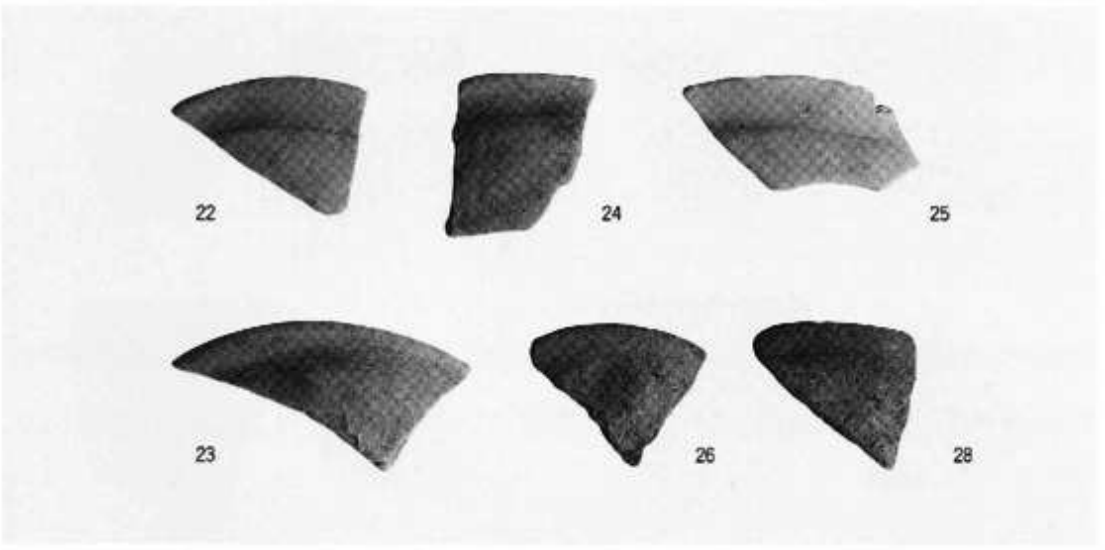
同上東部遺構検出状況（東から）

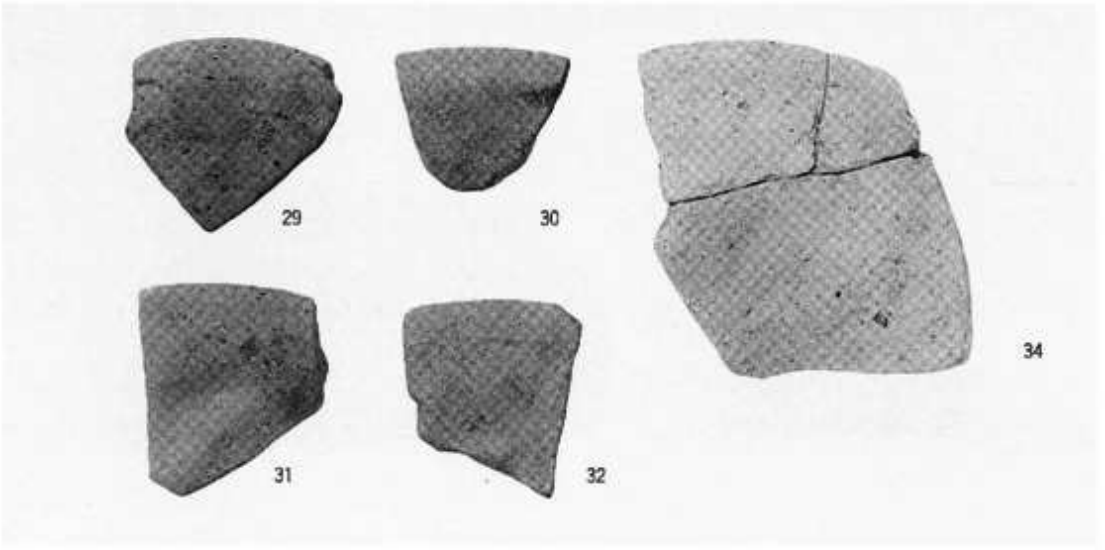
図版八　出土遺物



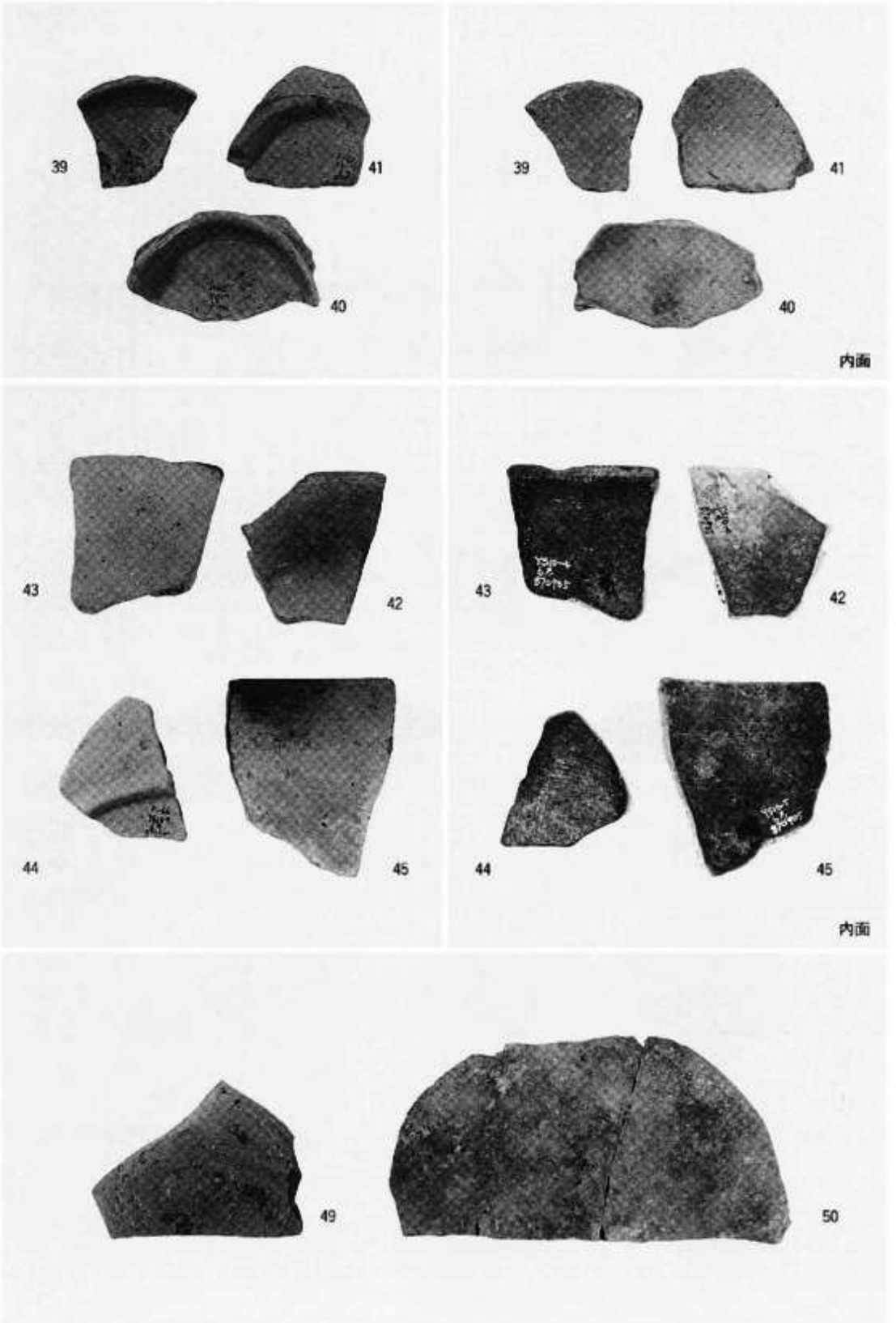
第5層(1～21)、SP201(46)、第7層(48、55)出土遺物







第5層出土遺物



第5層(39～45)、第7層(49・50)出土遺物

Ⅲ　東弓削遺跡第３次調査（ＨＹ87－３）

例　　言

1　本書は、大阪府八尾市八尾木東３丁目38において実施した、国家公務員合同宿舎建て替えに伴う東弓削遺跡の発掘調査報告書である。

1　本書で報告する東弓削遺跡第３次調査の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書（八社教文第73号　昭和62年８月５日付）に基づいて、財団法人八尾市文化財調査研究会が、近畿財務局から委託を受けて実施したものである。

1　現地調査は、昭和63年１月６日から２月19日にかけて、成海佳子を担当者として実施した。調査面積は594.96㎡を測る。

1　調査参加者は以下の通りである。　　（五十音字順）

麻田　優、岡田清一、小林博司、角　肇、田中明美、棚橋佐知子、松下哲也、森　茂治、山内千恵子、和田　孝

目　　次

第１章　はじめに…… 109

第２章　調査概要　第１節　調査経過…… 111

第２節　地区割…… 111

第３節　層序…… 111

第４節　検出遺構と出土遺物 …… 114

第３章　まとめ…… 127

第４章　付表　第１節　検出遺構一覧表…… 128

第２節　出土遺物一覧表…… 130

挿 図 目 次

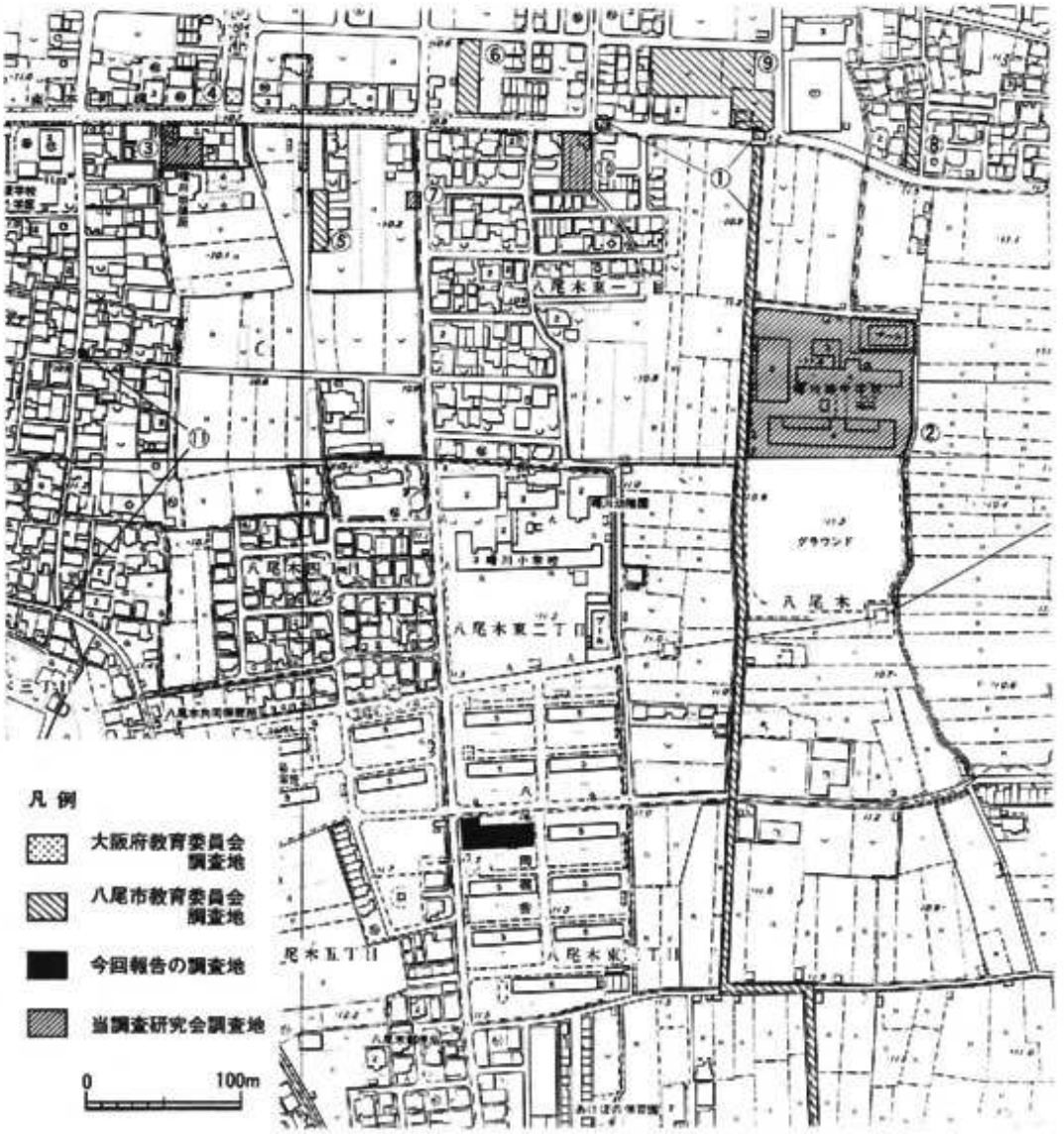
第１図　調査地周辺図…… 109
第２図　調査区設定図…… 111
第３図　第１面平断面図…… 115
第４図　第２面（西部）平断面図…… 116
第５図　第２層～第４層出土遺物実測図…… 117
第６図　第５層・河川出土遺物実測図－１…… 118
第７図　第５層・河川出土遺物実測図－２…… 119
第８図　第５層・河川出土遺物実測図－３…… 120
第９図　第５層・河川出土遺物実測図－４…… 121
第10図　第３面溝内出土遺物実測図…… 122
第11図　第３面平断面図…… 123
第12図　下層トレンチ出土遺物実測図…… 124
第13図　壁面図（折り込み）……125 ～ 126

図 版 目 次

図版一　第１面全景（東から）　同上　西部（南から）
図版二　第１面ＳＤ101～ＳＤ112・ＳＤ118・ＳＤ119壁面
図版三　第１面ＳＤ120～ＳＤ126・ＳＤ128～ＳＤ133壁面
図版四　第１面ＳＤ134・ＳＤ136・ＳＤ137・ＳＤ110・第２面畦状遺構壁面
　　第２面西部（南から）
図版五　第３面全景（東から）　同上　西部（南から）
図版六　第３面畦畔301・畦畔302・畦畔304・畦畔307～畦畔309、ＳＤ301～ＳＤ302壁面
図版七　第３面畦畔302、ＳＤ301～ＳＤ310壁面
図版八　下層トレンチ東壁　同上北壁
図版九　出土遺物

第1章　はじめに

東弓削遺跡は、八尾市南東部の東弓削・八尾木一帯に位置している弥生時代以降の遺跡である。地形的には、旧大和川の主流のひとつであった長瀬川と玉串川の分岐点である「二俣」地区の北側に位置しており、両河川にはさまれた沖積地の基部にあたる。この沖積地上には、当遺跡をはじめとして、中田遺跡・矢作遺跡・小阪合遺跡・成法寺遺跡・東郷遺跡・萱振遺跡・



第1図　調査地周辺図

山賀遺跡などが、沖積地の広がりとともに、北から北西へと展開している。また、玉串川をはさんだ東側には、恩智遺跡が生駒山地の扇状地を占地しており、長瀬川をはさんだ南側の自然堤防上には弓削遺跡が、西側の低地部には田井中遺跡（本書Ⅰ）・老原遺跡が位置している。

当遺跡は、その地名が示すように、弓削道鏡の本貫地として古くから一般にも知られているところで、由義宮（由義寺・西ノ京）跡と推定されている地域であった。ところが、昭和42年（1962年）の国道170号（大阪外環状線）敷設工事の際、当該時期のほかに、弥生時代の遺物が多量に出土したことが報ぜられて以来、当地が弥生時代以降の複合遺跡であることが明らかにされた。

その後、昭和50年（1975年）の八尾市教育委員会の調査では、奈良時代～鎌倉時代まで存続していた建物のあったこと、建物廃絶後は整地され水田化したこと、さらに弥生時代中期～古墳時代前期の濃密な遺物包含層や古墳とは無関係な埴輪の出土などが報告されている（①）。

それ以後、市教育委員会・当調査研究会が当遺跡範囲内の北部で多数の発掘調査を実施しており、弥生時代後期～中世に至る遺構・遺物や平安時代～中世の水田遺構などが検出されている。当然のことながら、遺跡北部の調査地では北隣りに比定されている中田遺跡南部との分離は不可能である（②～⑪）。

表1　周辺の発掘調査一覧

番分	調査主体	遺跡・調査区名	調査原因	調査期間	面積㎡	所在地	調査概要
①	八尾市教育委員会	東弓削遺跡	通水管付設	1975. 12／8～1976. 3／31	4,000	東弓削～八尾木	奈良～鎌倉時代の建物廃絶後の整地層、弥生時代中期～古墳時代前期の遺物包含層、堆積
②	（財）八尾市文化財調査研究会	東弓削遺跡第1次 HY82-1	曙川南中学校増築	1982. 10／13～10／18	85.5	八尾木167	古墳時代前期の遺物包含層、平安時代末期～鎌倉時代の水田
③	（財）八尾市文化財調査研究会	中田遺跡（八尾木地区）	曙川地区供用施設建設	1984. 2／2～2．19	220	八尾木4	古墳時代前期の遺構群、池状跡、弥生時代中期～後期、古墳時代前期遺物包含層
④	大阪府教育委員会	中田遺跡	公共下水道工事	1985. 8		八尾木北5	古墳時代前期不明遺構
⑤	八尾市教育委員会	中田遺跡・東弓削遺跡の接点	共同住宅建設	1986. 9．24～9．30	184	八尾木4－4－5	古墳時代前期遺構・遺物、弥生時代中期後半壁柱
⑥	八尾市教育委員会	中山遺跡(86-532)	共同住宅建設	1987. 8／19・8／26～9／9	68	八尾木6－166	古墳時代前期（庄内式新相～布留式古相）遺物包含層
⑦	（財）八尾市文化財調査研究会	東弓削遺跡第4次 HY88-4	公共下水道工事	1989. 1／6～1／23	72	八尾木東1	弥生時代中期土坑、古墳時代前期（庄内期）溝
⑧	八尾市教育委員会	中田遺跡(90-260)	社屋・住宅建設	1990. 9．21	12	荊部407－2・4・8	奈良時代末期～平安時代初頭の遺物包含層
⑨	八尾市教育委員会	中山遺跡(90-330)	倉庫建設	1990. 10／23	12.25	荊部3－53－1	古墳時代～奈良時代の遺物包含層
⑩	（財）八尾市文化財調査研究会	東弓削遺跡第5次 HY90-5	共同住宅建設	1990. 11／19～1990. 12／6	50	八尾木東1－94	古墳時代前期～中期遺構群
⑪	（財）八尾市文化財調査研究会	東弓削遺跡第6次 HY92-6	公共下水道工事	1993. 2．19～5／12	37	八尾木2、3	古墳時代・後期～平安時代中期の河川、平安時代末期の井戸、近世～近代の遺構群

文献
① 『東弓削遺跡　八尾市文化財調査報告3』　八尾市教育委員会　1976
② 『東弓削遺跡』『昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査』　八尾市教育委員会　1983
③ 『中田遺跡（八尾木地区）』『昭和58年度事業埋蔵報告　（財）八尾市文化財調査研究会報告5』　（財）八尾市文化財調査研究会　1984
④ 『中田遺跡発掘調査概要』　大阪府教育委員会　1986
⑤ 『中田遺跡発掘調査概要』『八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書II　八尾市文化財報告15』　八尾市教育委員会　1987
⑥ 『中田遺跡(86-532)の調査』『八尾市内遺跡昭和62年度発掘調査報告書I　八尾市文化財報告17』　八尾市教育委員会　1987
⑦ 『東弓削遺跡（第4次調査）』『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告　（財）八尾市文化財調査研究会報告37』（財）八尾市文化財調査研究会　1993
⑧ 『中田遺跡(90-260)の調査』『八尾市内遺跡平成2年度発掘調査報告書I　八尾市文化財報告22』　八尾市教育委員会　1991
⑨ 『中田遺跡(90-330)の調査』『八尾市内遺跡平成2年度発掘調査報告書I　八尾市文化財報告22』　八尾市教育委員会　1991
⑩ 『東弓削遺跡（第5次調査）』『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告　（財）八尾市文化財調査研究会報告32』（財）八尾市文化財調査研究会　1991
⑪ 『東弓削遺跡（第6次調査）』『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告　（財）八尾市文化財調査研究会報告39』（財）八尾市文化財調査研究会　1994

第２章　調査概要

第１節　調査経過

５階建の国家公務員合同宿舎（東西45.6ｍ×南北11.85ｍ＝540.36㎡）、合併処理槽（東西10.5ｍ×南北5.2ｍ＝54.6㎡）に合わせてＬ字形の調査区を設定した。

調査に先立って行われた市教育委員会の試掘調査の結果から、地表下1.7ｍ付近の粘土層上面までを平面的な調査対象とする指示があり、さらに地表下2.1ｍで瓦片、地表下2.8ｍで弥生土器片が出土していることから、下層部分の確認調査をする旨の指示もあった。ところが、地表下1.0～1.2ｍ（T.P.+11.0～11.3ｍ）で付近の床土上面で遺構が認められたため、盛土・旧耕土を機械掘削とし、床土以下約0.5ｍ程度を手掘りとした。その結果、３時期の遺構面を検出することができた。

これらの調査終了後、試掘調査で検出されていた弥生土器の埋没深度や埋没状況を把握する目的で、調査区の中央部に幅１ｍ・長さ40ｍのＬ字形のトレンチを設定し、最終面（第３面）以下1.1～1.4ｍ程度を人力掘削したところ、第３面以下で平安時代～鎌倉時代の複数の水田耕土、弥生時代後期～古墳時代前期（庄内期）の遺物を多量に含む土層を検出した。

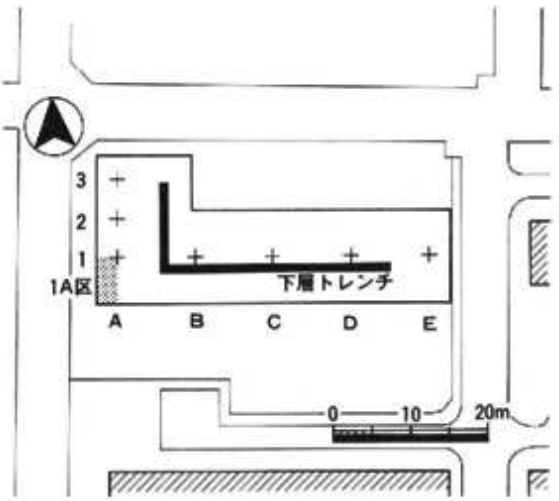
第２節　　地区割

南北は、調査区の中心で２分割し、南から１区～４区と呼んだ。東西は敷地境界線西端から10ｍごとに区画し、西からＡ～Ｆ区と呼んだ。各区画については、それらをあわせて１Ａ区・２Ａ区・３Ａ区‥‥２Ｆ区と呼んだ。

第３節　層序

地表面はT.P.+12.1～12.3ｍ程度で、概ね水平である。盛土は0.5～１ｍで、西が薄く東が厚い。これは、旧地表である耕土上面が、西が高く東が低く、既存の公務員宿舎建設の際に整地されているためである。

旧耕土以下の基本的な土層は、14枚を数える。そのうち第１層～第７層までは上層で確認したが、第８層以下は下層トレンチで確認したものである。



第２図　調査区設定図

第1層：黒灰色砂混じり粘土　層厚0.1～0.2m

近年の造成時までの耕土である。上面のレベルはT.P.+11.0～11.5mで、西側のA区・B区が高く、中央から東部へ徐々に下がっている。以下の各層も、西部と中央とで層相の異なるものが多い。

第2層：灰茶色砂混じり粘質土　層厚0.1～0.2m

耕土の床で、近世の陶磁器片のほか、土師器などの細片が若干含まれている。

第3層：茶灰色砂混じり粘質土　層厚0.1～0.2m

近世の耕土で、上面では多数のすき溝を検出した。この層上面を第1面と呼んだ。上面のレベルは、T.P.+10.8～11.3mで、西が高く東が低い。すき溝内部には、15層灰色粘土が堆積している。第3層内からは、須恵器・土師器・陶磁器の細片が少量出土している。

第4層：茶灰色礫混じり粘質土　層厚0～0.2m

調査区西側、A区～B区で見られた土層で、礫とともに土器や瓦の小破片が混ざりあっており、硬く締まっている。その下には、B区付近に16層粘土～シルトと礫のブロック層が認められ、以下に河川内の堆積状況を示す4B層礫がある。西部の第4層・16層の堆積状況は、市教委昭和50年度調査で検出した「中世の整地層」に似ている。4B層からは、古墳時代から室町時代に至る雑多な土器類が多量に出土しているが、小破片が多い。

第5層：緑灰色微砂　層厚0～0.2m

第2面の上面に堆積する土層で、第4層同様A区～B区のみで見られる。東側のC区～F区では、5B層シルトとなり、河川内堆積土である上層の4B層礫と下層の6B層粗砂を分けている。このことから、この層をはさんで2時期の河川の氾濫があったものと考えられる。第5層、5B層からも室町時代を下限とする雑多な遺物が出土している。

第6層：黄茶色礫混じり粘質土　層厚0～0.4m

西部で河川の岸を構成する土層で、B区東側で南北方向に伸びる畦状遺構が認められた。この層上面が第2面である。上面のレベルは、T.P.+10.5～11.0mを指し、この面でも、西が高く、東が低い。

前記の第4層、第5層は、この畦状遺構付近以西で見られたもので、この層もまた畦状遺構以東では認められず、かわって河川内部の堆積土である6B層粗砂が堆積する。6B層からも、室町時代を下限とする土器類が出土している。

第7層：灰茶色粘土　層厚0.2～0.6m

鎌倉時代から室町時代の水田耕土で、この層上面を第３面と呼んだ。上面のレベルは、T.P.+10.5～10.8m程度で、西が高く、東が低い。

第８層：黄茶色シルト　層厚0.05～0.1m

滞水状態を示す土層で、古墳時代中期から鎌倉時代に至る土器類が出土している。なお、この層以下が、下層トレンチで確認した土層である。

第９層：茶灰色粘土　層厚0.1～0.2m

上面に波状痕跡や畦畔状の高まりなどがあり、水田耕土と考えられる土層である。上層第８層の出土遺物から、鎌倉時代の埋没水田と考えられる。東部Ｂ区では、幅５～６ｍにわたって９Ｂ層灰緑色砂混じり粘土があり、そこより東には、第９層の下部に９Ｃ層灰緑色粘土が堆積している。９Ｂ層は硬く締まった土層であるが、９Ｃ層は、第９層同様水田耕土の可能性の高い土層である。

第10層：灰色シルト　層厚0.05～0.1m

第８層同様、水田上面を覆う滞水層である。９Ｂ層の下部には堆積していない。

第11層：灰色粘土　層厚0.1～0.2m

第９層同様、水田耕土の特徴を持つ土層である。この層も、９Ｂ層下部には認められず、代わって11Ｂ層灰色砂混じりシルト質粘土が堆積している。

第12層：暗灰色粗砂混じり粘土　層厚0.2～0.3m

水を多量に含む土層で、西半部分に堆積している。11Ｂ層直下には、12Ｂ層灰色微砂混じり粘土があり、そこより東には、12Ｃ層緑灰色粘質シルトが堆積している。12Ｂ層は９Ｂ層同様硬く締まった土層であるが、12Ｃ層は水田耕土と考えられる。

第13層：灰緑色中砂混じり粘土　層厚0.2～0.3m

東部のＤ区、第12層および12Ｂ層直下までに堆積している土層で、上面には、落ち込み、溝などのくぼみが見られ、下層の第14層とともに、古墳時代前期（庄内期）の遺構面を構成する土層である。遺構内部には、19層暗灰色～緑灰色粘土を主として、20層～22層灰色～黄灰色のシルト～粗砂などが堆積している。東側のＥ区、12Ｃ層直下には、水田耕土の特徴を持つ13Ｂ層灰緑色シルト質粘土が堆積している。

第14層：灰緑色微砂混じり粘土　層厚0.2m以上

弥生時代後期から古墳時代前期（庄内期）の遺構面となる土層で、東端のＥ区13Ｂ層直下は急激に落ち込み、上部に水量の多い25層、26層灰黒色シルト～中砂が堆積している。一方、西部はなだらかに落ち込んでおり、西端では上部に23層黒灰色粘土が厚く堆積している。この層上面のレベルは、T.P.+9.5～9.8mを指し、現地表下３m程度である。

第4節　検出遺構と出土遺物

今回の調査では、上層で近世～中世の3時期の遺構面を検出し、さらに下層トレンチで中世（鎌倉時代）～古墳時代前期～弥生時代後期に至る遺構面を数枚検出した。

まず、現地表下0.9～1.3m、床土直下に存在する第3層茶灰色砂混じり粘質土上面（T.P.＋10.9～11.3m）で近世の遺構面を検出した（第1面）。次いで、そこから0.3～0.4m下層に存在する第6層黄茶色礫混じり粘質土上面（T.P.＋10.9m）で、中世の河川に伴う畦状遺構を検出した。さらに、そこより0.2～0.3m下層の第7層灰茶色粘土上面（T.P.+10.5～10.8m）で、鎌倉時代～室町時代の埋没水田を検出した（第3面）。

さらに下層トレンチでは、第3面以下0.5～0.7mの範囲の中で、平安時代末期～鎌倉時代を下限とする数枚の水田耕土を確認し、最下で古墳時代前期（庄内期）～弥生時代後期の遺構面を確認した。

出土遺物の量は多いが、そのほとんどが、6B層粗砂からのもので、室町時代を下限とする日常雑器・屋瓦などである。また、第2層～第4層からは、江戸時代を下限とする遺物がわずかに出土している。下層部分からは、弥生時代中期・同後期、古墳時代前期（庄内期）・同中期～後期のほか、平安時代末期～鎌倉時代までの土器類が出土している。

1）近世の農地（第1面）

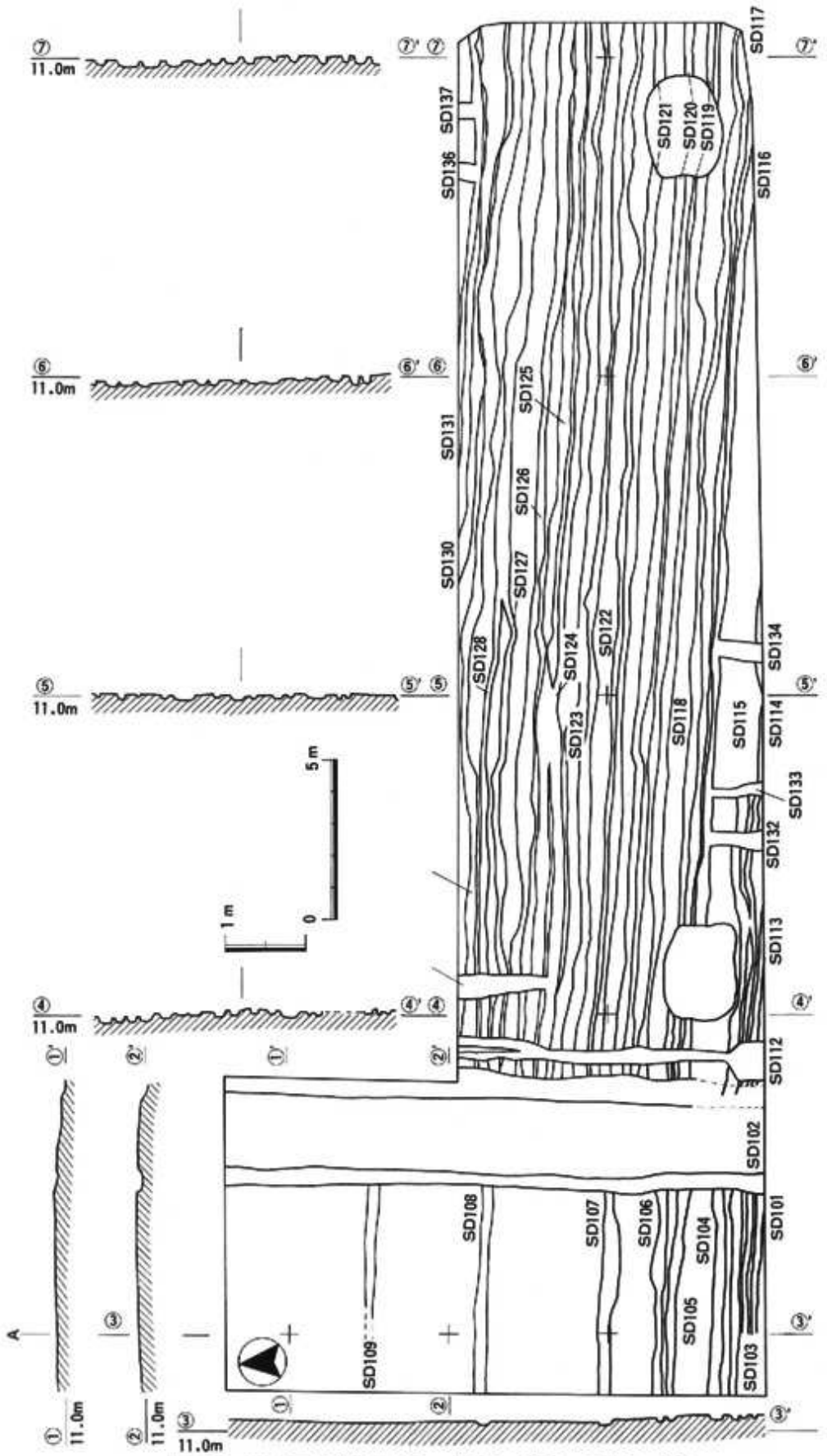
地表下0.9～1.3mの第3層茶灰色砂混じり粘質土上面（T.P.+10.8～11.3m）で、近世の農耕に伴うすき溝37条（SD101～SD137）を検出した。

溝は、南北に伸びるもの9条（SD110～SD112、SD132～SD137）、東西に伸びるもの28条（SD101～SD109・SD113～SD131）があり、南北方向の溝が東西方向の溝を切っている。

規模は、幅0.15～0.75m・深さ0.03～0.14m程度でばらつきがあり、きわめて不明瞭である内部には、15層灰色粘土が堆積している。溝内部から遺物は出土していない。

遺構面を構成する第3層上面は、北西が高く南東が低い。とくに西部の南北溝SD101とSD110との間は高まりとなっており、この部分を境として東西に段があり、東側が低い。またこの高まりをはさんで東西の溝の間隔は異なっており、土地利用の違いが窺える。なお、この高まりの下部（第2面）では、河川に伴う畦畔状遺構が存在している。

遺構面を覆う上層の第2層からは、瓦器羽釜(11)、唐津焼皿（19・20）、同碗(23)、伊万里焼碗(21)、京焼碗(22)が出土しており、遺構ベースである第3層からは、須恵器杯身(14)、同長頸壺(15)、同壺(17)、備前焼擂鉢(24)などが出土しているが、すべて摩耗を受けた小破片である。

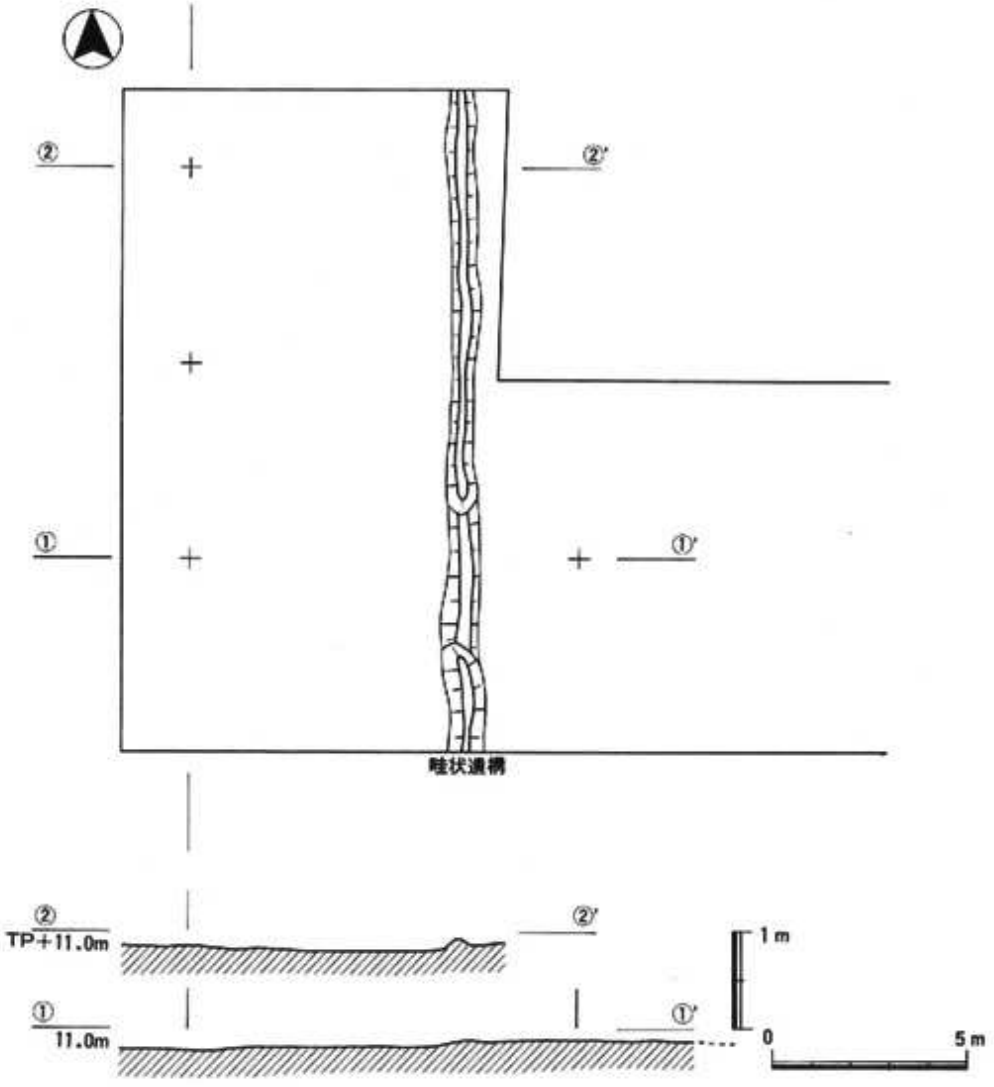


第3図　第1面平断面図（S＝水平1／200・垂直1／80）

2）　中世の河川（第２面）

地表下1.2～1.3m（T.P.+10.9m）に存在する第６層黄茶色礫混じり粘質土上面で、中世の河川に伴う畦状の高まりを検出した。

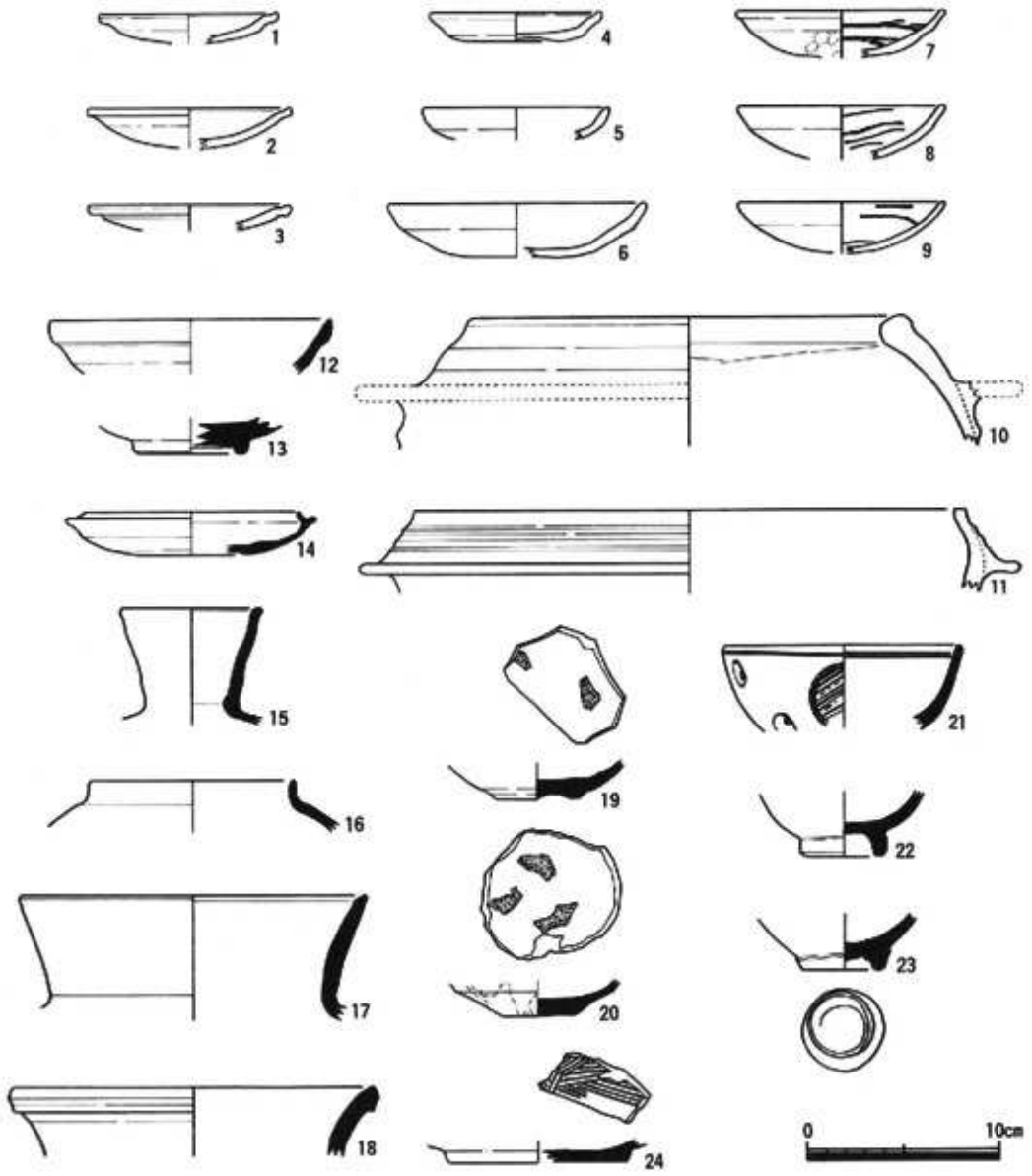
畦状遺構はＢ区東側を南北に伸びるもので、幅0.5～1.1m・高さ0.1～0.2mを測る。南寄りには、約３mの範囲で水口状にとぎれている部分がある。この高まり付近を境にして、第３層の下部に堆積する第４層～第６層は東西で大きく異なっており、東側は、埋没河川となってい



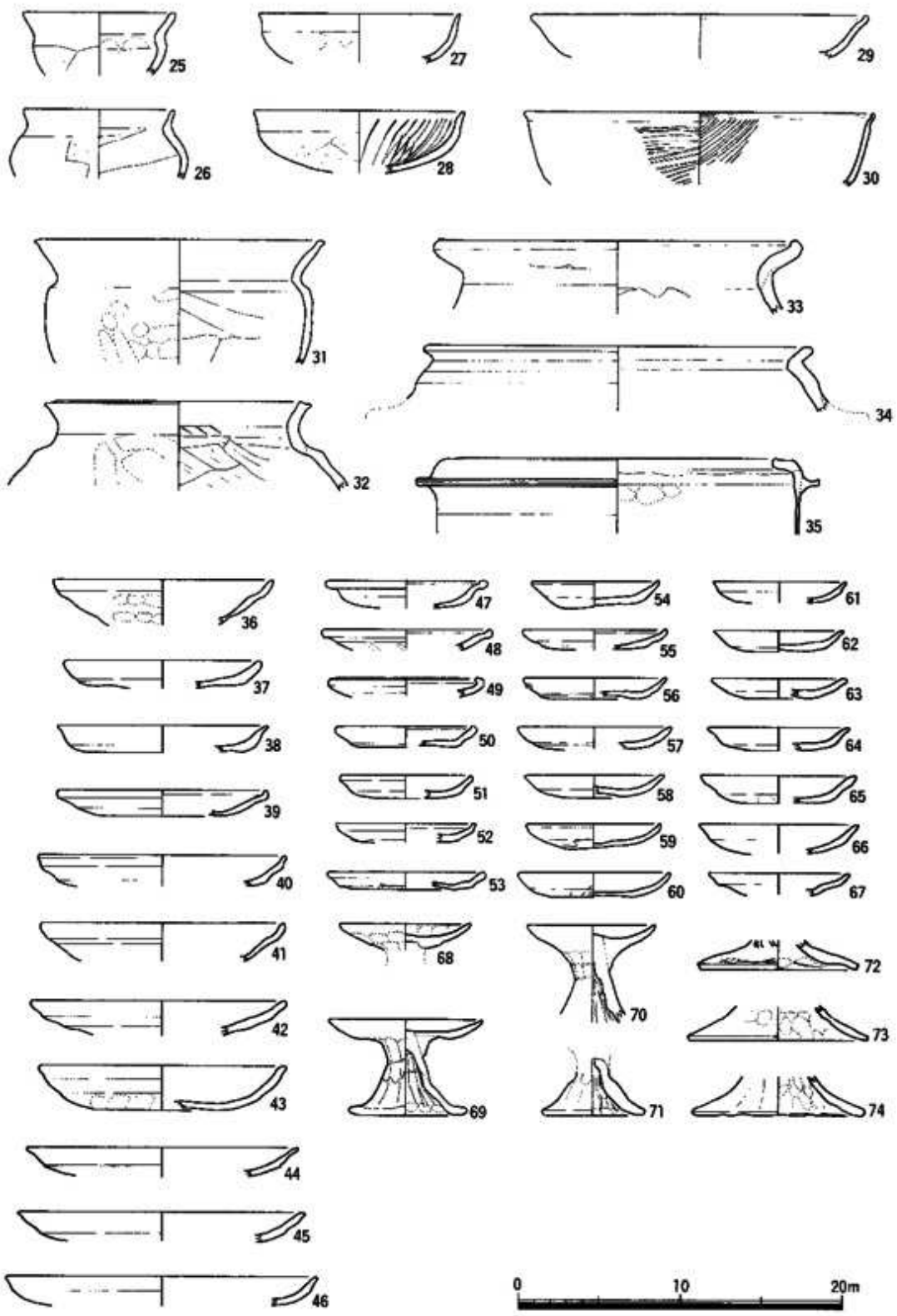
第４図　第２面西部平断面図(S＝水平１／200・垂直１／80)

る。このことから、この高まりは、河川の岸辺に沿って設けられた堤防や道路などの施設と考えることができる。

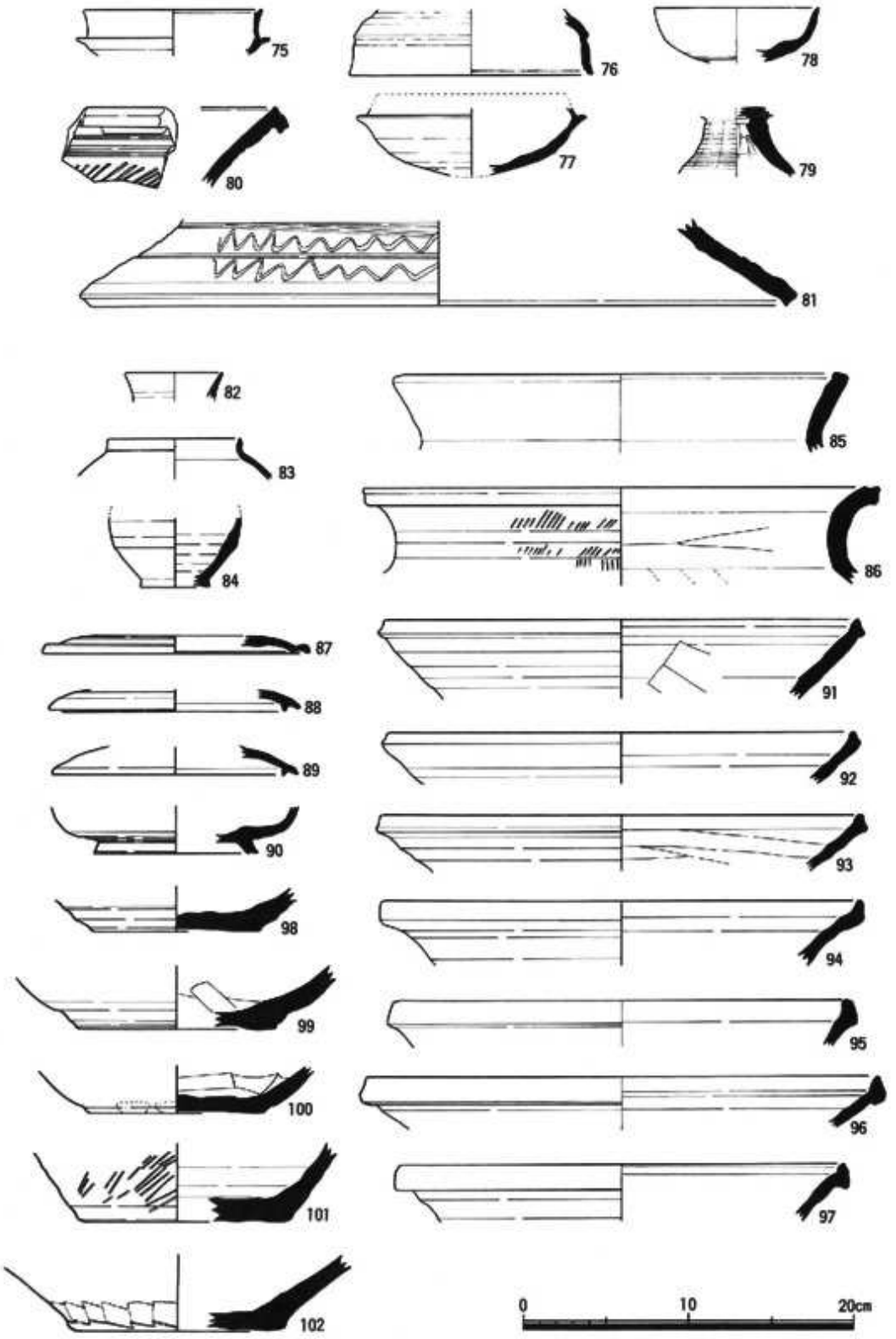
河川内部の堆積土は、上方から、4B層礫、5B層シルト、6B層粗砂で、二時期の氾濫が観察できる。河川内部からは、古墳時代中期以降室町時代までの土器類や屋瓦が多量に出土しているが、すべて摩耗をうけた小破片である。一方、西部の第5層内部からも同時代の土器類の小破片が出土している。



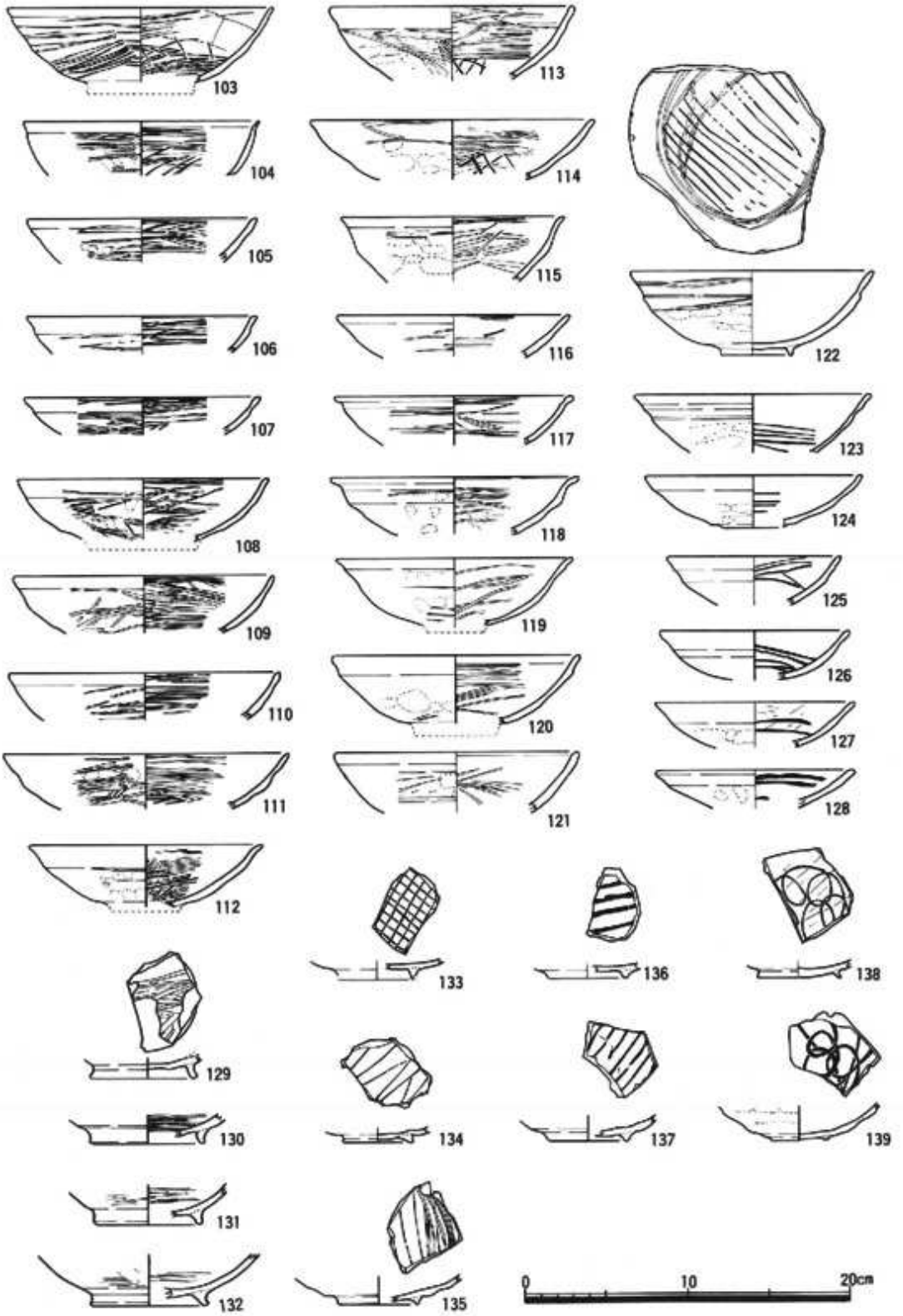
第5図　第2層～第4層出土遺物実測図



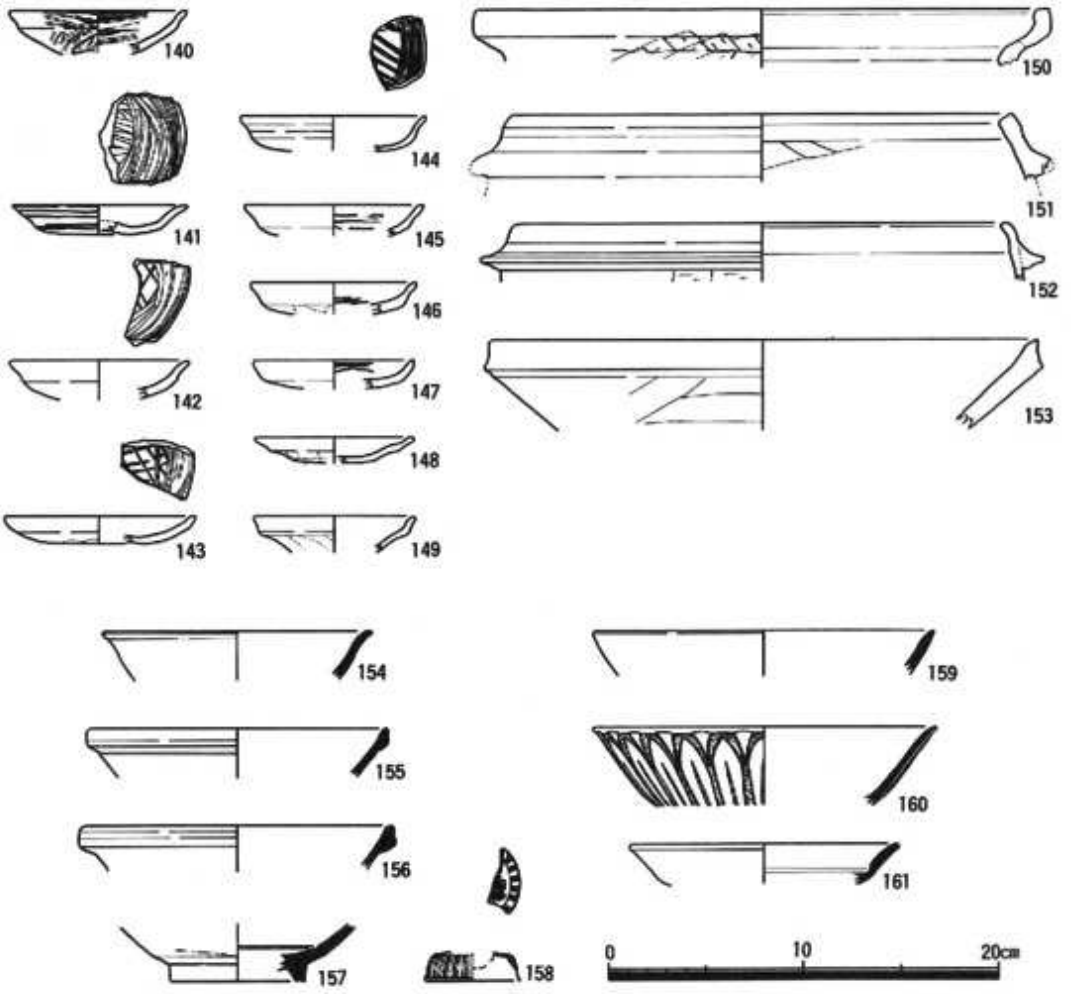
第6図　第5層、河川出土遺物実測図－1



第7図　第5層、河川出土遺物実測図－2



第8図　第5層、河川出土遺物実測図－3



第９図　第５層、河川出土遺物実測図－４

３）鎌倉時代～室町時代の水田（第３面）

地表下1.4～1.7m（T.P.+10.5～10.8m）に存在する第７層灰茶色粘土上面で、畦畔11条（畦畔301～畦畔311）、溝16条（ＳＤ301～ＳＤ316）を伴う水田遺構を検出した。水田は11筆（水田301～水田311）を数える。ここでも、第１面同様、調査区西部のＡ区・Ｂ区と、中央から東部のＣ区以東とでは土地利用が異なっているものと考えられる。

水田上面のレベルは、西側でT.P.＋10.6～10.7mを測り、東へ緩やかに下がっていき、東部ではT.P.＋10.5m前後である。土質は東へ行くほど粘性が高くなる。もっとも高い部分は、水田301の北部で、T.P.＋10.76m、逆にもっとも低いのは水田310の東部で、T.P.＋10.47mを指す。

西部の水田303の上面には、鋤溝や畝跡と考えられる小溝（ＳＤ301～ＳＤ314）が多数掘り込まれているが、東部の水田上面には、このような小溝群は認められない。東部の水田は南北に伸びる畦畔304・畦畔305・畦畔307を境として東へ一段ずつ低くなっていくもので、高低差は約0.1ｍずつある。また、東西に伸びる畦畔309を境にして、北側の水田304～水田306と南側の水田308～水田311との区画は異なっているようである。

水田一区画は検出していないが、東西の幅は水田305が14～15ｍ、水田308・水田310が８～10ｍ、水田307・水田309は２～３ｍと、大・中・小の３種がある。水田303と水田304を区画する畦畔は検出していないが、ＳＤ313付近をその境界とすれば、水田303がおよそ10ｍで中区画、水田304が13～14ｍで大区画の水田となる。

畦畔は、耕土である第７層を盛り上げて構築されているもので、南北に伸びるもの６条（畦畔302～畦畔307）、東西に伸びるもの３条（畦畔308～畦畔310）である。畦畔301は南北に伸びた後、西へＬ字形に屈曲するもので、東側には畦畔302、南側には畦畔308が並行している。畦畔309の西部も、南に畦畔310が並行して伸びている。各畦畔の接続はＴ字形がほとんどであるが、畦畔307と畦畔309との接続部は、「食い違い」になる可能性が高い。

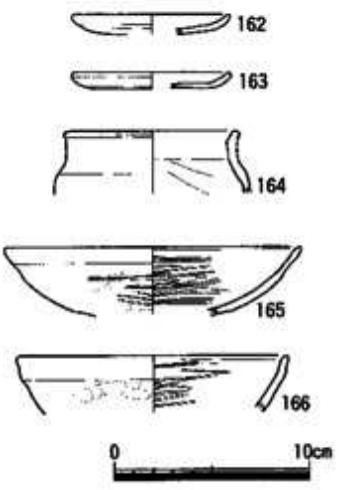
出土遺物は、おもに東部の小溝群から、土器類の小破片が少量出土している。図示したものは、ＳＤ302出土の土師器小皿（162）、瓦器碗(166)、ＳＤ304出土の瓦器碗(165)、ＳＤ311出土の土師器小型壺（162）、ＳＤ312出土の土師器小皿(163)である。そのほか、耕土である第７層内から、土師器小皿(173)、土師器羽釜（177）などの小破片が出土している。

４）下層調査

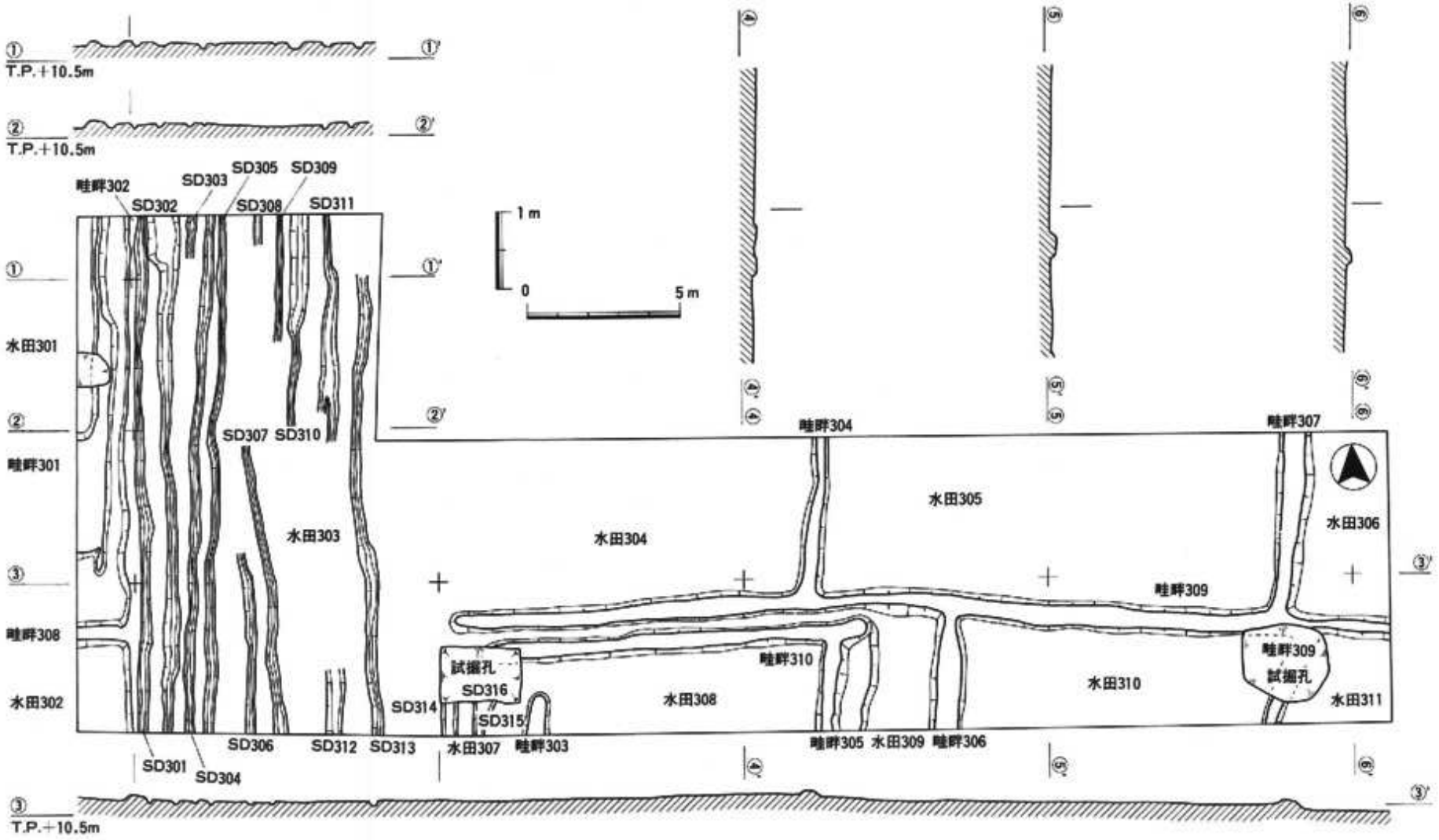
第８層以下の層が下層部分で確認した土層である。このうち第９層・第11層が平安時代～鎌倉時代の水田耕土で、第13層・第14層上面が、弥生時代後期～古墳時代前期（庄内期）の遺構面を構成する土層である。

下層部分の調査については、トレンチ壁面の観察にとどまったために、詳細な調査はできていないが、第６層の鎌倉時代の水田耕土以下、第13層に至るまでの0.5～0.7ｍの間で、大きく分けて２時期、２－５枚の水田耕土が確認できた。

水田耕土は第９層と第11層で、上面には無数の波状痕跡が見られ、各層上層は、洪水層である第８層黄茶色シルト、第10層灰色シルトで覆われている。

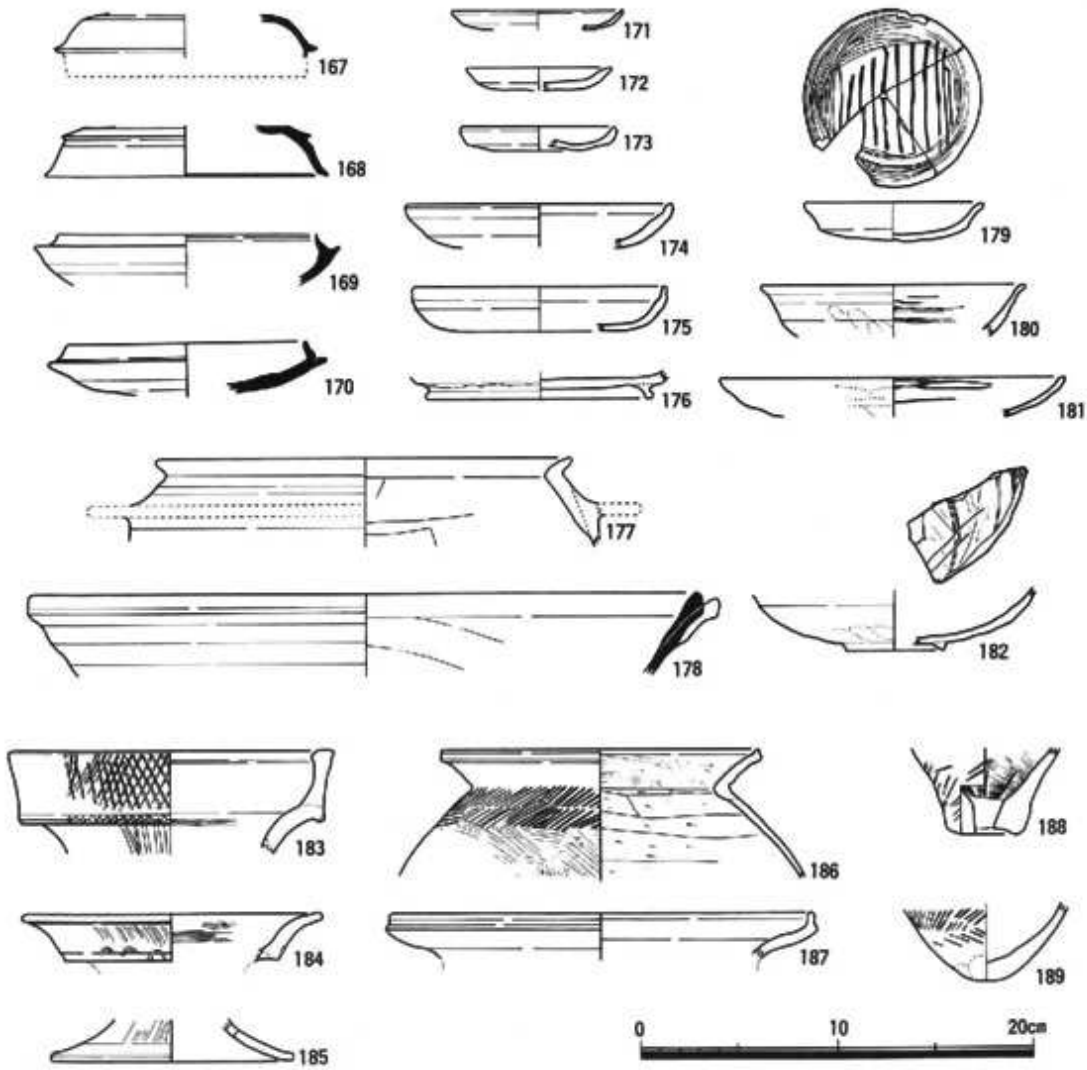


第10図　第３面溝内出土遺物実測図

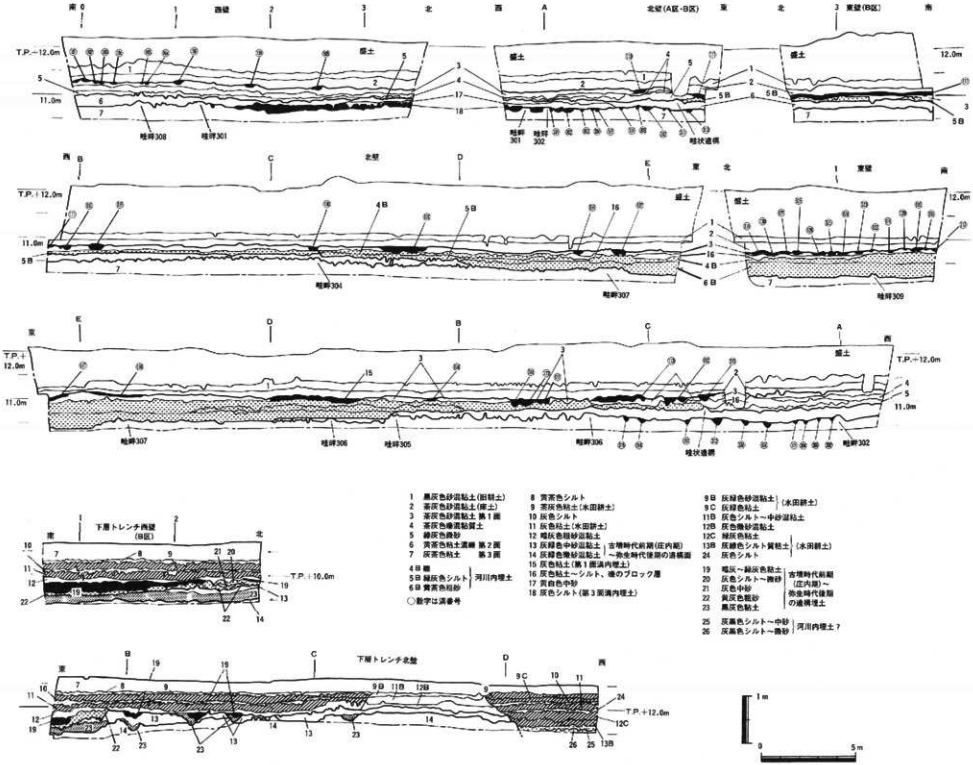


第11図　第3面平断面図(S＝1／200・垂直1／80)

下層トレンチ東部（D区付近）では、幅５ｍ前後にわたって硬く締まった部分（９Ｂ・11Ｂ・12Ｂ層）が見られたが、この部分は水没を免れていることや、耕土とは考えにくい土層であることから、畦畔などの施設と考えることができる。しかも、上面幅約５ｍ・基底幅約７ｍ・高さ0.5ｍの範囲にわたって連続していることから、かなり大型のもので、長期間連続して踏襲されているものと考えることができる。なお、この畦状遺構のさらに東側では、第９層直下に９Ｃ層、さらに第11層より下層にも12Ｃ層、13Ｂ層などが堆積しており、いずれの層も水田耕土の特徴を備えている。



第12図　下層トレンチ出土遺物実測図



1 黒灰色砂混粘土(耕耘土)
2 茶灰色砂混粘土(床土)
3 茶灰色砂混粘土 第1面
4 茶灰色礫混粘質土
5 緑灰色微砂
6 茶灰色粘土混礫 第2面
7 灰茶色粘土 第3面
4B 礫
5B 緑灰色シルト 河川内堆土
6B 青茶色粗砂
○数字は遺物番号

8 茶茶色シルト
9 茶灰色粘土(水田耕土)
10 灰色シルト
11 灰色粘土(水田耕土)
12 暗灰色粗砂混粘土
13 灰緑色中砂混粘土 古墳時代前期(庄内期)
14 灰緑色微砂混粘土 ～弥生時代後期の遺構面
15 灰色粘土(第1面満内堆土)
16 灰色粘土～シルト、礫のブロック層
17 灰色色中砂
18 灰色シルト(第3面満内堆土)

9B 灰緑色砂混粘土 (水田耕土)
9C 灰緑色粘土
11B 灰色シルト～中砂混粘土
12B 灰色微砂混粘土
12C 暗灰色粘土
13B 灰緑色シルト質粘土 (水田耕土)
24 灰色シルト
19 暗灰～緑灰色粘土 古墳時代前期(庄内期)～弥生時代後期の遺構埋土
20 灰色シルト～微砂
21 灰色中砂
22 黄灰色粗砂
23 黒灰色粘土
25 灰黒色シルト～中砂 河川内堆土?
26 灰黒色シルト～微砂

第13図　壁面図(S＝1／200・垂直1／80)

第９層の耕土上面を覆う第８層からは、須恵器杯(167～170)、土師器小皿(171・173)、同中皿(174・175)、同杯（176)、瓦器小皿（179)、瓦器碗(180～182)、須恵器練鉢(178)などが出土していることから、この水田の埋没時期もまた、鎌倉時代の一時期に比定できるもので、第３面の水田遺構との時期差はあまりない。

畦状遺構のある位置は、最終面である弥生時代後期～古墳時代前期（庄内期）から、すでに高まりとなっている部分で、そこより東へは急に落ち込み、埋没河川の特徴を持つシルト～中砂、シルト～微砂が互層となって堆積していることから、この部分は河川の肩を呈していたものと考えられる。この部分の上面レベルは、第13層上面がT.P.+10.0m、第14層上面がT.P.+9.8～9.9mを指し、西へ緩やかに下がっていくもので、この西側の緩い斜面の部分に、遺物を濃密に含む第19層～第24層が厚さ0.2～0.3mにわたって堆積している。

これらの層は、壁面では分離が可能で、19層～23層が第13層の遺構ベースに対応する遺物包含層および遺構内埋土、第24層が第14層の遺構ベースに対応する遺物包含層および遺構内埋土と考えられ、前者がおよそ古墳時代前期（庄内期)、後者が弥生時代後期頃に比定できるものと思われるが、平面的な判別・精査は困難であった。また、第13層・第14層上面では、遺構の可能性のあるくぼみが数か所で認められたが、平面的には捉えていない。

第19層からの出土遺物には、弥生時代後期～古墳時代前期（庄内期）に比定できる複合口縁壺(184)、甕(187・189)、底部有孔土器(188）などがあり、第24層からは弥生時代中期の複合口縁壺(183)、弥生時代後期～古墳時代前期（庄内期）の高杯(185)、甕（186)などが出土している。

第３章　まとめ

調査の結果、調査指示範囲内で近世から～室町時代に至る３時期の遺構面を平面的に検出することができた。さらに調査指示範囲以下でも、試掘調査の結果から予測できたように、古墳時代前期初頭（庄内期）～弥生時代後期の複数時期の遺構面のあること、および第３面から古墳時代前期までの間に、平安時代にまで遡りうる複数時期の水田遺構のあることも明らかになり、多大な成果が得られたといえる。

以下に今回の調査成果を箇条書きにして、まとめとする。

１、現地表下2.6～2.8m（T.P.+9.5m前後）に、古墳時代前期（庄内期）の生活面のあることが明らかになった。なお、その直上に堆積する黒灰色粘土（いわゆる遺物包含層）には、同時期の遺物の他、弥生時代中期～後期のものもあり、近隣に弥生時代の生活面が存在する可

能性が高い。このことから、今後、当調査地周辺での発掘調査においては、下層部分についても重点を置くことが必要であろう。

2、当地では、平安時代後期以前から鎌倉時代までに、少なくとも3時期の水田遺構（第7層・第9層・第11層上面）が埋没していることがわかった。また、鎌倉時代の水田が、2度の河川の氾濫（第4B層・第6B層）によって埋没した後、再び生産域として利用されるようになるのは、江戸時代後半に入ってからのようで、その土地利用は、近年の造成直前まで踏襲されていたものであろうと考えられる。

第4章　付表

第1節　検出遺構一覧表

1）第1面

遺構番号	地区	方向	(T.P.±0) 検出レベル	検出長	法量(m) 幅	深さ	間隔(m)	備考
SD 101	1A～1B	東西	11.09 ～11.17	4.4	0.18～0.25	0.03	0.1 ～1.90	
SD 102	1A～1B	東西	11.09 ～11.17	4.5	0.15～0.28	0.03		SD 113の西の延長か
SD 103	1A～1B	東西	11.10 ～11.17	6.5	0.20～0.28	0.07	0.22～0.33	SD 114の西の延長か
SD 104	1A～1B	東西	11.11 ～11.17	6.5	0.33～0.46	0.06	0.76～1.1	SD 115の西の延長か
SD 105	1A～1B	東西	11.11 ～11.16	6.4	0.27～0.44	0.04	0.1 ～0.37	SD 116の西の延長か　SD 110に切られる
SD 106	1A～1B	東西	11.10 ～11.12	6.4	0.22～0.45	0.06	1.1 ～1.50	SD 117の西の延長か
SD 107	1A～2B	東西	11.07 ～11.13	6.3	0.28～0.50	0.04	3.35～3.70	SD 120の西の延長か
SD 108	2A～2B	東西	11.06 ～11.11	6.5	0.27～0.32	0.04	3.20～3.30	SD 127の西の延長か
SD 109	3B	東西	11.08 ～11.15	4.1	0.30～0.40	0.04		
SD 110	1B～4B	南北	11.07 ～11.13	16.8	0.30～0.60	0.09	2.15～2.50	SD 101～109 を切る
SD 111	1B～4B	南北	11.02 ～11.07	14.8	0.70～0.90	0.09	0.27～0.60	SD 116～129 を切る
SD 112	1B～4B	南北	10.98 ～11.06	9.5	0.20～1.25	0.06		北で2本に分流する、南端は幅広、SD 113～129 を切る
SD 113	1B～1C	東西	11.03 ～11.06	6.2	0.15～0.29	0.06	0.08～0.18	SD 102の東の延長か、SD 112に切られる
SD 114	1B～1D	東西	11.04 ～11.07	15.5	0.1 ～0.27	0.07	0 ～0.23	SD 103の東の延長か、SD 112・132 ～134 に切られる
SD 115	1B～1D	東西	11.03 ～11.06	9.5	0.29～0.40	0.13	0.72～0.80	SD 104の東の延長か、SD 112・132 ・133 に切られる
SD 116	1D～1E	東西	10.99 ～11.07	29.0	0.12～0.42	0.11		SD 105の東の延長か、SD 111・112 に切られ、SD 132～134 と合流する。
SD 117	1B～1F	東西	10.98 ～11.07	31.0	0.1 ～0.40	0.10	0 ～0.32	SD 106の東の延長か
SD 118	1B～1F	東西	10.98 ～11.07	32.9	0.40～0.60	0.14	0.08～0.47	
SD 119	1B～1F	東西	10.94 ～11.05	33.1	0.15～0.37	0.12	0.03～0.47	
SD 120	1B～1F	東西	10.95 ～11.06	33.0	0.23～0.43	0.10	0.26～0.64	SD 107の東の延長か　SD 111・112 に切られる
SD 121	1B～1F	東西	10.94 ～11.06	33.0	0.22～0.37	0.06	0.04～0.57	
SD 122	1B～2F	東西	10.94 ～11.06	32.9	0.15～0.75	0.09	0.12～0.50	
SD 123	1B～2F	東西	10.93 ～11.05	32.8	0.18～0.49	0.10	0 ～0.58	
SD 124	2B～2F	東西	10.93 ～11.05	32.8	0.20～0.42	0.10	0 ～0.31	SD 111・112 に切られ、SD 135と合流する
SD 125	2B～2F	東西	10.89 ～11.03	32.7	0.15～0.47	0.05	0 ～0.40	SD 111・112 に切られる

遺構番号	地区	方向	(T.P+m) 検出レベル	法量(m) 検出長	幅	深さ	間隔(m)	備考
SD 126	2B~2F	東西	10.89~11.03	32.7	0.20~0.61	0.11		
SD 127	2B~2F	東西	10.92~11.03	14.7	0.13~0.33	0.06	0 ~0.93	
SD 128	2B~2F	東西	10.91~11.07	32.6	0.23~0.70	0.09	0 ~0.30	SD 108の東の延長か、東部で合流する
SD 129	2B~2F	東西	10.83~11.03	32.6	0.17~0.43	0.09	0.06~0.82	
SD 130	2D~2E	東西	10.90~11.01	32.5	0.1 ~0.73	0.07	0 ~0.40	
SD 131	2D~2E	東西	10.90~11.01	32.4	0.13~0.32	0.06	0 ~0.30	SD 136・137 と合流する
SD 132	1C	南北	11.00~11.07	1.7	0.48~0.55	0.04	0 ~0.30	SD 114・115 を切り 116と合流する
SD 133	1C	南北	10.97~11.05	1.6	0.27~0.43	0.06	1.05~1.18	
SD 134	1D	南北	11.01~11.01	1.4	0.50~0.57	0.06	3.8 ~4.15	SD 114を切り 116と合流する
SD 135	2D	南北	10.96~11.03	2.6	0.45~0.62	0.07		SD 125~129 を切り 124と合流する
SD 136	2E	南北	10.94~ 1.97	0.5	0.49~0.53	0.06	25前後	
SD 137	2E	南北	10.96~ 1.98	0.5	0.46~0.50	0.06	1.4 ~1.48	SD 131と合流する

2) 第3面畦畔

遺構番号	地区	方向	法量(m) 検出長	下幅	上幅	高さ	水田との位置関係 東	西	南	北	備考
畦畔301	2A~4A	南北 東西	11.00	0.40~0.80 4.10~4.70	0.10~0.55 3.53~4.00	0.03~0.09	―	水田301	―	水田301	南端で東へL字形に屈曲
畦畔302	1A~4A 1B~4B	南北	17.80	0.31~0.85	0.1 ~0.51	0.04~0.08	水田303	水田302			畦畔308 とT字形に接続
畦畔303	1C	南北	1.40	0.68~0.90	0.47~0.62	0.03~0.07	水田308	水田307	―	―	北端はとぎれ、水口となる
畦畔304	2D	南北	5.00	0.45~0.80	0.24~0.52	0.03~0.07	水田305	水田304	―	―	畦畔309 とT字形に接続
畦畔305	1D	南北	2.80	0.76~0.89	0.38~0.55	0.03~0.10	水田309	水田308	―	―	畦畔310 とT字形に接続 東側に段をもつ
畦畔306	1D	南北	3.70	0.73~1.12	0.38~0.80	0.04~0.08	水田310	水田309	―	―	畦畔309 とT字形に接続
畦畔307	1E~2E	南北	9.50	0.83~1.20	0.4 ~0.76	0.04~0.12	水田306 水田311	水田305 水田310		―	畦畔309 と「食い違い」に接続?
畦畔308	1A	東西	1.60	0.84~0.91	0.42~0.54	0.03~0.05	―	―	水田302	水田301	畦畔302 とT字形に接続
畦畔309	1C~2F	東西	31.00	0.82~0.95	0.2 ~0.72	0.02~0.15			水田308 ~311	水田304 ~306	畦畔304・306とT字形に接続 畦畔307と「食い違い」に接続
畦畔310	1E~2E	南北	7.50	0.58~1.00	0.35~0.63	0.02~0.10	―	水田308	―	―	畦畔305 とT字形に接続、西端は水口?

2) 第3面水田

遺構番号	地区	上面の標高(T.P+m)	法量(m) 東西	南北	畦畔等との位置関係 東	西	南	北	備考
水田301	3A~4A	南 :10.60~10.76: 北	0.53 以上	7.10 以上	畦畔 301	―	畦畔 301	―	
水田302	1A	南東:10.67~10.73: 西	1.61 以上	2.85 以上	畦畔 302	―	―	畦畔 308	
水田303	1B~4B	南東:10.60~10.72:北西	9.5~9.80	17.00 以上	畦畔 310	畦畔 302	―	―	
水田304	1B~1C	南西:10.58~10.72:北東	11.8~12.3	5.05 以上	畦畔 304		畦畔 309	―	
水田305	1D~1E	南東:10.51~10.66:北西	14.9~15.2	5.66 以上	畦畔 307	畦畔 304	畦畔 309		
水田306	1E~1F	北東:10.40~10.48:南西	3.20 以上	6.04 以上	―	畦畔 307	畦畔 309	―	
水田307	1C	北東:10.61~10.70:南西	1.20 以上	2.30 以上	畦畔 303	SD 316	―	畦畔 310	
水田308	1C~1D	南西:10.53~10.60:北東	9.8~10.0	2.80 以上	畦畔 305	畦畔 303	―	畦畔 310	
水田309	1D	西 :10.58~10.63: 東	1.9~2.80	3.74 以上	畦畔 306	畦畔 305	―	畦畔 309	
水田310	1D~1E	東 :10.47~10.62: 西	10.2~10.3	3.55 以上	畦畔 307	畦畔 308	―	畦畔 309	
水田311	1E~1F	南東:10.52~10.58:北西	3.64 以上	2.89 以上		畦畔 307		畦畔 309	

4）第3面溝

遺構番号	地区	方向	(T.P+m) 検出レベル	法量（m） 検出長	幅	深さ	間隔（m）	備考
SD301	1B～4D	南北	10.66～10.74	17.00	0.13～0.41	0.08		畦畔 302の東側に沿って伸びる
SD302	1B～4B	南北	10.65～10.73	17.00	0.24～1.08	0.07	0.04～0.76	北端で幅広となる
SD303	1B～4B	南北	10.69～10.72	1.45	0.16～0.31	0.02	0.22～0.47	南端はとぎれる
SD304	1B～1B	南北	10.65～10.70	17.00	0.18～0.36	0.10	0.32～0.39	
SD305	1B～4B	南北	10.65～10.70	17.00	0.12～0.35	0.05		SD306 との間隔は 1.0m前後
SD306	1B～2B	南北	10.64～10.66	5.85	0.13～0.40	0.05	0.16～0.53	北端はとぎれる
SD307	1B～2B	南北	10.63～10.65	9.83	0.18～0.40	0.05	0.77～1.16	北端はとぎれる、SD312 との間隔は1.25～1.6 m
SD308	4B	南北	10.70前後	1.00	0.13～0.16	0.05	0.43～0.67	南端はとぎれる、SD305 との間隔は 1.0m前後
SD309	3B～4B	南北	10.69～10.73	4.20	0.11～0.19	0.04	0.59～0.61	南端はとぎれる
SD310	3B～4B	南北	10.64～10.73	7.00	0.13～0.56	0.11	0.22～0.45	南端はとぎれる
SD311	2B～4B	北北	10.62～10.70	7.50	0.11～0.58	0.08	0.52～0.94	南端で分岐してとぎれる、SD313 との間隔は0.54～0.81m
SD312	1B	南北	10.64～10.66	2.10	0.45～0.56	0.08		北端はとぎれる、SD307 との間隔は1.25～1.6 m
SD313	1B～3B	南北	10.63～10.70	15.10	0.21～0.50	0.09	0.87～1.09	北端はとぎれる
SD314	1C～1D	南北	10.64～10.68	14.80	0.38～0.57	0.08	1.87～2.00	
SD315	1C	南北	10.67～10.69	1.16	0.34～0.70	0.04	0.48～0.51	

第2節　出土遺物一覧表

番号	器種	出土地点		法量（m）	色調	胎土	焼成	特徴	図版	備考
1	土師器小皿	地区 1F	土層 4層	口 径 9.2 器 高 1.6	乳灰茶色	精良	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ 「て」の字状口縁部		
2		2C	4層	口 径 10.5 器 高 2.1	乳茶色	密	良好	ヘラミガキ後ナデ、ヨコナデ 「て」の字状口縁部		
3		3B	4層	口 径 10.4	乳茶灰色	密	良好	ナデ、ヨコナデ 「て」の字状口縁部		
4		1D	4層	口 径 8.8 器 高 1.6	乳茶色	密	良好	指頭圧成形後ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ		
5		1D	4層	口 径 9.5	乳褐色	精良	良好	ナデ、ヨコナデ		
6	土師器中皿	2F	4層	口 径 12.5 器 高 2.1	乳茶灰色	精良	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		
7	瓦器椀	2F	4層	口 径 10.8	黒灰色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、内面粗い螺旋状ヘラミガキ		金属光沢あり
8		2E	4層	口 径 10.5	灰黒色	精良	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、内面粗い螺旋状ヘラミガキ		内面銀灰色、金属光沢あり
9		1D	4層	口 径 10.7	灰黒色～乳灰色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、内面粗い螺旋状ヘラミガキ		
10	土師器羽釜	2D	4層	口 径 22.2	茶褐色	粗	良好	ナデ、ヨコナデ、鍔下部にヘラケズリ 鍔は指おさえで圧着		内面淡茶褐色 鍔以下煤付着

番号	器種	出土地点		法量 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	図版	備考
11	瓦器羽釜	2C	2層	口 径 18.7	暗青灰色	やや粗	良好	ナデ、ヨコナデ、鍔下部にヘラケズリ		内面淡茶灰色 鍔以下煤付着
12	白磁碗	1C	4層	口 径 14.5	乳白色 釉：透明	緻密	良好	カンナ削り 玉縁状口縁部		貫入あり
13	青磁碗	3B	4層	高台径 5.5 高台高 0.7	灰青色 釉：緑茶色	緻密	良好 堅緻	カンナ削り		高台裏面墨書
14	須恵器杯	1D	3層	口 径 11.1 器 高 2.3	暗青灰色	密	良好	回転ケズリ、回転ナデ		内面淡灰赤色
15	須恵器長頸壺	2C	3層	口 径 7.3	青黒色	密	良好	回転ナデ		外面灰かぶり
16	須恵器横瓶	1B	4層	器 高 10.5	暗灰青色	やや粗	良好	回転ケズリ、回転ナデ		
17	須恵器壺	1E	3層	口 径 17.9	青黒色	密	良好	回転ナデ		内面明灰青色
18		2F	4層	口 径 18.9	乳灰色	精良	良好	回転ナデ		
19	信楽焼皿	1C	2層	底 径 4.2	淡茶灰色 釉：緑茶色	密	良好	カンナ削り		外面露胎、重ね焼き
20		1E	2層	底 径 3.8	淡褐色 釉：茶褐色	密	良好	回転糸切り、カンナ削り		外面底部露胎 重ね焼き
21	伊万里焼碗	1D	2層	口 径 12.3	白灰色 釉：透明	密	良好 堅緻	カンナ削り 内外口縁部に圏線、外面体部丸文		呉須は淡青色 発色悪い
22	京焼碗	1C	2層	高台径 4.1 高台高 1.0	淡白茶色 釉：透明	精良	良好	カンナ削り		高台端面に砂付着
23	唐津焼碗	1C	2層	高台径 4.3 高台高 0.9	白茶色 釉：淡緑色	密	良好	カンナ削り		貫入あり、外面露胎
24	備前焼擂鉢	1D	3層	高台径 9.2 高台高 0.7	暗灰赤色	密	良好	回転ナデ 擂り目は6本／1cm		内面黒赤色
25	土師器小型壺	3B	6B層	口 径 9.2	淡褐色～明褐色	密～やや粗	良好	指おさえ成形、ヘラケズリ、ナデ後ヨコナデ		
26	土師器小型甕	2B	6B層	口 径 9.1 最大径 10.9	淡褐色	密	良好	ヘラケズリ、ナデ後ヨコナデ		中核は灰黒色
27	土師器杯	2F	6B層	口 径 12.4	淡橙色～淡赤褐色	密～やや粗	良好	指おさえ成形、ヘラケズリ、ナデ後ヨコナデ		
28		3B 4B	6B層	口 径 12.4	淡赤褐色	密～やや粗	良好	ヘラケズリ、ナデ後ヨコナデ 内面暗文状ヘラミガキ（放射状）		
29		1E	5B層	口 径 20.5	淡褐色	密	良	ヨコナデ		内外の口縁端部に煤付着
30		2C	6B層	口 径 21.4	淡褐色	密	良好	ナデ、ヨコナデ 外面横方向ヘラミガキ 内面暗文状ヘラミガキ（放射状）		
31	土師器甕	1F	5B層	口 径 17.9 最大径 16.5	淡褐色	やや粗	良好	指頭圧成形、ヘラケズリ後ナデ、ヨコナデ		
32		3B	6B層	口 径 16.2	明橙色～淡褐色	やや粗	良好	指頭圧成形後ヘラケズリ、指ナデ、ナデヨコナデ		
33		1D	6B層	口 径 22.1	明橙色～淡褐色	やや粗	良好	ナデ、ヨコナデ		
34	土師器羽釜	2B	5B層	口 径 23.7	淡赤茶色	粗	良好	ナデ、ヨコナデ、鍔の接合はヨコナデ		
35	瓦器羽釜	3B	5B層	口 径 19.5	黄灰色	密	良好 堅緻	ナデ、ヨコナデ		鍔以下煤付着 中核灰白色
36	土師器杯・椀	1E	6B層	口 径 13.3	淡褐色	やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		
37	土師器中皿	1C	6B層	口 径 11.9 器 高 1.7	淡褐色	密	良好	ナデ、ヨコナデ		
38		2B	5B層	口 径 13.0 器 高 1.7	淡橙色	密～やや粗	良	ナデ、ヨコナデ		中核は灰黒色
39		1E	6B層	口 径 12.7 器 高 1.6	乳黄色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		
40		2C	5B層	口 径 15.1	淡褐色	密	良好	ナデ、口縁部2段のヨコナデ		

番号	器種	出土地点		法量（cm）	色調	胎土	焼成	特徴	図版	備考
41		地区 1E	土層 5B層	口 径 14.9	乳橙色	密	良好	指頭圧成形後ヘラケズリ、ナデ、2段のヨコナデ		
42		1E	5B層	口 径 15.0	乳白色	密	良	指頭圧成形後ナデ、2段のヨコナデ		
43		2E	5B層	口 径 15.0 器 高 2.7	乳灰色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		
44		3A	5層	口 径 16.6	黄橙色	密	良	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		
45		2D	6B層	口 径 17.7	乳灰色	密	良	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		
46		1E	6B層	口 径 19.1	淡橙色	密	良	ナデ、ヨコナデ		内面に炭付着
47	土師器小皿	1B	6B層	口 径 9.8 器 高 1.7	黄灰色	密	良	ナデ、2段のヨコナデ 「て」の字状口縁部		
48		4B	5層	口 径 10.2	淡黄茶色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ 「て」の字状口縁部		
49		1A	6B層	口 径 9.5	淡橙色	密	良好	ナデ、ヨコナデ		
50		2F	5B層	口 径 8.6 器 高 1.3	淡褐色	密	良好 軟質	指頭圧成形、ヘラケズリ後ナデ、ヨコナデ		
51		3B	6B層	口 径 8.1 器 高 1.5	淡褐色	密	良好	ナデ、ヨコナデ		
52		2D	6B層	口 径 8.5 器 高 1.1	淡橙色	密	良好	ナデ、ヨコナデ		内面に鉄分付着
53		4B	5層	口 径 9.6 器 高 1.1	淡黄茶色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ 外面にヘラ状工具の痕跡		
54		1F	5B層	口 径 7.9 器 高 1.7	乳橙色	密～やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ	九	ひずみあり
55		2A	6B層	口 径 8.7 器 高 1.3	淡橙色	密	良	ナデ、ヨコナデ		
56		1F	6B層	口 径 8.8 器 高 1.3	淡橙色	密	良	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		
57		2D	6B層	口 径 9.4 器 高 1.4	淡橙色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		
58		2D	5B層	口 径 8.4 器 高 1.4	淡緑灰色	やや粗	良	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ 底面ほた		
59		E2	6B層	口 径 8.3 器 高 1.6	淡橙色	密	良	ナデ、ヨコナデ		中核は灰黒色
60		1E	5B層	口 径 9.3 器 高 1.5	淡緑灰色	精良	良好	ナデ、ヨコナデ 外面体部にヘラ状工具の板跡		
61		4B	5層	口 径 8.2	淡橙色	密～やや粗	良	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		
62		1E	5B層	口 径 7.8 器 高 1.3	淡灰褐色	密	良好	ナデ、ヨコナデ		
63		2E	5B層	口 径 9.6	淡緑灰色	密	良 やや軟質	ナデ、ヨコナデ		
64		2D	6B層	口 径 8.7	淡橙色	密	良	ナデ、ヨコナデ 底部粘土板接合部残る		中核は灰黒色 鉄分付着
65		2E	5B層	口 径 9.5 器 高 1.7	淡灰褐色	密	良好	ナデ、ヨコナデ		
66		2C	5層	口 径 9.7	赤灰色	密	良	ナデ、ヨコナデ 底部粘土板接合部残る		内面灰赤色、二次焼成？
67		2D	5層	口 径 8.6	淡橙色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		
68	上師器 小型高杯	1D	6B層	口 径 8.1	淡橙色	密	良	手ずくね成形後ナデ		
69		1B 1C	6B層	口 径 9.5 器 高 5.9	淡褐色	やや粗	良	手ずくね成形後、絞り、ナデ、裾端部ヨコナデ		脚部内面黒灰色
70		2A	6B層	口 径 7.8	淡褐色	密	良好	手ずくね成形後、絞り、ナデ	九	黒斑あり

番号	器種	出土地点		法量（cm）	色調	胎土	焼成	特徴	図版	備考
71	土師器 小型高杯	地区 1D	土層 6B層	椀 径 5.3	淡褐色	密一やや粗	良	手ずくね成形後、絞り、ナデ		黒斑あり
72		3B	6B層	底 径 9.6	淡褐色	密	良好	手ずくね成形後、ヘラミガキ、ナデ、ヨコナデ		
73		2E	5B層	椀 径 11.0	淡赤茶色	密一やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		赤色酸化粒多量に含む
74		2E	5B層	椀 径 10.3	淡赤茶色	精良	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		
75	須恵器杯身	2F	6B層	口 径 10.7	青灰色	密	良	回転ケズリ		
76	須恵器杯蓋	3A	5層	口 径 14.6	青灰色	密	良好	回転ケズリ、回転ナデ		中核は暗紫色
77	須恵器杯身	1E	5B層	受部径 14.0	灰黒色	密一やや粗	良好	回転ケズリ、回転ナデ、内面底部静止ナデ		内面・中核は淡灰青色
78		1B	6B層	口 径 9.9	青灰色	やや粗	良好	回転ケズリ、回転ナデ、内面底部静止ナデ、外面に沈線状の窪み		内面灰かぶり
79	須恵器高杯	2C	6B層	基部径 3.6	青灰色	密	良好	へらによる面取り後カキ目、回転ナデ		
80	須恵器壺	1D	6B層		暗青灰色	密	良	回転ナデ ヘラ描き沈線、突帯2条あり		
81	須恵器器台	2D	6B層	脚 径 42.0	淡灰色～灰色	やや粗	良好	ナデ、ヨコナデ 3条の凹線間にヘラ描き波状文		
82	須恵器小型壺	3B	6B層	口 径 5.8	淡黒色～淡灰色	密	良好	回転ナデ		灰かぶり
83	須恵器短頸壺	3B	6B層	口 径 8.0	淡灰色	密一やや粗	良好	指ナデ、静止ナデ、回転ナデ		
84	須恵器壺	2B	5層	底 径 4.2	暗青灰色	やや粗	良好	回転ケズリ、回転ナデ、底部回転糸切り		中核暗紫色の部分あり
85	須恵器甕	1D	6B層	口 径 27.4	青灰色	粗	良	回転ナデ		
86	須恵捏鉢	2E	5B層	口 径 31.2	暗黒～黒茶色	粗	良好	板状の平打タタキ、ナデ、ヨコナデ		中核茶灰色
87	須恵器杯蓋	2C	6B層	口 径 16.4	白灰色	密	良好	回転ナデ、内面静止ナデ		
88		1C	6B層	口 径 13.4	青灰色	密	良好	回転ナデ		
89		2A	6B層	口 径 13.0	青灰色	密	良	回転ナデ		内面自然釉、灰かぶり
90	須恵器甕	1K	6B層	高台径 9.8 高台高 0.8	白灰色	やや粗	良好	回転ケズリ、回転ナデ		
91	須恵器擂鉢	3A	5層	口 径 18.5	灰色～青灰色	粗	良好	ナデ、回転ナデ		灰かぶり、口縁端部黒灰色
92		4A	6B層	口 径 28.0	白灰色	やや粗	良好	ナデ、回転ナデ		口縁外端部黒灰色
93		1D	6B層	口 径 28.8	暗灰色	粗	良好	ナデ、回転ナデ		口縁外端部黒灰色
94		1E	6B層	口 径 28.7	青灰色	粗	良好	ナデ、回転ナデ		
95	瓦器？擂鉢	3A	5層	口 径 9.5 器 高 1.7	淡灰褐色	密	良好	ナデ、ヨコナデ		
96	須恵器擂鉢	1F	5B層	口 径 31.0	淡紫灰色	粗	良好	ナデ、回転ナデ		灰かぶり、口縁端部黒灰色
97		2A	6B層	口 径 16.8	淡青灰色	粗	良好	ナデ、回転ナデ		口縁外端面暗紫灰色
98		4A	6B層	底 径 10.2	淡灰色	粗	良、やや軟質	回転ヘラキリ後回転ナデ、内底面静止ナデ		内面に煤付着
99		1D	6B層	底 径 12.1	白灰色	密一粗	良、やや軟質	底面ヘラケズリ後回転ナデ、内底面静止ナデ		胴部内面黒灰色
100		2C	6B層	底 径 10.8	青灰色	粗	良好	回転糸切り後、ヘラケズリ、ナデ、底面静止ナデ		外底面に煤付着黒斑あり

番号	器種	出土地点		法量 (cm)	色調	胎土	焼成	特徴	図版	備考
101	備前焼？甕	地区 1F	土層 6B層	底 径 13.9	茶褐色	やや粗	良好	右上り平行タタキ後回転ナデ、底面静止ナデ		底部赤茶色、内面灰色
102	信楽焼？壺	1F	6B層	底 径 13.0	淡茶赤色～灰茶色	やや粗	良好	ヘラナデ、ヘラケズリ		中核淡灰色 内面白熱釉
103	瓦器椀	2F	6B層	口 径 16.3	灰黒色	密～やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（外面分割・内面体部と見込み分化）		内面黒灰色、中核灰白色
104		3B	6B層	口 径 14.4	灰黒色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（内面体部と見込み分化？）		中核灰白色
105		3B	6B層	口 径 14.0	灰黒色	密～やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		中核灰白色
106		1B	6B層	口 径 14.1	黒灰色	密	良好	ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		中核灰白色
107		3B	6B層	口 径 14.4	灰白色	密	炭素吸着不良	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（内面体部と見込み分化？）		
108		1B	5層	口 径 15.3	黒灰色	やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		内面灰白色
109		1D	6B層	口 径 15.8	黒灰色	やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ、内面にハケ目		中核灰白色、金属光沢あり
110		4B	A層	口 径 17.5	灰黒色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		内面～中核乳黄色
111		4A	6B層	口 径 17.9	黒灰色	密	炭素吸着不良	指頭成形・削り後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（見込み斜格子？）		内面灰黄色
112		1E	5B層	口 径 14.2	黄茶色～暗灰色	密～やや粗	炭素吸着不良	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（見込み斜格子）内面にハケ目		中核灰白色、金属光沢あり
113		2B	6B層	口 径 15.0	灰黒色	密～やや粗	良好	指頭成形・クズリ後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（見込み斜格子）		内面・中核乳白色～白灰色
114		1D	6B層	口 径 17.5	黒灰色	やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（見込み斜格子）		
115		1D	6B層	口 径 13.7	黒灰色	やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		中核灰白色
116		2E	6B層	口 径 14.3	黒灰色～茶灰色	密～やや粗	炭素吸着不良	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		内面・中核白灰色～茶灰色
117		1C	6B層	口 径 14.7	黒灰色	やや粗	良好	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		中核白灰色
118		2C	6B層	口 径 15.2	黒灰色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		内面灰黒色 中核白灰色
119		1C	5B層	口 径 14.5	黒灰色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		中核灰白色
120		1E 2E	6B層	口 径 13.2	乳黄色	やや粗	不良	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		
121		1B	6B層	口 径 14.9	黒灰色	やや粗	良	指頭圧成形・ヘラケズリ後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（不明瞭）		中核黄白色
122		2E	6B層	口 径 14.9 器 高 5.2	黒灰色～白灰色	やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（体部粗い螺旋状・見込み平行線）	九	内面黒灰色 中核白灰色
123		2E	5B層	口 径 14.4	黒灰色	密～やや粗	良	指頭圧成形・ナデ後ヘラミガキ（内面螺旋状）		
124		2C	6B層	口 径 15.0	外面白灰色 内面黒灰色	やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（内面粗い螺旋状）		中核白灰色
125		2D	6B層	口 径 10.6	灰黒色	密～やや粗	炭素吸着不良	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（内面粗い螺旋状）		内面下半～中核白灰色
126		2D	5B層	口 径 11.6	黒灰色	やや粗	良好 軟質	ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（内面粗い螺旋状）		
127		3B	6B層	口 径 12.2	黒灰色～白灰色	やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（内面粗い螺旋状）		内面灰黒色 中核白灰色
128		2C	6B層	口 径 12.1	黒灰色	やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（内面螺旋状）		内面・中核白灰色
129		3B	6B層	高台径 6.6 高台高 0.9	黒灰色	やや粗	良好	ナデ、ヘラミガキ（見込みジグザグ状）高台の接合はヨコナデ		中核白灰色
130		2C	6B層	高台径 7.0 高台高 0.9	黒灰色	やや粗	良好	ナデ後ヘラミガキ、高台の接合はヨコナデ		中核白灰色

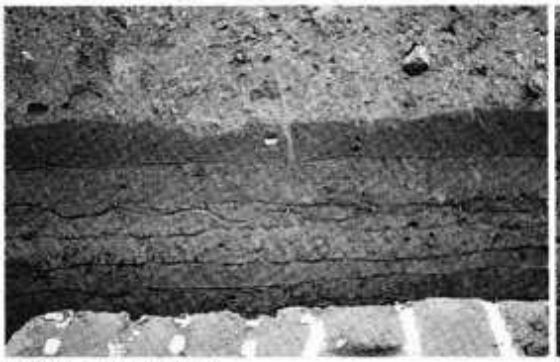
番号	形態	出土地点		法量（cm）	色調	胎土	焼成	特徴	図版	備考
131	瓦器椀	地区 1E	土層 6B層	高台径 6.7 高台高 1.0	黒灰色	密	良好	ナデ、ヘラミガキ、高台の接合はヨコナデ		中核茶灰色
132		1B	6B層	高台径 7.2 高台高 0.9	黒灰色	密～やや粗	良、やや軟質	ナデ、ヘラケズリ後ヘラミガキ、高台の接合はヨコナデ		中核乳黄色
133		3A	5層	高台径 4.9 高台高 0.7	黒灰色	やや粗	良好	ナデ後ヘラミガキ（見込み格子状）高台の接合はヨコナデ		中核乳黄色
134		1B	6B層	高台径 4.4 高台高 0.4	灰黒色	やや粗	良好	ナデ後ヘラミガキ（見込みジグザグ状）高台の接合はヨコナデ		内面・中核灰色
135		3B	6B層	高台径 5.0 高台高 0.5	灰黒色	密	良好	指おさえ、ナデ後ヘラミガキ（見込み平行線）高台の接合はヨコナデ		中核灰黄色
136		2A	5層	高台径 5.0 高台高 0.5	黒灰色～灰白色	やや粗	良好	ナデ後ヘラミガキ（見込み平行線）高台の接合はヨコナデ		内面黒灰色 中核灰白色
137		1D	6B層	高台径 5.0 高台高 0.5	白灰色	やや粗	炭素吸着不良	指ナデ、ヘラミガキ（見込み平行線）高台の接合はヨコナデ		内面灰黒色 中核白灰色
138		1B	6B層	高台径 5.2 高台高 0.4	白灰色	密	良好	ナデ、ヘラミガキ（見込み連結輪状）高台の接合はヨコナデ		内面褐灰色 中核白灰色
139		4A	6B層	高台径 3.6 高台高 0.2	黄白色	粗	炭素吸着不良	指おさえ、ナデ後ヘラミガキ（見込み連結輪状）高台の接合はヨコナデ		
140	瓦器小皿	3B	6B層	口 径 9.0	黒灰色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヘラミガキ		中核乳白色
141			6B層	口 径 8.9 器 高 1.5	黒灰色～白灰色	密	良好	指頭圧成形後ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（見込み密な平行線）		中核黄灰色
142		2C	6B層	口 径 9.2	灰黒色	密～やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（見込み斜格子状）		中核白灰色
143		2E	6B層	口 径 9.8 器 高 1.4	黒灰色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（見込み斜格子状）		中核乳黄色
144		2C	5B層	口 径 9.5	灰黒色	やや粗	良	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（見込み平行線）		中核乳白色
145			6B層	口 径 9.1	黒灰色	密	良好	指頭圧成形後ヨコナデ、ヘラミガキ（体部と見込みで分化？）		中核灰白色
146		1C	6B層	口 径 8.4	灰黒色	やや粗	良	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		中核灰色
147		3B	6B層	口 径 8.2	黒灰色	やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		中核灰黄色 内面鉄分付着
148		4B	6B層	口 径 8.1	灰白色	密	良	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		
149		1F	6B層	口 径 8.1	白灰色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		内面灰色 中核黄灰色
150	瓦器甕	2C	6B層	口 径 29.2	灰黒色	やや粗	良好	ヘラケズリ後ナデ、ヨコナデ		内面・中核灰色
151	瓦器羽釜	2A	6B層	口 径 25.5	黒灰色	やや粗	良好	ナデ、ヨコナデ		中核灰白色
152		2B	5B層	口 径 25.3	黒色～黒灰色	粗	良好	ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ		内面灰白色 中核白灰色
153	瓦器鉢鉢	1B	5層	口 径 28.0	淡茶色	粗	良	ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ		中核灰茶色
154	白磁碗	3A	5層	口 径 13.6	白灰色 釉：白灰色	密	良好	きわめて薄い玉縁状口縁部		
155		2E	5層	口 径 15.3	白色 釉：白灰色	緻密	良好	厚い玉縁状口縁部、口縁下端に沈線		
156		1B	6B層	口 径 15.8	白灰色 釉：白緑色	密	良好 堅緻	厚い玉縁状口縁部		粗い貫入
157		4A	6B層	高台径 6.9 高台高 0.9	白灰色 釉：灰緑色	緻密	良好	見込み、高台下端に沈線		高台際～高台裏露胎
158	白磁合子（蓋）	2C	6B層	口 径 4.9 器 高 1.4	白灰色 釉：白青色	密	良好	稜由端外反（24～25個で一周）、天井部に花文（15弁？）の浮き彫り		内面露胎
159	青磁碗	2D	6B層	口 径 17.3	灰色 釉：緑灰色	緻密	良好 堅緻	口縁内面に沈線		細かい貫入 口縁上端露胎
160		2E	5B層	口 径 17.4	灰緑色 釉：緑灰色	密	良好 堅緻	蓮弁（28個で一周？）		

番号	器種	出土地点		法量（cm）	色調	胎土	焼成	特徴	図版	備考
161	青磁皿	地区 1 B	6 B層	口 径 13.7	白灰色 釉：明緑色	密	良好	見込みにハケ目（刷毛）		
162	土師器小皿	SD 302		口 径 8.1 器 高 1.0	淡灰茶色	密～やや粗	良好	ナデ、ヨコナデ		
163		SD 312		口 径 8.1 器 高 0.8	茶褐色～淡橙色	密～やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		
164	土師器小型甕	SD 311		口 径 8.5	茶褐色～淡橙色	やや粗	良好	ナデ、ヨコナデ		
165	瓦器椀	SD 304		口 径 13.9	淡灰色	やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		中核白灰色
166		SD 302		口 径 15.3	黒灰色	やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		中核白灰色～黄白色
167	須恵器杯蓋	1 C	8層	稜 径 13.5	青灰色	密	良好 堅緻	回転ケズリ、回転ナデ		
168		1 D	8層	口 径 14.5	淡灰色	やや粗	良好	回転ケズリ、回転ナデ		
169	須恵器杯身	1 D	8層	口 径 13.3 受部径 15.7	淡灰色	密	良好	回転ケズリ、回転ナデ		内面・受部上面灰かぶり
170		1 D	8層	口 径 12.2 受部径 14.3	淡灰色	やや粗	良好	回転ケズリ、回転ナデ		内面・受部上面灰かぶり
171	土師器小皿	2 B	8層	口 径 8.8	淡茶色～灰茶色	精良	良好	ヘラケズリ後ナデ、ヨコナデ		燈芯油痕？
172		2 B	8層	口 径 7.5 器 高 1.1	淡茶色	密～やや粗	良好	ナデ、ヨコナデ		外面炭分付着
173		1～4 A	7層	口 径 8.9 器 高 1.4	淡茶色	密	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		燈芯油痕？
174	土師器中皿	2 B	8層	口 径 13.7	暗茶色～黒茶色	精良	良好	ナデ、ヨコナデ		
175		1 B	8層	口 径 12.9 器 高 2.3	淡茶色～乳灰色	精良	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ		外面に煤付着
176	土師器鉢	1 D～E	8層	高台径 11.7 高台高 0.7	乳茶色	精良	良好	ヘラケズリ後ナデ、見込みに暗文状ヘラミガキ、高台の接合はヨコナデ		内面明橙色
177	土師器羽釜	1～4 A	7層	口 径 21.0	明橙色	粗	良好	ナデ、ヨコナデ		内面に煤付着
178	須恵器擂鉢	1～4 A	8層	口 径 34.0	淡灰色	粗	良好	ナデ、回転ナデ		
179	瓦器小皿	1 D	8層	口 径 9.1 器 高 1.9	白灰色～灰黒色	密～やや粗	良好	指頭圧成形後ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ（見込み平行線）	九	内面灰色 中核黄灰色
180	瓦器椀	2 B	8層	口 径 13.3	灰黒色～黒灰色	やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		中核灰色
181		1 C	8層	口 径 17.4	鉄灰色～灰黒色	やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		中核灰色
182		2 B	8層	高台径 5.0 高台高 0.4	黒灰色	密～やや粗	良好	指頭圧成形後ナデ、ヨコナデ、ヘラミガキ		中核灰色
183	瓦器土器（中期）皿	1 B	24層	口 径 16.3	乳茶色～鮮紅色	粗	良好	ヘラミガキ、ヨコナデ、 複合口縁側面にヘラ描き斜格子・刻み目	九	
184	土師器甕	1 C	19層	口 径 12.3	赤茶色～黄灰色	粗	良好	ヘラミガキ、ヨコナデ、 複合口縁側面下部に粘管押圧文	九	
185	土師器高杯	1 B	24層	脚 径 12.4	茶褐色	やや粗	良好	放射状ヘラミガキ、ヨコナデ 縦端部に沈線、1孔残存		
186	山内甕	1 B	24層	口 径 16.2	茶褐色	粗	良好	外面右上がりタタキ、ハケ、ヨコナデ 内面ヘラケズリ、横ハケ	九	口縁部・外面底部に煤付着
187		2 B	19層	口 径 21.5	灰茶色	粗	良	ヨコナデ		
188	須恵土器（後期）底部有孔土器	1 B	19層	底 径 6.0 孔径 0.9～1.7	黄茶色	やや粗	良好	右上がりタタキ、ナデ、ハケ目 孔は焼成前に内面から穿孔	九	
189	甕	1～4 A	19層		黄茶色	粗	良好	左上り・右上がりタタキ後外周縦指ナデ	九	

図　　版

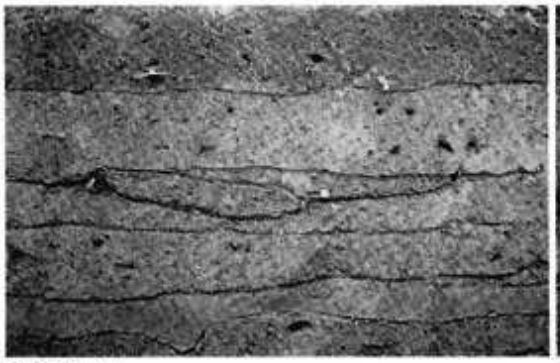
第1面全景（東から）

同上西部（南から）



SD101～SD104西壁

SD105・SD106西壁

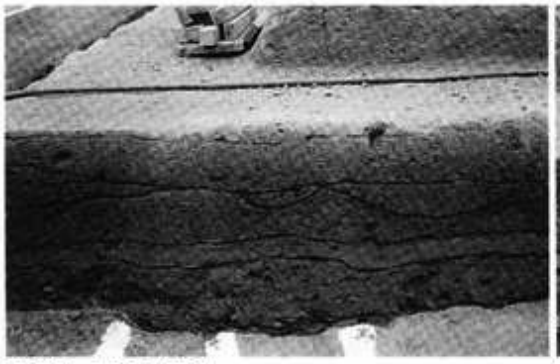


SD107西壁

SD108西壁

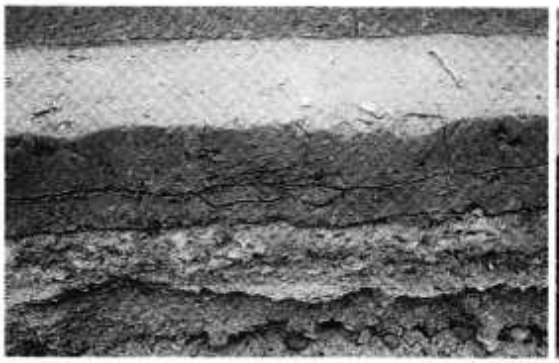
SD109西壁

SD110北壁



SD111・SD112北壁

SD118・SD119東壁



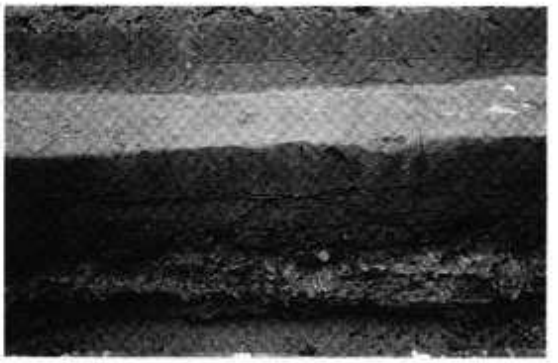
SD120東壁

SD121・SD122東壁

SD123・SD124東壁

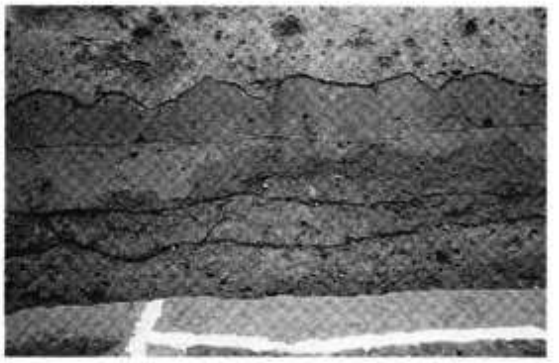
SD125・126東壁

SD128・SD129東壁



SD130・SD131東壁

SD132東壁



SD133南壁

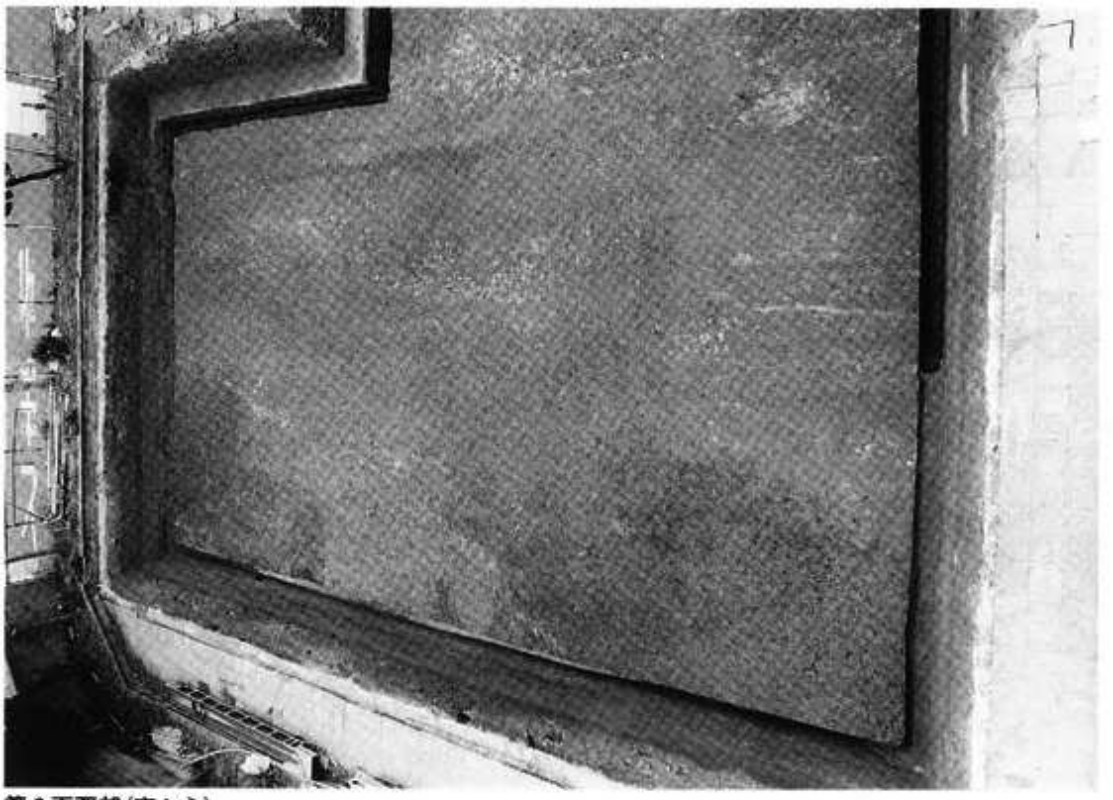
図版四　第1面・第2面

SD134南壁

SD136北壁

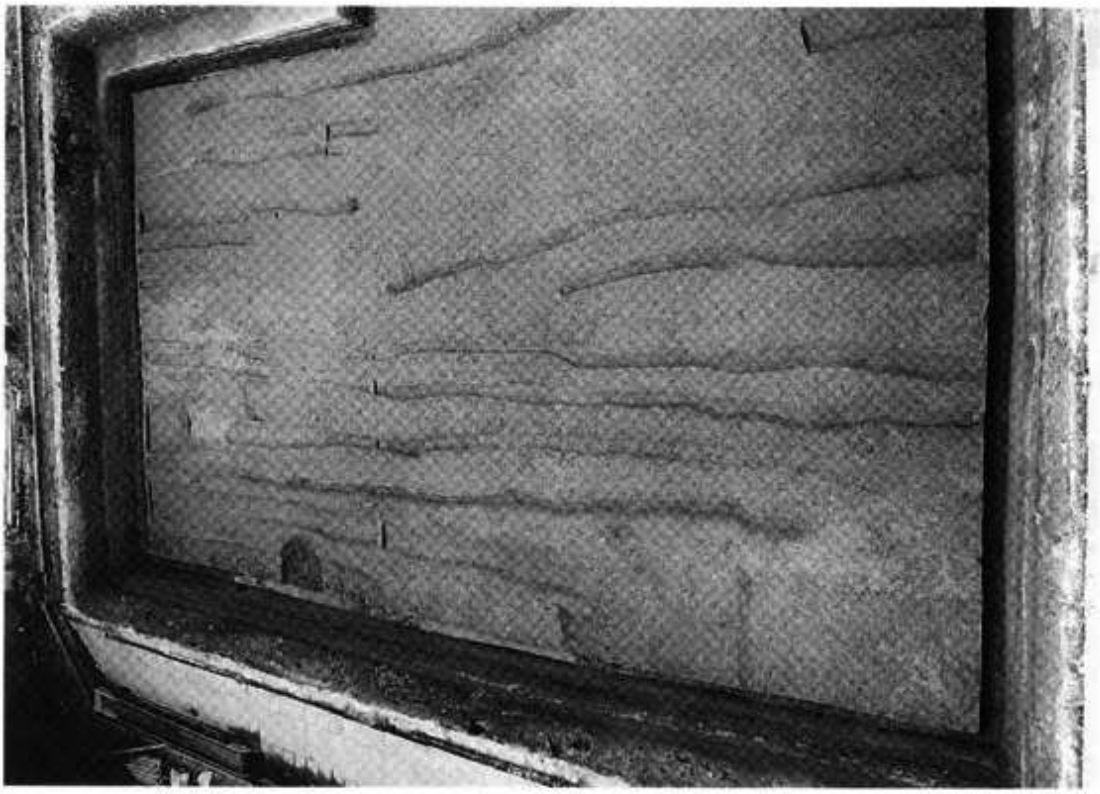
SD137南壁

SD110・第2面畦状遺構南壁



第2面西部(南から)

第3面全景（東から）



同上西部（南から）

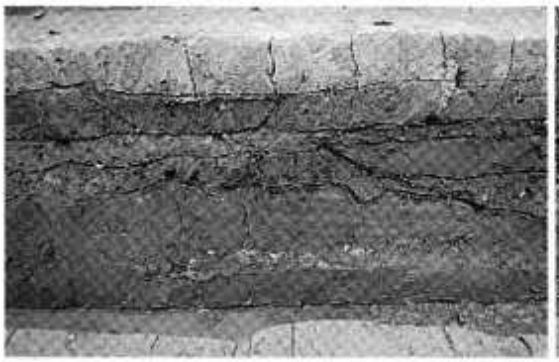
図版六　第3面

畦畔301西壁南部

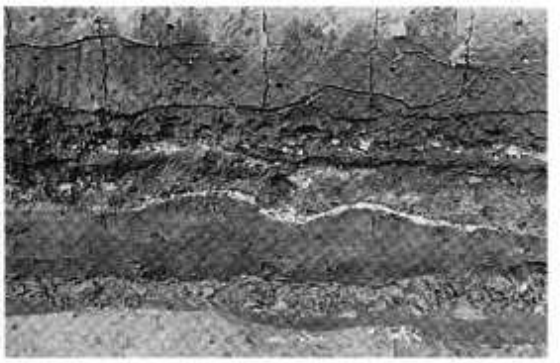
同西壁北部

畦畔301北壁

畦畔302・SD301・SD302



畦畔304北壁

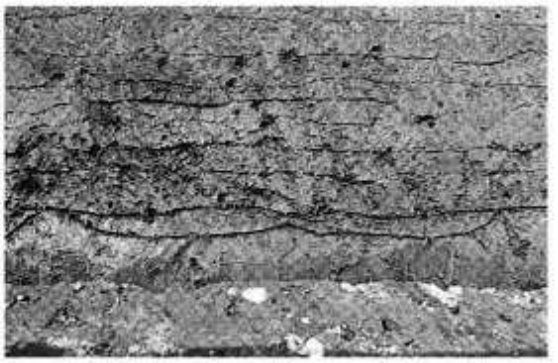


畦畔307北壁

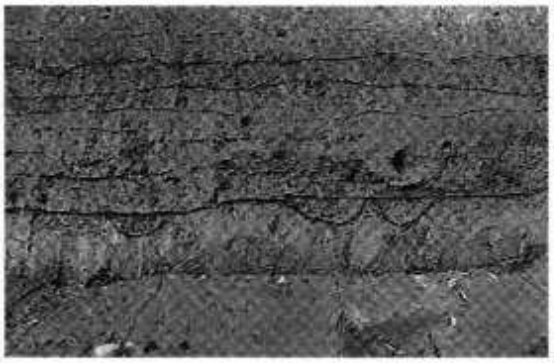
畦畔308南壁

畦畔309東壁

畦畔302・SD301南壁



SD302北壁



SD303～SD305北壁

SD304・SD305南壁

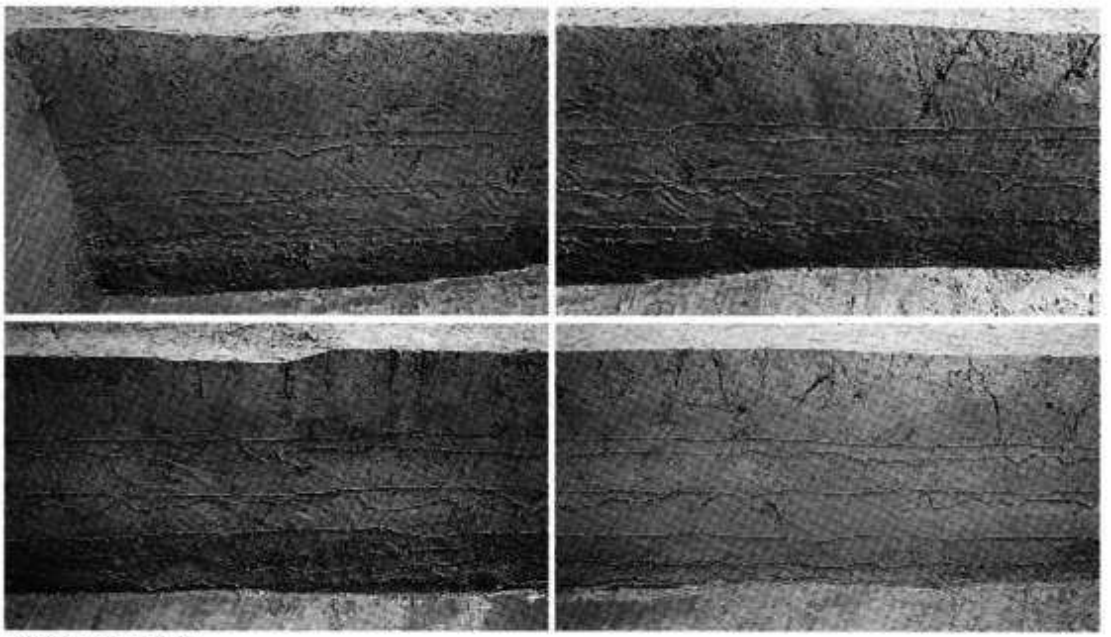
SD306南壁

SD307南壁

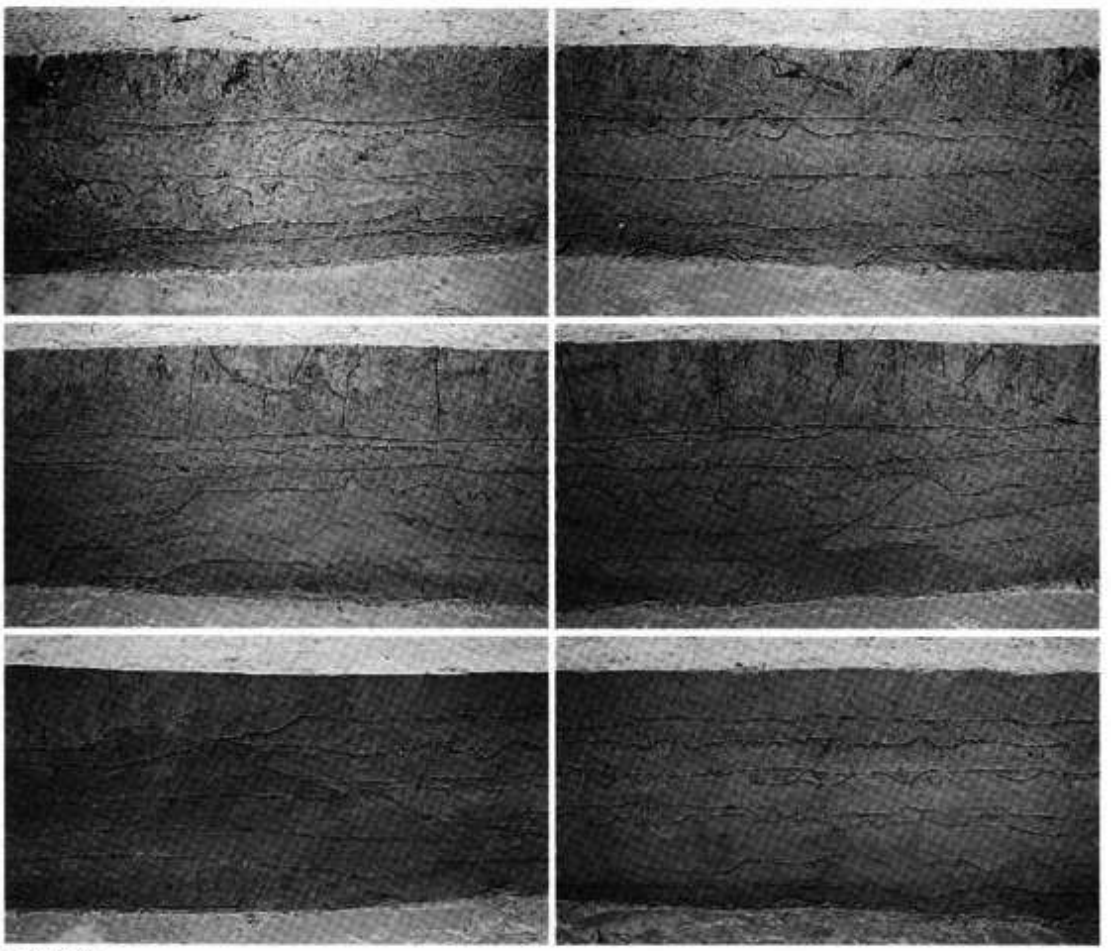
SD308北壁

SD309・SD310北壁

図版八　下層トレンチ

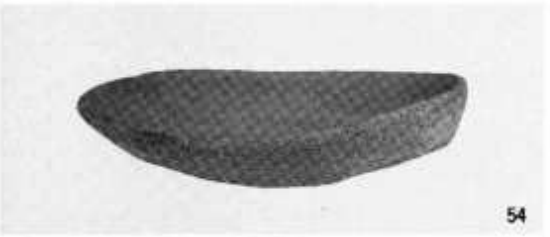


下層トレンチ東壁



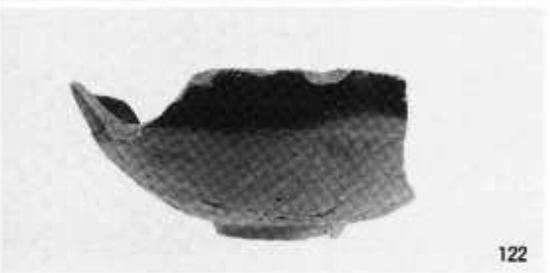
同上北壁

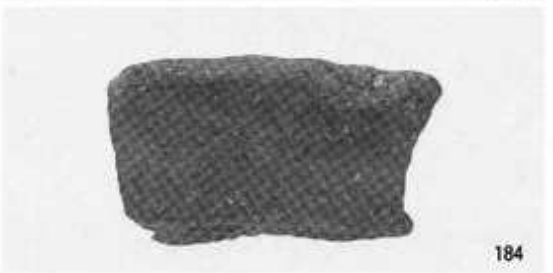
図版九　出土遺物


54

69

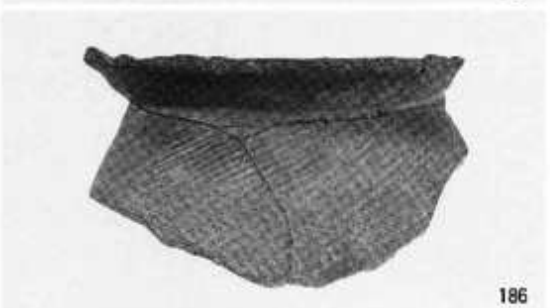
179


122


184

183

188


186

189

報告書抄録

ふりがな	やおしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこく
書名	八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 1994年
副書名	I 田井中遺跡（志紀遺跡） II 八尾南遺跡（第10次調査） III 東弓削遺跡（第3次調査）
巻次	
シリーズ名	（財）八尾市文化財調査研究会報告
シリーズ番号	40
編集者名	成海佳子
編集機関	財団法人 八尾市文化財調査研究会
所在地	〒581 八尾市清水町1丁目2番1号
発行年月日	西暦1994年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
田井中遺跡 （志紀遺跡）	大阪府八尾市 志紀町西	27217		34度35分6秒	135度36分54秒	調査I 第3次調査 19851209～19860311 調査II 第4次調査 19861210～19870325 調査III 第6次調査 19871124～19871226 調査IV 第8次調査 19881001～19890220	920 1,283 348 996	国家公務員合同宿舎等建設に伴う発掘調査
八尾南遺跡 （第10次調査）	大阪府八尾市 西木の本	27217		34度36分45秒	135度35分0秒	19870727～19871003	696	国家公務員合同宿舎建設に伴う発掘調査
東弓削遺跡 （第3次調査）	大阪府八尾市 八尾永畷	27217		34度36分20秒	135度37分10秒	19880106～19880219	595	国家公務員合同宿舎等建設に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
田井中遺跡	水田遺構	弥生時代後期	水田 7 畦畔 6		
	集落遺構	古墳時代前期	ピット 7 溝 1		
	水田遺構	古墳時代中期	水田 12 畦畔 9 大畦畔 3	土師器甕 1 須恵器杯身 2	大畦祭祀？
		古墳時代後期	水田 51 畦畔 42 大畦畔 6	須恵器甕 1 須恵器鉢 1	大畦祭祀？
		平安時代末期～鎌倉時代初頭	水田 23 畦畔 18		
八尾南遺跡	水田遺構	古墳時代前期	水田 14 畦畔 10	須恵器杯蓋 1	
	集落遺構	古墳時代中期	ピット15 溝 1 杭列 1（ピット列から成る）		
	水田遺構	平安時代末期～鎌倉時代初頭	水田 7 畦畔 7		
東弓削遺跡	集落遺構	弥生時代後期～古墳時代前期	ピット、溝		壁面観察のみのため詳細不明
	水田遺構	平安時代～鎌倉時代前半	水田、畦畔、大畦畔		壁面観察のみのため詳細不明
		鎌倉時代後半	水田 11 畦畔 10 溝 15		
	河川	室町時代	畦畔状遺構 1		
	畑	江戸時代	畑畝 37		

(財)八尾市文化財調査研究会報告40

八尾市埋蔵文化財発掘調査報告

Ⅰ 田井中遺跡（志紀遺跡）
Ⅱ 八尾南遺跡（第10次調査）
Ⅲ 東弓削遺跡（第３次調査）

発　行　平成６年３月31日
編　集　財団法人　八尾市文化財調査研究会
大阪府八尾市清水町１丁目２番１号
〒581　TEL　0729－94－1700